

令和5年度
授業概要
(シラバス)



東北生活文化大学短期大学部

シラバス使用の手引き

シラバスは本年度開講されている科目の授業内容や年間授業計画などを、担当者ごとに説明しているものです。履修登録する科目を決める際や、受講に際しての準備や確認のために役立ててください。

【記載例】

① 科目名	⑦ 【科目ナンバリング】
② 単位（総授業時間＋自習時間）：	
③ 対象学科：	
④ 授業形態：	学期： 必・選：
⑤ 履修科目：	
⑥ 担当者：	
◆ 授業の概要	
◆ 授業の到達目票	
◆ 学位授与の方針との関連	
◆ 授業計画の内容	
◆ 自習（事前・事後学習の内容）	
◆ 履修上の注意	
◆ 成績評価方法・基準	
◆ 教科書	
◆ 参考書	
◆ 備考	

【科目情報の見かた】

- ① 科目名：授業科目名を記載しています。
- ② 単位（総授業時間＋自習時間）：単位数，授業で学ぶ時間数と授業外で自習が求められる時間数を記載しています。
- ③ 対象学科：対象の学科・専攻，学年を記載しています。
- ④ 授業形態／学期／必・選：授業科目の形態を演習，講義，実験，実習，実技，集中で区分／授業科目の開講期間を前期，後期，通年で区分／必修科目，選択科目で区分し記載しています。
- ⑤ 履修科目：大学共通教養科目，基幹科目，学科専攻科目，教職に関する科目，博物館に関する科目で区分し記載しています。
- ⑥ 担当者：科目担当者の氏名を記載しています。
- ⑦ 科目ナンバリング：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階，順序等をあらわします。

大分類	中分類	小分類	科目番号	レベル	学年
A	1	a	01	1	1

大分類：学科・専攻の区分

A・・・食物栄養学専攻

B・・・子ども生活専攻

K・・・学科共通

中分類：科目の区分

1・・・学科共通教養科目

2・・・基幹科目

3・・・専攻科目

小分類：科目群

項 目	内 容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと、授業の到達目標、授業のねらいは何で、受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 ※学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。
授業計画	到達目標を達成するために、具体的に何を学ぶのか、受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように、毎回の授業内容を記載しています。
自習（事前・事後学習）	事前：授業時間外の予習について記載しています。 事後：授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能，履修した方がよい関係科目，或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか，加味される要素を具体的に記載しています。 ただし，総授業回数の1／3を超えて欠席した場合は，その時点で不合格となりますので注意してください。
教科書および参考書	授業で使用するため，受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。 参考書籍がある場合，記載しています。

卒業認定・学位授与の方針（DP）

生活文化学科 食物栄養学専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。
2. 家庭と社会との関りを理解できること。
3. 栄養士に必要な専門知識・技術と、食分野の幅広い知識を身につけること。

<汎用的技能>

4. 栄養士として指導力を発揮できる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

<態度・主体性>

5. 基準や法令を遵守し、安全でおいしい食事を提供するための態度や倫理観・責任感をもつこと。

<統合的な学習経験と創造的思考力>

6. 実習・演習・講義などを通して修得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

生活文化学科 子ども生活専攻

<知識・理解>

1. 基礎的な学習能力・知識と社会人としての豊かな教養を身につけること。
2. 家庭と社会との関りを理解できること。
3. 保育士と幼稚園教諭に必要な専門知識・技術と、保育に関する幅広い知識を身につけること。

<汎用的技能>

4. 保育の現場で自ら課題の解決に取り組むことができる実践力・コミュニケーション能力を身につけること。

<態度・主体性>

5. 保育者として子どもの安全や健全な成長にかかわることへの態度や倫理観・責任感をもつこと。

<統合的な学習経験と創造的思考力>

6. 実習・演習・講義などを通して修得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会で自立し、主体的に行動できる能力を身につけること。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈食物栄養学専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
環境学	黒川 優子	給食管理学	益田 裕司
食品衛生学	黒川 優子	給食管理基礎演習Ⅰ	益田 裕司
食品衛生学実験Ⅰ	黒川 優子	給食管理基礎演習Ⅱ	益田 裕司
食品衛生学実験Ⅱ	黒川 優子	給食管理実習Ⅰ	益田 裕司
微生物学	黒川 優子	給食管理実習Ⅱ	益田 裕司
臨床栄養学各論	高橋 文	給食管理実習Ⅲ (給食運営に係る校外実習)	益田 裕司
臨床栄養学実習	益田 裕司	栄養士基礎演習	益田 裕司
ライフステージ栄養学実習Ⅰ	木下 ゆり	食生活支援論	黒川 優子 木下 ゆり
ライフステージ栄養学実習Ⅱ	木下 ゆり	特別演習	益田裕司・黒川優子・ 木下ゆり・青柳公大
臨床栄養学概論	木下 ゆり	テーブルコーディネートⅠ (テーブルマナーを含む。)	小林 知恵子
栄養指導論Ⅰ	木下 ゆり	テーブルコーディネートⅡ	小林 知恵子
栄養指導論Ⅱ	木下 ゆり	フードエンタテイメント演習	堀江 志穂 他
栄養指導論実習	木下 ゆり	フードマネジメント	鬼島 直子
調理科学論	青柳 公大	調理学実習Ⅲ	青柳 公大
調理学実習Ⅰ	青柳 公大	食文化論	青柳 公大
調理学実習Ⅱ	青柳 公大	スポーツ栄養学	青柳 公大
病理学	中尾 真理		

〈子ども生活専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
児童文化	安藤 倫子	子どもの健康と安全	新沼 映子
保育者論	岡崎 善治	乳児保育Ⅰ	嶺岸 祐子
子どもと環境	岡崎 善治	乳児保育Ⅱ	嶺岸 祐子
教育・保育方法論	岡崎 善治	子ども家庭支援論	八木 孝憲
特別支援教育	岡崎 善治	子ども家庭福祉論	米川 純子
保育原理	岡崎 義治	地域福祉論	米川 純子
保育の計画と評価	高橋 恵美	子ども家庭支援の心理学	米川 純子
保育内容総論	高橋 恵美	教育・保育相談	米川 純子
保育内容の指導法	高橋 恵美	社会的養護Ⅱ	米川 純子
保育の実技と演習	高橋 恵美	ピアヘルパー演習	米川 純子 他
保育内容(環境)	高橋 恵美	保育実習指導Ⅱ	米川 純子 岡崎 善治 他
保育実習指導Ⅰ	高橋 恵美 他	教育実習(事前事後指導を含む。)	米川 純子 岡崎 善治 高橋 恵美 他
保育内容(表現Ⅰ)	武田 早苗	保育・教職実践演習	高橋 恵美 岡崎 善治
子どもと造形表現	武田 早苗	子どもの食と栄養Ⅰ	菊地 香保里
保育内容(言葉)	佐藤 深雪	子どもの食と栄養Ⅱ	菊地 香保里
子どもの保健	千葉 明子		

2023年度 シラバス科目情報一覧

生活文化学科 共通教養科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
K-1-a-01-1	生物と生命倫理	前期	子専1・食専1	堀 江 佐知子	講義	1	2	30001
K-1-a-02-1	環境学	後期	子専2・食専2	黒 川 優 子	講義	2	2	30002
K-1-b-01-1	消費生活と経済	後期	子専2・食専2	舩 谷 謙 二	講義	2	2	30003
K-1-b-02-1	社会学	前期	子専2・食専2	庄 司 一 平	講義	2	2	30004
K-1-b-03-1	日本国憲法 必修	前期	食専2	横 田 尚 昌	講義	2	2	30005
K-1-b-03-1	日本国憲法 必修	後期	子専1	横 田 尚 昌	講義	1	2	30006
K-1-c-01-1	文化史	後期	子専2・食専2	庄 司 一 平	講義	2	2	30007
K-1-c-02-1	心理学	前期	子専1・食専1	植 松 公 威	講義	1	2	30008
K-1-c-03-1	健康管理学	前期	子専2・食専2	橋 浦 孝 明	講義	2	2	30009
K-1-c-04-1	健康スポーツⅠ	前期	食専1	橋 浦 孝 明	演習	1	1	30010
K-1-c-04-1	健康スポーツⅠ	前期	子専1	橋 浦 孝 明	演習	1	1	30011
K-1-c-05-1	健康スポーツⅡ	後期	食専1	橋 浦 孝 明	演習	1	1	30012
K-1-c-05-1	健康スポーツⅡ	後期	子専1	橋 浦 孝 明	演習	1	1	30013
K-1-d-01-1	日本語基礎	後期	食専1	菊 地 恵 太	講義	1	2	30014
K-1-d-01-1	日本語基礎	前期	子専1	菊 地 恵 太	講義	1	2	30015
K-1-d-02-1	国語表現法	前期	食専2	菊 地 恵 太	講義	2	2	30016
K-1-d-02-1	国語表現法	後期	子専1	菊 地 恵 太	講義	1	2	30017
K-1-d-03-1	英語Ⅰ	後期	食専1	ブシャー シルベ	演習	1	1	30018
K-1-d-03-1	英語Ⅰ	前期	子専1	ブシャー シルベ	演習	1	1	30019
K-1-d-04-1	英語Ⅱ	前期	食専2	ブシャー シルベ	演習	2	1	30020
K-1-d-04-1	英語Ⅱ	後期	子専1	ブシャー シルベ	演習	1	1	30021
K-1-d-05-1	情報処理Ⅰ	前期	子専1・食専1	松 尾 広	演習	1	1	30022
K-1-d-06-1	情報処理Ⅱ	後期	子専1・食専1	松 尾 広	演習	1	1	30023
K-1-e-01-1	スタディスキルズ 必修	前期	食専1	松 尾 広	演習	1	1	30024
				青 柳 公 大				
				食物栄養学専攻教員全員				
K-1-e-01-1	スタディスキルズ 必修	前期	子専1	阿 部 陽 子	演習	1	1	30025
				大瀬戸 美 紀				
				橋 浦 孝 明				
				子ども生活専攻教員				
K-1-e-02-3	キャリアアップセミナー	後期	食専1	池 田 展 敏	演習	1	1	30026
				松 尾 広				
				青 柳 公 大				
				食物栄養学専攻教員全員				
K-1-e-02-3	キャリアアップセミナー	後期	子専1	阿 部 陽 子	演習	1	1	30027
				大瀬戸 美 紀				
				橋 浦 孝 明				
				子ども生活専攻教員全員				
K-1-e-03-3	キャリアサポートセミナーⅠ	通年	食専1	鈴 木 専	演習	1	1	30028
				教職員				
K-1-e-04-3	キャリアサポートセミナーⅡ	前期	食専2	鈴 木 専	演習	2	1	30029
				教職員				

2023年度 シラバス科目情報一覧

生活文化学科 基幹科目

ナンバ・リンク	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
K-2-a-01-1	生活文化概論 必修	前期	食専1	伊 藤 常 久	講義	1	2	30051
K-2-a-01-1	生活文化概論 必修	前期	子専1	伊 藤 常 久	講義	1	2	30052
K-2-a-02-1	生活文化各論	後期	子専1・食専1	池 田 展 敏	講義	1	2	30053
				生活文化学科教員全員				

2023年度 シラバス科目情報一覧

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

ナンバ・リンク	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
A-3-a-01-1-1	有機化学	前期	食専1	菅 野 修 一	講義	1	2	30101
A-3-a-02-1-2	統計学	後期	食専2	池 田 展 敏	講義	2	2	30102
A-3-a-03-1-1	数学基礎演習	前期	食専1	池 田 展 敏	演習	1	1	30103
A-3-a-04-2-2	栄養情報処理演習Ⅰ	前期	食専2	池 田 展 敏	演習	2	1	30104
A-3-a-05-2-2	栄養情報処理演習Ⅱ	後期	食専2	池 田 展 敏	演習	2	1	30105
A-3-b-01-2-2	社会福祉論	後期	食専2	伊 藤 常 久	講義	2	2	30106
A-3-b-02-2-2	公衆衛生学 必修	前期	食専2	伊 藤 常 久	講義	2	2	30107
A-3-b-03-2-1	健康管理概論	後期	食専1	伊 藤 常 久	講義	1	2	30108
A-3-c-01-2-1	解剖生理学 必修	後期	食専1	大 崎 雄 介	講義	1	2	30109
A-3-c-02-2-2	運動生理学	後期	食専2	川 俣 幸 一	講義	2	2	30110
A-3-c-03-2-1	生化学 必修	後期	食専1	鈴 木 裕 行	講義	1	2	30111
A-3-c-04-2-2	病理学	後期	食専2	中 尾 真 理	講義	2	2	30112
A-3-d-01-2-1	食品学 必修	前期	食専1	永 沼 孝 子	講義	1	2	30113
A-3-d-02-2-2	食品機能学	後期	食専2	永 沼 孝 子	講義	2	2	30114
A-3-d-03-2-1	食品学実験Ⅰ 必修	前期	食専1	永 沼 孝 子	実験	1	1	30115
A-3-d-04-2-1	食品学実験Ⅱ	後期	食専1	永 沼 孝 子	実験	1	1	30116
A-3-d-05-2-2	食品衛生学 必修	前期	食専2	黒 川 優 子	講義	2	2	30117
A-3-d-06-2-2	食品衛生学実験Ⅰ 必修	前期	食専2	黒 川 優 子	実験	2	1	30118
A-3-d-07-2-2	食品衛生学実験Ⅱ	後期	食専2	黒 川 優 子	実験	2	1	30119
A-3-d-08-2-1	微生物学	前期	食専1	黒 川 優 子	講義	1	2	30120
A-3-e-01-2-1	栄養学Ⅰ 必修	前期	食専1	永 沼 孝 子	講義	1	2	30121
A-3-e-02-2-1	栄養学Ⅱ	後期	食専1	永 沼 孝 子	講義	1	2	30122
A-3-e-03-2-2	栄養学実験	後期	食専2	永 沼 孝 子	実験	2	1	30123
A-3-e-04-2-1	ライフステージ栄養学 必修	後期	食専1	永 沼 孝 子	講義	1	2	30124
A-3-e-05-2-1	ライフステージ栄養学実習Ⅰ	後期	食専1	木 下 ゆ り	実習	1	1	30125
A-3-e-06-2-2	ライフステージ栄養学実習Ⅱ	前期	食専2	木 下 ゆ り	実習	2	1	30126
A-3-e-07-2-2	臨床栄養学概論 必修	前期	食専2	木 下 ゆ り	講義	2	2	30127
A-3-e-08-2-2	臨床栄養学各論	後期	食専2	高 橋 文	講義	2	2	30128
A-3-e-09-2-2	臨床栄養学実習	後期	食専2	益 田 裕 司	実習	2	1	30129
A-3-f-01-2-1	栄養指導論Ⅰ 必修	後期	食専1	木 下 ゆ り	講義	1	2	30130
A-3-f-02-2-2	栄養指導論Ⅱ	後期	食専2	木 下 ゆ り	講義	2	2	30131
A-3-f-03-2-2	栄養指導論実習	前期	食専2	木 下 ゆ り	実習	2	1	30132
A-3-f-04-2-2	公衆栄養学 必修	後期	食専2	栗 山 孝 雄	講義	2	2	30133
A-3-g-01-2-1	調理科学論 必修	前期	食専1	青 柳 公 大	講義	1	2	30134
A-3-g-02-2-1	調理学実習Ⅰ 必修	前期	食専1	青 柳 公 大	実習	1	1	30135
A-3-g-03-2-1	調理学実習Ⅱ	後期	食専1	青 柳 公 大	実習	1	1	30136
A-3-g-04-2-2	調理学実習Ⅲ	前期	食専2	青 柳 公 大	実習	2	1	30137
A-3-g-05-2-1	給食管理学 必修	前期	食専1	益 田 裕 司	講義	1	2	30138
A-3-g-06-2-1	給食管理基礎演習Ⅰ	後期	食専1	益 田 裕 司	演習	1	1	30139
A-3-g-07-2-2	給食管理基礎演習Ⅱ	前期	食専2	益 田 裕 司	演習	2	1	30140
A-3-g-08-2-1	給食管理実習Ⅰ 必修	前期	食専1	益 田 裕 司	実習	1	1	30141
A-3-g-09-2-2	給食管理実習Ⅱ	前期	食専2	益 田 裕 司	実習	2	1	30142
A-3-g-10-2-2	給食管理実習Ⅲ（給食運営に係る校外学習）	前期	食専2	益 田 裕 司	実習	2	1	30143
A-3-g-11-2-1	栄養士基礎演習	後期	食専1	益 田 裕 司	演習	1	1	30144
A-3-h-01-2-2	食文化論	後期	食専2	青 柳 公 大	講義	2	2	30145
A-3-h-02-3-1	食生活支援論	前期	食専1	池 田 展 敏	演習	1	1	30146
				木 下 ゆ り				
				松 尾 広				
				黒 川 優 子				
A-3-h-03-2-2	特別演習	通年	食専2	永 沼 孝 子	演習	2	2	30147

2023年度 シラバス科目情報一覧

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
				鈴 木 裕 行				
				黒 川 優 子				
				益 田 裕 司				
				木 下 ゆ り				
				青 柳 公 大				
A-3-h-04-2-1	テーブルコーディネートⅠ（テーブルマナーを含む。）	前期	食専1	小 林 知恵子	演習	1	1	30148
A-3-h-05-2-1	テーブルコーディネートⅡ	後期	食専1	小 林 知恵子	実習	1	1	30149
A-3-h-06-2-2	フードマネジメント	前期	食専2	鬼 島 直 子	講義	2	2	30150
A-3-h-07-3-2	フードエンタテイメント演習	後期	食専2	池 田 展 敏	演習	2	1	30151
				堀 江 志 穂				
A-3-h-08-2-2	コンピューターサイエンス概論	後期	食専2	池 田 展 敏	講義	2	2	30152
A-3-h-09-2-1	スポーツ栄養学	後期	食専1	青 柳 公 大	講義	1	1	30153

2023年度 シラバス科目情報一覧

生活文化学科 子ども生活専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-a-01-2-1	保育原理 必修	前期	子専1	岡 崎 善 治	講義	1	2	30201
B-3-a-02-2-1	教育原理 必修	前期	子専1	山 沢 智 樹	講義	1	2	30202
				山 口 刀 也				
B-3-a-03-2-1	子ども家庭福祉論	前期	子専1	米 川 純 子	講義	1	2	30203
B-3-a-04-2-1	社会福祉論	前期	子専1	大瀬戸 美 紀	講義	1	2	30204
B-3-a-05-2-2	地域福祉論	後期	子専2	米 川 純 子	講義	2	2	30205
B-3-a-06-2-2	子ども家庭支援論	後期	子専2	八 木 孝 憲	講義	2	2	30206
B-3-a-07-2-1	社会的養護Ⅰ	後期	子専1	大瀬戸 美 紀	講義	1	2	30207
B-3-a-08-2-2	保育者論	後期	子専2	岡 崎 善 治	講義	2	2	30208
B-3-a-09-2-2	教育・保育制度論	後期	子専2	山 沢 智 樹	講義	2	1	30209
				山 口 刀 也				
B-3-b-01-2-1	発達心理学 必修	後期	子専1	三 浦 主 博	講義	1	2	30210
B-3-b-02-2-2	子ども理解の理論と方法	前期	子専2	三 浦 主 博	演習	2	1	30211
B-3-b-03-2-2	教育心理学	後期	子専2	植 松 公 威	講義	2	1	30212
B-3-b-04-2-2	子ども家庭支援の心理学	後期	子専2	米 川 純 子	講義	2	2	30213
B-3-b-05-2-2	教育・保育相談	前期	子専2	米 川 純 子	講義	2	2	30214
B-3-b-06-2-1	子どもの保健	前期	子専1	千 葉 明 子	講義	1	2	30215
B-3-b-07-2-2	子どもの食と栄養Ⅰ	前期	子専2	菊 地 香保里	演習	2	1	30216
B-3-b-08-2-2	子どもの食と栄養Ⅱ	前期	子専2	菊 地 香保里	演習	2	1	30217
B-3-c-01-2-2	教育課程論	前期	子専2	山 沢 智 樹	講義	2	1	30218
B-3-c-02-2-1	保育の計画と評価	後期	子専1	高 橋 恵 美	講義	1	2	30219
B-3-c-03-2-1	保育内容総論 必修	前期	子専1	高 橋 恵 美	演習	1	1	30220
B-3-c-04-2-1	保育内容（健康） 必修	前期	子専1	橋 浦 孝 明	演習	1	1	30221
B-3-c-05-2-1	保育内容（人間関係） 必修	前期	子専1	大瀬戸 美 紀	演習	1	1	30222
B-3-c-06-2-1	保育内容（環境） 必修	後期	子専1	高 橋 恵 美	演習	1	1	30223
B-3-c-07-2-1	保育内容（言葉） 必修	後期	子専1	佐 藤 深 雪	演習	1	1	30224
B-3-c-08-2-1	保育内容（表現Ⅰ） 必修	後期	子専1	武 田 早 苗	演習	1	1	30225
B-3-c-09-2-1	保育内容（表現Ⅱ） 必修	前期	子専1	阿 部 陽 子	演習	1	1	30226
B-3-c-10-2-2	子どもと健康	後期	子専2	橋 浦 孝 明	演習	2	1	30227
B-3-c-11-2-2	子どもと人間関係	前期	子専2	大瀬戸 美 紀	演習	2	1	30228
B-3-c-12-2-2	子どもと環境	前期	子専2	岡 崎 善 治	演習	2	1	30229
B-3-c-13-2-2	子どもと言葉	前期	子専2	前 正七生	演習	2	1	30230
B-3-c-14-2-2	子どもと音楽表現	前期	子専2	阿 部 陽 子	演習	2	1	30231
B-3-c-15-2-2	子どもと造形表現	後期	子専2	武 田 早 苗	演習	2	1	30232
B-3-c-16-2-1	教育・保育方法論	前期	子専1	岡 崎 善 治	講義	1	2	30233
				松 尾 広				
B-3-c-17-2-2	保育内容の指導法	前期	子専2	高 橋 恵 美	講義	2	1	30234
B-3-c-18-2-2	保育の実技と演習	前期	子専2	高 橋 恵 美	演習	2	1	30235
B-3-c-19-2-1	児童文化	後期	子専1	安 藤 倫 子	演習	1	1	30236
B-3-c-20-2-1	乳児保育Ⅰ	前期	子専1	嶺 岸 祐 子	講義	1	2	30237
B-3-c-21-2-1	乳児保育Ⅱ	後期	子専1	嶺 岸 祐 子	演習	1	1	30238
B-3-c-22-2-1	子どもの健康と安全	後期	子専1	新 沼 映 子	演習	1	1	30239
B-3-c-23-2-2	障害児保育	前期	子専2	大瀬戸 美 紀	演習	2	2	30240
B-3-c-24-2-2	特別支援教育	後期	子専2	岡 崎 善 治	講義	2	1	30241
B-3-c-25-2-2	社会的養護Ⅱ	前期	子専2	米 川 純 子	演習	2	1	30242
B-3-c-26-2-2	子育て支援	後期	子専2	大瀬戸 美 紀	演習	2	1	30243
B-3-c-27-2-1	ピアノⅠ	前期	子専1	阿 部 陽 子	演習	1	1	30244
				阿 部 玲 子				
				渡 邊 恵				
				大 友 詠里子				

2023年度 シラバス科目情報一覧

生活文化学科 子ども生活専攻科目

ナンバリング	授 業 科 目	学期	対象学科	教 員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-c-28-2-1	ピアノⅡ	後期	子専1	阿 部 陽 子	演習	1	1	30245
				阿 部 玲 子				
				渡 邊 恵				
				大 友 詠里子				
B-3-c-29-2-2	ピアノⅢ	前期	子専2	阿 部 陽 子	演習	2	1	30246
				阿 部 玲 子				
				渡 邊 恵				
				大 友 詠里子				
B-3-c-30-2-2	ピアノⅣ	後期	子専2	阿 部 陽 子	演習	2	1	30247
				阿 部 玲 子				
				渡 邊 恵				
				大 友 詠里子				
B-3-d-02-2-1	保育実習指導Ⅰ	通年	子専1	高 橋 恵 美	演習	1	2	30248
				橋 浦 孝 明				
				大瀬戸 美 紀				
				米 川 純 子				
				子ども生活専攻教員				
B-3-d-04-2-2	保育実習指導Ⅱ	通年	子専2	岡 崎 善 治	演習	2	1	30249
				武 田 早 苗				
				大瀬戸 美 紀				
				米 川 純 子				
				子ども生活専攻教員				
B-3-e-01-3-2	教育実習（事前事後指導を含む。）	通年	子専2・子専1	岡 崎 善 治	講義	2・1		30250
				高 橋 恵 美				
				武 田 早 苗				
				阿 部 陽 子				
				子ども生活専攻教員				
B-3-f-01-3-2	保育・教職実践演習（幼稚園）	後期	子専2	高 橋 恵 美	講義	2	2	30251
				岡 崎 善 治				
B-3-g-01-2-1	ピアヘルパー演習	通年	子専1	米 川 純 子	演習	1	1	30252
				植 松 公 威				
				大瀬戸 美 紀				

生活文化学科共通教養科目

生物と生命倫理

(30001)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

堀 江 佐知子

■ 授業の概要

本講義は、生命の誕生から生物の一種として、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目標とし講義を行う。

生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。本講義では、地球上で生命が受け継がれてきた道筋を知る講義であり、細胞内の分子のようなマイクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで、さまざまな生命現象を学んでいく講義である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	0.7		0.3			
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第2回 原始地球の誕生	地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第3回 地球と生命の誕生と進化	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第4回 魚の進化	魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第5回 植物の進化	植物の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第6回 哺乳類の進化	哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第7回 鳥の進化	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第8回 昆虫の進化	昆虫の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第9回 人類の進化	人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回 ヒトの設計図、遺伝子	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回 心臓・血管	心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回 骨と筋肉	骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回 免疫	免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回 脳と心	脳について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回 講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回 期末試験	期末試験対策を行う。

■ 履修上の注意

特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準

課題、レポート及び期末試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況（ミニットペーパーへの記入）及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、講義の終了時に受付ける。

環境学

(30002)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年・食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

黒 川 優 子

■ 授業の概要

日本各地で公害問題が多発した1960～1970年代の高度経済成長期から約半世紀が経過した今日では、法的な規制、汚染物質の浄化技術の発達、そして人々の環境に関する意識の向上のため、見た目の環境はかなり良くなったが、地球温暖化をはじめ、地球レベルで対策を講じなければならない課題も少なくない。したがって、環境問題に関する基礎的な知識を習得し、「環境を保全、修復するために何をすべきか」について理解を深めることが大切であり、これまでに取り組んできた調査・研究の成果を紹介しながら講義を進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・環境に関する基礎的な知識を身につける。	0.7	0.3				
・環境との関わり方の大切さについて理解を深める。						
・環境に関する正しい情報を選択できる力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 地球環境学とは	事後：授業内容の復習。
第2回 人間活動と環境とのかかわり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第3回 水俣病	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第4回 飲料水と食品に関する今後の課題	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第5回 中村 哲医師：アフガンとの約束	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第6回 環境変化に伴う異変	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第7回 外来種問題	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第8回 環境DNA	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第9回 化学物質汚染研究の基礎	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第10回 大気汚染・水質汚染・土壌汚染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第11回 化学物質による汚染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第12回 内分泌攪乱物質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第13回 エコチル調査	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第14回 環境活動の実践と環境倫理	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第15回 環境教育	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第16回 期末試験	授業で学んだこと総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

- ・日頃から環境に関心・興味を持ち、新聞、テレビ、インターネット、書籍、文献等で環境に関する情報について調べるよう心がけてください。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点・受講態度（授業への参加状況〔発言、質問等〕、ミニットペーパーへの取り組み状況、予習・復習の状況等で総合的に判断する）（60％）、期末試験（40％）で評価します。
- ・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書

- ・「環境科学入門 第2版―地球と人類の未来のために」川合真一郎・張野宏也・山本義和（化学同人）〔2, 300円〕
- ・必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

- ・〔環境ホルモンと水生生物〕〔川合真一郎〕〔成山堂書店〕〔1, 600円〕
- ・〔沈黙の春〕〔レイチェル・カーソン著、青樹築一訳〕〔新潮社〕〔766円〕
- ・〔新装版 苦海浄土（くがいじょうど） わが水俣病〕〔石牟礼道子〕〔講談社〕〔690円〕
- ・〔森は海の恋人〕〔畠山重篤〕〔文芸春秋〕〔640円〕
- ・〔牡蠣の森と生きる「森は海の恋人」の30年〕〔畠山重篤〕〔中央公論新社〕〔1, 430円〕
- ・〔人は愛するに足り、真心は信ずるに足る アフガンとの約束〕〔中村 哲、澤地久枝（聞き手）〕〔岩波書店〕〔2, 310円〕
- ・〔脱プラスチックへの挑戦 持続可能な地球と世界ビジネスの潮流〕〔堅達京子〕〔山と溪谷社〕〔1, 650円〕
- ・〔環境再興史〕〔石 弘之〕〔角川新書〕〔990円〕
- ・〔データでわかる2030年地球のすがた〕〔夫馬賢治〕〔日経プレミアシリーズ〕〔990円〕
- ・〔売り渡される食の安全〕〔山田正彦〕〔角川新書〕〔946円〕
- ・〔世界を驚かせた頭のいい江戸のエコ生活〕〔菅野俊輔〕〔青春出版社〕〔922円〕
- ・〔ハチドリの一としずく〕〔監修・辻 信一〕〔光文社〕〔1, 143円〕
- ・その他、授業時間内に適宜、参考書を紹介します。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

消費生活と経済

(30003)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年・食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

舩 谷 謙 二

■ 授業の概要

われわれが享受している豊かな消費生活は「大量生産・大量販売・大量消費システム」による高度経済成長から、今日の「経済活動のグローバル化」に至る経済成長によってもたらされた。しかし、その過程では消費生活を脅かす欠陥商品・不当表示・契約トラブルなど多様な問題もあった。

この授業では、われわれの消費生活を背後で支える経済のメカニズムや、その発展の歩みを概観するとともに、さまざまな「消費者問題」の発生と対処について教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・経済活動の基礎的メカニズムが理解できる。	0.75	0.25				
・消費生活が経済社会の発展と共に変容してきたことが理解できる。						
・消費者問題の内容と対処法が理解できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：授業の進め方、授業概要の確認など	シラバスを精読して授業に臨む。
第2回	経済発展と消費生活の変容（1970年代まで）	レポートを作成して次回提出する。
第3回	経済発展と消費生活の変容（1980年代から）	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第4回	消費生活のメカニズム：需要と供給の世界（最適消費の理論）	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第5回	消費生活のメカニズム：需要と供給の世界（雇用と物価）	レポートを作成して次回提出する。
第6回	理念としての消費者と現実の消費者（消費者主権）	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第7回	消費者問題の概要（1）消費者保護基本法の基本視角	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第8回	消費者問題の概要（2）PL法から消費者基本法へ	レポートを作成して次回提出する。
第9回	クレジット社会の消費者問題	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第10回	情報化社会の消費者問題	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第11回	高齢社会の消費者問題	レポートを作成して次回提出する。
第12回	企業・消費者・行政	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第13回	消費者保護から自立支援へ	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第14回	消費者政策と消費者教育	レポートを作成して次回提出する。
第15回	補足と授業のまとめ	授業でのキーワードを辞書で調べる。
第16回	期末試験	

■ 履修上の注意

テレビや新聞で日々の経済の動きや消費者問題の動向について継続的にチェックしておくこと。

※初回授業には必ず出席すること。

■ 成績評価方法・基準

授業内で提出するミニットペーパー（75%）・期末試験（25%）で評価する。なお、ミニットペーパーについては次回授業でフィードバックする。

■ 教科書

プリントを配布する。

■ 参考書

授業中に適宜指示する。

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は初回授業で確認）に受付ける。

社会学

(30004)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 子専2年・食専2年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 選択

生活文化学科 共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

各回1つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人の関係に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代の変化という縦軸と、社会の多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけを行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・社会に関する幅広い教養を身につける	0.4	0.2		0.2		0.2
・社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を身につける						
・社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 イントロダクション	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 「社会」という言葉～起源と類型～
第2回 「わたし」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 アイデンティティ、社会化、役割理論
第3回 「家族」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 ヒトとサル、結婚と性、日本のイエ制度
第4回 「共同体」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 社会集団の類型、生活空間と境界・異界
第5回 「国家」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 イデオロギーと教育、ナショナリズム
第6回 「ことば」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 記号と象徴、コミュニケーション、聖典
第7回 「あそび」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 遊びと学び、儀礼と反復、ゲーム理論
第8回 「あたりまえ」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 常識の生成、制度・規範・統制・階層
第9回 「思い込み」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 知識と信念、呪術・科学・宗教
第10回 「連帯」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 ネットワーク、人間関係資本、団結と対立
第11回 「仕事」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 贈与と交換、社会的分業、職業倫理
第12回 「善悪」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出 道徳、倫理、法と秩序
第13回 「正義」の社会学	事前学修: 次回のキーワードを調べておく 事後学修: 配布資料の見直し・課題提出

	自由と人権、格差と平等、政治的公正
第14回 「不安」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 恐怖と不安、不安の構造、不安への対処
第15回 まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り
第16回 期末試験	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 レポート

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー） [50%]、②期末レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

- ①ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1, 200円＋税。
- ②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成—知識社会学論考』新曜社、2, 900円＋税。その他、授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

日本国憲法

(30005)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールと基本的人権を定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利及び義務（基本的人権）について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。	1					
・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。						
・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかにもどのように生きているのかを確認する。
第2回	天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する。（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第3回	選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第4回	国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第5回	内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第6回	裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第7回	地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第8回	人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のあり方を理解する。
第9回	人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する。
第10回	幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。

第11回	内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第12回	表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。
第16回	期末試験（レポートによる）	

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。

■ 成績評価方法・基準

平常点40％（平常点は、授業時間中にふさわしくない態度をとっていないか、また、必ず予告して行う小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

日本国憲法

(30006)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 共通教養科目

横 田 尚 昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールと基本的人権を定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利及び義務（基本的人権）について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。	1					
・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。						
・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原則が日本国憲法のなかにもどのように生きているのかを確認する。
第2回	天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する。（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第3回	選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第4回	国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」とであると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第5回	内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第6回	裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第7回	地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第8回	人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のあり方を理解する。
第9回	人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する。
第10回	幸福追求権と法の下での平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。

第11回	内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第12回	表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。
第16回	期末試験（レポートによる）	

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。

■ 成績評価方法・基準

平常点40％（平常点は、授業時間中にふさわしくない態度をとっていないか、また、必ず予告して行う小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート60％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

文化史

(30007)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年・食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

庄 司 一 平

■ 授業の概要

わたしたちの時間は、普段の暮らしという日常と、まつりやイベントという非日常から成り立っている。非日常的な行事や儀礼の多くは、年齢の節目（おとな／こども）や季節の切り替わり（春／夏／秋／冬）をつくりだし、人生と暮らしにメリハリを与える「人生儀礼」や「年中行事」である。この講義では、過去と現在における口頭伝承・民間習俗を手がかりに、さまざまな行事や儀礼の様式およびその歴史的・文化的背景、日本社会における生き方・暮らし方をめぐる諸問題について考える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本の民俗文化に関する幅広い教養を身につける	0.5	0.15		0.1	0.15	0.1
・日本の人生儀礼・年中行事とその文化的背景について、意欲的に調べ説明することができる						
・日本社会における生き方・暮らし方について、主体的に考え議論することができる						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 インTRODクシヨン	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 人生の時間と儀礼、生活の時間と行事
第2回 年齢と人生の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 年齢という制度・規範、年祝いと厄年
第3回 誕生の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 名づけ、初宮詣、初誕生
第4回 子どもと若者の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七五三、成年式、通過儀礼と「一人前」
第5回 おとなの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 縁結び、結婚と出産、家事と育児
第6回 老いの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 老いと文化、終末期への備え、ポックリ願望
第7回 病気の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 あいまいな「病気」と「健康」、病気なおし
第8回 医療の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 医療化、代替医療、生命倫理、QOL
第9回 ケアの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 キュアとケア、緩和ケア、心のケア
第10回 死の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな死、死の受容、看取り
第11回 死後の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「あの世」の比較文化
第12回 暦と行事の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出

	さまざまな暦法と祝日、日の吉凶
第13回 まつりの社会学（1）～春・夏～	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 正月、初午、夏まつり
第14回 まつりの社会学（2）～秋・冬～	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七夕・お盆、年越し
第15回 まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り
第16回 期末試験	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 レポート

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー） [50%]、②期末レポート [50%] により総合的に評価する。授業中に適宜、振り返りを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2, 600円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

心理学

(30008)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

植 松 公 威

■ 授業の概要

心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い、心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究のプロセス、とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について、実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として、行動主義心理学や社会的学習理論、精神分析などを取り上げ、それぞれの理論を説明する。また、記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・1. 条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。	1					
・2 行動主義心理学，社会的学習理論，精神分析の各理論の人物名とキーワードを理解する。						
・3 記憶のメカニズムについて感覚的記憶，短期記憶，長期記憶の関係を理解し，説明できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（教授内容と教育目標）－見る、聞くとはどういうことか－	あらかじめシラバスを熟読すること。
第2回	条件操作的な実験の重要性について－「利口な馬ハンス」の話など－	資料を熟読し、要点をまとめること。
第3回	心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し、要点をまとめること。
第4回	説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果	実験の結果を理解し、考察ついてまとめること。
第5回	心理学を勉強すれば人の心がわかるようになるか	文献を読み、このテーマについて考え、自分の意見をまとめること。
第6回	現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）	レスポナント条件づけについて調べること。
第7回	現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）	オペラント条件づけについて調べること。
第8回	現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）	「観察学習」について調べること。
第9回	現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）	無意識や抑圧について調べること。
第10回	精神分析学における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し、専門用語を理解すること。
第11回	自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し、練習問題に取り組むこと。
第12回	まとめの確認課題	あらかじめ復習して課題に臨むこと。
第13回	記憶の実験－系列位置曲線と系列位置効果－	実験結果の考察を考え、レポートすること。
第14回	記憶のしくみ－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－	ノートを見直し、専門用語を理解すること。
第15回	エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し、感想をまとめること。
第16回	期末試験	期末試験対策の学習をすること。

■ 履修上の注意

毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%，期末試験80%。

レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。

各回の授業でのミニットペーパーについては、次の授業内でフィードバックを行う予定である。

授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

■ 教科書

授業前に資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考

質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

健康管理学

(30009)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年・食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

橋 浦 孝 明

■ 授業の概要

私たちがそれぞれに当たり前に営んでいる生活は健康によって支えられています。そこで本講義では、私たちの生活をより豊かにし、健康で充実したものにするための生活習慣における身体運動および食事の必要性について説明します。それらをグループワークなどを通して、当事者性を以て理解してもらいます。さらに、多様性、様々な健康観を背景に自分のみではなく、他者にとっての望ましい健康観や日常生活における身体運動および食事の重要性についてケーススタディやグループワークを手がかりに多様な視点から考察し、理解を深めることを目指します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・健康の定義および私たちの健康を支える生活の構成要素について理解し、健康的な生活とは何かを考察できる。	0.5	0.2	0.1			0.2
・身体運動や食事の意義について理解を深め、生活習慣病の予防やこころの健康づくりの重要性を説明できる。						
・アクティブラーニング（リアクションペーパー／グループワーク／発表など）を通して、他者の意見や価値観の多様性を認め、自らの考えを表現できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、授業の枠組みの理解	本講義の内容・枠組み等を理解する
第2回 健康の定義の理解	事前に健康とは何か考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第3回 健康と生活	事前に生活の構成要素について考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第4回 身体への気づきについて	事前に自分自身がどのような時に自分の身体に意識を向けるか考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第5回 身体知について	事前に配布資料をよく読んでおく。授業後、授業内容を整理しておく
第6回 スポーツと運動と体育について	事前にそれぞれの違いについて考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第7回 内発的動機付けと外発的動機付けについて	事前に自分自身の行動の動機について考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第8回 基本的な生活習慣について①（現在の運動環境について）	事前に自分が住んでいる地域の運動資源について調べる。授業後、授業内容を整理しておく
第9回 基本的な生活習慣について②（現在の食環境について）	事前に自分が住んでいる地域の食文化について調べる。授業後、授業内容を整理しておく
第10回 レクリエーションについて①（意味・意義の理解）	事前にレクリエーションの言葉の意味を調べる。授業後、授業内容を整理しておく
第11回 レクリエーションについて②（実践）	事前にレクリエーションの効果について考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第12回 オリンピック・パラリンピックについて	事前にオリンピックについて考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第13回 障害児者の運動環境について	事前に障害者の運動環境について考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第14回 障害児者の食について	事前に障害者の食について考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第15回 感染症について	事前に感染症と対策について考えること。授業後、授業内容を整理しておく
第16回 期末試験（筆記試験）	今までの授業内容を復習して試験に臨む

■ 履修上の注意

アクティブ・ラーニング（リアクションペーパー／グループワーク／発表など）による授業展開を行います。積極的な参加・傾聴・受容

・ 共感・非審判的態度でのぞんでください。快適な学習環境を維持するよう受講生同士でマナーを遵守してください。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（リアクションペーパー／グループワーク／発表など）：40％ 期末試験：60％ 期末試験は終了後にフィードバックします。

■ 教科書

適時資料を配布します

■ 参考書

適時掲示します

■ 備考

質問等は授業終了時、もしくはオフィスアワーで受け付けます。受講者の理解度により、授業内容の進行に変更があります。

健康スポーツⅠ

(30010)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

橋 浦 孝 明

■ 授業の概要

自分自身の身体を認知することを柱に、個人および社会生活に対する健康・運動・安全の知識を深め、運動の合理的な実践方法や健康維持増進のための能力や資質を高めることで、自分自身の健康管理のみならず社会人として、協力・支援ができる力を育むことを目的とする。自分自身の身体を認知することを柱に、個人および社会生活に対する健康・運動・安全の知識を深め、運動の合理的な実践方法や健康維持増進のための能力や資質を高めることで、自分自身の健康管理のみならず社会人として、協力・支援ができる力を育むことを目的とする。具体的には、自分自身の身体を知り、他者の身体を知った上で各スポーツゲームを対象者に合わせたルールにするなど、人があってスポーツがあるということを実践を通して学んでもらう。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・積極的にスポーツを行うための、基礎技能とコミュニケーション技能を獲得する。	0.5			0.1	0.1	0.3
・授業を振り返り、より楽しく安全にスポーツを行うための建設的な発想を持ち積極的に発言できる。						
・スポーツゲームのルールを対象者に合わせて変更することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業内容 ガイダンス 学習成果 授業の目的・進め方を理解し実践できる。	事前にシラバスを読んでください。事後学修は授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第2回	授業内容 身体づくりの運動①（様々な動きの体験） 学習成果 様々な動きを体験し、スポーツ活動を安全に取り組むための準備を整える。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第3回	授業内容 身体づくりの運動②（様々なルールの体験） 学習成果 様々なルールのある運動を体験し、安全に取り組むための準備を整える。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第4回	授業内容 フットサル①（動きの体験） 学習成果 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第5回	授業内容 フットサル②（様々なルールの体験） 学習成果 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第6回	授業内容 大縄跳び 学習成果 他者の意欲を育む働き掛けを考察し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第7回	授業内容 バスケットボール①（動きの体験） 学習成果 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第8回	授業内容 バスケットボール②（様々なルールの体験） 学習成果 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第9回	授業内容 スポーツと安全 授業内容 限られたスペースの中で、スポーツゲームを行う際の安全確保について理解を深める。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第10回	授業内容 インディアカ①（動きの体験） 学習成果 基本技能・ルールを理解し実践できる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第11回	授業内容 インディアカ②（様々なルールの体験） 学習成果 基本技能・ルールを理解し実践、展開ができる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第12回	授業内容 自然散策 学習成果 自然の中でできる運動を学ぶ。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第13回	授業内容 ダブルダッチ①（動きの体験）	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまと

	学習成果	基礎技能を獲得し、実践できる。	めてください。
第14回	授業内容	ダブルダッチ②（動きの連続性の体験）	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
	学習成果	基礎技能を獲得し、実践、展開ができる。	めてください。
第15回	授業内容	運動会	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
	学習成果	運動会の意義を理解し、実践、展開ができる。	めてください。
第16回	期末試験		事前・事後学習用のノートをまとめ、読んでおくこと。
	レポート課題にて実施。		

■ 履修上の注意

1. スポーツウェア等運動しやすい服装（更衣室は使用しません）、室内用シューズ（スポーツ用）を着用してください。
※着用しない場合は安全管理上の理由で授業には参加できません。見学または欠席となります。
 2. 髪が肩に届く場合は束ね、アクセサリは外しておくこと。
 3. 参加者数等の関係で内容を変更することがあります。
 4. 水分補給用の水分を必ず用意してください。（ペットボトル・水筒などしっかり蓋ができる容器）
 5. 筆記用具を必ず持参してください。授業毎にリアクションペーパーを書いてもらいます。
 6. 事前・事後学習の学習として、スポーツゲームごとに、レポートとして、ノートに自分自身の取組や改善点などをまとめ、最終授業日に提出してもらいます。
- ※運動が困難な場合、申し出てください、見学してレポートを提出するなどの対応をすることがあります。

■ 成績評価方法・基準

練習、ゲームでの積極性、建設的な発想をもとにした意見・発言などを評価します。

事前・事後学習としてのノート、リアクションペーパー:70点、授業参加での積極性や貢献度:30点。

提出されたノートは、評価終了後にフィードバックします。尚、評価の詳細はルーブリックに記載して配布します。

■ 教科書

無し。必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

無し。必要に応じて資料を配布します。

■ 備考

都合により授業計画の順番が変更することがあります。

質問等は授業終了時、もしくはオフィスアワーで受け付けます。

健康スポーツⅠ

(30011)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 共通教養科目

橋 浦 孝 明

■ 授業の概要

自分自身の身体を認知することを柱に、個人および社会生活に対する健康・運動・安全の知識を深め、運動の合理的な実践方法や健康維持増進のための能力や資質を高めることで、自分自身の健康管理のみならず社会人として、協力・支援ができる力を育むことを目的とする。具体的には、自分自身の身体を知り、他者の身体を知った上で各スポーツゲームを対象者に合わせたルールにするなど、人があってスポーツがあるということを実践を通して学んでもらう。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・積極的にスポーツを行うための、基礎技能とコミュニケーション技能を獲得する。	0.5			0.1	0.1	0.3
・授業を振り返り、より楽しく安全にスポーツを行うための建設的な発想を持ち積極的に発言できる。						
・スポーツゲームのルールを対象者に合わせて変更することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業内容 学習成果	ガイダンス 授業の目的・進め方を理解し実践できる。	事前にシラバスを読んでください。事後学修は授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第2回	授業内容 学習成果	身体づくりの運動①（様々な動きの体験） 様々な動きを体験し、スポーツ活動を安全に取り組むための準備を整える。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第3回	授業内容 学習成果	身体づくりの運動②（様々なルールの体験） 様々なルールのある運動を体験し、安全に取り組むための準備を整える。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第4回	授業内容 学習成果	フットサル①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第5回	授業内容 学習成果	フットサル②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第6回	授業内容 学習成果	大縄跳び 他者の意欲を育む働き掛けを考察し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第7回	授業内容 学習成果	バスケットボール①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第8回	授業内容 学習成果	バスケットボール②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第9回	授業内容 授業内容	スポーツと安全 限られたスペースの中で、スポーツゲームを行う際の安全確保について理解を深める。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第10回	授業内容 学習成果	インディアカ①（動きの体験） 基本技能・ルールを理解し実践できる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第11回	授業内容 学習成果	インディアカ②（様々なルールの体験） 基本技能・ルールを理解し実践、展開ができる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第12回	授業内容 学習成果	自然散策 自然の中でできる運動を学ぶ。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第13回	授業内容 学習成果	ダブルダッチ①（動きの体験） 基礎技能を獲得し、実践できる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第14回	授業内容 学習成果	ダブルダッチ②（動きの連続性の体験） 基礎技能を獲得し、実践できる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。

第15回	授業内容	運動会	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
	学習成果	運動会の意義を理解し、実践、展開ができる。	
第16回	期末試験	事前・事後学習用のノートをまとめ、しっかり読んでおくこと。	
	レポート課題	にて実施。	

■ 履修上の注意

1. スポーツウェア等運動しやすい服装（更衣室は使用しません）、室内用シューズ（スポーツ用）を着用してください。
※着用しない場合は安全管理上の理由で授業には参加できません。見学または欠席となります。
 2. 髪が肩に届く場合は束ね、アクセサリは外しておくこと。
 3. 参加者数等の関係で内容を変更することがあります。
 4. 水分補給用の水分を必ず用意してください。（ペットボトル・水筒などしっかり蓋ができる容器）
 5. 筆記用具を必ず持参してください。授業毎にリアクションペーパーを書いてもらいます。
 6. 事前・事後学習の学習として、スポーツゲームごとに、レポートとして、ノートに自分自身の取組や改善点などをまとめ、最終授業日に提出してもらいます。
- ※運動が困難な場合、申し出てください、見学してレポートを提出するなどの対応をすることがあります。

■ 成績評価方法・基準

練習、ゲームでの積極性、建設的な発想をもとにした意見・発言などを評価します。
事前・事後学習としてのノートやリアクションペーパー:70点、授業参加での積極性や貢献度:30点。
期末試験は、試験終了後にフィードバックします。尚、評価の詳細はループリックに記載して配布します。

■ 教科書

無し。必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

無し。必要に応じて資料を配布します。

■ 備考

都合により授業計画の順番が変更することがあります。
質問等は授業終了時、もしくはオフィスアワーで受け付けます。

健康スポーツⅡ

(30012)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

橋 浦 孝 明

■ 授業の概要

本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ将来に役立てられる運動の技術を日常生活に取り入れ、生涯を健康に過ごすことができる知恵と能力を身につけ、実践できるよう具体的な方法、例えば運動できる環境、運動を継続するための工夫を学んでもらいます。それらのために自身の健康や身体そのものに興味を持ち、運動の楽しさを体感し、自分自身で運動能力を向上させることができる思考を身につけ、今後の体力の維持・向上に役立てていけるような運動実践を体験的に学習してもらいます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・自身の体力を維持できる実践力を身につけることができる。	0.5			0.1	0.1	0.3
・運動の楽しさを理解し、日常生活で実践することができる。						
・運動の重要性を理解し、日常生活で実践することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業内容 学習成果	ガイダンス 授業の目的・進め方を理解し実践できる。	事前にシラバスを読んでください。事後学修は授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第2回	授業内容 学習成果	身体づくり①（ストレッチ） 様々な場面に合わせたストレッチの方法を選択し実践できる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第3回	授業内容 学習成果	身体づくり②（体幹トレーニング） 日常生活に必要な身体づくりについて体験し理解を深める。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第4回	授業内容 学習成果	バドミントン①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第5回	授業内容 学習成果	バドミントン②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第6回	授業内容 学習成果	ダンス①（動きの体験） 様々な動きを体験を通して理解する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第7回	授業内容 学習成果	ダンス②（身体表現） 参加している全員が楽しめるダンスを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第8回	授業内容 学習成果	ソフトバレーボール①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第9回	授業内容 学習成果	ソフトバレーボール②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第10回	授業内容 学習成果	バレーボール①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第11回	授業内容 学習成果	バレーボール②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第12回	授業内容 学習成果	ドッチビー①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第13回	授業内容 学習成果	ドッチビー②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。

	、実践する。	
第14回	授業内容 スポーツ大会準備 学習成果 スポーツの意義を理解し、計画、実践ができる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第15回	授業内容 スポーツ大会 学習成果 スポーツの意義を理解し、実践、展開ができる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第16回	期末試験 レポート課題にて実施	事前・事後学習用のノートをまとめ、読んでおくこと。

■ 履修上の注意

1. スポーツウェア等運動しやすい服装（更衣室は使用しません）、室内用シューズ（スポーツ用）を着用してください。
※着用しない場合は安全管理上の理由で授業には参加できません。見学または欠席となります。
 2. 髪が肩に届く場合は束ね、アクセサリは外しておくこと。
 3. 参加者数等の関係で内容を変更することがあります。
 4. 水分補給用の水分を必ず用意してください。（ペットボトル・水筒などしっかり蓋ができる容器）
 5. 筆記用具を必ず持参してください。授業毎にリアクションペーパーを書いてもらいます。
 6. 事前・事後学習の学習として、スポーツゲームごとに、レポートとして、ノートに自分自身の取組や改善点などをまとめ、最終授業日に提出してもらいます。
- ※運動が困難な場合、申し出てください、見学してレポートを提出するなどの対応をすることがあります。

■ 成績評価方法・基準

練習、ゲームでの積極性、建設的な発想をもとにした意見・発言などを評価します。

事前・事後学習のノートやリアクションペーパー:70点、授業参加での積極性や貢献度:30点。

期末試験は試験終了後にフィードバックします。尚、評価の詳細はループリックに記載して配布いたします。

■ 教科書

無し。必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

無し。必要に応じて資料を配布します。

■ 備考

都合により授業計画の順番が変更することがあります。

質問等は授業終了時、もしくはオフィスアワーで受け付けます。

健康スポーツⅡ

(30013)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 共通教養科目

橋 浦 孝 明

■ 授業の概要

本講義では、健康スポーツⅠの演習をふまえ将来に役立てられる運動の技術を日常生活に取り入れ、生涯を健康に過ごすことができる知恵と能力を身につけ、実践できるよう具体的な方法、例えば運動できる環境、運動を継続するための工夫を学んでもらいます。それらのために自身の健康や身体そのものに興味を持ち、運動の楽しさを体感し、自分自身で運動能力を向上させることができる思考を身につけ、今後の体力の維持・向上に役立てていけるような運動実践を体験的に学習してもらいます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・自身の体力を維持できる実践力を身につけることができる。	0.5			0.1	0.1	0.3
・運動の楽しさを理解し、日常生活で実践することができる。						
・運動の重要性を理解し、日常生活で実践することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業内容 学習成果	ガイダンス 授業の目的・進め方を理解し実践できる。	事前にシラバスを読んでおいてください。事後学修は授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第2回	授業内容 学習成果	身体づくり①（ストレッチ） 様々な場面に合わせたストレッチの方法を選択し実践できる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第3回	授業内容 学習成果	身体づくり②（体幹トレーニング） 日常生活に必要な身体づくりについて体験し理解を深める。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第4回	授業内容 学習成果	バドミントン①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第5回	授業内容 学習成果	バドミントン②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第6回	授業内容 学習成果	ダンス①（動きの体験） 様々な動きを体験し理解する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第7回	授業内容 学習成果	ダンス②（身体表現） 参加している全員が楽しめるダンスを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第8回	授業内容 学習成果	ソフトバレーボール①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第9回	授業内容 学習成果	ソフトバレーボール②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第10回	授業内容 学習成果	バレーボール①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第11回	授業内容 学習成果	バレーボール②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し、実践する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第12回	授業内容 学習成果	ドッチビー①（動きの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造する。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第13回	授業内容 学習成果	ドッチビー②（様々なルールの体験） 参加している全員が楽しめるスポーツゲームを創造し	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。

	、実践する。	
第14回	授業内容 スポーツ大会準備 学習成果 スポーツの意義を理解し、計画、実践ができる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第15回	授業内容 スポーツ大会 学習成果 スポーツの意義を理解し、実践、展開ができる。	授業内容を振り返り、改善点などをノートにまとめてください。
第16回	期末試験 レポート課題にて実施。	事前・事後学習用のノートをまとめ、読んでおくこと。

■ 履修上の注意

1. スポーツウェア等運動しやすい服装（更衣室は使用しません）、室内用シューズ（スポーツ用）を着用してください。
※着用しない場合は安全管理上の理由で授業には参加できません。見学または欠席となります。
 2. 髪が肩に届く場合は束ね、アクセサリは外しておくこと。
 3. 参加者数等の関係で内容を変更することがあります。
 4. 水分補給用の水分を必ず用意してください。（ペットボトル・水筒などしっかり蓋ができる容器）
 5. 筆記用具を必ず持参してください。授業毎にリアクションペーパーを書いてもらいます。
 6. 事前・事後学習の学習として、スポーツゲームごとに、レポートとして、ノートに自分自身の取組や改善点などをまとめ、最終授業日に提出してもらいます。
- ※運動が困難な場合、申し出てください、見学してレポートを提出するなどの対応をすることがあります。

■ 成績評価方法・基準

練習、ゲームでの積極性、建設的な発想をもとにした意見・発言などを評価します。

事前・事後学習のノートやリアクションペーパー:70点、授業参加での積極性や貢献度:30点。

期末試験は試験終了後にフィードバックします。尚、評価の詳細はループリックに記載して配布いたします。

■ 教科書

無し。必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

無し。必要に応じて資料を配布します。

■ 備考

都合により授業計画の順番が変更することがあります。

質問等は授業終了時、もしくはオフィスアワーで受け付けます。

日本語基礎

(30014)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

菊 地 恵 太

■ 授業の概要

日本語は、普段我々が当たり前のように使用しているため、その特徴や仕組みについて考えてみるとうまく説明できないことも多くあります。この授業では、日本語がどのような特徴を持った言語であるか、日本語にどのような現象や問題が見られるのか、客観的に把握することを目的として、日本語の様々な側面について講義します。その上で、普段使用している日本語を見直し、適切な日本語を使用していくための足掛かりとしてほしいと思います。また、質疑やコメントペーパーを通して日本語の疑問点、問題点についても論議を進めます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本語に関する基礎的な知識を習得し、言語の持つ多様性を理解する。	0.7			0.3		
・日本語を巡る様々な現象について、客観的に考察できるようになる。						
・身近に使用されている日本語に問題意識を持ち、実際の運用に生かすことができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	コメントペーパーの提出
第2回 世界の言語と日本語	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第3回 日本語の発音	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第4回 日本語の音韻・アクセントと地域差	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第5回 日本語の語彙（1）意味と語彙体系	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第6回 日本語の語彙（2）語の構成	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第7回 日本語の文法（1）文の単位と品詞	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第8回 日本語の文法（2）文の構造と助詞の使い方	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第9回 日本語の文法（3）時制・文の述べ方	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第10回 日本語の表記（1）日本の文字体系	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第11回 日本語の表記（2）日本の漢字	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第12回 日本語の表記（3）漢字施策と仮名遣い	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第13回 日本語の会話表現（1）文体と位相	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第14回 日本語の会話表現（2）発話行為と待遇表現	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第15回 日本語の会話表現（3）敬語	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第16回 授業のまとめ・期末試験・解説	授業の復習

■ 履修上の注意

日本語に関する授業であるので、普段から使っている言葉や文字に注意を払う癖をつけてください。

ノートやメモを積極的に取り、復習に役立てること。

■ 成績評価方法・基準

小テスト（25%） 前回の授業内容について復習の小テストを毎回行い、翌週解説を行う（第2回以降）。
コメントペーパーの提出（25%） 感想・質問などを書くほか、何らかの課題を課すこともある。
期末試験（50%）

■ 教科書

なし（プリント配布）

■ 参考書

授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

日本語基礎

(30015)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

菊 地 恵 太

■ 授業の概要

日本語は、普段我々が当たり前のように使用しているため、その特徴や仕組みについて考えてみるとうまく説明できないことも多くあります。この授業では、日本語がどのような特徴を持った言語であるか、日本語にどのような現象や問題が見られるのか、客観的に把握することを目的として、日本語の様々な側面について講義します。その上で、普段使用している日本語を見直し、適切な日本語を使用していくための足掛かりとしてほしいと思います。また、質疑やコメントペーパーを通して日本語の疑問点、問題点についても論議を進めます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本語に関する基礎的な知識を習得し、言語の持つ多様性を理解する。	0.7			0.3		
・日本語を巡る様々な現象について、客観的に考察できるようになる。						
・身近に使用されている日本語に問題意識を持ち、実際の運用に生かすことができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	コメントペーパーの提出
第2回 世界の言語と日本語	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第3回 日本語の発音	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第4回 日本語の音韻・アクセントと地域差	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第5回 日本語の語彙（1）意味と語彙体系	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第6回 日本語の語彙（2）語の構成	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第7回 日本語の文法（1）文の単位と品詞	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第8回 日本語の文法（2）文の構造と助詞の使い方	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第9回 日本語の文法（3）時制・文の述べ方	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第10回 日本語の表記（1）日本の文字体系	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第11回 日本語の表記（2）日本の漢字	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第12回 日本語の表記（3）漢字施策と仮名遣い	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第13回 日本語の会話表現（1）文体と位相	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第14回 日本語の会話表現（2）発話行為と待遇表現	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第15回 日本語の会話表現（3）敬語	コメントペーパーの提出（小課題を含む） 授業内容確認の小テスト
第16回 授業のまとめ・期末試験・解説	授業の復習

■ 履修上の注意

日本語に関する授業であるので、普段から使っている言葉や文字に注意を払う癖をつけてください。
ノートやメモを積極的に取り、復習に役立てること。

■ 成績評価方法・基準

小テスト（25%） 前回の授業内容について復習の小テストを毎回行い、翌週解説を行う（第2回以降）。
コメントペーパーの提出（25%） 感想・質問などを書くほか、何らかの課題を課すこともある。
期末試験（50%）

■ 教科書

なし（プリント配布）

■ 参考書

授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

国語表現法

(30016)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

菊 地 恵 太

■ 授業の概要

普段家族や友人などと簡単なメールやメッセージの遣り取りをする機会は多くあると思いますが、大学ではこれまで以上に多様な場面で様々な文章を書く能力が求められます。或いは、様々な立場の人とコミュニケーションを取る必要も出てきます。この授業では、日本語の多様性や使用上の注意点について講義するとともに、レポートや手紙文、意見文など様々な文書の書式、文章表現の方法についても講義します。その上で、授業中或いは宿題として課す課題作文を通して、様々な日本語の表現を実践していきます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本語の文体や表記などの多様性を理解し、場面に応じて適切に運用することができる。	0.7			0.2		0.1
・様々な文書の形式を理解し、実際に文書を作成することができる。						
・自分の意見を言語化し、体系的な分かりやすい文章を作成することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス／文法のおさらい	コメントペーパーの提出（小課題含む）
第2回	言葉の調べ方・辞書の使い方	コメントペーパーの提出（小課題含む）
第3回	日本語の「文体」	コメントペーパーの提出（小課題含む）
第4回	配慮表現と敬語	コメントペーパーの提出（小課題含む）
第5回	メールと手紙文	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第6回	文章の構成（1）レポート・論文の書き方	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第7回	文章の構成（2）分析と考察	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第8回	文章の構成（3）分かりやすい／分かりにくい文	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第9回	文章の構成（4）文書の書式	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第10回	日本の国語施策（1）仮名遣いの注意点	事前調査課題・コメントペーパーの提出
第11回	日本の国語施策（2）漢字の注意点	事前調査課題・コメントペーパーの提出
第12回	言葉の誤用とは何か（言語意識）	事前調査課題・コメントペーパーの提出
第13回	意見文を書く（1）意見文の構成	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第14回	意見文を書く（2）意見交換をする	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第15回	様々な文書を書く	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第16回	期末試験（レポートによる）	課題作文の作成

■ 履修上の注意

辞書（電子辞書可）の持参を推奨します。検索・調査目的での電子機器（スマートフォンなど）の使用も可とします。
日本語に関する授業であるので、普段から使っている言葉や文字に注意を払う癖をつけてください。

■ 成績評価方法・基準

コメントペーパーの提出（40％） 授業の最後に感想・質問などを書いて提出する。

課題の提出・期末試験（期末レポート）（60％） 課題として、小論文などの作成や事前調査（予習）を課すことがある。
課題は後日添削し返却する。

■ 教科書

なし（プリント配布）

■ 参考書

授業内で紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

国語表現法

(30017)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

菊 地 恵 太

■ 授業の概要

普段家族や友人などと簡単なメールやメッセージの遣り取りをする機会が多くあると思いますが、大学ではこれまで以上に多様な場面で様々な文章を書く能力が求められます。或いは、様々な立場の人とコミュニケーションを取る必要も出てきます。この授業では、日本語の多様性や使用上の注意点について講義するとともに、レポートや手紙文、意見文など様々な文書の書式、文章表現の方法についても講義します。その上で、授業中或いは宿題として課す課題作文を通して、様々な日本語の表現を実践していきます。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本語の文体や表記などの多様性を理解し、場面に応じて適切に運用することができる。	0.7			0.2		0.1
・様々な文書の形式を理解し、実際に文書を作成することができる。						
・自分の意見を言語化し、体系的な分かりやすい文章を作成することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス／文法のおさらい	コメントペーパーの提出（小課題含む）
第2回 言葉の調べ方・辞書の使い方	コメントペーパーの提出（小課題含む）
第3回 日本語の「文体」	コメントペーパーの提出（小課題含む）
第4回 配慮表現と敬語	コメントペーパーの提出（小課題含む）
第5回 メールと手紙文	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第6回 文章の構成（1）レポート・論文の書き方	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第7回 文章の構成（2）分析と考察	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第8回 文章の構成（3）分かりやすい／分かりにくい文	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第9回 文章の構成（4）文書の書式	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第10回 日本の国語施策（1）仮名遣いの注意点	事前調査課題・コメントペーパーの提出
第11回 日本の国語施策（2）漢字の注意点	事前調査課題・コメントペーパーの提出
第12回 言葉の誤用とは何か（言語意識）	事前調査課題・コメントペーパーの提出
第13回 意見文を書く（1）意見文の構成	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第14回 意見文を書く（2）意見交換をする	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第15回 様々な文書を書く	コメントペーパーの提出 課題作文の作成
第16回 期末試験（レポートによる）	課題作文の作成

■ 履修上の注意

辞書（電子辞書可）の持参を推奨します。検索・調査目的での電子機器（スマートフォンなど）の使用も可とします。
日本語に関する授業であるので、普段から使っている言葉や文字に注意を払う癖をつけてください。

■ 成績評価方法・基準

コメントペーパーの提出（40％） 授業の最後に感想・質問などを書いて提出する。

課題の提出・期末試験（期末レポート）（60％） 課題として、小論文などの作成や事前調査（予習）を課すことがある。
課題は後日添削し返却する。

■ 教科書

なし（プリント配布）

■ 参考書

授業内で紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

英語 I

(30018)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (30 + 15)

対象学科: 食専 1 年

授業形態: 演習 学期: 後期 必・選: 選択

生活文化学科 共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

食に関する様々な分野(栄養 ダイエット・病気 GM food等)を簡単な英文に編集したものを配布し、コミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と食に関する知識や語彙を養う。

各テーマをhandoutに沿って進め、基本的な文法事項をおさえながら解説し、英語の読解力や簡単な英作文の技能を身に付けさせる。食に関する様々な話題についての関心・好奇心を高め、自分の意見を英語で表現でき、議論したり、発表できるようにさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	0.7	0.1	0.2			
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、話して聞き取ることができる。						
・食分野に関する英語表現を身につける。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス	学習内容について確認する
第2回 Balanced diet	プリントの復習
第3回 Grains	プリントの復習
第4回 Vegetables/Fruits	プリントの復習
第5回 Milk and other dairy foods	プリントの復習
第6回 Protein	プリントの復習
第7回 Beans, Peas, and Lentils	プリントの復習
第8回 How much each food group should you eat?	プリントの復習
第9回 Sports and Diet	プリントの復習
第10回 Foods, Allergies and Other Diseases	プリントの復習
第11回 Genetically Modified Foods	プリントの復習
第12回 Japanese Traditional Foods	プリントの復習
第13回 Presentation (My Favorite Food)	Presentationの準備
第14回 Presentation (My Favorite Food)	Presentationの準備
第15回 期末試験 (テスト)	テストに向けて復習
第16回 テストの回収・説明	後期について反省、感想などの準備

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ず辞書 (スマホ、携帯は可)、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点60% (授業への取り組み、presentationの結果等で総合的に判断する。)

期末試験 (テスト) 40%

試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書

なし(外国の食や栄養に関する論文のhandout)

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業終了時、オフィスアワーで、あるいはGoogle Classroomで受け付ける。

英語 I

(30019)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が出てくるストーリーを追いながら、保育現場で必要とされる英語表現を取り上げる。保育園の通常の日や季節ごとに異なる行事について解説し、視聴覚教材を活用しながら理解を深めさせる。本文読解、音読、短文表現の作文、リスニング、会話を通じて、英語での園行事の説明の仕方や園児保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力の向上を図る。英語 I では1章～6章を取り上げる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	0.7	0.1	0.2			
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。						
・保育分野に関する英語表現を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス・アンケート・挨拶と自己紹介	英語で自己紹介の準備（1分～2分程度）
第2回	英語復習	高校英語の基礎の復習
第3回	First Step to Childcare English	第1章の予習
第4回	第1章のクイズ及び自己紹介文の作成	クイズに向けて第1章の復習
第5回	Welcome to Minato Nursery School	第2章の予習
第6回	第2章のクイズ	クイズに向けて第2章の復習
第7回	Time and Numbers	第3章の予習
第8回	第3章のクイズ	クイズに向けて第3章の復習
第9回	Directions	第4章の予習
第10回	第4章のクイズ	クイズに向けて第4章の復習
第11回	Davy meets his classmate Takashi	第5章の予習
第12回	遊びに関する英文を読み、音読できるようにする。	音読クイズに向けて復習
第13回	Dropping Davy off and picking him up	第6章の予習
第14回	第6章のクイズ	クイズに向けて第6章の復習
第15回	前期期末試験（テスト）	テストに向けて復習
第16回	テストの回収・説明	前期について反省、感想などの準備

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ず辞書（スマホ、携帯は可）、テキスト、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点60%（授業への取り組み、会話を含むクイズの結果等で総合的に判断する。）

前期期末試験（テスト）40%

クイズおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書

〔保育の英会話〕 〔赤松直子・久富陽子〕 〔萌文書林〕 〔2, 100円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業終了時、オフィスアワーで、あるいはGoogle Classroomで受け付ける。

英語Ⅱ

(30020)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

英語Ⅰで身に付けた英語力を使って外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現や、演習を通じて実際に英語が使えるようになることを目指す。栄養教育を簡単な英文に編集したものを配布し、コミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と食に関する知識や語彙力を養う。食物栄養に関する論文を読み、それを自分の興味に合わせて英文を書き、口頭でも発表できるようにする。後半はプレゼンテーションができるように指導していきたい。授業は学生の学習進捗状況によって進めてゆく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	0.7	0.1	0.2			
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、話して聞き取ることができる。						
・様々な分野に関する英語表現を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 自己紹介を英語でできるようにする	学習内容について確認する
第2回	Self-introduction in English	英語で自己紹介の準備
第3回	食育 (Nutrition Education) Food	プリントの復習
第4回	食育 (Nutrition Education) Nutrients	プリントの復習
第5回	食育 (Nutrition Education) Portion Size	プリントの復習
第6回	食育 (Nutrition Education) Nutrition Facts	プリントの復習
第7回	スポーツと栄養の関係について	プリントの復習
第8回	断食について	プリントの復習
第9回	フードロスについて	プリントの復習
第10回	GM食品について	プリントの復習
第11回	プレゼンテーションの準備（各自）	課題範囲の仕上げ
第12回	プレゼンテーションの準備（各自）	課題範囲の仕上げ
第13回	プレゼンテーションの準備（各自）	課題範囲の仕上げ
第14回	プレゼンテーションの準備（各自）	課題範囲の仕上げ
第15回	前期期末試験（プレゼンテーション）	課題範囲の仕上げ
第16回	フィードバック	前期について反省、感想などの準備

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ず辞書（スマホ、携帯は可）、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点40%（授業への取り組み、毎時の小テストの結果等で総合的に判断する。）

前期期末試験60%：プレゼンテーションの取り組み及びプレゼンテーション

総合的に判断 毎時のプレゼンテーションは授業時間等で評価し、フィードバックする。

■ 教科書

なし(外国の食や栄養に関する論文のhandout)

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業終了時、オフィスアワーで、あるいはGoogle Classroomで受け付ける。

英語Ⅱ

(30021)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 共通教養科目

ブシャー シルベ

■ 授業の概要

保育の英語を扱ったテキストを用い、園生活の様々な場面が出てくるストーリーを追いながら、保育現場で必要とされる英語表現を取り上げる。保育園の通常の日や季節ごとに異なる行事について解説し、視聴覚教材を活用しながら理解を深めさせる。本文読解、音読、短文表現の作文、リスニング、会話を通じて、英語での園行事の説明の仕方や園児・保護者への対応力を養うと同時に、日常生活で役立つ基礎的な英語力の向上を図る。英語Ⅱでは7章～15章を取り上げる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。	0.7	0.1	0.2			
・身近な話題であれば簡易な英文を読み書きし、聞き取って話すことができる。						
・保育分野に関する英語表現を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 英語基礎問題	英語基礎問題の解答と復習
第2回 Jobs at nursery school	第7章の予習
第3回 第7章のクイズ	クイズに向けて第7章の復習
第4回 Lunch Time	第8章の予習
第5回 第8章のクイズ	クイズに向けて第8章の復習
第6回 Toilet Dialogue	第9章の予習
第7回 第9章のクイズ	クイズに向けて第9章の復習
第8回 Telephone calls	第12章の予習
第9回 第12章のクイズ	クイズに向けて第12章の復習
第10回 Field trip	第13章の予習
第11回 第13章のクイズ	クイズに向けて第13章の復習
第12回 Baby Care	第14章の予習
第13回 第14章のクイズ	クイズに向けて第14章の復習
第14回 Graduation Day	第15章の予習
第15回 後期期末試験（テスト）	後期期末に向けての復習
第16回 テストの回収・説明	後期について反省、感想などの準備

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加すること。必ず辞書（スマホ、携帯は可）、テキスト、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点60%（授業への取り組み、会話を含むクイズの結果等で総合的に判断する。）

後期期末試験（テスト）40%

クイズおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書

〔保育の英会話〕 〔赤松直子・久富陽子〕 〔萌文書林〕 〔2, 100円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業終了時、オフィスアワーで、あるいはGoogle Classroomで受け付ける。

情報処理 I

(30022)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋30）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 共通教養科目

松 尾 広

■ 授業の概要

Word、Excel、PowerPointの操作を中心として、データの集計・加工、グラフ作成、画像の操作とレイアウト、インターネットでの情報収集を行い、それらを組み合わせてレポートなどの体裁の整った文書の作成、栄養指導の媒体や教材の作成、プレゼンテーションができるように、基本的な利用法を中心に解説する。ビジネス文書やプレゼンテーションの体裁を整えるのに必要な操作方法が身につくように、例題と練習問題で反復して練習を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・一般的なビジネス文書の作成ができるようになる。	0.9					0.1
・データの集計・加工とグラフ作成ができるようになる。						
・プレゼンテーションのためのシンプルなスライドを作成できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	前期の学習内容を確認する。
第2回 Google Workspaceの使い方（1）	Gmail、Classroomの基本的な使い方を理解する。
第3回 Google Workspaceの使い方（2）	ドライブの基本的な使い方とWindowsとの違いを理解する。
第4回 Wordによる文書作成（インデント・タブ・行ぞろえ）	ビジネス文書の様式を理解する。
第5回 Wordによる文書作成（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第6回 Wordによる文書作成（表）	表の操作について理解する。
第7回 Wordによる文書作成（表、練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第8回 Wordによる文書作成（図）	図の挿入、編集方法について理解する。
第9回 Wordによる文書作成（図、練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第10回 Excelによる表計算（計算式・関数）	計算式の表現方法を理解する。
第11回 Excelによる表計算（計算式・関数）	操作の流れを確認し、反復する。
第12回 Excelによる表計算（関数、練習問題）	関数の利用方法を理解する。
第13回 Excelによる表計算（グラフ、練習問題）	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第14回 PowerPointによるプレゼンテーション作成（基本操作）	操作の流れを確認し、反復する。
第15回 PowerPointによるプレゼンテーション作成（レイアウト）	操作の流れを確認し、反復する。
第16回 演習内容のまとめ、期末試験（Word、Excel）	前期の学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意

つまづいたところがあったら、見直して、くりかえしてみること。

テキスト以外の説明用資料はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、試験60%

提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

〔実践ドリルで学ぶOffice活用術〕〔noa出版編〕〔noa出版〕〔1, 324円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

情報処理Ⅱ

(30023)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋30）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 共通教養科目

松 尾 広

■ 授業の概要

情報処理Ⅰに引き続き、Word、Excel、PowerPointの操作と応用について解説する。アプリケーション間の連携、特にWordとExcelの連携について、いくつかのコピーアンドペーストの方法の違いと特徴を示し、文書作成時に適切な方法を選択できるように練習を行う。さらにExcelをデータベースとして利用する方法、Wordと連携する差し込み印刷の練習を行う。また、PowerPointではプレゼンテーションを効果的に行うための準備作業について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ Word、Excel、PowerPointなどを適切に組み合わせて体裁が整った文書	0.9					0.1
・ プレゼンテーションを作成できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	後期の学習内容について確認する。
第2回 Excelによる表計算（データベース）	データベースの構成方法を理解する。
第3回 Excelによる表計算（データベース練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第4回 Excelによる表計算（ピボットテーブル）	ピボットテーブルの操作を理解する。
第5回 Excelによる表計算（ピボットテーブル練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第6回 WordとExcelの連携（コピーアンドペーストの応用）	操作の流れを確認し、反復する。
第7回 WordとExcelの連携（差し込み印刷）	差し込み印刷の仕組みを理解する。
第8回 レポートの作成法（Word）	スタイル、文献リスト、図表番号・相互参照、ヘッダー・フッターの利用方法を理解する。
第9回 レポートの作成法（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第10回 PowerPointによるプレゼンテーション作成（応用）	操作の流れを確認し、反復する。
第11回 PowerPointによるプレゼンテーション作成（練習問題）	操作の流れを確認し、反復する。
第12回 PowerPointによるプレゼンテーション	操作の流れを確認し、反復する。
第13回 まとめの課題（Word）	Wordについての学習内容を振り返る。
第14回 まとめの課題（Excel）	Excelについての学習内容を振り返る。
第15回 まとめの課題（PowerPoint）	PowerPointについての学習内容を振り返る。
第16回 期末試験	授業で扱った情報処理に関する知識・理解について試験を行う。

■ 履修上の注意

つまづいたところがあったら、見直して、くりかえしてすること。

テキスト以外の説明用資料はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、まとめの課題+試験60%

提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書

（情報処理Ⅰの教科書と同じ）

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

スタディスキルズ

(30024)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 共通教養科目

松 尾 広 青 柳 公 大 食物栄養学専攻教員全員

■ 授業の概要

高校生活から短大生活へのスムーズな移行を促す「初年次教育」が主な内容である。例えば、「学内生活に関する事項（学内ルールや目標設定）」「本学の歴史」「施設活用」「ノートのとおり方やレポートの出し方など学習方法」について授業を行う。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講する上で必要な基礎学力向上を目指すほか、実習に対する態度やお礼状の書き方など、専門科目を学ぶ上での常識も学んでいく。また、短大の学修と将来を関係づけ、学習意欲の向上を目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 本学の歴史を理解する。	0.9					0.1
・ 学内における生活上の常識や学内施設使用の仕方を理解する。						
・ 常識的な主要5科目の基礎学力を身につける。						
・ 一般的な学習方法（ノート等）や学科・専攻の学習目的を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンスおよび短大生活・プレイスメントテスト（1年担任、池田）	配布プリントの復習
第2回	2. 学習目標の設定（学習ポートフォリオの記入）（1年生担任、学習支援委員）	配布プリントの復習。学修ポートフォリオの記入の完了。
第3回	3. 短大における学修について（学長による講話）	配布プリントの復習
第4回	4. 学習方法に関するアドバイス（基本的な学習方法と態度、ノート、レポート等）（松尾、他）	配布プリントの復習
第5回	5. 泉警察署による講話 SNS使用上の注意	配布プリントの復習。感想の提出。
第6回	6. e-learning（数学）の復習（池田、他）※「6, 7, 8」は並行して行う。	配布プリントの復習。宿題の提出。
第7回	7. 図書館の利用の仕方（特に検索の方法について）（図書館司書、1年生担任、他）※「6, 7, 8」は並行して行う。	配布プリントの復習。図書館の利用方法を確認し、積極的に活用する。宿題の提出。
第8回	8. 本学の歴史を知る（資料室・顕彰館等の見学）（松尾、黒川、木下、永沼、益田、青柳）※「6, 7, 8」は並行して行う。	配布プリントの復習。学園の歴史について感想等の記入を行う。
第9回	9. 一般的な学習方法や専攻科目に関するアドバイス（講義・演習・実習の特性、スケジュール管理等）（池田、永沼、黒川、青柳、木下）	配布プリントの復習。
第10回	10. 漢字や語彙の学習（学習支援委員）e-learning（国語）の復習（池田、他）	配布プリントの復習
第11回	11. e-learningの復習（新OA室にてドリル20課題など）池田	配布プリントの復習。e-learningの復習。
第12回	12. コンセプトマップの活用その1 自己紹介マップを作ってみる。（池田）	配布プリントの復習
第13回	13. コンセプトマップの活用その2 学習への活用（池田）	配布プリントの復習
第14回	14. お礼状・手紙・服装・みだしなみに関する説明（益田、他）	配布プリントの復習
第15回	15. 短大生活と就職活動、各種アンケート（1年生担任、他）社会に関する常識（学習支援委員、青柳、木下）	配布プリントの復習
第16回	期末試験（提出課題による）	配布プリントの復習

■ 履修上の注意

配られた資料はファイルに閉じて整理すること。入学前e-learningを使用することがあるのでログイン方法等は忘れないこと。提出物は期限通り提出すること。

■ 成績評価方法・基準

提出物の提出状況とその内容（100％）。提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書

毎回資料を配布する。

■ 参考書

e-learningの教材

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

スタディスキルズ

(30025)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 共通教養科目

阿 部 陽 子 大瀬戸 美 紀 橋 浦 孝 明 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

大学における初年次教育（導入教育・リメディアル教育等）を行う授業であり、本学（三島学園・東北生活文化大学短期大学部）の歴史や、施設の利用法を知った上で、マナーなどの生活面を含めた短大生としての学習方法（ノートの取り方、レポートの作成、資料の収集方法など）について学ぶ。また、入学前課題の事後指導を通じて、各科目を受講するうえで必要な基礎学力の向上とともに、短大における学習がどのように将来（2年次の実習や就職後の仕事）と結びつくのか、話し合いや発表等を通して考える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・各科目の理解に不可欠な基礎学力を身に付ける。	0.4			0.4		0.2
・学内施設使用の仕方を理解する。						
・学科・専攻の学習目的や学習方法を理解する。						
・学内における生活上の基本的マナーを身に付け、将来につなげる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス・プレースメントテスト（池田、阿部、大瀬戸、橋浦他）	前期の学習内容について確認する。
第2回	学修ポートフォリオの記入（池田、1年担任、阿部、大瀬戸、橋浦他）	ポートフォリオに記入し、学習の計画を立てる。
第3回	学長講話～短大における学修について～〔佐藤学長〕（池田、阿部、大瀬戸、橋浦他）	講話の内容をまとめて感想等を記入する。
第4回	学習方法に関するアドバイス（松尾、池田、阿部、大瀬戸、橋浦他）	大学における学習方法について確認する。
第5回	泉警察署による講話～SNS使用上の注意～（池田、阿部、大瀬戸、橋浦他）	講話の内容をまとめて感想等を記入する。
第6回	入学前課題の復習（数学）（池田、阿部、大瀬戸、橋浦他）※「6, 7, 8」は並行して行う。	自分で解けなかった問題の復習を行う。
第7回	図書館の利用の仕方（検索の方法等）（池田、阿部、大瀬戸、橋浦他）※「6, 7, 8」は並行して行う。	図書館の利用方法を確認し積極的に活用する。
第8回	本学の歴史を知る（資料室・顕彰館の見学）（池田、阿部、大瀬戸、橋浦他）※「6, 7, 8」は並行して行う。	学園の歴史についての感想等を記入する。
第9回	学修ポートフォリオ中間評価の記入、マナーについて（言葉遣い、身だしなみ）（阿部、大瀬戸、橋浦他）	これまでの振り返りながらポートフォリオを記入する。マナーについての学習内容を確認し日々実践できるようにする。
第10回	マナーについての調べ学習①（阿部、大瀬戸、橋浦他）	調べて分かったことを理解し、実践できるようにする。
第11回	マナーについての調べ学習②発表（阿部、大瀬戸、橋浦他）	他のグループの発表で分かったことを理解し、実践できるようにする。
第12回	e-learning20ドリル課題①（阿部、大瀬戸、橋浦他）	解けなかった問題の復習を行う。
第13回	e-learning20ドリル課題②（阿部、大瀬戸、橋浦他）	解けなかった問題の復習を行う。
第14回	手紙の書き方について（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を復習する。
第15回	タバコとアルコールについての講話〔保健センターによる講話〕 まとめと後期の課題（1年担任、阿部、大瀬戸、橋浦他）	講話についての感想等を記入する。 前期の学修を振り返り、夏休みの課題に取り組む
第16回	期末試験（提出課題による）	授業内容をまとめる。

■ 履修上の注意

配布物はファイルに綴じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。

提出物は、期限通り提出する。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（授業への積極的参加）（50％）、提出課題の提出状況・内容（50％）。

提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

事前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書

授業内で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付ける。
都合により、授業計画の順番を変更することがある。

キャリアアップセミナー

(30026)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

池田 展 敏 松尾 広 青柳 公 大 食物栄養学専攻教員全員

■ 授業の概要

社会人基礎力の基本となる「一歩踏み出す（行動する）力」「チームワーク」「考える力」を身につけるための手法について学ぶ授業を行う。考える力的手段としては「コンセプトマップ」「ピラミッドストラクチャ」「クリティカルシンキング」を、チームワークや行動する力としては「ブレインストーミング」「プレゼンの準備と練習」「電話対応演習（ロールプレイ）」などの演習を行う。就職活動で必要となる自己分析や履歴書の作成なども行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・コミュニケーション能力を身につけること。	0.1					0.9
・チームで問題解決をするための能力を修得する。						
・論理的思考や一歩を踏み出す力を身につける。						
・就職活動をスムーズにスタートできるため準備を完了する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	1. ガイダンス（社会人基礎力とは何か）と学修ポートフォリオ記入（池田、1年生担任）	配布プリントの復習。学修ポートフォリオの記入の完了。
第2回	2. 栄養士実力認定試験についての説明（永沼）	問題の復習。
第3回	3. 説明と質問の発想方法 5W1Hの活用法とピラミッドストラクチャ、クリティカルシンキング（池田）	ピラミッドストラクチャの完成と復習
第4回	4. ブレインストーミング① 「ブレインストーミングとは何か」「テーマ設定」（松尾、池田）	配布プリントの復習。
第5回	5. ブレインストーミング② 「ブレインストーミングとKJ法の実践」（松尾、池田、黒川、永沼、益田、木下、青柳）	配布プリントの復習。発表用紙の作成
第6回	6. ブレインストーミング③ 発表準備（同上）	配布プリントの復習。。発表準備
第7回	7. プレゼンテーション演習① 前半グループの発表（同上）	プレゼンテーションの感想の提出
第8回	8. プレゼンテーション演習② 後半グループの発表（同上）	プレゼンテーションの感想の提出
第9回	9. 履歴書、添え状、封筒の常識（池田、黒川）※11と並行	履歴書雛型、添え状、封筒の提出
第10回	10. エントリーシートを書くための自己PR作成（池田、黒川）※12と並行	自己PRの構想用紙の提出
第11回	11. 言葉の使い方と電話対応の基本（松尾、永沼、益田、木下、青柳）	配布プリントの復習。感想提出
第12回	12. 電話対応の練習（実践的な例）（松尾、永沼、益田、木下、青柳）	配布プリントの復習。感想提出
第13回	13. 喫煙リスク等、職場における健康管理（外部講師による）	配布プリントの復習。感想提出
第14回	14. 栄養士実力認定試験の成績向上のために何をすべきか考える。（池田）	掲示物の完成
第15回	15. 就職活動に関するアドバイスと授業のまとめ（池田、1年生担任）	配布プリントの復習。
第16回	期末試験（提出課題による）	配布プリントの復習。

■ 履修上の注意

配られた資料はファイルに閉じて整理すること。提出物は期限通り提出すること。

■ 成績評価方法・基準

提出物の提出状況とその内容およびブレインストーミングへの参加（80％）。小テスト（20％）。提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書

毎回資料を配布する。

■ 参考書

ビジネスマナー教本（配布予定）

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいは担当者のオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

キャリアアップセミナー

(30027)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

阿 部 陽 子 大瀬戸 美 紀 橋 浦 孝 明 子ども生活専攻教員全員

■ 授業の概要

前期開講のスタディスキルズ（初年次教育）の授業を引き継ぎ、短大での学生生活、2年次に予定されている保育実習（保育所・施設）及び教育実習（幼稚園）、就職後の仕事に必要なスキル（基本的なマナー、文章作成、一般教養など）について、保育、教育実習指導の授業と連携しながら学習する。また、就職活動の方法や知識等についても学び、卒業後の社会生活におけるキャリアについて話し合いや発表等を通して考え、具体的なイメージをもてるようにしていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・学生・社会人としてのマナーや一般教養を学ぶ。	0.4			0.2		0.4
・2年次の実習や就職後に必要となる知識や技能について学ぶ。						
・就職活動について知識を獲得し、卒業後のキャリア形成について考える。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション、働くということ①（協働について）（阿部、大瀬戸、橋浦他）	後期の学習内容について確認する。
第2回	働くということ②（同僚性について）（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第3回	働くということ③（生活多様性について）（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第4回	学修ポートフォリオの記入、日常生活の基本的マナー①手紙、御礼状について（1年担任、阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第5回	日常生活の基本的マナー②食事、配膳方法等（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第6回	日常生活の基本的マナー③掃除の仕方（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。
第7回	日常生活の基本的マナー④実習オリエンテーション時（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、日々実践できるようにする。
第8回	履歴書の書き方①説明、添え状の書き方（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、2年次の実習や就職活動に活かすことができるようにする。
第9回	履歴書の書き方②記入（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、2年次の実習や就職活動に活かすことができるようにする。
第10回	履歴書の書き方③訂正、面接練習（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、2年次の実習や就職活動に活かすことができるようにする。
第11回	実習生調書の書き方①説明、記入（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。
第12回	実習生調書の書き方②訂正（阿部、大瀬戸、橋浦他）	作成した原稿をもとに、自己PRの練習を行う。
第13回	他者性の理解（阿部、大瀬戸、橋浦他）	面接練習を振り返り、自分の課題を明確にする。
第14回	キャリア教育①（就職活動の進め方）（阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。
第15回	キャリア教育②（就職内定報告会）、まとめ（2年担任、阿部、大瀬戸、橋浦他）	学習内容を確認し、今後の就職活動に活かす。
第16回	期末試験（提出課題による）	授業内容をまとめる

■ 履修上の注意

配布物はファイルに綴じて整理する。入学前課題を使用することがあるので、指示に従い準備する。
提出物は、期限通り提出する。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（授業への積極的参加）（50%）、提出課題の提出状況・内容（50%）。
提出課題等については、添削後、授業中にフィードバックする。

■ 教科書

事前に必要なプリントを配布する。

■ 参考書

授業内で指示する。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日・時間は刑事で確認）で受け付ける。
都合により、授業計画の順番を変更することがある。

キャリアサポートセミナーⅠ

(30028)

単位：1

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

鈴木 専 教職員

■ 授業の概要

学生のキャリア形成支援活動に関する文部科学省、経済産業省、厚生労働省間の三省合意改正により、2026年3月卒の学生からインターンシップの在り方が大きく変化し、夏から始まるインターンシップが企業等の採用選考活動開始となる等社会経済情勢が大きく変化している。この様な中における学生の就職活動を支援するため、従来の自己分析や企業研究の手法、エントリーシートの書き方、SPI等の知識とスキルの修得に加え、早期内定者や講師陣による最新の就職活動に関する情報提供を行い進路決定するまで指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・就職活動に関する最新の知識を修得し、幅広い視野で自らの進路を選択決定する力を身に付ける	0.4					0.6
・業界・企業を比較研究する知識とスキルを身に付ける						
・就職試験を突破する力を身に付ける						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 就活準備スタートアップセミナー (授業ガイダンス・就活の流れ等)	就職活動の流れを知り、これからやるべきことを理解すること
第2回 業界・企業研究基礎セミナー	業界と企業に関する知識を広げることによって進路の選択肢が広がることを理解すること
第3回 早期内定学生による「就職活動準備期の何でも相談セミナー」	早期内定学生が、就職活動準備期における不安や悩みに応える
第4回 企業比較研究法セミナー	選択肢を広げる企業研究手法を身に付けること
第5回 映像で理解する「インターンシップセミナー」	今年から大きく変化するインターンシップの目的を理解すること
第6回 インターンシップ合同企業説明会の活用セミナー	インターンシップ合同企業説明会が情報収集の貴重な情報源であることを理解し、活用すること
第7回 採用する側の内部事情を知るセミナー	採用する側の課題と求める人物像を理解する
第8回 インターンシップ何でも相談セミナー	就職活動がスタートする夏季インターンシップ直前期の不安や悩みに応える
第9回 WEBマーケティング企業の経営者から学ぶ 「WEBマーケティングセミナー」	YouTube等のSNSを活用したWEBマーケティングの基礎を学び、自分自身の価値を上げること
第10回 SPI基礎セミナー	多くの企業や地方公務員試験で出題されるSPIの試験形式を知り、克服する方策を考える
第11回 SPI非言語対策セミナー①(割合、損益算) ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第12回 SPI非言語対策セミナー②(速さ、確率) ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第13回 SPI非言語対策セミナー③(仕事算、比率) ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第14回 SPI非言語対策セミナー④(順列・組合せ、集合) ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第15回 就活準備前半振り返りセミナー	前半を振り返り、これからやるべきことを理解して実践すること
第16回 SPI模擬試験	模試で弱点を把握しその克服に努めること
第17回 小論文対策セミナー① (論文、小論文、作文の違いとは)	論文、小論文、作文との違いを理解すること
第18回 小論文対策セミナー② (実際に小論文を書いてみる)	簡潔で分かり易い文章の書き方を理解すること
第19回 SPI模擬試験振り返りセミナー (模試結果の振り返りと復習)	確実に正解できる問題を増やすこと
第20回 就活準備中間振り返りセミナー	現時点における就職環境を理解し、本番の選考に

(現時点の就職環境の理解と自己PRのブラッシュアップ)		備え自己PRのブラッシュアップを行うこと
第21回	就活本番用エントリーシート対策セミナー①	宿題のエントリーシートを書く際の注意点を理解し、自力で書く努力をすること
第22回	就活本番用エントリーシート対策セミナー② (授業終了後宿題提出すること)	自力でエントリーシートを書くことの難しさを理解し、就職活動本番に向けて準備を怠らないこと
第23回	面接試験対策セミナー①	宿題の総評と面接試験における注意点をよく理解すること
第24回	面接試験対策セミナー② (ロールプレイ)	ロールプレイを体験することで相手に分かり易く伝えることの難しさを理解し、就職活動本番に向けて準備を怠らないこと
第25回	企業の人事担当者のホンネを訊くセミナー	学生が感じる疑問や質問に対する企業の人事担当者のホンネを訊く
第26回	内定学生が就職活動直前期の不安や悩みに応える 「就職活動直通期の何でも相談セミナー」	内定学生が就職活動直前期における不安や悩みに応える
第27回	労働法基礎セミナー	労働法の基礎と求人票の見方及び就活ハラスメントへの対処法を理解すること
第28回	～就活は第一印象が大きく影響する～ ビジネスマナーセミナー	社会で働く上で必要なビジネスマナーを理解すること
第29回	就活準備振り返りセミナー (就職活動の流れの再確認と就職環境)	就職活動の流れの再確認と就職環境を理解し、就職活動本番に備えること
第30回	就活生応援セミナー	社会で活躍するキャリアウーマンが贈る「就活生応援メッセージ」

■ 履修上の注意

夏期インターンシップが就職活動のスタートであることを理解すること
 エントリーシートの出来が就職試験の結果に大きな影響を与えることを理解すること
 学んだことを繰り返し復習し身に付けること。また、ミニットペーパーを活用して文章力向上に努めること
 良好な授業環境の実現とコロナウイルス対策のため全員指定された座席に着席すること
 課外で行うセミナーにも積極的に参加して実力向上に努めること

■ 成績評価方法・基準

宿題のエントリーシートに対する取り組み姿勢（40％）ミニットペーパーによる授業の理解度（40％）積極的な質問や真剣な目で受講しているか（20％）

■ 教科書

授業の際に資料を配布する

■ 参考書

業界地図 東洋経済新報社 1, 300円 会社四季報 東洋経済新報社 2, 091円
 就職四季報総合版 東洋経済新報社 1, 900円 就職四季報女子版 東洋経済新報社 1, 900円
 キャリアをつくる独学力 著者：高橋俊介 東洋経済新報社 1, 870円 ※いずれも税抜

■ 備考

オフィスアワー
 原則として、毎週木曜日の各午後3時～午後6時以外の時間に質問を受け付ける

キャリアサポートセミナーⅡ

(30029)

単位：1

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 共通教養科目

鈴木 専 教職員

■ 授業の概要

学生が就職活動をする上で、一人ひとりが抱える課題解決の糸口を掴むことが出来る授業展開に努め、各自が希望する進路選択が実現できるよう指導していく。具体的には、第1回目の授業の中でアンケート調査を行い、一人ひとりが感じている就職活動に関する課題や不安、悩み等の聞き取りを行う。そして、集計したアンケート調査結果を講師陣と共有し、学生一人ひとりの課題解決に資する授業展開に努め、各自の希望する進路選択が実現できるよう指導並びに支援を行っていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・現在の就職環境をよく理解すること	0.2		0.2		0.2	0.4
・企業の人事担当者の本音を聞き、内定を得るために必要な知識とスキルを学ぶこと						
・グループディスカッションを経験し傾聴の大切さを理解すること						
・学内単独会社説明会に積極的に参加し情報収集を怠らないこと						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	就職活動復習セミナー (授業終了後アンケートを提出)	就職活動の流れを再確認するとともに、現在の就職環境を理解し企業の採用選考に臨むこと
第2回	企業の人事担当者「何でも相談セミナー」① 学生の素朴な疑問に本音で応える	企業の人事担当者の本音を聞く
第3回	企業の人事担当者「何でも相談セミナー」① 学生の素朴な疑問に本音で応える	企業の人事担当者の本音を聞く
第4回	グループディスカッションセミナー①【基礎編】	グループディスカッションの基本を学ぶ
第5回	グループディスカッションセミナー②【実践編】	グループディスカッションのコツを理解すること
第6回	小論文復習セミナー① (一人ひとりの小論文の課題に応える)	各自が抱える小論文に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第7回	小論文復習セミナー② (実際に小論文を書いてみる)	各自が抱える小論文に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第8回	学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第9回	学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第10回	学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第11回	学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第12回	学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第13回	学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第14回	学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること
第15回	学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択するために必要な情報を収集すること

■ 履修上の注意

学んだことを実際の就職活動に活かし、自ら選択した進路実現に向かって努力すること

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパーによる授業の理解度（50％）積極的な質問や態度で受講しているか（50％）

■ 教科書

授業の際に資料を配布する

■ 参考書

業界地図 東洋経済新報社 1,300円 会社四季報 東洋経済新報社 2,091円

就職四季報総合版 東洋経済新報社 1,900円 就職四季報女子版 東洋経済新報社 1,900円

キャリアをつくる独学力 著者：高橋俊介 東洋経済新報社 1870円 ※税抜価格

■ 備考

オフィスアワー

原則として、毎週木曜日午後 3 時～午後 6 時以外の時間に質問を受け付ける

生活文化学科基幹科目

生活文化概論

(30051)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 基幹科目

伊 藤 常 久

■ 授業の概要

衣食住を中心とした生活と文化との関わりとその全体像である生活文化への理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について説明しながら、地域性や時代背景による生活文化の多様性―思想や思考、技術等について紹介する。私たちにあって「生活文化とは何か」について、食との関わりに着目し、主体的に考えて想像できるよう解説する。この講義は「概論」であり、のちの「生活文化各論」にて生活文化をより深く理解するための枠組みとしての概説を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生活文化の概念や考え方を身につける。	0.4	0.6				
・生活文化の諸相を把握する知識を身につける。						
・生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について考えられる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：授業の説明、アンケート	資料をよく読み、この授業で取り組む学習内容や評価方法について復習する。
第2回 生活文化とは	資料をよく読み、生活文化とは何かについて内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 生活文化の関連領域（家政学や生活学との関わり）	資料をよく読み、生活文化と家政学や生活学との関連について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 生活と文化（福祉、健康、安全、幸福など）	資料をよく読み、生活と様々な文化の関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 生活史（江戸時代の生活、生活と職業）	資料をよく読み、江戸時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 生活史（明治、大正時代の生活）	資料をよく読み、明治・大正時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 生活史（昭和から現在までの生活）	資料をよく読み、昭和以降の生活史について内容をまとめておく（次回小テスト）。
第8回 生活文化とジェンダー、家族、小テスト	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、小テストに備える。
第9回 生活文化と保育、子育て	資料をよく読み、生活文化としての保育について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 生活文化と食の歴史	資料をよく読み、生活文化としての食の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 生活文化と食生活の課題	資料をよく読み、食生活の課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 生活文化と衣、ファッション	資料をよく読み、衣生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 生活文化と住環境	資料をよく読み、住生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 生活文化と芸術	資料をよく読み、生活文化と芸術との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 生活文化と情報、まとめ、授業評価アンケート	資料をよく読み、生活文化と情報との関わりについて内容をまとめておく（次回試験）。
第16回 期末試験	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、期末試験に備える。

■ 履修上の注意

・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験（70％）、平常点（30％）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
- ・ ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・ 期末試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

- ・ 資料を準備するので事前に配布する。

■ 参考書

〔生活文化論〕〔佐々木啓、他編著〕〔朝倉書店〕〔3024円〕

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

生活文化概論

(30052)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 基幹科目

伊 藤 常 久

■ 授業の概要

衣食住を中心とした生活と文化との関わりとその全体像である生活文化への理解を深める試みとして、生活主体とそれを取り巻く生活事象について説明しながら、地域性や時代背景による生活文化の多様性―思想や思考、技術等について紹介する。私たちにあって「生活文化とは何か」について、保育との関わりに着目し、主体的に考えて想像できるよう解説する。この講義は「概論」であり、のちの「生活文化各論」にて生活文化をより深く理解するための枠組みとしての概説を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生活文化の概念や考え方を身につける。	0.4	0.6				
・生活文化の諸相を把握する知識を身につける。						
・生活文化の向上のために自分たちが果たすべき役割について考えられる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：授業の説明、アンケート	資料をよく読み、この授業で取り組む学習内容や評価方法について復習する。
第2回 生活文化とは	資料をよく読み、生活文化とは何かについて内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 生活文化の関連領域（家政学や生活学との関わり）	資料をよく読み、生活文化と家政学や生活学との関連について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 生活と文化（福祉、健康、安全、幸福など）	資料をよく読み、生活と様々な文化の関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 生活史（江戸時代の生活、生活と職業）	資料をよく読み、江戸時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 生活史（明治、大正時代の生活）	資料をよく読み、明治・大正時代の生活史について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 生活史（昭和から現在までの生活）	資料をよく読み、昭和以降の生活史について内容をまとめておく（次回小テスト）。
第8回 生活文化とジェンダー、家族、小テスト	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、小テストに備える。
第9回 生活文化と保育の歴史	資料をよく読み、日本での保育の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 生活文化と子育ての課題	資料をよく読み、子育ての文化とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 生活文化と食、栄養	資料をよく読み、生活文化としての食について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 生活文化と衣、ファッション	資料をよく読み、衣生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 生活文化と住環境	資料をよく読み、住生活について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 生活文化と芸術	資料をよく読み、生活文化と芸術との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 生活文化と情報、まとめ、授業評価アンケート	資料をよく読み、生活文化と情報との関わりについて内容をまとめておく（次回試験）。
第16回 期末試験	資料をよく読み、これまで授業で学んだ内容や用語等について復習し、期末試験に備える。

■ 履修上の注意

・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験（70％）、平常点（30％）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
- ・ ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・ 期末試験については解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

- ・ 資料を準備するので事前に配布する。

■ 参考書

〔生活文化論〕〔佐々木啓、他編著〕〔朝倉書店〕〔3024円〕

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

生活文化各論

(30053)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年・食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 基幹科目

池田展敏 生活文化学科教員全員

■ 授業の概要

生活文化学科では、食や保育の分野は人々の生活文化の要素であり、その専門知識を活かすには生活文化を広く理解することが必要であると考えている。前期の生活文化概論では、歴史的な過程で、生活・文化が、伝統的な家政学からさまざまな分野に発展し広がっている様子が解説された。本講義では、短期大学に所属する教員の専門分野や教育分野という視点から、多岐にわたる生活文化を考察する。テーマごとに、生活文化と自分との関わりについて自ら考え、作文を提出する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生活文化を広い視点からとらえるための知識を身につける。	0.4	0.5				0.1
・多様な生活文化の知識を自分たちの生活に関係づけて考えることができるようになる。						
・生活文化の向上のために、将来果たすべき役割について、自ら考えることができるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス（池田）授業の位置づけ、授業の進め方、テーマ案内（）	配布プリントの復習。作文の提出。
第2回 情報社会におけるセキュリティについて（松尾）	配布プリントの復習。作文の提出。
第3回 暮らしの中の音楽（阿部）	配布プリントの復習。作文の提出。
第4回 研究倫理と生活文化（池田）	配布プリントを復習し常に倫理に気をつける。作文の提出。
第5回 生活文化と社会福祉（大瀬戸）	配布プリントの復習。作文の提出。
第6回 栄養補給ルートとQOLの関係（益田）	配布プリントの復習。作文の提出。
第7回 生活に役立つ心理学（米川）	配布プリントの復習。作文の提出。
第8回 食べ物の情報と本当の食の安全（永沼）	配布プリントの復習。作文の提出。
第9回 生活文化と運動（橋浦）	配布プリントの復習。作文の提出。
第10回 海と生活文化（黒川）	配布プリントの復習。作文の提出。
第11回 子どもの生活と食(1) ケーススタディ(高橋)	配布プリントの復習。作文の提出。
第12回 子どもの生活と食(2) 保育者と栄養士で取り組む食育（木下）	配布プリントの復習。作文の提出。
第13回 子どもの生活と遊び（岡崎）	配布プリントの復習。作文の提出。
第14回 運動と栄養（青柳）	配布プリントの復習。作文の提出。
第15回 振り返りの授業	配布プリントの復習。作文の提出。
第16回 期末試験（ファイル提出、レポート提出による）	過去の配布プリントをファイルに整理する。作文の提出。

■ 履修上の注意

原則、生活文化概論を履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。講義の順番は変更されることがある。

■ 成績評価方法・基準

各回の作文内容（90％）とファイル提出（10％）。作文は添削して返却する。

■ 教科書

毎回資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

食物栄養学専攻専攻科目

有機化学

(30101)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

菅 野 修 一

■ 授業の概要

身の回りのあらゆる場面に存在する有機化合物を分子レベルで理解するため、物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合の仕組みを知ること重点を置く。ここでは有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・有機化合物を分子式として理解出来るようになる。	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
・食品を有機化合物として理解出来るようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	栄養学における有機化学の重要性の認識について	教科書指定ページの熟読。
第2回	元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科書指定ページの熟読。
第3回	アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科書指定ページの熟読。
第4回	分子模型を用いた立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読。
第5回	原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第6回	原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科書指定ページの熟読。
第7回	分子式、組成式、次式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読。
第8回	中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読。
第9回	炭素の二重結合、三重結合、分かち書きの分子式	教科書指定ページの熟読。
第10回	飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回	飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	教科書指定ページの熟読。
第12回	非共有電子体、配位結合、金属結合、不対電子	課題を指定。
第13回	メタン分子、軌道電子昇位、混成軌道、 σ 結合、 π 結合	教科書指定ページの熟読。
第14回	直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読。
第15回	分岐炭化水素とその命名法、慣用名	講義ノートの総まとめ（3回目）。
第16回	期末試験（レポート）	15回目の講義で指示する。

■ 履修上の注意

教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかりと行うこと。

■ 成績評価方法・基準

毎回行う小テスト30%、平常点・受講態度（発言・質問）30%、試験またはレポート40%を基準として総合的に評価する。
小テストは毎回添削。

■ 教科書

〔著者名〕〔出版社名〕〔価格〕[有機化学基礎の基礎][立屋敷哲][丸善株式会社][2,700円]

■ 参考書

必要に応じてプリントを配布する。

■ 備考

質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受け付ける。

統計学

(30102)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田展敏

■ 授業の概要

前半では、集団の性質を大局的にとらえるための基礎となる記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、確率論の応用として推定や検定など推測統計の考え方について説明する。特に、疫学研究に欠かせないクロス表集計の考え方に言及する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。	0.5		0.5			
・就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。						
・確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。						
・統計的検定の考え方を理解し、特定の例題が解ける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）	教科書1章1－1，1－2を読む。
第2回 資料の整理（データの種類と度数分布）	教科書1章1-3を読む。配布プリントの復習。
第3回 資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）	教科書1章1-3および章末問題、3章。配布プリントの復習。
第4回 資料の整理（散布度、偏差、分散）	教科書3章章末問題と4章。授業の計算例の確認。
第5回 資料の整理（標準偏差、データの標準化）	教科書4章。計算例の確認。
第6回 資料の整理（散布図、共分散、相関係数）	教科書2章と5章、提出課題（記述統計編）に取り組む。
第7回 離散型確率変数	教科書6章の復習。
第8回 確率の計算例。確率変数と確率分布。例：2項分布	教科書6章6-1-2周辺。授業の計算例の確認。教科書6章6-2、7章（例題など）。
第9回 離散型確率変数の期待値と分散	教科書8章。
第10回 連続型確率分布表の使い方（標準正規分布、t分布）、%点	教科書9章。確率分布表の使い方確認。提出課題（確率編）に取り組む。
第11回 なぜ正規分布が必要か。カイ2乗分布が重要な理由	教科書10章。提出課題（確率編）に取り組む。教科書11章
第12回 平均値の区間推定	教科書12～15章。ノートの復習。
第13回 区間推定の演習問題	教科書12～15章。ノートの復習。特に14章の章末練習問題に取り組む。
第14回 検定の考え方と平均値に関する検定	教科書16章～17章を読む。プリントの復習。特に17章の章末練習問題と16章の章末練習問題。
第15回 クロス表集計とカイ二乗検定（独立性の検定）	教科書20章。配布プリントの復習
第16回 期末試験	提出課題を復習して臨むこと。

■ 履修上の注意

電卓が必要な時があるので持参すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（60%）。問題レポート（40%）

問題レポートは解答を配るので自己採点して提出、後日添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。

■ 教科書

らくらく統計学 統計学教育研究会編 ムイスリ出版 2350円

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

数学基礎演習

(30103)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田展敏

■ 授業の概要

本演習では、算数の概念や中学数学などの非常に基本的な考え方に立ち返りながら、日常生活や、栄養・調理、統計学に役に立つ計算能力が身につくよう演習を行う。具体的には次のような項目について演習を行い、それぞれ小テストで確認する。「数量感覚」「式と計算」「いろいろな単位」「方程式」「濃度」「場合の数・順列・組み合わせ」「図形」「グラフの意味と描画」「比例と一次関数」「数列」「指数関数」。これらを個別の問題としてだけでなく、共通する考え方に重点をおき授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・基本的な計算能力（図形も含む）を身につける。	0.5		0.5			
・比例の考え方を理解し、栄養価計算などに応用できる。						
・日常生活や理科実験に使う計算に数学を応用できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンスと栄養価計算の基本例題	配布プリントの復習。
第2回 式と計算（四則演算と計算規則、式の展開など）	配布プリントの復習。
第3回 数量感覚（数直線とたし算・かけ算・割り算）の演習	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第4回 分数と割合の計算	小テストの復習。配布プリントの復習。
第5回 基本的な単位	配布プリントの復習。
第6回 濃度、速度、エネルギーなど、いろいろな単位	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第7回 化学等への応用（密度）	配布プリントの復習。
第8回 化学等への応用（モル濃度）	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第9回 一次方程式、連立一次方程式	配布プリントの復習。
第10回 比例とグラフ	配布プリントの復習。
第11回 数列	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第12回 数列とグラフ（二次関数、指数関数などのいろいろな関数）	配布プリントの復習。
第13回 二次関数とグラフ図形（直角三角形と合同）	配布プリントの復習。
第14回 順列と組み合わせいろいろな場合の数	それまでの配布プリントを復習し小テストに備える。
第15回 総合問題	配布プリントの復習。
第16回 期末試験	過去の小テストを復習しておくこと

■ 履修上の注意

問題プリントが多数あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくる。電卓を使う時があるので用意しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物の提出状況（30%）、小テスト（50%）、期末試験（20%）。小テストはすべて後日添削して返却する。

■ 教科書

パワーポイントの資料を配布する。演習問題を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

小テストの日程は授業進度に合わせるため、その都度アナウンスします。計算が苦手なものは入学前e-learningも活用して

ください。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

栄養情報処理演習Ⅰ

(30104)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田展敏

■ 授業の概要

本演習では、最初に食の分野で業務上必要となる各種文書（食品表示、チケット、商品シール、メニュー表、レシピ表など）の作成・印刷を行う。この際、「画像の活用」に注目して授業を行う。次に、食生活に関する調査を題材にして、アンケート用紙の作成と集計作業の演習を行う。この際、エクセルの各種関数を活用し、度数の集計などの単純集計から、散布図やクロス表集計を使った解析まで、データ処理の演習を行っていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・「word」の表の挿入を活用し、画像やレシピ表のレイアウトができる。	0.3		0.6			0.1
・専用ソフトを使い、チケットやシールなどの印刷ができるようになる。						
・アンケート調査の一連の流れ（調査計画、用紙作成、結果集計、表・グラフの活用、統計処理）を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	授業の内容、進め方、画像情報入力の確認	配布プリントの復習
第2回	表と画像を活用したレシピ表の作成	配布プリントの復習
第3回	別メニューを同一レイアウトで作成	配布プリントの復習。レシピ表の提出
第4回	シール・チケット作成ソフトの使い方と注意点	配布プリントの復習
第5回	シールの作成と印刷	配布プリントの復習。シールの印刷と提出
第6回	チケットの作成と印刷	配布プリントの復習。チケットの印刷と提出
第7回	食品表示とメニュー表作成および注意点・印刷	配布プリントの復習。印刷
第8回	統計調査の目的、方法。アンケート用紙の作成	配布プリントの復習。アンケート用紙案の提出
第9回	アンケート結果の集計	配布プリントの復習
第10回	アンケート結果の集計の続き	配布プリントの復習。集計を終わらせる。
第11回	統計調査のデータ解析（度数分布）	配布プリントの復習。課題を終わらせる。
第12回	統計調査のデータ解析（散布図）	配布プリントの復習。課題を終わらせる。
第13回	統計調査のデータ解析（クロス表集計）	配布プリントの復習。課題を終わらせる。
第14回	統計調査のデータ解析（検定）	配布プリントの復習。調査のレポート作成
第15回	業務上役に立つ差し込み印刷の演習	配布プリントの復習。課題の提出
第16回	期末試験（提出物の総チェック表）	提出物を自己評価すること

■ 履修上の注意

配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくる。資料はグーグルクラスルームにも配布予定なので活用すること。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物（90%）、期末試験（10%）。印刷された提出物は後日添削して返却する。また、返却時に講評を行う。

■ 教科書

パワーポイントの印刷資料（グーグルクラスルームを使った配布も併用）

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

栄養情報処理演習Ⅱ

(30105)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田展敏

■ 授業の概要

前期の栄養情報処理演習Ⅰにひきつづき、PCを使った演習を行う。エクセルの演習では、ドロップダウンやvlookup関数の活用例（メニューのレパートリー忘備録、年齢・性別・活動レベルに合わせた摂取基準表示）について演習を行う。次に、エクセル栄養君の使い方について学習・演習し、栄養価成績表の見方について学習する。最後に、ウェブページの基本（HTML言語）について学び、給食便りを模したウェブページの作成を行う。業務上役に立つであろう「ピボットテーブル」や「差し込み印刷」の演習も行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ドロップダウンやvlookup関数の意味を理解し、エクセルで活用できる。	0.3		0.6			0.1
・エクセルを活用し、栄養価計算の情報処理ができるようになる。						
・ウェブページの基本を理解し、食のコンテンツが作れる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	エクセルを使った栄養価計算（単純版）	配布プリントの復習。
第2回	エクセル（ドロップダウン）の演習	配布プリントの復習。
第3回	エクセル（vlookup）の演習	配布プリントの復習。演習課題の提出。
第4回	レーダーチャートの基本	配布プリントの復習。演習課題の提出。
第5回	エクセル栄養君の使い方の学習	配布プリントの復習。
第6回	エクセル栄養君（メニューの入力と成績表の見方）	配布プリントの復習。チケットの印刷と提出。
第7回	エクセル栄養君（一日分のメニュー入力）	配布プリントの復習。
第8回	エクセル栄養君（対象者による成績表の結果の違い）	配布プリントの復習。栄養価成績表の解釈と印刷。
第9回	ウェブページの基本	配布プリントの復習。参考書を読んでおく。
第10回	ウェブページ（リンクや写真活用）	配布プリントの復習。給食便りの内容を考えておく。
第11回	ウェブページ（表の活用）	配布プリントの復習。参考書の8章を読む。
第12回	表を活用したウェブページのtop page の作成	配布プリントの復習。参考書の8章を読む。
第13回	給食便りとしてのコンテンツを考える	配布プリントの復習。
第14回	ウェブページの仕上げから完成へ。	配布プリントの復習。ウェブページを仕上げ提出。
第15回	ピボットテーブルの演習と差し込み印刷の練習	配布プリントの復習。
第16回	期末試験（提出物の総チェックと自己評価）	

■ 履修上の注意

原則、栄養情報処理演習Ⅰを履修しておくこと。配布資料が毎回あるので、ファイルに綴じて整理し、毎回持ってくること。グーグルクラスルームを活用してもよい。

■ 成績評価方法・基準

提出物（90％）。期末試験（10％）。印刷物は確認し、返却時に講評を行う。

■ 教科書

パワーポイントの資料を配布する。グーグルクラスルームの資料配布と併用。

■ 参考書

〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1,800円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

社会福祉論

(30106)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

伊 藤 常 久

■ 授業の概要

国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）や現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・社会福祉の理念や概念に関する知識を身につける。		0.4	0.6			
・社会福祉に関連する法・制度に関する知識を身につける。						
・社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントをよく読み、この授業で学習する内容についてまとめておく（次回確認）。
第2回 日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントをよく読み、日本の社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 諸外国における社会福祉の歴史と制度（イギリス等）	配布プリントをよく読み、イギリスにおける社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 諸外国における社会福祉の歴史と制度（アメリカ）	配布プリントをよく読み、アメリカにおける社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 社会福祉のニーズとは	配布プリントをよく読み、社会福祉のニーズについて内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 社会福祉に携わる専門職	配布プリントをよく読み、専門職について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 ボランティア	配布プリントをよく読み、ボランティアの概念や歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 社会福祉援助技術	配布プリントをよく読み、援助技術の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第9回 障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントをよく読み、障害者福祉の概念と歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントをよく読み、身体障害者補助犬法の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 高齢者福祉	配布プリントをよく読み、介護を含む高齢者福祉の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 児童福祉	配布プリントをよく読み、児童福祉の歴史と枠組について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 子どもの権利条約	配布プリントをよく読み、子どもの権利条約について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 貧困問題と社会福祉	配布プリントをよく読み、貧困とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントをよく読み、社会福祉の展望及びこれまでの講義内容の振り返りを行う（次回試験）。
第16回 期末試験	授業で学んだ社会福祉の歴史や諸制度等に関する内容及び用語を確認し、期末試験に備える。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験（70%）、平常点（30%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
- ・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・期末試験は問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔新 社会福祉とは何か〕 〔大久保秀子著〕 〔中央法規〕 〔1650円〕

■ 参考書

- ・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

公衆衛生学

(30107)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

伊 藤 常 久

■ 授業の概要

生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学では、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状等も合わせて説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・公衆衛生の概念や歴史に関する知識を身につける。		0.4	0.6			
・ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動に関する知識を身につける。						
・公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念	教科書をよく読み、この授業で扱う内容についてまとめておく（次回確認）。
第2回 公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史	教科書をよく読み、公衆衛生の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念	教科書をよく読み、生活習慣病の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他	教科書をよく読み、悪性腫瘍や循環器系疾患等の現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 公衆衛生に関する統計資料：保健統計	教科書をよく読み、保健統計の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他	教科書をよく読み、人口動態統計等について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 健康・疾病の測定と評価：疫学の概念	教科書をよく読み、疫学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 健康・疾病の測定と評価：疫学の応用	教科書をよく読み、疫学の応用について内容をまとめておく（次回確認）。
第9回 環境と健康：生態系と人間生活	教科書をよく読み、人間の生活と生態系との関係について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 環境と健康：環境汚染と健康	教科書をよく読み、環境汚染や公害について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 国民健康づくり対策	教科書をよく読み、健康づくり運動について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 学校保健	教科書をよく読み、学校保健行政の概要等について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 母子保健	教科書をよく読み、母子保健行政の概要等について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 産業保健	教科書をよく読み、産業保健の概要等について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 高齢者保健、まとめ、授業評価アンケート	教科書をよく読み、高齢者保健及びこれまでに授業で取り上げた内容について振り返りを行う（次回試験）。
第16回 期末試験	期末試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験（70％）、平常点（30％）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
- ・ ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・ 期末試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔衛生・公衆衛生学 2023年版〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3024円〕

■ 参考書

- ・ 資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

健康管理概論

(30108)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

伊 藤 常 久

■ 授業の概要

日本は世界でも有数の長寿国となっているが、これまでに我が国の疾病構造は感染症から生活習慣病、そして老人性の退行疾患と大きく変化・推移してきた。この講義では、単に長寿ではなく、元気に長生きするためにはどのような健康管理が必要であるのか、現在と将来の健康維持に向けた健康管理のあり方とその重要性について解説する。特に健康づくりの柱とされている運動・栄養・休養を中心に心身の健康保持・増進に加え、社会的な健康も合わせて取り上げて説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・健康管理の目的や概念に関する知識を身につける。	0.3		0.7			
・健康の保持・増進のための方法に関する知識を身につける。						
・健康状態を把握する力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス	資料をよく読み、この授業の学習内容についてまとめておく（次回確認）。
第2回 健康とは（定義・歴史）	資料をよく読み、健康とは何かについて内容をまとめておく（次回確認）。
第3回 日本の人口構造と平均寿命の変遷	資料をよく読み、人口構造と平均寿命の変遷について内容をまとめておく（次回確認）。
第4回 高齢化と少子化社会と健康	資料をよく読み、少子高齢化について内容をまとめておく（次回確認）。
第5回 現代の健康状態と疾病	資料をよく読み、健康のレベルと疾患との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第6回 ライフスタイル、生活習慣の現状と課題	資料をよく読み、ライフスタイル等について内容をまとめておく（次回確認）。
第7回 体脂肪、BMI、基礎代謝と健康	資料をよく読み、BMIや基礎代謝の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第8回 メタボリックシンドロームと予防、小テスト（前半分）	資料をよく読み、メタボリックシンドロームについて内容をまとめておく（次回小テスト）。
第9回 健康を支えるからだの仕組み	資料をよく読み、身体の構造について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回 栄養と健康	資料をよく読み、栄養と健康との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第11回 運動・体力と健康	資料をよく読み、運動の概念と健康との関わりについて内容をまとめておく（次回確認）。
第12回 ストレス・休養と健康	資料をよく読み、ストレスの概念と心の健康について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回 加齢・老化と健康	資料をよく読み、加齢の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回 社会関係資本と健康	資料をよく読み、ソーシャルキャピタルの概念等について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回 まとめ、授業評価アンケート	資料をよく読み、これまでの授業で学んだ内容から健康管理の重要性について内容をまとめておく（次回試験）。
第16回 期末試験	期末試験に向けて復習を行う。

■ 履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。
- ・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 期末試験（70％）、平常点（30％）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
- ・ ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
- ・ 期末試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書

- ・ 資料（プリント）を準備するので事前に配布する。

■ 参考書

〔衛生・公衆衛生学 2023年版〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3024円〕

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ 質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

解剖生理学

(30109)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

大 崎 雄 介

■ 授業の概要

解剖学は人体の各臓器・組織の構造を、生理学は人体の各臓器・組織の機能を学ぶ。臓器・組織の構造は、その機能と密接に関連している。本授業では解剖学と生理学の両方の理解を深めるために、構造と機能を関連づけながら学習する。

栄養学の理解には各臓器の機能の理解が必須であり、人体の構造と機能に関する知識を基にした栄養指導や栄養教育ができる栄養士となるために、基本的な知識を習得することが目標である。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・人体の基本構造について理解する。	0.2		0.4	0.2		0.2
・人体の臓器・組織の機能を構造と関連付けて理解する。						
・栄養素の働きを、解剖生理学的観点から説明できる能力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション、細胞の構造と機能	第1章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第2回	組織の構造と機能・皮膚の構造と機能・体温調節	第14章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第3回	血液系・免疫系	第3章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第4回	呼吸器系	第5章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第5回	循環器系	第4章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第6回	腎臓・泌尿器系	第6章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第7回	生殖器系	第7章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第8回	内分泌系	第10章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第9回	神経系	第11章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第10回	感覚器系	第12章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第11回	骨格系	第8章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第12回	筋系	第9章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第13回	消化器系1（上部消化管）	第2章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第14回	消化器系2（下部消化管）	第2章をよく読み、自分の言葉でまとめておく。
第15回	全体のまとめと復習	講義全体を復習する。
第16回	期末試験（レポートによる）	

■ 履修上の注意

解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要であるので、事前に生物学の復習を行っていることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

毎回の授業で課す小テストの結果を含む受講態度(60%)、期末試験（レポートによる）の評価(40%)で評価する。

■ 教科書

〔栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能〕〔志村二三夫 他 編〕〔羊土社〕〔3, 190円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付ける。

運動生理学

(30110)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

川 俣 幸 一

■ 授業の概要

本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個々人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・「運動生理学」についての基礎的知識を理解する			0.6	0.3		0.1
・今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概論／暑熱環境①（気温）	教科書やネットから気温について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。ルーブリックを配付する。
第2回 暑熱環境②（汗）	教科書やネットから汗について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第3回 暑熱環境②（水分補給）	教科書やネットから水分補給について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第4回 運動とエネルギー代謝①（エネルギーとは）	教科書やネットからエネルギーについて自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第5回 運動とエネルギー代謝②（エネルギー出納）	教科書やネットからエネルギー出納について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第6回 筋力について	教科書やネットから筋力について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第7回 持久力について	教科書やネットから持久力について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第8回 中間のまとめ（ミニテスト）	ノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行う ておくこと
第9回 健康づくりのための身体活動基準	教科書やネットから身体活動基準について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第10回 スポーツ栄養学①（三大栄養素）	教科書やネットから三大栄養素について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第11回 スポーツ栄養学②（ビタミン・ミネラル）	教科書やネットからビタミン・ミネラルについて 自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第12回 スポーツ栄養学③（増量・減量）	教科書やネットから増量・減量について自学予習 をする。授業後は内容の復習をする。
第13回 スポーツ栄養学④（企業との実例等）	教科書やネットから栄養サポートやCSRについて 自学予習をする。授業後は内容の復習をする。
第14回 ライフステージ別の運動①（幼児期～成人期）	教科書やネットから発達について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第15回 ライフステージ別の運動②（高齢期）	教科書やネットから老化について自学予習をする。 授業後は内容の復習をする。
第16回 後半のまとめ（ミニテスト）	ノートや配布資料を整理し、内容の見直しを行っ ておくこと

■ 履修上の注意

ライフステージ栄養学、生化学、解剖生理学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は注意・報告を行う。

■ 成績評価方法・基準

ミニテストやレポート等・・・70%

ルーブリック・・・30%（積極的な受講態度など。何もなければ六割を原点とした加点法とします）

成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書

〔スポーツ栄養学〕〔岩田純編著〕〔アイ・ケイ コーポレーション〕〔2530円〕

■ 参考書

無し

■ 備考

質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとしてミニテスト等は採点をして返却・解説する。

生化学

(30111)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

鈴木 裕 行

■ 授業の概要

生化学とは生命現象をタンパク質・脂質・核酸などといった生体物質の性質・機能の観点から解析する学問で、栄養学を学ぶ上での基礎として人体の仕組みについて構造や機能を生化学的に理解することは必須である。この授業ではタンパク質・糖質・脂質の構造・化学的性質および生体での代謝をそれぞれの栄養素の代謝の関連をふまえて解説する。遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能、体内の調節機能と恒常性の維持についても述べる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生体を構成する各成分の種類と構造および化学的性質が説明できる			0.8			0.2
・生体を構成する各成分の代謝および機能が説明できる						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 生化学とは、細胞の構造、生体構成成分	教科書の「序」「1章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第2回 アミノ酸とは、アミノ酸の種類	教科書の「2章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第3回 アミノ酸の性質、タンパク質とは	教科書の「2章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第4回 糖質とは、糖質の分類、単糖・オリゴ糖の種類と性質	教科書の「4-1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第5回 多糖類の種類と性質、脂質とは、脂質の分類	教科書「4-1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第6回 脂肪酸の特徴と種類、複合脂質の種類と性質	教科書「4-2」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第7回 誘導脂質酵素の種類と性質、酵素とは・酵素の分類・性質	教科書「4-2」および「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第8回 [中間試験]、糖質の代謝：解糖系	教科書「6章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第9回 試験の解説、クエン酸回路	教科書「6章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回 電子伝達系とエネルギー	教科書「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回 トリアシルグリセロールの代謝、脂肪酸の β -酸化	教科書「7章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回 リン脂質・コレステロールの代謝	教科書「7章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。

第13回 体内でのアミノ酸の利用、尿素回路	教科書「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回 核酸の種類・構造と機能	教科書「9章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回 [期末試験]、タンパク質の生合成	教科書「9章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回 試験の解説、個体の調節機能と恒常性	教科書「10章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

内容の理解できないところがあれば放置せず、質問したり自分で調べたりして、疑問点の解消に努めること。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書

わかりやすい生化学、林 寛 他、三共出版、2, 400円＋税

■ 参考書

無し

■ 備考

試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

病理学

(30112)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

中 尾 真 理

■ 授業の概要

病理学は医学全般を理解するために基本となる学問であり、栄養系の現場では疾病の全体像を把握する事が必要である。授業では病因、嚥下障害、循環障害、代謝異常、感染症、細胞の異常、免疫・アレルギー、炎症、腫瘍、先天異常、老化について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。また、資格試験の過去の出題内容にも言及する。この授業では、臨床医としての経験から医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。臨床環境の現状を含めて幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・病理学の基本的知識を学び身につける。			0.8			0.2
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。						
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 病気と病理学（内因、外因）	第1章を読み、病理の定義、診断・治療との関連を理解
第2回 嚥下障害についてI	参考書第1章を読み、不明点は質問
第3回 循環器系の働き	教科書第4章Aを読み、不明点は質問
第4回 循環障害と主な疾患	教科書第4章BCを読み不明点は質問
第5回 代謝異常（糖尿病）	教科書第5章A～Cを読み、不明点は質問
第6回 代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）	教科書第5章D～Hを読み、不明点は質問
第7回 老化	教科書第6章を読み、不明点は質問
第8回 感染症の正体・原因、防御能など	教科書第7章を読み、不明点は質問
第9回 細胞の異常（構造と傷害、新陳代謝など）	教科書第2章を読み、不明点は質問
第10回 免疫（免疫の正体、免疫機構）	教科書第8章Aを読み、不明点は質問
第11回 アレルギー、自己免疫疾患など	教科書第8章B～Fを読み不明点は質問
第12回 炎症（炎症の正体、原因、基本病変）	教科書第9章ABを読み、不明点は質問
第13回 炎症（分類、全身反応）など	教科書第9章CDを読み、不明点は質問
第14回 腫瘍（癌の正体、分類、特性、診断）	教科書第10章A～Eと第3章第6章を読み不明点は質問
第15回 嚥下障害についてII・栄養士としての関わり	参考書第3章第6章を読み不明点は質問
第16回 期末試験	講義の復習および誤答箇所事後学修

■ 履修上の注意

以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。

授業は教科書に沿って講義を進める。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（90％程度）、ミニットペーパー提出等の受講状況（10％程度）で評価する。

試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

〔なるほどなっとく！病理学 改訂2版〕〔小林正伸 著〕〔南山堂〕〔2, 200円＋税〕

■ 参考書

〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて 改訂第2版〕〔上羽瑠美著〕〔学研〕〔3, 960円〕

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時、オフィスアワーあるいは電子メールで受け付ける。

食品学

(30113)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 食専1年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

栄養士としての実践に役立つ基礎を習得させることを目的として、本授業では、私たちの体を構成している様々な食品に含まれる栄養素の種類と組成について説明する。また食品を構成する各成分の化学的特性と相互作用、食品における役割についても解説する。併せて、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのかも解説し、食品学の分野が栄養学・調理学の分野とも関わっていることを理解できるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品を構成する栄養素の化学的性質を理解する。			0.6		0.1	0.3
・食品成分の栄養特性と物理特性について基礎的な知識を習得する。						
・おいしく栄養バランスのとれた食事内容を科学的に組み立てる力を身につける。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 ガイダンス、食品の定義、食品と環境、食品の分類	事前に教科書の第1章を読む。事後に教科書と資料をもとにしてノートを整理する。
第2回 食品の3つの機能、物質を構成する要素 (原子と分子の基礎理解)	事前に教科書の第5章(5.1)を読む。教科書のほか、原子・分子・物質の化学的性質について復習しておく。事後にノート整理。
第3回 食品と水分	事前に教科書の第2章(2.1)を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題(水分に関する箇所)を解く。
第4回 炭水化物 I: 定義と分類、単糖の構造と性質、化学的性質	事前に教科書の第2章(2.3)を読む。事後にノート整理。
第5回 炭水化物 II: 多糖類の性質、糖の反応性と炭水化物としての糖	事前に教科書の第2章(2.3)を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題(炭水化物に関する箇所)を解く。
第6回 脂質 I: 定義と分類、脂肪酸の構造、油脂の物理化学的性質	事前に教科書の第2章(2.4)を読む。事後にノート整理。小テストの準備。
第7回 脂質 II: 複合脂質、油脂の酸化、脂質の栄養、脂質の酸化小テスト(1)	事前に教科書の第2章(2.4)を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。教科書章末の練習問題(脂質に関する箇所)を解く。
第8回 小テストの解説 たんぱく質 I: たんぱく質の構造、アミノ酸の構造と性質	事前に教科書の第2章(2.2)を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第9回 たんぱく質 II: たんぱく質の性質、高次構造、タンパク質の栄養価、変性	事前に教科書の第2章(2.2)を読む。事後にノート整理。
第10回 たんぱく質 III: 酵素 脂溶性ビタミン: ビタミンA, D, E, Kの構造と生理機能	事前に教科書の第2章(2.2, 2.6)を読む。高校化学の教科書で酵素について復習しておく。事後にノート整理。教科書章末の練習問題(たんぱく質に関する箇所)を解く。
第11回 水溶性ビタミン: ビタミンB群とビタミンCの構造と生理機能	事前に教科書の第2章(2.6)を読む。事後にノート整理。教科書章末の練習問題(ビタミンに関する箇所)を解く。小テストの準備。
第12回 ミネラルI: ミネラルの分類、多量ミネラルの生理機能 小テスト (2)	事前に教科書の第2章(2.5)を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。
第13回 小テスト(2)の解説 ミネラルII: 微量ミネラルの生理機能、有害ミネラル	事前に教科書の第2章(2.5)を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。教科書章末の練習問題(ミネラルに関する箇所)を解く。

		所) を解く。
第14回	食品の呈味成分、 香気成分、食品の変化 (油脂の酸化、褐変、c でんぷんの老化)	事前に教科書の第3章(3.1)および第6章 (6.1, 6. 6)を読む。事後にノート整理。
第15回	食品の物性 これまでのまとめ	事前に教科書の第7章(7.1, 7.2, 7.3)を読む。 事後にノート整理。 試験に備えて教科書と資料を熟読して疑問点を明 らかにし、解決しておく。
第16回	期末試験	終了後に解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点 (自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか) 20%、小テストの成績10%、 学期末の試験70%の割合で評価する。期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

[新 食品・栄養科学シリーズ 食品学総論] [森田潤司 編] [化学同人] [2, 800+税 円]

■ 参考書

特になし

毎回、授業開始時に資料を配布する。

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。

食品機能学

(30114)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

食品には、一次機能（栄養機能）、二次機能（感覚応答機能・嗜好性成分）の他に三次機能（生体調節機能）をも併せ持つものがある。三次機能を持つ食品成分は機能性成分と呼ばれ、非栄養素とされるものも多い。本授業では、各種食品が持つ三次機能について、その成分・構造・体内での吸収や働きについて解説する。また、現代の生活習慣に深く関わる成分について、その活性の発現機構についても解説する。さらに、食品機能に関する表示制度についても言及する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品に含まれる種々の成分と生体内での生理機能を理解する。			0.7			0.3
・食品の機能性成分が生体の働き（消化器系や免疫系など）におよぼす機能を理解する。						
・食品の機能性成分を上手に利用して健康増進に寄与できる力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	食品の機能とは何か。（概要説明）	配布資料(1)の復習とまとめ。
第2回	現代における食生活と疾病・栄養 特別用途食品の解説	配布資料(2)の復習とノートの整理。
第3回	特定保健用食品の解説 トクホ記事を読んで小論文作成	食品機能の表示制度についてノートに整理。
第4回	第3回授業で提出された小論文の返却と解説 系統別生理機能と推定作用機序 I 消化器系に機能する成分	配布資料(4)の復習とノートの整理。
第5回	系統別生理機能と推定作用機序 II 循環器系に機能する成分	配布資料(5)の復習とノートの整理。
第6回	系統別生理機能と推定作用機序 III 内分泌系・神経系に機能する成分 食資源に関する記事を読んで小論文作成	配布資料(6)の復習とノートの整理。
第7回	第6回授業で提出された小論文の返却と解説 系統別生理機能と推定作用機序 IV(1) 免疫系の生理機能	配布資料(7)の復習とノートの整理。免疫系の作用機序についての関係図作成。
第8回	系統別生理機能と推定作用機序 IV(2) 腸管免疫、アレルギー、免疫系に機能する食品成分	配布資料(8)の復習とノートの整理。
第9回	系統別生理機能と推定作用機序 V 生体抗酸化物質と食品機能性成分	配布資料(9)の復習とノートの整理。 プレゼンテーションの資料作成と発表の準備
第10回	アクティブラーニング:各自が興味を持った機能性表示食品の紹介と作用機序の解説I（映像を使ったプレゼンテーション）	プレゼンテーションの資料作成と発表の準備 各自のプレゼンテーションについて要点を記録・評価する。要提出。
第11回	アクティブラーニング:各自が興味を持った機能性表示食品の紹介と作用機序の解説II（映像を使ったプレゼンテーション）	各自のプレゼンテーションについて要点を記録・評価する。要提出。
第12回	食品に含まれる機能性成分I 農産物	配布資料(12)の復習とノートの整理。
第13回	食品に含まれる機能性成分II 水産・畜産食品	配布資料(13)の復習とノートの整理。
第14回	アクティブラーニング:機能性成分を含む食品を利用した健康の維持・増進に寄与する食事例 I（映像を使ったプレゼンテーション） 14, 15回に分けて全員発表。	プレゼンテーションの資料作成と発表の準備 発表後、アドバイスの基づき改善点の確認。
第15回	アクティブラーニング:機能性成分を含む食品を利用した健康の維持・増進に寄与する食事例 II（映像を使ったプレゼンテーション） これまでの授業のまとめ	プレゼンテーションの資料作成と発表の準備 発表後、アドバイスの基づき改善点の確認。
第16回	期末試験（小論文）後日コメントをつけて解答返却。	事後、小論文の文章構成、内容の妥当性等について 確認・推敲。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。随時課題を出題するので、よく調べてレポートを作成し、締め切りに遅延のないように提出すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点(聴講する姿勢、ディスカッションにおける積極性、授業内容の記録)20%， 課題・作文の提出20%，各授業の発表内容40%，試験（小論文）20％の割合で評価する。課題についてはその都度評価し、授業中に解説する。

■ 教科書

授業の開始時に独自作成の資料を配布する。

■ 参考書

特になし

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。質問については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

食品学実験 I

(30115)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 1 (45 + 30)

対象学科: 食専 1 年

授業形態: 実験 学期: 前期 必・選: 必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

私たちの体は私たちが食べたものから成り立っている。その観点から、様々な食品に含まれる栄養成分の構成を知ることには非常に重要である。本授業では、食品に含まれる栄養素、特に三大栄養素である糖質、脂質、たんぱく質について「定性実験」を行い、その特性を解説する。また、これらを通して化学実験全般における基本手技、器具の扱い方、測定機器の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導し、今後の実験に関する学習の基礎構築を目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・化学実験の基礎的理論と基礎技術を習得する。			0.5	0.3		0.2
・実験を通して食物の構造や化学的特性について理解する。						
・「食品」を分子レベルで把握する思考力、食品および食生活に関して科学的視点から思考する力を身につける。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	実験の基礎ガイダンス(講義) (実験の心得、安全対策、実験ノートのとり方、数値の扱い方)	授業後に教科書第1章およびテキスト3頁から6頁を読む。実験に臨む準備を整える。
第2回	実験器具の扱い方・pHメーターの使い方(演習)、濃度計算問題	事前に教科書第2章とテキスト6頁から11頁を読む。事後に復習およびノート整理。
第3回	天秤の使い方(演習)、ジャガイモからデンプンの分離	事前に教科書第4章の3-6)とテキストI-1を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第4回	ブレンザーバーナーの使い方(演習)、分離したデンプンのヨウ素反応、各食品のデンプンの検出 レポート(1)出題	事前に教科書第4章の3-5)とテキストI-3を読みか返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(1)作成。
第5回	糖の定性反応(呈色反応、還元反応) レポート(2)出題	デンプン実験のレポート(1)提出。 事前に教科書第4章の3-5)とテキストIIを読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(2)作成。
第6回	タンパク質の定性反応 I (ビウレット反応、ニンヒドリン反応、硫化鉛反応)	糖の定性実験のレポート(2)提出。 事前に教科書第4章の1-1), 2)とテキストIII-1, 2を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第7回	タンパク質の定性反応 II (薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の同定)、ノートチェック レポート(3)出題	事前に教科書第4章の1-4)とテキストIVを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(3)作成。
第8回	脂質の定性反応(エステの検出、鮮度判定)	レポート(3)提出。 事前に教科書第4章の2-4)とテキストVを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第9回	油脂の物理的变化(乳化反応、相転移) レポート(4)出題	事前に教科書第4章の2-5)とテキストVIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(4)作成。
第10回	食品の色に関する実験 I (酵素的褐変、ポリフェノール類の色の変化)	レポート(4)提出。 事前に教科書第9章の1-1), 2)とテキストVIIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第11回	食品の色に関する実験 II (非酵素的褐変) レポート(5)出題	事前に教科書第9章の1-3)とテキストVIIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(5)作成。
第12回	容量分析 I 中和滴定 (1) 中和滴定の原理解説、ビュレットの使い方実習。 ノートチェック	レポート(5)提出。 事前に教科書第3章の1, 2-1)とテキスト VIII-1を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第13回	容量分析 II 中和滴定 (2) 食酢中の酢酸の定量(実験講義、標準溶液の作製と評定)	事前に教科書第3章の2-1)とテキスト VIII-2を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。

第14回	容量分析III 中和滴定 (3) 食酢中の酢酸の定量 (試料の測定、計算) レポート(6) 出題	事前に教科書第3章の2-1)とテキスト VIII-2を読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。レポート(6)作成。
第15回	これまでの実験のまとめと濃度計算の演習 レポート(6)については第16回の試験時にコメントを付して返却	レポート(6)提出。 実験の総括と演習問題の復習。 ノート整理。
第16回	期末試験	計測機器の使い方実技試験。 筆記試験。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。常時保護メガネを携帯する。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険を伴うことがあるので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。実験中の反応についての観察や、生じた疑問はノートに詳細に記録し、文献を調べる。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点（授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性）30%、レポート・ノートの内容の成績60%、実技、筆記試験の成績10%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するループブックに記載。
- ・未提出のレポートがある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説する。
- ・期末試験（筆記試験）については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

- ・〔新版 食品学実験 -実験で学ぶ食品学-〕〔江角彰彦著〕〔同文書院〕〔2, 500円＋税〕
- ・授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）

■ 参考書

必要に応じて資料を配布する。（実験時配布）

■ 備考

- ・都合により授業計画の順番を変更することがある。
- ・質問については、実験中随時、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。
- ・なお、「授業計画の内容」中、自習の項目における「教科書」は上記の出版物、「テキスト」は独自作成テキストを示す。

食品学実験Ⅱ

(30116)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専1年

授業形態：実験 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

食品学実験Ⅰで習得した化学実験における基本的手技を応用に用いる。本授業では、日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値がどのようにして算出されるのかを知る目的で、水分、脂質、たんぱく質、灰分、リンの各成分を食品から抽出して、定量分析を行う。これらを通じて、食品成分表の数値の意味、食品試料の扱い方、化学実験における実験の原理を理解させるとともに実験器具の扱い方、測定機器の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方を指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品に含まれる成分や栄養素の定量分析実験を通じて、分析化学、特に「定量分析」の基礎理論と基本操作を理解する。			0.5	0.3		0.2
・食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。						
・食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているのか、実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	食品中の一般栄養成分分析についての説明、濃度計算小テスト	授業後に実験書を読み返す。計算問題の復習。
第2回	濃度計算小テストの解説 食品中の一般成分分析Ⅰ 水分の定量（常圧乾熱法）	小テストの解答確認と誤った箇所の復習。 事前に教科書第6章の2とテキストⅠ-1を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第3回	食品中の一般成分分析Ⅱ 脂質の定量（1）（ソクスレー法による脂質の抽出） レポート（1）出題	事前に教科書第6章の4とテキストⅠ-2を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート（1）作成。
第4回	食品中の一般成分分析Ⅲ 脂質の定量（2）（ソクスレー法による脂質の抽出および乾燥、重量測定） レポート（2）出題	レポート（1）提出。 事前に教科書第6章の4とテキストⅠ-2を読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート（2）作成。
第5回	食品中の一般成分分析Ⅳ 食品中のタンパク質の定量（1） ケルダール法の理論解説と実験装置の説明 タンパク質の酸分解	レポート（2）提出。 事前に教科書第6章の3とテキストⅠ-3を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。次回実験装置の確認。
第6回	食品中の一般成分分析Ⅴ 食品中のタンパク質の定量（2）ケルダール法による水蒸留と中和滴定-1（2班1組）	事前に教科書第6章の3とテキストⅠ-3を読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。 実験装置の使い方確認。
第7回	食品中の一般成分分析Ⅵ 食品中のタンパク質の定量（3）ケルダール法による水蒸留と中和滴定-2（2班1組） 前回と作業内容を2班間で入れ替え タンパク質定量実験のまとめ レポート（3）出題	事前に教科書第6章の3とテキストⅠ-3を読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。2班で実験結果の共有と数値の確認。 実験装置の使い方確認。 レポート（3）作成。
第8回	食品中の一般成分分析Ⅶ 食品中の灰分の定量（直接灰化法） ノートチェック	レポート（3）提出。 事前に教科書第6章の6とテキストⅠ-4を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第9回	油脂に関する実験Ⅰ 油脂のケン化 レポート（4）出題	事前に別途配布資料を読む。事後に実験結果のまとめと理論の復習。ノート整理。 レポート（4）作成。
第10回	油脂に関する実験Ⅰ ヨウ素価の測定と算出 レポート（5）出題	レポート（4）提出。 事前に別途配布資料を読む。事後に実験結果のまとめと理論の復習。ノート整理。
第11回	比色分析の理論、分光光度計の使い方演習、演習	レポート（5）提出。 事前に教科書第3章の4を読み、比色分析の理論を理解する。事後に実験結果のまとめとノート整理。 分光光度計の使い方確認。

第12回 緑茶中のタンニンの定量 I (標準溶液の調製と検量線の作製)	事前に教科書第6章の9(2)とテキストIIIを読む。 事後に実験経過のまとめとノート整理。検量線の理論の理解。
第13回 緑茶中のタンニンの定量 II (緑茶中のタンニン量の定量) レポート(6)出題	事前に教科書第6章の9(2)とテキストIIIを読み返す。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(6)作成。
第14回 食品の鮮度判定(米の鮮度、牛乳の鮮度) レポート(7)出題	レポート(6)提出。 事前にテキストIVを読む。 実験の総括とノートの整理。 レポート(7)作成
第15回 これまでの実験のまとめ レポート(7)については、第16回の試験時に解説する。	レポート(7)提出。
第16回 期末試験	実験の理論と計算問題に関する筆記試験

■ 履修上の注意

- ・ 正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。
- ・ 白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。常時保護メガネを携帯する。
- ・ 実験では危険を伴うことがあるので、事故のない様に事前にテキストを読んで予習しておく。
- ・ 実験中の反応についての観察や、生じた疑問はノートに詳細に記録し、文献を調べる。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点（授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性）30%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて60%、試験の成績10%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーズブリックに記載。
- ・ 未提出のレポートがある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を行う。
- ・ 期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

[新版 食品学実験 -実験で学ぶ食品学-] [江角彰彦著] [同文書院] [2, 500円＋税] (食品学実験Iと同じ)
＋授業内容に即した独自作成テキスト(冊子体)

■ 参考書

必要に応じて資料を配布する。(実験時配布)

■ 備考

- ・ 都合により授業計画の順番を変更することがある。
- ・ 質問については、実験中随時またはオフィスアワー(曜日時間は掲示で確認)に受け付ける。
- ・ なお、「授業計画の内容」中、自習の項目における「教科書」は上記の出版物、「テキスト」は独自作成テキストを示す。

食品衛生学

(30117)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

黒川 優子

■ 授業の概要

近年、食品の安全性について多くの問題が社会的に注目されており、消費者の関心も高まっている。ここでは食品の腐敗や食中毒、寄生虫とその疾患、食品添加物、さらに身の回りに存在する各種合成化学物質や重金属などによる食品や水の汚染が健康にどのような影響を及ぼすかについて学び、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。また、飲料水や食品に含まれる農薬などの合成化学物質の分析方法、天然および養殖魚介類における寄生虫の検査方法等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品の安全性を脅かすものについて学ぶ。			0.5		0.3	0.2
・食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。						
・身の回りの食品衛生に関する事象について理解を深める。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	食品衛生とは 食品衛生と法規	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第2回	食品と微生物	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第3回	食中毒の定義と概要 食中毒の発生状況	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第4回	微生物性食中毒① 細菌性食中毒 サルモネラ、腸炎ビブリオ、 カンピロバクター、腸管出血性大腸菌、 その他の病原大腸菌、黄色ブドウ球菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第5回	微生物性食中毒② 細菌性食中毒 ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、 セレウス菌、リステリア菌、赤痢菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第6回	微生物性食中毒③ ウイルス性食中毒 プリオン	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第7回	微生物性食中毒④ 微生物性食中毒のまとめ	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第8回	自然毒食中毒 マイコトキシン食中毒	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第9回	寄生虫性食中毒① 野菜・飲料水・魚介類からの感染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第10回	寄生虫性食中毒② 食肉類からの感染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第11回	化学性食中毒① 有害元素 水銀・カドミウム・ヒ素 etc.	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第12回	化学性食中毒② 農薬・有機塩素化合物・カビ毒・ アレルギー様食中毒・油脂の変敗	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第13回	食品添加物 基本的考え方・手続き・分類・規格基準・用途・	事前：教科書の該当ページを読む。

種類・表示方法・違反食品添加物			事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第14回	食品の器具・容器包装 食品衛生対策	材料、規格、包装技術、識別表示、 リサイクル法、 食品の腐敗、食品の微生物制御	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 栄養士実力認定試験の過去問題を解く。
第15回	食品の安全にかかわるその他の話題 エコチル調査 マイクロプラスチック問題 etc.		関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
第16回	期末試験		授業内容および栄養士実力認定試験の食品衛生に関連する過去問題を総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

・他の食品に関する学科目と関連性が高いので、履修済みの科目をよく理解して講義に臨んでください。また、身近な食品に関する事項が多いので、日頃から食品に対して関心・興味を持つことが講義内容の理解につながります。

■ 成績評価方法・基準

・平常点・受講態度（授業への参加状況〔発言、質問等〕、ミニットペーパーおよび小テストの結果、予習・復習の状況等で総合的に判断する）（60％）、期末試験（40％）で評価します。
・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書

・〔新スタンダード栄養・食物シリーズ8 食品衛生学 第2版〕〔一色賢司淳編〕〔東京化学同人〕〔2, 500円〕
・必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

・〔解いて学ぶ！食品安全・衛生 テキスト&問題集 第2版〕〔藤井建夫・塩見一雄著〕〔講談社〕〔2, 600円〕
・〔新・食品衛生学 第3版〕〔藤井建夫・塩見一雄著〕〔恒星社厚生閣〕〔2, 800円〕
・その他、授業時間内に適宜、参考書を紹介します。

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品衛生学実験Ⅰ

(30118)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専2年

授業形態：実験 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

黒川 優子

■ 授業の概要

地球上のあらゆる生物は水なしに生きることはいかなる場合でもできない。私たち人間も飲料水はもとより、調理や加工に水は欠かせない。我が国及び世界の国々においてかけがえのない水資源の現状がどのようなかをまず理解した上で、各家庭の水道水が、飲み水として適正かどうかについて、いくつかの水質項目を測定し、その安全性を確認する。また、空気中の細菌をはじめ、身の回りに多くの微生物が生息することを培地で培養して計数するとともに、細菌を染色し、顕微鏡観察する。さらに、細菌の培養法や成長曲線、簡易な細菌の鑑別法を学び、食中毒の原因となる細菌の検査法について基礎的な知識と技術を身につける。また、飲料水の水質調査、微生物の検査方法等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品に関する化学的および生物学的分析法の基礎的な技術を習得する。			0.5	0.3		0.2
・食品の安全性確保の重要性を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	諸注意・概要説明・レポートの書き方 手洗いの科学的検証：正しい手洗い法の理解① ハンドペタンチェック	事後：授業内容の復習。
第2回	手洗いの科学的検証：正しい手洗い法の理解② ATP/AMPの測定（拭き取り調査）・手洗いチェッカー 世界の水事情について 水道水サンプルの採取における注意事項	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第3回	水道水の水質試験①：味・臭気・全硬度・2価の鉄イオン	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第4回	水道水の水質試験②：硝酸性窒素および亜硝酸性窒素 塩素イオン	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第5回	水道水の水質試験③：有機物（過マンガン酸カリウム消費量） pH値	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第6回	水道水の水質試験④：残留塩素 一般細菌数（培地への接種と培養）	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第7回	水道水の水質試験⑤：一般細菌数（結果判定） 滅菌法・消毒法	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第8回	水道水の水質試験⑥：結果検討会 家庭用調理器具・食器の洗浄度検査： デンブン・タンパク質・油脂	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第9回	細菌・真菌検査用培地の調製① 環境微生物の観察①：検体採取	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。
第10回	細菌数（生菌数）の測定法①：培地調製 環境微生物の観察②：検体の培地への接種と培養	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。
第11回	細菌数（生菌数）の測定法②：検体の培地への接種と培養 環境微生物の観察③：発育細菌の観察・性状観察	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：ノートを整理し、内容を復習する。
第12回	細菌数（生菌数）の測定法③：結果判定 環境微生物の観察④：細菌の染色（グラム染色）	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第13回	環境微生物の観察⑤：細菌の顕微鏡観察（奇数班） 食品中のアレルゲン検査①（偶数班）	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第14回	環境微生物の観察⑥：細菌の顕微鏡観察（偶数班） 食品中のアレルゲン検査②（奇数班）	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第15回	まとめ	授業の総括。
第16回	期末試験（レポート）	第1回目の授業時に説明する「レポートの書き方（実験の目的、方法、結果、考察、参考文献等）」に従い、実験のテーマ毎にレポートを作成し提

■ 履修上の注意

- ・ 白衣を着用する。
- ・ 実験機材の取り扱いには十分注意を払う。
- ・ 実験後には手洗いを充分行う。
- ・ 実験結果、注意事項および実験中に気がついたこと等を詳細に記録する。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点・受講態度（授業への参加状況〔積極性、発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ等〕、予習・復習の状況等で総合的に判断する）（60％）、レポート等（40％）で評価します。
- ・ 提出されたレポートは、後日、添削して返却します。
- ・ ルーブリックを授業時に配布しますので、学習目標として参照してください。

■ 教科書

- ・ 〔食品衛生学実験〕〔杉山 章・岸本 満・和泉秀彦編〕〔みらい〕〔2, 500円〕
- ・ 教員作成のテキストを配布します。

■ 参考書

- ・ 必要に応じて資料を配布します。

■ 備考

- ・ 都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・ 質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品衛生学実験Ⅱ

(30119)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専2年

授業形態：実験 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

黒川 優子

■ 授業の概要

食品衛生学実験Ⅰで学んだことを踏まえ、食中毒や食品事故の要因となり、食品衛生管理上で重要である食品添加物、油脂性食品の変質判定、食品の鮮度判定、アレルゲンの検査・検出、家庭用調理器具・食器の洗剤の残留性、熱および消毒薬による殺菌効果、食品素材の抗菌性などについて学び、その検査法に関する基礎的な知識と技術を身につけるとともに、栄養士として必要な食品の衛生・安全、品質管理に対する見識を深め、食品の危害要因に対して、科学的かつ客観的な知識を得る。また、熱、消毒薬、食品成分が細菌の増殖におよぼす影響、食器・実験器具類の洗浄方法と洗浄剤の残留性の関係等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食品に関する化学的および生物学的分析法の基礎的な技術を習得する。			0.5	0.3		0.2
・食品の安全性確保の重要性を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 概要説明・諸注意	事後：授業内容の復習。
第2回 試薬調製	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第3回 食品添加物試験①：発色剤（亜硝酸塩）	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第4回 油脂性食品の変質判定試験①：過酸化価（POV） 油脂性食品の変質判定試験②：酸価（AV）	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第5回 食品の鮮度測定試験①：魚介類の鮮度測定（K値）	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第6回 食品添加物試験②：酸化防止剤	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第7回 アレルギー様食中毒（ヒスタミン食中毒）：ヒスタミン試験	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第8回 食品の鮮度測定試験②：野菜類の鮮度測定 臭気テスト 培地調製	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第9回 熱による殺菌効果	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第10回 消毒薬による殺菌効果	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第11回 洗浄剤の残留試験	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第12回 食品素材の抗菌試験	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第13回 加工食品の殺菌	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第14回 五味識別テスト：甘味・塩味・酸味・苦味・旨味 食品の残留農薬試験	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第15回 麻痺性貝毒検出試験 まとめ	事前：テキストの該当ページを読む。 事後：結果をまとめ、レポートを作成する。
第16回 期末試験（レポート）	授業の総括。 第1回目の授業時に説明する「レポートの書き方（実験の目的、方法、結果、考察、参考文献等）」に従い、実験のテーマ毎にレポートを作成し提出する。

■ 履修上の注意

- ・白衣を着用する。
- ・実験機材の取り扱いには十分注意を払う。
- ・実験後には手洗いを充分行う。
- ・実験結果、注意事項および実験中に気がついたこと等を詳細に記録する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点・受講態度（授業への参加状況〔積極性、発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ等〕、予習・復習の状況等で総合的に判断する）（60%）、レポート等（40%）で評価します。
- ・提出されたレポートは、後日、添削して返却します。
- ・ループリックを授業時に配布しますので、学習目標として参照してください。

■ 教科書

- ・〔食品衛生学実験〕〔杉山 章・岸本 満・和泉秀彦編〕〔みらい〕〔2, 500円〕
- ・教員作成のテキストを配布します。

■ 参考書

- ・必要に応じて資料を配布します。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

微生物学

(30120)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

黒川 優子

■ 授業の概要

私たちの身の回りには病原性の細菌やウイルスが存在し、日常生活に有害な作用を示すが、その一方で、味噌、納豆、酒類など私たちの日常生活に役立つ微生物も少なくない。人間と微生物の関わりを理解するために、微生物の種類と特徴、微生物による疾患、微生物を用いた食品などについて学ぶ。さらに、病原性微生物の場合、感染および発症機構や免疫機構等についても理解を深める。また、環境中の微生物の単離方法、合成化学物質の微生物分解等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・微生物の基礎的な特徴について理解する。			0.5		0.2	0.3
・微生物と人間との関わり方について把握する。						
・身の回りの微生物について理解を深める。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	微生物学の歴史①	微生物とは 新型コロナウイルスについて	事後：授業内容の復習。
第2回	微生物学の歴史②	人間と微生物の関わり パンデミック（病気の世界的流行） ワクチン、化学療法 新興感染症、再興感染症、感染症法	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。 練習問題を解く。
第3回	微生物学の基礎①	微生物の種類と性質 微生物の分類、大きさ、性質	前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第4回	微生物学の基礎②	原虫・寄生虫（1） 原虫・寄生虫とは 構造、種類、性質	前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第5回	微生物学の基礎③	原虫・寄生虫（2） 主な原虫・寄生虫 原虫・寄生虫とヒトとの関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。 配布された練習問題を解く。
第6回	微生物学の基礎④	真菌 真菌とは 構造、種類、性質 真菌とヒトとの関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。 配布された練習問題を解く。
第7回	微生物学の基礎⑤	細菌（1） 細菌とは 構造、種類、性質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第8回	微生物学の基礎⑥	細菌（2） 細菌とヒトとの関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第9回	微生物学の基礎⑦	ウイルス・プリオン ウイルス・プリオンとは 構造、種類、性質 ウイルス・プリオンとヒトとの関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。 配布された練習問題を解く。
第10回	微生物学の基礎⑧	細菌の生理（1） 増殖、栄養要求、培養、細菌数の測定 増殖因子（酸素）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第11回	微生物学の基礎⑨	細菌の生理（2） 増殖因子（温度、pH、水分活性）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第12回	微生物学の基礎⑩	細菌の生理（3）	事前：教科書の該当ページを読む。

	増殖因子（浸透圧、光線、薬物） 滅菌・消毒	事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第13回	食品微生物学① 微生物と食品 発酵と腐敗 土壌微生物、空中微生物、水中微生物、 動物腸管内微生物	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第14回	食品微生物学② 食品の腐敗・変敗・保存 微生物を利用した食品（１） 発酵調味料、農産発酵食品	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第15回	食品微生物学③ 微生物を利用した食品（２） 水産発酵食品、畜産発酵食品	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を質問できるようにしておく。 興味ある発酵食品について調べる。
第16回	期末試験	授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

- ・微生物の理解には生物学の知識が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して授業に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点・受講態度（授業への参加状況〔発言、質問等〕、ミニットペーパーおよび小テストの結果、予習・復習の状況等で総合的に判断する）（60％）、期末試験（40％）で評価します。
- ・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書

- ・〔新スタンダード栄養・食物シリーズ16 食品微生物学〕〔村田容常・渋井達郎編〕〔東京化学同人〕〔2, 500円〕
- ・必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

- ・〔食品微生物学の基礎〕〔藤井建夫編著〕〔講談社〕〔2, 800円〕
- ・〔トコトンやさしい微生物の本〕〔中島春紫著〕〔日刊工業新聞社〕〔1, 500円〕
- ・〔休み時間の微生物学 第2版〕〔北元憲利著〕〔講談社〕〔2, 200円〕
- ・その他、授業時間内に適宜、参考書を紹介します。

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
- ・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

栄養学 I

(30121)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 食専 1 年

授業形態: 講義 学期: 前期 必・選: 必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

栄養学は、栄養士として社会で役立つために最も基本となる分野である。それを踏まえ、栄養学Iではヒトにとっての栄養の意義、各栄養素の構造や性質について講義する。また、ヒトが環境に適応するために備わっている生体調節の仕組みや、消化器系の構造と基本的な機能が栄養素とどう関わるかについて解説する。その基本知識に基づいて、三大栄養素（糖質、たんぱく質、脂質）の消化・吸収・代謝のしくみとそれらの生体内での機能について詳しく解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ヒトが生きる上での栄養の意義について学ぶ。			0.8			0.2
・食品を構成する栄養素の性質と、生体内での働きについて理解する。						
・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 栄養の概念 (栄養の概念、五大栄養素、歴史、欠乏と過剰)	事前に教科書の第1章(1)を読む。事後に教科書を見直してノートを整理する。教科書章末のチェック問題を解く。
第2回 日本人の食事摂取基準 健康と栄養 (食物の役割、病気の予防・治療と栄養)	事前に教科書の第1章(2)を読む。事後にノート整理。
第3回 摂食行動 (食欲の調節、食事のタイミング)	事前に教科書の第2章を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。
第4回 消化器の構造と機能	事前に教科書の第3章(1, 2, 3)を読む。事後にノート整理。
第5回 消化・吸収の機構 (管腔内消化、膜消化、能動輸送、受動輸送、栄養素の体内動態)	事前に教科書の第3章(4, 5, 7)を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。
第6回 糖質の栄養 I (糖質の消化・吸収)	事前に教科書の第3章(6-B)および第4章(3, 4)を読む。事後にノート整理。
第7回 糖質の栄養 II (血糖値の調節、糖質の代謝経路、細胞内呼吸の役割)	事前に教科書の第4章(5)を読む。細胞内呼吸について高校の教科書などで復習しておく。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。小テストの準備。
第8回 糖質の栄養 III (他の栄養素との関係) 小テスト(1)	事前に教科書の第4章(6)を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。 教科書章末のチェック問題を解く。
第9回 小テスト(1)の解説 脂質の栄養 I (脂質の種類と構造、消化と吸収、体内移動)	事前に教科書の第3章(6-C)、第5章(1, 2)を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と誤った箇所を復習。
第10回 脂質の栄養 II (脂質の代謝、他の栄養素との関係)	事前に教科書の第5章(3, 4, 5, 7)を読む。事後にノート整理。
第11回 たんぱく質の栄養 I (たんぱく質の構造、合成、消化・吸収)	事前に教科書の第3章(6-A)、第6章(1, 2)を読む。 教科書章末のチェック問題を解く。
第12回 たんぱく質の栄養II (たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送)	事前に教科書の第6章(3, 4)を読む。事後にノート整理。
第13回 たんぱく質の栄養 III (たんぱく質の栄養評価、他の栄養素との関係)	事前に教科書の第6章(5, 6)を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。 小テスト(2)の準備。
第14回 形質遺伝と栄養の相互作用 小テスト(2)	事前に教科書の第1章(3)を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。

第15回 小テストの解説
前回までのまとめ

小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。

第16回 期末試験

解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか） 20%、小テストの成績10%、 学期末の試験70%の割合で評価する。期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

〔栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学第4版〕〔田地 陽一 編〕〔羊土社〕〔2, 800円+税〕

■ 参考書

特になし

必要に応じて資料配布

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。

栄養学Ⅱ

(30122)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

栄養学Ⅰに続いての講義となる。Ⅰで学んだ三大栄養素の消化吸収・代謝に加え、ビタミン、ミネラルの性質と、吸収機構・生理機能について講義する。また、生体における水分の役割、エネルギー代謝、遺伝と栄養、食事摂取基準の意味についても解説し、生体が入り入れた栄養素、非栄養成分が果たす役割とそれらの相互作用について理解させる。最終的には栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだことを通して生体と栄養の関係を理解させ、栄養士として社会に貢献するための基礎力を培うことを目標とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・各栄養素および非栄養素の性質と生体内での働きについて理解する。			0.8			0.2
・健康の維持・増進や疾病の予防・治療における栄養素の役割を理解する						
・エネルギー代謝と栄養の関係を理解する。						
・生体を形づくる源となる遺伝子からたんぱく質への流れを理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	三大栄養素についての小テスト(1)	事前に、前期で学んだ内容をよく復習しておく。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。
第2回	小テストの解説、ビタミンの栄養Ⅰ 脂溶性ビタミンの構造と栄養機能	事前に教科書第7章（1，2，3-A）を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第3回	ビタミンの栄養Ⅱ 水溶性ビタミン（ビタミンB群）の構造と栄養機能	事前に教科書第7章（3-B，C，D）を読む。事後にノート整理。
第4回	ビタミンの栄養Ⅲ 水溶性ビタミン（パントテン酸、葉酸、ビオチン、ビタミンC）の構造と栄養機能	事前に教科書第7章（3-B，C，D）を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。
第5回	ミネラルの栄養Ⅰ 多量ミネラルの栄養機能	事前に教科書第8章（1，2，3）を読む。事後にノート整理。小テスト(2)の準備。
第6回	ミネラルの栄養Ⅱ 微量ミネラルの栄養機能 小テスト(2)	事前に教科書第8章（4，5，6）を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。教科書章末のチェック問題を解く。
第7回	小テストの解説、水の栄養的意義Ⅰ 体内の水分の出納・脱水	事前に教科書第9章（1，2）を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第8回	水の栄養的意義Ⅱ 浮腫、電解質の役割	事前に教科書第9章（3，4）を読む。事後にノート整理。教科書章末のチェック問題を解く。
第9回	エネルギー代謝Ⅰ エネルギー代謝の概念、食物エネルギー	事前に教科書第10章（1，2）を読む。事後にノート整理。
第10回	エネルギー代謝Ⅱ エネルギー消費量、エネルギー消費量の測定法	事前に教科書第10章（3，4）を読む。事後にノート整理。
第11回	エネルギー代謝Ⅲ 運動とエネルギー代謝	事前に配布資料を読む。事後にノート整理。小テストの準備。
第12回	遺伝と栄養（遺伝子と遺伝の仕組み、発現遺伝子と疾病：糖尿病、高血圧）、小テスト(3)	事前に配布資料を読む。事後にノート整理。小テストの自己採点と理解不足の部分の復習。
第13回	小テストの解説、非栄養素の生理機能（食物繊維、難消化性オリゴ糖）	事前に配布資料を読む。事後にノート整理。小テストの解答確認と、誤った箇所の復習。
第14回	環境と栄養（ストレス下、特殊環境下における栄養）	事前に配布資料を読む。事後にノート整理。
第15回	前回までのまとめ	教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解決しておく。
第16回	期末試験	解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか） 20%、小テストの成績10%、 学期末の試験70%の割合で評価する。期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

栄養学Iと同じ

（〔栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学第4版〕〔田地 陽一 編〕〔羊土社〕〔2, 800円+税〕）

■ 参考書

特になし

必要に応じて資料を配布する。

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別途掲示する。

栄養学実験

(30123)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専2年

授業形態：実験 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

栄養学の分野においては、食物と生体の相互関係を理解することが重要である。栄養学実験では、ヒトにおける生体成分の役割について解説する。また消化酵素の働き、栄養状態がヒトの健康に与える影響について理解を深めることを目的として、生体試料の扱い方、栄養素の消化実験、代謝実験、ビタミンの定量等の実験を行い、生体試料の扱い方について理論と実際を理解させる。また、レポートの課題を通してデータのまとめ方、および報告書の書き方について指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生体試料の扱い方と生体成分の定量分析の基礎理論と基本操作を理解し、 食品の構造や性質について科学的視点から考察する力を身につける。 ・食品成分表に記載されている数値がどのようにして求められているか 実際に実験を行って原理と分析方法を理解する。 ・実験結果のまとめおよび報告書作成を通して文章力を身につける。			0.7			0.3

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	栄養学実験の概要説明 実験器具の扱い方の復習（演習） 検量線の理論について解説・演習	授業後にテキストを読み返す。 1年次で受講した食品学実験のテキストを読み直し、化学実験の基本操作について復習。
第2回	酵素消化実験 I(アミラーゼの活性測定I)糖標準溶液の調製と検量線の作製	事前にテキストVの12頁から14頁とV-1-1を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第3回	酵素消化実験 II(アミラーゼの活性測定II) 食品中に含まれるアミラーゼによる消化反応と産生糖の定量 レポート(1)出題	事前にテキストV-1-2を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(1)の作成。
第4回	酵素消化実験 III たんぱく質分解酵素の活性観察(1)果実中に含まれるプロテアーゼによるたんぱく質消化力の測定	レポート(1)の提出。 事前にテキストV-2-(1)を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第5回	酵素消化実験 IV（たんぱく質分解酵素の活性観察（2）キノコ類に含まれるプロテアーゼによるたんぱく質消化力観察 レポート(2)出題	事前にテキストV-2-(2)を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(2)作成。
第6回	酵素消化実験 V（脂質分解酵素の活性観察）リパーゼによる油脂の消化力の測定 レポート(3)出題	レポート(2)提出。 事前にテキストV-3を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(3)作成
第7回	酵素実験のまとめ 小テスト、ノートチェック	レポート(3)提出。 事後に実験結果のまとめとノート整理。
第8回	小テストの解説 ヒト血中成分の定量 血漿中総コレステロールの検出 レポート(4)出題	事前にテキストVIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート(4)作成。
第9回	食品中のビタミンCの測定 I ビタミンCの構造についての解説、アスコアルビン酸標準液の調製	レポート(4)提出。 事前にテキストVIIを再度読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。
第10回	食品中のビタミンCの測定II 大根、レモン果汁中のビタミンCの定量 レポート(5)出題	事前にテキストVIIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。検量線について復習。 レポート(5)作成。
第11回	アクティブラーニング：施設見学（宮城県公衆衛生協会） レポート(6)出題。	事前に見学の目的を確認。事後に配布資料をもとに見学で知り得た内容をノートに整理。 レポート(6)作成
第12回	尿中ミネラル、クレアチニンの定量 レポート(7)出題。	レポート(5, 6)提出 事前にテキストVIIIを読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。

第13回 官能試験（食味テスト）3点識別法 記録紙提出	レポート（7）作成。 レポート（7）提出 事前にテキストIX-1を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。実験結果報告は授業時間内に行う。
第14回 味覚の変調実験 レポート（7）出題	事前にテキストIX-2を読む。事後に実験結果のまとめとノート整理。 レポート（7）作成。
第15回 前回までのまとめと濃度計算演習	レポート（7）提出。 実験の総括、ノート整理。計算問題の復習
第16回 期末試験（実験操作の実技含む）	これまでの実験の内容について実験ノートを読み直しておく。これ前に出題された濃度計算問題を解いておく。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻・欠席は厳禁。白衣を着用し、器具、試薬の取り扱いには細心の注意を払う。常時保護メガネを携帯する。実験室に不要なものは持ち込まない。実験では危険な薬品等も扱うので、事故のないように事前にテキストを読んで予習しておく。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点（授業に臨む姿勢、実験に対する自主性・積極性）30%、レポート・ノートの内容の成績を合わせて60%、試験の成績10%の割合で評価する。評価の詳細については、初回の授業に配布するルーブリックに記載。
- ・未提出のレポートがある場合は、評価の対象外とする。レポートは提出の度に採点し、後日返却して授業内で解説を行う。
- ・期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

授業内容に即した独自作成テキスト（冊子体）使用。初回の授業開始時に配布。

■ 参考書

必要に応じて資料を配布する（実験時配布）

■ 備考

校外実習などの都合により、授業計画の順番を変更することがある。また、社会情勢によっては施設見学を実施しない可能性がある。その場合は、通常通りの実験を行う。（実験項目は別途設定する。）

質問については、実験中随時、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

ライフステージ栄養学

(30124)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子

■ 授業の概要

ヒトが生きる上で、一生における各段階（学童期、青年期、成人期などに）に適したライフスタイルがあるのと同様に、栄養面においても配慮が必要である。本授業では、各ライフステージにおける身体的・精神的特徴や、それに応じた栄養ケアについて詳しく解説する。また、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適した栄養的配慮と食生活の在り方を概説する。講義で得た知識をもとに、栄養士として広い方面の現場に適応して貢献できる力を身につけることを目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 各ライフステージにおける身体的・精神的特徴を理解する。			0.6	0.1		0.3
・ 各ライフステージにおける栄養状態と問題点を把握する。						
・ 運動時、ストレス時などの特殊環境下における生理的特徴とその変化に適した食生活の在り方を把握する。						
・ それぞれのステージに適した栄養摂取法と維持管理の基礎を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ライフステージとは何か。栄養マネジメントの概要。	事前に教科書第1章を読む。事後にノート整理。 教科書章末の練習問題を解く。
第2回	第1回授業の理解度確認テストおよびその解説 日本人の食事摂取基準（策定の基礎理論、活用の基礎理論）	事前に教科書第2章を読む。事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第3回	第2回授業の理解度確認テストおよびその解説 成長・発達・加齢（概念、成長・発達に伴う身体・精神的変化、加齢）	事前に教科書第3章を読む。事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第4回	第3回授業の理解度確認テストおよびその解説 妊娠期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態疾患、栄養ケア）	事前に教科書第4章を読む。事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第5回	第4回授業の理解度確認テストおよびその解説 新生児・授乳期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患）	事前に教科書第5章□新生児・乳児期）を読む。 事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。
第6回	第5回授業の理解度確認テストおよびその解説 授乳期・離乳期の栄養 I（生理的特徴、栄養ケア）	事前に教科書第5章（授乳期・離乳期）を読む。 事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第7回	第6回授業の理解度確認テストおよびその解説 授乳期・離乳期の栄養 II（離乳期の栄養、離乳支援）	事前に教科書第5章（授乳期・離乳期）を読む。 事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。
第8回	第7回授業の理解度確認テストおよびその解説 幼児期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書第6章（幼児期）を読む。事後にノート整理。
第9回	第8回授業の理解度確認テストおよびその解説 学童期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書第6章（学童期）を読む。事後にノート整理。 理解度確認テストの内容復習。 中間試験に備えて、これまでの理解度確認テストの復習。
第10回	中間試験（第1回から第9回授業分まで） 思春期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、栄養ケア）	事前に教科書第6章（思春期）を読む。事後にノート整理。 中間試験の自己採点と理解不足の部分の復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第11回	中間試験解答の返却と解説	事前に教科書第7章（成人期）を読む。事後にノ

	第10回授業の理解度確認テストおよびその解説 成人期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、 栄養ケア）	ート整理。 中間試験の解答確認と、誤った部分の復習。
第12回	第11回授業の理解度確認テストおよび解説 更年期の栄養（生理的特徴、栄養アセスメント、病態・疾患、 栄養ケア）	事前に教科書第7章（更年期）を読む。事後にノ ート整理。 理解度確認テストの内容復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第13回	第12回授業の理解度確認テストおよびその解説 高齢期の栄養 I（生理的特徴、栄養アセスメント）	事前に教科書第8章(1)を読む。事後にノート整理 。 理解度確認テストの内容復習。
第14回	第13回授業の理解度確認テストおよびその解説 高齢期の栄養II（病態・疾患、栄養ケア）、栄養ケア）	事前に教科書第8章(2)を読む。事後にノート整理 理解度確認テストの内容復習。 教科書章末の練習問題を解く。
第15回	前回までのまとめ	教科書と資料を熟読して疑問点を明らかにし、解 決しておく。 各回の理解度確認テストと中間試験の復習。
第16回	期末試験	解答の正誤の確認。誤った箇所の復習。

■ 履修上の注意

正当な理由のない遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、内容をしっかり記録する。講義には積極的に参加し、予習で生じた疑問点について解決できるように努める。授業で理解できなかったこと、生じた疑問については授業終了時あるいはオフィスアワーなどを使って解決しておくこと。なお、第2回授業以降、毎回授業の最初に前回の授業内容についての理解度確認テストを行い、解説を行う。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか）20%、理解度確認テストの成績10%、学期末の試験70%の割合で評価する。期末試験の問題については、試験後に模範解答と解説を配布する。

■ 教科書

〔栄養科学イラストレイテッド 応用栄養学改訂第2班〕〔栢下淳・上西一弘編〕〔羊土社〕(2, 800円+税)

■ 参考書

特になし

毎回、授業開始時に資料を配布する。

■ 備考

都合により授業計画の順番を変更することがある。オフィスアワーの曜日・時間については、別掲示する。

ライフステージ栄養学実習Ⅰ

(30125)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋45）

対象学科：食専1年

授業形態：実習 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

木 下 ゆ り

■ 授業の概要

学生自身を事例とし、身体状況や食物摂取状況の調査等を通して食生活状況をアセスメントし、栄養ケアプラン（計画書）を作成するプロセスを学修する。各ライフステージの栄養管理について、特に青年期、成人期、幼児期、高齢期については、症例をもとに献立作成と調理実習を行い、実践的な栄養管理能力を修得する授業を行う。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NP0、国際保健、食育・栄養指導）を活かして授業を進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける。		0.2	0.6	0.2		
・自分の身体・生活状況に適した食事・栄養管理法を総合的に理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 資料・機器の使い方・食事調査方法	事前：シラバスを読んでわからない用語を調べる。 事後：食事調査の復習と記録の準備をする。
第2回	栄養ケアマネジメント1 栄養計算ソフトの使い方	事前：自分の食生活の食事記録を行う。 事後：栄養計算ソフトの使い方を復習する。
第3回	栄養ケアマネジメント2 食事調査の評価（食事記録法、食物摂取頻度調査、24時間思い出し法）	事前：食事記録の不足情報を補完する。 事後：食事調査の課題を完成させて提出する。
第4回	栄養ケアマネジメント3 日本人の食事摂取基準の活用	事前：食事摂取基準について予習する。 事後：食事摂取基準の課題を完成させて提出する。
第5回	栄養ケアマネジメント4 栄養アセスメント・身体活動レベルの算出・国民健康栄養調査の活用	事前：24時間の活動を記録をする。 事後：身体活動レベルの課題を完成させて提出する。
第6回	栄養ケアマネジメント5 栄養ケアプラン（計画書）の作成・ライフステージ別の栄養管理に関する講義	事前：教科書の指定された箇所を読んで予習する。 事後：栄養ケアプラン（計画書）を完成させて提出する。
第7回	青年期・成人期の栄養ケア1 3・1・2弁当箱法の講義・実践【調理実習】	事前：実習で使用する用具を準備し、予定献立の作り方を予習する。 事後：3・1・2弁当箱法を日常的に実践する。
第8回	幼児期の栄養ケア1 講義・症例検討	事前：教科書の指定された箇所を読んで予習する。 事後：食物アレルギーの課題に取り組む。
第9回	幼児期の栄養ケア2 食物アレルギー対応食【調理実習（モデル献立）】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：実習で学んだことをまとめる。
第10回	幼児期の栄養ケア3 食物アレルギー対応食 グループ討議・自由献立作成・発表準備	事前：自由献立の試作をする。 事後：自由献立を仕上げて提出する。
第11回	幼児期の栄養ケア4 食物アレルギー対応食【調理実習（自由献立）】グループ発表・試食	事前：自由献立の試作をする。 事後：幼児期レポートを作成する。
第12回	高齢期の栄養ケア1 嚥下調整食 講義・症例検討	事前：教科書の指定された箇所を読んで予習する。 事後：嚥下調整食の課題に取り組む。
第13回	高齢期の栄養ケア2 嚥下調整食【調理実習（モデル献立）】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：自由献立に向けて調べ、試作する。
第14回	高齢期の栄養ケア3 嚥下調整食 グループ討議・発表準備	事前：自由献立の試作をする。 事後：自由献立を仕上げて提出する。
第15回	高齢期の栄養ケア4 嚥下調整食 グループ発表・試食【調理実習（自由献立）】グループ発表・試食	事前：自由献立の試作をする。 事後：高齢期レポートを作成する。
第16回	期末試験（レポート作成による）	事前：レポート作成の準備をする。

■ 履修上の注意

教科書・食品成分表・計算機・ファイル（配布したプリンを綴じたもの）を、毎回持参する。

■ 成績評価方法・基準

課題・レポート提出60%、自由献立作成・調理発表20%、取り組み20%（課題提出状況、予習・復習の状況）をもとに総合的に判断する。課題・レポートの採点基準は、授業の最初に明示し、採点后に解説と共にあわせて返却する。ループリック評価については最初の授業で説明する。

■ 教科書

〔応用栄養学実習ワークブック 第3版〕〔山本由喜子・北島幸枝 編〕〔みらい〕

■ 参考書

〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1, 100円〕

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

ライフステージ栄養学実習Ⅱ

(30126)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋45）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

木 下 ゆ り

■ 授業の概要

各ライフステージ（新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、更年期、高齢期）における、対象者の身体・心理・環境などを理解し、より良く生きるための栄養管理について学修する。後半は、アクティブラーニング方式（個人・グループで献立作成と料理教室の企画・運営）を取り入れる。栄養ケア計画のPDCAを通して、各世代の健康・栄養問題への理解を深め、実践力を身に付ける。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際保健、食育・栄養指導）を活かして授業を進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようにする。		0.2		0.2	0.6	
・各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようにする。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 各ライフステージの栄養管理について講義 学生献立の計画（グループ討議）	事前：シラバスを読みわからない点を調べる。 事後：自分が担当する献立について計画を立てる。
第2回	乳児期の栄養ケア①（調乳、離乳食：初期・中期） モデル献立 【調理実習1回目】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：様々な種類のミルクの販売状況を調べる。
第3回	乳児期の栄養ケア②（離乳食：後期・完了期） モデル献立 【調理実習2回目】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：教科書の該当箇所を復習しまとめる。
第4回	幼児期・食物アレルギー対応食（乳・卵・小麦禁止）① モデル献立 【調理実習3回目】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：様々な食物アレルギー対応食品の種類と販売状況を調べる。
第5回	学生グループ献立・レシピ・栄養メモ作成 （グループ討議）	事前：グループ献立作成に向けて情報を集める。 試作する。 事後：教科書の該当箇所を復習しまとめる。
第6回	学生ソロ献立・レシピ作成 （グループ討議）	事前：ソロ献立作成に向けて情報を集める。試作する。 事後：ソロ献立・レシピを完成させて提出する。 発注する。
第7回	学生ソロ献立・栄養メモ作成 （グループ討議）	事前：ソロ献立の進め方のリハーサルをする。 事後：栄養メモを仕上げて提出する。
第8回	幼児期・食物アレルギー対応食（乳・卵・小麦禁止）② 学生グループ献立 【調理実習4回目】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：教科書の該当箇所を復習し、実習レポートを作成する。
第9回	学童期の栄養ケア 学生ソロ献立（料理教室の実践・プレゼンテーション） 【調理実習5回目】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：教科書の該当箇所を復習し、実習レポートを作成する。
第10回	思春期の栄養ケア 学生ソロ献立（料理教室の実践・プレゼンテーション） 【調理実習6回目】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：教科書の該当箇所を復習し、実習レポートを作成する。
第11回	妊娠期の栄養ケア 学生ソロ献立（料理教室の実践・プレゼンテーション） 【調理実習7回目】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：教科書の該当箇所を復習し、実習レポートを作成する。
第12回	更年期・成人期の栄養ケア	事前：予定献立の作り方を予習する。

	学生ソロ献立（料理教室の実践・プレゼンテーション） 【調理実習8回目】	事後：教科書の該当箇所を復習し、実習レポートを作成する。
第13回	学生グループ献立・レシピ・栄養メモ作成 （グループ討議）	事前：グループ献立作成に向けて情報を集める。 試作する。 事後：教科書の該当箇所を復習し、実習レポートを作成する。
第14回	高齢期の栄養ケア 学生グループ献立 【調理実習9回目】	事前：予定献立の作り方を予習する。 事後：教科書の該当箇所を復習し、実習レポートを作成する。
第15回	各ライフステージの症例、献立の振り返り	事前：提出物の内容を点検をする。 事後：授業の内容を復習し、わからなかった点を調べる。
第16回	期末試験（レポート作成による）	事前：レポート課題の内容を予習する。提出物の内容を点検をする。 事後：わからなかった点を復習する。

■ 履修上の注意

個人・グループで行う学生献立実施のための話し合い、献立作成、料理教室運営には、積極的に参加し協力し合うこと。授業中に配布したプリントはファイルし、毎回の授業に持ってくること。課題・レポートの提出期限を守ること。

■ 成績評価方法・基準

課題・レポート提出40%、テーマ別学生献立発表40%、取り組み20%（提出状況、予習・復習の状況）をもとに総合的に判断する。献立・レポートの採点基準は、授業の最初に明示し、授業中の実践を通してフィードバックする。ルーブリック評価については最初の授業で説明する。

■ 教科書

1年後期のライフステージ栄養学実習Ⅰで購入した教科書のため買わなくてよい
〔応用栄養学実習ワークブック 第3版〕〔山本由喜子・北島幸枝 編〕〔みらい〕

■ 参考書

〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1, 100円〕

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業中や授業後、またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

臨床栄養学概論

(30127)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

木 下 ゆ り

■ 授業の概要

医療・福祉・介護・地域における臨床栄養の意義と概要、栄養アセスメント、栄養士校外実習前に身に付けておくべき疾患の知識（定義、病因、病態生理、症状等）とその栄養食事療法の基礎知識について講義する。栄養士実力認定試験のレベルの知識修得を目指す。患者の体験談、多職種連携の事例などを紹介しながら、患者のQOL向上を目指した栄養管理のあり方を学修する。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NP0）を活かして授業を進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・栄養管理の一連の流れについて理解できる。			0.8			0.2
・疾患および病態における基本的な栄養食事療法を理解できる。						
・栄養管理法や多職種連携についての知識を修得できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 臨床栄養学の意義と目的 医療と臨床栄養 医療制度・福祉・介護	事前：シラバスを読み、わからない用語を調べる。 事後：教科書Part2-1・2・3の要点をノートにまとめる。
第2回 栄養補給法	事前：教科書Part2-10を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第3回 消化器疾患（食道・胃）と栄養食事療法の基礎	事前：解剖生理学、栄養学Ⅰ・Ⅱで学習した消化器機能について復習しノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第4回 消化器疾患（腸）と栄養食事療法の基礎 クローン病患者さんの体験談	事前：教科書Part1-1を読み、わからない用語を調べる。 事後：様々な栄養剤の種類、販売状況を調べてまとめる。
第5回 第1～4回の範囲の小テスト 糖尿病の基礎 糖尿病患者さんの体験談	事前：解剖生理学、栄養学で学習した消化器機能、糖代謝について復習し、ノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。小テストの復習をする。
第6回 糖尿病の栄養食事療法	事前：教科書Part1-3を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第7回 肥満・るいそう・脂質異常症・高尿酸血症と栄養食事療法の基礎	事前：解剖生理学、栄養学で学習した脂質代謝について復習し、ノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第8回 メタボリックシンドローム・動脈硬化症・高血圧症と栄養食事療法の基礎	事前：教科書Part1-4を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第9回 第5～8回の範囲の小テスト 腎臓疾患	事前：解剖生理学で学習した腎機能について復習し、ノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。小テストの復習をする。

第10回	腎臓疾患と栄養食事療法の基礎	る。 事前：教科書Part1-6を読み、わからない用語を調べる。 事後：透析療法を行っている医療機関を調べてまとめる。
第11回	透析療法の基礎 透析患者さんの体験談	事前：教科書Part1-6を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第12回	第9～11回の範囲の小テスト 血液・免疫・アレルギー疾患と栄養食事療法の基礎	事前：解剖生理学で学習した血液・免疫機能について復習しノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。小テストの復習をする。
第13回	肝・胆・膵臓疾患と栄養食事療法の基礎	事前：解剖生理学、栄養学で学習した肝胆膵機能と代謝について復習し、ノートにまとめておく。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第14回	傷病者・要介護者への栄養教育 食べ物と薬剤の相互作用	事前：教科書Part2-11・12を読み、わからない用語を調べる。 事後：授業で学んだ要点をノートにまとめ、栄養士実力試験過去問題を解く。
第15回	第12～14回の範囲の小テスト 栄養ケア・マネジメントの概要 栄養アセスメント	事前：全小テストと栄養士実力試験過去問題に再度取り組み、わからない点を明確にし、授業中に質問する。 事後：全小テスト、栄養士実力試験過去問題、ノート、教科書の復習をする。
第16回	期末試験 解説・まとめ	事前：期末試験に向けて準備する。 事後：期末試験でわからなかった点を復習する。

■ 履修上の注意

解剖生理学、栄養学の授業の復習をしっかりとしておくこと。

授業中に配布するプリント、小テスト、実力試験過去問題はファイルし、教科書と一緒に毎回の授業に持ってくること。

前期の「臨床栄養学概論」では基礎を学び、後期の「臨床栄養学各論」では多種多様な疾病と栄養管理について詳しく学ぶ（教科書共通）。

■ 成績評価方法・基準

小テスト40%、期末試験50%、授業の取り組み状況（予習・復習の状況など）10%をもとに、総合的に判断する。小テストは授業中に解説をする。

■ 教科書

〔エッセンシャル 臨床栄養学 第9版〕〔佐藤和仁・本間健・小松龍史編〕〔医歯薬出版〕〔3, 700円+税〕

■ 参考書

〔2023年度栄養士実力認定試験過去問題集〕〔(社)全国栄養士養成施設協会編〕〔建帛社〕〔1, 120円+税〕

解剖生理学、栄養学の授業で使用した教科書

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

臨床栄養学各論

(30128)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

高 橋 文

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養学概論で学修した基礎的な栄養管理の手法に加え、多様な疾患における病態や栄養状態の特性に基づいた栄養食事療法について概説し、治療・予防に役立てるための栄養学的知識を修得することを目的に講義を行う。内容については、各疾患における治療ガイドラインに基づき、病態、症候、治療に対応した食事療法について学修し、実務経験時の事例を交えながら、臨床現場において適切な栄養食事療法の選択ができる知識を修得できるよう指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・各疾患における、病因・病態の基本的な知識を修得できる。			0.5	0.25	0.25	
・各疾患および病態における栄養管理法を理解できる。						
・各疾患および病態に対応した、適切な栄養食事療法の選択ができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、代謝疾患の栄養食事療法	(Part1) 3 (p66～71・81～93) を予習・復習する
第2回 代謝疾患、内分泌系疾患の栄養食事療法	(Part1) 3 (p72～80・94～101) を予習・復習する
第3回 消化器疾患の栄養食事療法	(Part1) 1 (p11～15・24～36) を予習・復習する
第4回 循環器疾患の栄養食事療法	(Part1) 4 (p103～112・119～126) を予習・復習する
第5回 呼吸器疾患の栄養食事療法	(Part1) 5 (p134～142) を予習・復習する
第6回 腎臓疾患の栄養食事療法	(Part1) 6 (p152～158・169～178) を予習・復習する
第7回 血液疾患の栄養食事療法	(Part1) 7 (p179～183・186～190) を予習・復習する
第8回 免疫・アレルギー疾患の栄養食事療法	(Part1) 8 (p191～203) を予習・復習する
第9回 骨・関節疾患の栄養食事療法	(Part1) 10 (p213～221) を予習・復習する
第10回 小児疾患、妊産婦・授乳婦の栄養食事療法	(Part1) 15 (p287～294・295～298) 16 (p305～315) を予習・復習する
第11回 高齢者疾患の栄養食事療法（摂食・嚥下障害）	(Part1) 17 (p317～330) を予習・復習する
第12回 高齢者疾患の栄養食事療法（認知症）	(Part1) 17 (p321・330～332) を予習・復習する
第13回 症例からみる栄養食事療法①（ディスカッション）	症例の内容をまとめておく
第14回 症例からみる栄養食事療法②（ディスカッション）	症例の内容をまとめておく
第15回 まとめ	教科書・プリントの内容をまとめておく
第16回 期末試験	教科書・プリントの内容をまとめておく

■ 履修上の注意

講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・期末試験60%、小テスト30%、受講態度10%（積極的な態度、目的意識）を総合的に判断して評価する。
- ・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。

■ 教科書

エッセンシャル 臨床栄養学 第9版〔佐藤和仁・本間健・小松龍史編〕〔医歯薬出版〕〔3700円＋税〕

■ 参考書

なし（適宜プリント配布）

■ 備考

- ・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
- ・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
- ・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学実習

(30129)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋30）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益 田 裕 司

■ 授業の概要

一般食からの献立展開および病態別治療食献立の作成と調理実習をグループ単位で行う。

臨床栄養学概論で学んだ疾病に関して、治療食に必要な栄養基準を満たした献立を作成すると同時に適切な調理法で治療食を提供できる技術を身につける。授業では各治療食について朝食、昼食、夕食の献立の作成を実施し、連続した集団給食における治療食の作成を視野に入れて解説を行う。急性期、慢性期に則した治療食の捉え方と病院における実践的な治療食の作成を教員の実務経験を基に授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・疾患とそれに則した治療食の目的が理解できるようになる。					0.4	0.35
・治療食の栄養基準に合った適切な献立作成ができるようになる。					0.25	
・治療食として適切な調理方法を理解し、実施できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	病院での栄養士の仕事 治療食の特色について	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第2回	一般治療食 常食献立作成	常食の献立作成
第3回	一般治療食 常食献立提出・実習ミーティング 糖尿病食について	常食献立提出 糖尿病食献立作成
第4回	糖尿病食献立提出 一般治療食 常食 調理実習	糖尿病食献立提出
第5回	脂質異常症食について 糖尿病食実習ミーティング	脂質異常症献立作成
第6回	脂質異常症食献立提出 糖尿病食 調理実習	脂質異常症献立提出
第7回	高血圧症・心臓病食について 脂質異常症食実習ミーティング	高血圧症・心臓病献立作成
第8回	高血圧症・心臓病食献立提出 脂質異常症食 調理実習	高血圧症・心臓病食献立提出
第9回	腎臓病について 高血圧症・心臓病食実習ミーティング	腎臓病食献立作成
第10回	腎臓病食献立提出 高血圧症・心臓病食 調理実習	腎臓病食献立提出
第11回	胃・十二指腸潰瘍食について 腎臓病食実習ミーティング	胃・十二指腸潰瘍食献立作成
第12回	胃・十二指腸潰瘍食献立提出 腎臓病食 調理実習	胃・十二指腸潰瘍食献立提出
第13回	摂食・嚥下障害食について 胃・十二指腸潰瘍食実習ミーティング	摂食・嚥下障害食献立作成
第14回	摂食・嚥下障害食提出・ミーティング 胃・十二指腸潰瘍食 調理実習	摂食・嚥下障害食献立提出
第15回	摂食・嚥下障害食 調理実習	実習のまとめ
第16回	期末試験（提出課題による）	これまでの学習をまとめておくこと

■ 履修上の注意

毎回継続したテーマがあるため欠席のないようにすること。グループ作業となるため各班作業に支障がでないよう献立は期日内に仕上がることを。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点50%（平常点は、実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート50%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）

■ 教科書

〔実践 臨床栄養学実習〕〔第一出版〕〔長浜幸子〕〔2, 400+税〕

■ 参考書

〔食品交換表 第7版〕〔文光堂〕〔900+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

栄養指導論Ⅰ

(30130)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

木 下 ゆ り

■ 授業の概要

世界と日本の食をめぐる社会状況と食生活の変遷を踏まえた上で、栄養士に求められている役割と意義、栄養教育（栄養指導）のあり方について講義する。具体的には、様々な対象者に対して適切で効果的な栄養教育を行うために必要な基礎知識と技術を修得できる授業を行う。関連法規・ガイドライン・教材に関する知識の到達目標は、栄養士実力認定試験とする。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育・栄養教育）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・栄養指導に関連する歴史・法律・ガイドライン・調査・教材を理解する。		0.1	0.9			
・栄養指導を実施するために必要な基本的な知識を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	第6章 栄養士の活躍できる職域 栄養士制度・栄養士養成 等	事前：シラバスを読みわからない言葉を調べる。 事後：日本栄養士会のホームページで事例を調べる。
第2回	第1章 食の楽しさを伝えるための栄養教育 世界と日本の暮らしと食文化 等	事前：教科書第1章を予習する。 事後：自分の家の食習慣について調べてまとめる。
第3回	第1章 食の楽しさを伝えるための栄養教育 食生活の変遷・歴史 等	事前：教科書第1章を予習する。 事後：授業で学んだ内容をまとめて復習する。
第4回	栄養教育にかかわる法律（栄養士法 健康増進法 食育基本法 等）	事前：教科書の指定箇所、プリントを読み、わからない言葉を調べて予習をする。 事後：実力試験過去問題、管理栄養士国家試験過去問題を解く。
第5回	栄養教育にかかわる法律・施策・指針（健康日本21 運動指針 栄養指針 等）	事前：実力試験過去問題を解く。 事後：運動指針を実践し記録する。
第6回	第4章 栄養教育に活用する情報収集 情報へのアクセスとメディアリテラシーの向上	事前：教科書第4章を予習する。 事後：レポートを作成する。
第7回	第4章 栄養教育のために必要な情報と教材 栄養教育にかかわる指針・ガイドライン（日本人の食事摂取基準 食生活指針 海外の指針 等）	事前：食事摂取基準について調べる。 事後：食生活指針を使って、自分の食生活を振り返る。海外と指針について詳しく調べてまとめる。
第8回	第4章 栄養教育のために必要な情報と教材 3つの食品群 6つの基礎食品 ※アクティブラーニング（グループ討議）	事前：様々な3つの食品群の教材について調べる。 事後：教材を実践して記録する。
第9回	第4章 栄養教育のために必要な情報と教材 料理カードの活用	事前：実力試験過去問題を解く。 事後：教材を実践して記録する。
第10回	第4章 栄養教育のために必要な情報と教材 食事バランスガイドの活用	事前：実力試験過去問題を解く。 事後：食事バランスガイドのクラフト、折り紙、レポートを仕上げて提出する。
第11回	第7章 実践してみよう あなたの栄養教育 課題の発見・分析・計画作成 ※アクティブラーニング（グループ討議）	事前：教科書第7章を予習する。 事後：指導案を完成させて提出する。教材を作成する。
第12回	第7章 実践してみよう あなたの栄養教育 発表・評価 ※アクティブラーニング（プレゼンテーション）	事前：各自で教材作成とリハーサルを行う。 事後：評価を参考に教材を改良する。
第13回	食べ物・料理・器の描写方法（デッサン基礎の練習）	事前：デッサンに必要な物の準備と予習をする。 事後：課題を仕上げる。デッサンする料理と器を準備する。

第14回 食べ物・料理・器の描写方法（自分の料理を描く、人に伝える）	事前:実力試験過去問題を解く。 事後:課題を仕上げる。
第15回 授業の復習・栄養士実力試験過去問題解説	事前:実力試験過去問題を解く。 事後:期末試験に向けて準備する。
第16回 期末試験 解説・まとめ	事前:期末試験に向けて実力試験過去問題を解く。 事後:試験でわからなかった点を復習する。

■ 履修上の注意

教科書に沿って進めていく。授業中に配布するプリントは、ファイルに綴じて、毎回授業に持ってくること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験40%、課題・レポート30%、発表20%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）10%をもとに、総合的に判断する。課題・レポートはあらかじめ採点基準を示し、テストは授業中に解説をする。

■ 教科書

〔はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ8 栄養教育論 第2版〕〔今中美栄・上田由香理・河嶋伸久・木下ゆり・坂本裕子・高木尚紘・西田江里 著〕〔化学同人〕〔2, 100円＋税〕

■ 参考書

栄養士実力試験過去問題は教員が提供する。

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養指導論Ⅱ

(30131)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

木 下 ゆ り

■ 授業の概要

栄養指導論Ⅰ及び各授業で学んだ内容を統合・発展させる授業である。具体的には、保育所、学校、福祉施設、事業所、医療機関、地域で対象者のニーズ合わせて行う栄養指導の計画・実施・評価の方法について解説する。様々なライフステージ、ライフスタイルの事例について、課題の発見と適切な指導法を実践できるよう授業を行う。栄養士実力試験と管理栄養士国家試験の基礎的な問題を活用する。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育）を活かして授業を進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・個別・集団の栄養指導の方法を理解する。		0.1	0.9			
・各ライフステージの栄養課題を発見し、適切な指導計画が立てられる。						
・各ライフスタイルの栄養課題を発見し、適切な指導計画が立てられる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	2章 行動変容へ導くためのテクニック 行動変容とは	事前：シラバスを読みわからない言葉を調べる 事後：実力試験過去問題を解く
第2回	2章 行動変容へ導くためのテクニック カウンセリング技法	事前：カウンセリング技法について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第3回	2章 行動変容へ導くためのテクニック 日常生活の中での健康行動	事前：実力試験過去問題を解く 事後：実力試験過去問題を解く
第4回	5章 ライフステージ別の栄養教育 妊娠期・授乳期	事前：妊娠期・授乳期の栄養について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第5回	5章 ライフステージ別の栄養教育 乳児期・離乳期	事前：乳児期・離乳期の栄養について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第6回	5章 ライフステージ別の栄養教育 幼児期 家庭での取り組み	事前：幼児期の栄養について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第7回	5章 ライフステージ別の栄養教育 幼児期 保育所での取り組み	事前：保育所での食育について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第8回	5章 ライフステージ別の栄養教育 学童期	事前：学童期の栄養について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第9回	5章 ライフステージ別の栄養教育 思春期	事前：思春期の栄養について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第10回	5章 ライフステージ別の栄養教育 成人期	事前：成人期の栄養について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第11回	5章 ライフステージ別の栄養教育 高齢期	事前：高齢期の栄養について予習する 事後：実力試験過去問題を解く
第12回	栄養士・管理栄養士の活動事例①（医療機関・在宅医療）	事前：在宅医療について調べる 事後：レポートの作成に向けて調べる
第13回	栄養士・管理栄養士の活動事例②（フードバンク・開発途上国）	事前：世界の健康・栄養問題について調べる 事後：レポートの作成に向けて調べる
第14回	災害時の健康・栄養問題と栄養士の役割①（被災時・避難所）	事前：災害時の健康・栄養問題について調べる 事後：レポートの作成に向けて調べる
第15回	災害時の健康・栄養問題と栄養士の役割②（仮設住宅・生活再建）	事前：仮設住宅の健康・栄養問題について調べる 事後：レポートを作成する
第16回	期末試験（レポート作成による）	事前：レポート作成に向けて準備する 事後：わからなかった点を復習する

■ 履修上の注意

授業中に配布したプリント、小テスト、実力試験過去問題はファイルし、教科書と一緒に毎回の授業に持ってくること。

■ 成績評価方法・基準

課題・レポート50%、小テスト40%、授業の取り組み状況（提出状況、予習・復習の状況など）10%をもとに、総合的に判断する。レポートはあらかじめ採点基準を示し、小テストは授業中に解説をする。

■ 教科書

栄養指導論Ⅰで使用した教科書（既に持っているため買わなくてよい）：〔はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ8 栄養教育論 第2版〕〔今中美栄・上田由香理・河嶋伸久・木下ゆり・坂本裕子・高木尚紘・西田江里 著〕〔化学同人〕〔1, 100円＋税〕

■ 参考書

〔2023年度栄養士実力認定試験過去問題集〕〔(社)全国栄養士養成施設協会編〕〔建帛社〕〔1, 120円＋税〕

■ 備考

欠席した場合は、指定された教科書の範囲を学習して補うこと。質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養指導論実習

(30132)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋45）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

木 下 ゆ り

■ 授業の概要

栄養指導論Ⅰ・Ⅱで学修した知識・理解をもとに、個人と集団を対象とした栄養指導を実践的に学ぶ授業である。個人指導では共感や傾聴などコミュニケーション能力を身に付ける。集団指導では、課題の発見、計画書・教材作成、発表、評価を行う。教員の管理栄養士としての実務経験（病院、在宅医療、NPO、国際協力、食育）を活かして、実践例を紹介しながら授業を進める。アクティブラーニング型式（グループ討議、プレゼンテーション、地域と連携した実践・評価、ロールプレイング）で行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・栄養指導の知識と技術を活用し、指導計画・実施・評価することができる。		0.1		0.5		0.4
・個人栄養指導の特徴を理解し知識・技能・態度を実践できる。						
・集団栄養指導の特徴を理解し知識・技能・態度を実践できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 地域課題と栄養教育① 課題の発見・分析・ニーズ把握（グループ討議）	事前：シラバスを読んでわからない言葉について調べる 事後：地域課題について調べる
第2回 地域課題と栄養教育② 献立作成（グループ討議・作業）	事前：対象者の嗜好・状況について調べる 事後：献立の栄養計算をして修正する
第3回 地域課題と栄養教育③ 試作1回目（グループ討議・作業）	事前：各自で試作して献立を修正する 事後：最終献立の栄養計算をする
第4回 地域課題と栄養教育④ 試作2回目・プレゼンテーション練習（グループ討議・作業）	事前：プレゼンテーションの素材を集める 事後：発表資料の修正と練習
第5回 地域課題と栄養教育⑤ プレゼンテーション・評価	事前：プレゼンテーションのリハーサル 事後：評価を参考に献立・資料を修正する
第6回 集団指導① ライフステージ別の課題・情報収集	事前：教科書の該当箇所をよく読む 事後：対象者の状況・課題について詳しく調べる
第7回 集団指導② 栄養教育計画書・教材作成	事前：対象者に適した教材・方法を調べる 事後：計画書を仕上げる
第8回 集団指導③ 教材（媒体）作成	事前：教材作成に必要な材料・方法を調べる 事後：教材を仕上げる
第9回 集団指導④ 教材（媒体）練習	事前：教材を使って練習する 事後：教材とシナリオの修正し練習する
第10回 集団指導⑤ プレゼンテーション・評価 1回目	事前：最終の計画書・教材・シナリオを準備する 事後：プレゼンテーションの練習を繰り返し行う
第11回 集団指導⑥ プレゼンテーション・評価 2回目	事前：評価基準を確認し準備する 事後：他の人の発表を参考に自分の発表を修正する
第12回 集団指導⑦ プレゼンテーション・評価 3回目	事前：他の人の発表を参考に繰り返し練習する 事後：評価を参考に自分の教材等を修正する
第13回 集団指導についてふりかえり	事前：集団指導の教材を修正する 事後：レポートを作成する
第14回 多職種との連携	事前：関連職種について調べる 事後：レポートを作成する
第15回 個人指導 栄養相談ロールプレイング（基礎）	事前：症例についてわからない点を調べる 事後：ワークシートを完成させて提出する
第16回 期末試験（レポート作成による）	事前：レポート作成に向けて準備する 事後：授業でわからなかった点を調べて復習する

■ 履修上の注意

グループ討議やロールプレイングには積極的に参加すること。授業中に配布したプリントはファイルし、毎回の授業に持ってくること。

■ 成績評価方法・基準

課題発表50%（地域課題20%、集団指導20%、個人指導10%）、レポート40%、取り組み10%（提出状況、予習・復習の状況など）をもとに総合的に判断する。プレゼンテーションの評価は学生全員や学内外の専門分野関係者を交えて行い、発表者にフィードバックする。ルーブリック評価については授業で説明する。

■ 教科書

教員が授業中にプリントを配布する。

■ 参考書

〔新ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1, 100円〕

■ 備考

質問については授業後か、授業中またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

公衆栄養学

(30133)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

栗山 孝雄

■ 授業の概要

公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・日本の食生活や食環境の変化を理解する。			0.4		0.3	0.3
・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。						
・公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 公衆栄養の概念	予習：教科書 p.2～4を読んでおく。復習：公衆栄養の意義や目的、生態系やコミュニティとの関連について理解する。
第2回 公衆栄養活動	予習：教科書 p.4～13を読んでおく。復習：公衆栄養活動の歴史、ポイントとなる用語について確認し、理解する。
第3回 日本の食事の変化	予習：教科書 p.16～23を読んでおく。復習：日本人の栄養摂取状況の推移と現状を確認する。
第4回 日本の食生活の変化	予習：教科書 p.23～27を読んでおく。復習：ポイントについて、日本人の食行動を交えて理解する。
第5回 日本の食環境の変化	予習：教科書 p.27～32を読んでおく。復習：ポイントについて、日本の経済状況等も交えて確認する。
第6回 日本の栄養政策	予習：教科書 p.40～45を読んでおく。復習：栄養行政、特に保健所や市町村の役割について理解する。
第7回 公衆栄養関連法規	予習：教科書 p.46～54を読んでおく。復習：授業でとりあげる法律について、ポイントとなる点を復習する。
第8回 国民健康・栄養調査	予習：教科書 p.54～58を読んでおく。復習：調査の目的、実施に関する点について、ポイントを理解する。
第9回 ミニテスト 諸外国の健康・栄養問題	第1回～第8回の授業内容の修得状況を点検する。 予習：教科書 p.32～37を読んでおく。復習：諸外国の健康・栄養問題の現状と課題を理解する。
第10回 公衆栄養マネジメント・アセスメント	予習：教科書 p.114～117を読んでおく。復習：公衆栄養活動の進め方について確認する。
第11回 公衆栄養活動における調査方法	予習：教科書 p.119～121を読んでおく。復習：調査方法の特徴を理解する。
第12回 公衆栄養活動における目標設定	予習：教科書 p.121～126を読んでおく。復習：目標設定、優先順位の決め方について確認する。
第13回 公衆栄養活動の評価	予習：教科書 p.126～129を読んでおく。復習：評価の具体例を交え、理解を深める。
第14回 栄養疫学の指標	予習：教科書 p.92～99を読んでおく。公衆衛生学で学習した疫学を復習したうえで、受講する。復習：個人内変動、個人間変動、総エネルギー調整栄養素摂取量について確認する。

■ 履修上の注意

- ・本講義と関連する内容の公衆衛生学などの科目を復習しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・ミニテスト（35％）、期末試験（35％）、提出物（20％）、受講態度（10％）で評価を行う。

※受講態度については、①提出課題の提出期限を守らない、②授業中の私語や授業と関係ない行為を行うなど、授業態度に問題のある者は、状況に応じて減点する。

- ・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2, 600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）で受付ける。

調理科学論

(30134)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

青 柳 公 大

■ 授業の概要

「調理学」とは食品を美味しく調理することための学問であり、人間の日常生活において必要不可欠な行為である。また栄養士の業務として基本となる調理学を大量調理施設における管理栄養士の実務経験を踏まえ指導する。植物性食品、動物性食品、調味料等の特徴を理解し、調理学実習や給食管理実習、ライフステージ栄養学実習に活用できるようにする。さらに食事設計の方法、食べ物の美味しさを評価する要因、生理的等の要因及び官能評価、食に関わる問題について学修する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・調理の意義、目的、役割を理解し実践できる。		0.25	0.5		0.25	
・各々の調理操作と使用機器の原理と特徴を習得する。						
・食品や調味料の特徴と調理による栄養変化及び科学変化が理解できる。						
・食事設計を理解し対象者へ適切な食事を提供する知識を習得する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	講義の進め方・調理の目的と意義について	教科書(P1-5)を読んでおくこと
第2回	調理の嗜好性（美味しさの構成要素）、嗜好性の主観的・客観的評価	教科書(P6-22)を読んでおくこと
第3回	調理操作の理論と特性（非加熱調理、加熱調理）	教科書(P23-47)を読んでおくこと
第4回	調理操作の理論と特性（調理器具及び機器、新調理システム）	教科書(P48-53)を読んでおくこと
第5回	調理と栄養：植物性食品(1)米、小麦、芋類、豆類	教科書(P54-69)を読んでおくこと
第6回	調理と栄養：植物性食品(2)野菜、果実、種実類、きのこ類、藻類	教科書(P70-79)を読んでおくこと
第7回	調理と栄養：卵類、乳類	教科書(P80-94)を読んでおくこと
第8回	調理と栄養：食肉類、魚介類	教科書(P95-114)を読んでおくこと
第9回	調理と栄養：油脂類、ゲル化材料	教科書(P115-128)を読んでおくこと
第10回	調味料、香辛料、嗜好飲料について、調理による栄養学的・機能的利点	教科書(P129-135)を読んでおくこと
第11回	食事設計の意義・内容	教科書(P136-143)を読んでおくこと
第12回	献立作成について	教科書(P144-152)を読んでおくこと
第13回	供食・食卓構成・食事環境	教科書(P153-160)を読んでおくこと
第14回	調理と環境について	プリントを配布する
第15回	まとめ	これまでの振り返りをする
第16回	期末試験	

■ 履修上の注意

調理に関する広範囲な分野を短期間で学修するので、予め教科書を熟読して講義に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

期末試験(80%)、平常点・受講態度(20%)(授業への参加状況(発言、質問等、及び小テストの結果等で総合的に評価する)小テストについては次回の授業内でフィードバックします。

■ 教科書

〔Visual 栄養学テキスト 食べ物と健康Ⅳ 調理学 食品の調理と食事設計〕〔津田謹輔他〕〔中山書店〕〔2, 970円〕

■ 参考書

〔NEW 調理と理論 第2版〕〔山崎清子他〕〔同文書院〕〔3, 080円〕

■ 備考

必修

質問等は授業終了時またはオフィスアワーで受け付ける。

調理学実習Ⅰ

(30135)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

青 柳 公 大

■ 授業の概要

本実習は、大量調理施設における管理栄養士の実務経験を活かし、基本的調理を修得に加え、給食経営管理、ライフステージ栄養等に展開ができること目的に実習を行う。和洋中の日常食の献立実習を通して、基本的な知識や調理技術（計量、切り方、だしの取り方、加熱操作、盛り付け、配膳、料理の組み合わせ等）を習得する。またこれらのことを踏まえ、日常食の食事計画を理解し、栄養バランスや嗜好を考慮した献立作成及び調理ができるよう学ぶ。さらに食材の料理による変化を調理科学の側面から考察する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・調理の基礎的技術、各種食材の適切な扱い方ができる。			0.25	0.5		0.25
・非加熱及び各加熱法の原理を理解し、食材・料理等に応じた適切な調理操作ができる。						
・調味料の調味パーセントを活用して、標準的な調味方法の説明と実践ができる。						
・日本料理、西洋料理、中国料理の特徴を踏まえて、日常食の食事計画と調理ができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	講義：実習の基本事項（調理の基礎、安全と衛生、実習ノートの書き方）	教科書第1章を読んでおくこと
第2回	講義：献立作成における基礎について①（作成手順、食品成分表の見方、栄養価計算）	教科書第2章を読んでおくこと
第3回	講義：献立作成における基礎について②（作成時の注意点、味付け方法、組み合わせ、切り方、レシピ作成）	教科書第3章を読んでおくこと
第4回	日本料理①：特徴について、調理操作（炊飯、だし汁の取り方、塩分濃度の調整、漬物、煎茶の入れ方等）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第5回	西洋料理①：特徴について、調理操作（バターライスの炊き方、ブイヨンの取り方、塩分濃度の調整、紅茶の入れ方等）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第6回	中華料理①：特徴について、調理操作（炒飯の作り方、魚介すり身について、寒天の溶解と凝固）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第7回	日本料理②：特徴について、調理操作（豚肉の下処理と焼き方、青菜の茹で方、浸し物等）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第8回	西洋料理②：特徴について、調理操作（牛バラ肉の煮込み料理、小麦粉ルーの作り方、ゼラチンの溶解と凝固）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第9回	中華料理②：特徴について、調理操作（揚げ物の衣と油の温度、鶏肉の下処理について、卵の気泡性による蒸菓子、烏龍茶の入れ方）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第10回	日本料理③：特徴について、調理操作（炊き込みご飯の炊き方、魚の下処理・煮付け、汁の澱粉濃度、酢の物等）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第11回	西洋料理③：特徴について、調理操作（魚の下処理、小麦粉ソースの調整、砂糖の加熱・カラメルソースの調整）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第12回	各班での日常食の献立とレシピ作成実習	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第13回	中華料理③：特徴について、調理操作（豚肉の下処理について、米粉麺の戻し方・炒め方）	各班で作成した献立に必要な材料の購入、実習の準備は各班で行うこと
第14回	各班で作成した献立での調理実習（実技確認、献立評価）	課題については各自で準備しておくこと。実習ノート提出②
第15回	まとめ、調理器具の整理	期末試験に向けて復習する
第16回	期末試験	

■ 履修上の注意

電卓は各自で準備してください。材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。実習後は毎

回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出してもらいます。

■ 成績評価方法・基準

期末試験(30%)、実習ノート(30%)（ルーブリック評価）、実技献立評価(30%)、平常点受講態度10%（実習への参加状況「グループワークで他者と協力的に取り組めているか等」）で評価します。実習ノートは後日添削して返却し、実習内で解説をします。

■ 教科書

〔改訂新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 300円〕

〔栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1, 500円〕

〔調理実習ノート〕〔女子栄養大学出版部〕〔300円〕

■ 参考書

〔食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1, 540円〕、〔調理のためのベーシックデータ第6版〕〔女子栄養大学出版部〕〔2, 200円〕

■ 備考

質問等は授業終了時またはオフィスアワーで受け付ける。

調理学実習Ⅱ

(30136)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：実習 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

青 柳 公 大

■ 授業の概要

「調理科学論」「調理学実習Ⅰ」で学んだことを基に、日本料理、西洋料理、中国料理の応用した調理、献立作成を行う。本実習は大量調理施設における管理栄養士の実務経験を活かし日常食だけでなく、給食管理実習やライフステージ栄養学、臨床栄養学実習への展開も視野に入れて行う。季節や地域の食材を取り入れた供応食、行事食、郷土料理等について実習献立を通して学び、行事食の献立構成、提供方法、食事作法について修得を目的とする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

0.25 0.35 0.25 0.15

- ・季節の食材の種類や調理特性を理解し、適切な扱いができる。
- ・日本料理、西洋料理、中国料理の特徴を踏まえて、応用的な調理技術と方法を習得する。
- ・各行事を踏まえ、彼岸や正月等の行事食、郷土料理の献立構成を理解し、計画・調理ができる。

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	実習について、調理学実習Ⅰの復習、郷土料理について（献立作成、調理計画作成）	教科書P8、P33、P139～P150を読んでおくこと。 献立の提出
第2回	日本料理①：秋彼岸の献立と特徴（湯炊き法によるおはぎ作り、吸い物について）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第3回	日本料理②：各班で作成した郷土料理の献立実習（課題調理）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第4回	日本料理③：秋の献立と特徴（お月見行事食）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第5回	西洋料理①：ヨーロッパスタイルの献立	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第6回	中華料理①：点心を中心に調理	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第7回	西洋料理②：秋の献立（肉料理、りんごの焼き菓子等）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第8回	講義：日本料理の特徴、食卓作法、行事食、食文化、演習：包丁研ぎ	教科書P3～P7を読んでおくこと
第9回	中華料理②：拌菜、湯菜、点心の献立構成による調理	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第10回	西洋料理③：クリスマスディナーメニュー	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第11回	日本料理④：お正月料理、指定食材を用いた課題調理について	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第12回	日本料理⑤：雛祭りの献立	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第13回	指定食材を用いた課題調理	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第14回	まとめ、調理器具の整理	調理実習ノート提出の指示をする
第15回	テーブルマナー講習	実施日については別途指示する
第16回	期末試験	

■ 履修上の注意

電卓は各自で準備してください。材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出してもらいます。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（30%）、実習ノート（30%）（ルーブリック評価）、課題評価（30%）、平常点受講態度10%（実習への参加状況「グループワークで他者と協力的に取り組めているか等」）で評価します。実習ノートは後日添削して返却し、実習内で解説をします。

■ 教科書

〔改訂新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 300円〕
〔栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1, 500円〕
〔調理実習ノート〕〔女子栄養大学出版部〕〔300円〕

■ 参考書

〔食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1, 540円〕、〔調理のためのベーシックデータ第6版〕〔女子栄養大学出版部〕〔2, 200円〕

■ 備考

質問等は授業終了時またはオフィスアワーで受け付ける。

調理学実習Ⅲ

(30137)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

青 柳 公 大

■ 授業の概要

「調理科学論」「調理学実習Ⅰ」「調理学実習Ⅱ」で学んだことを基に、栄養士として調理現場で求められる実践的な調理、献立作成、日本の通過儀礼と関わりが深い行事食について学ぶことを目的とする。本実習は大量調理施設における管理栄養士の実務経験を通して、官能評価方法や調理による食材の変化などを科学的に理解させ、これまで学んできた調理技術・理論の統合、食文化への関心と実践、実際の現場に応用できる力を養えるように指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食材や調理の特性を化学的な側面から理解し、適切な扱いができる。			0.25	0.15	0.35	0.25
・調理を科学的な側面から捉えるために官能評価等を通して調理理論を習得する。						
・各行事を踏まえ、献立構成を理解し、計画・調理ができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 実習について、調理学実習Ⅱの復習、課題調理献立作成	献立の提出を指示する
第2回 行事食①：春の行楽弁当（お花見行事食）	献立の提出を指示実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第3回 実験・官能評価①：煮出し汁の種類と混合だしについての	実習プリントで予め手順を確認し、実験後レポートにまとめること
第4回 課題調理①（実技評価）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第5回 実験・官能評価②：ハンバーグの調製、副材料の役割について	実習プリントで予め手順を確認し、実験後レポートにまとめること
第6回 行事食②：こどもの日	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第7回 課題調理献立作成②	献立の提出を指示する
第8回 実験・官能評価③：野菜の放水と給水について	実習プリントで予め手順を確認し、実験後レポートにまとめること
第9回 課題調理②（実技評価）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第10回 行事食③：七夕行事食	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第11回 パーティ料理の調理実習①：オードブル料理	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第12回 課題調理献立作成③（アフタヌーンティー、テーブルコーディネートも含む）	献立の提出を指示する
第13回 パーティ料理の調理実習②：ビュッフェスタイル（デールコーディネートも含む）	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第14回 課題調理③アフタヌーンティー調理実習	実習プリントで予め調理手順を確認しておくこと
第15回 まとめ、調理器具の整理	調理実習ノート提出の指示をする
第16回 期末試験	

■ 履修上の注意

電卓は各自で準備してください。材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出してもらいます。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（30%）、実習ノート（30%）（ループリック評価）、課題評価（30%）、平常点受講態度10%（実習への参加状況「グループワークで他者と協力的に取り組んでいるか等」）で評価します。実習ノートは後日添削して返却し、実習内で解説をします。

■ 教科書

〔改訂新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3, 300円〕

〔栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子・森美奈子編〕〔化学同人〕〔1, 500円〕
〔調理実習ノート〕〔女子栄養大学出版部〕〔300円〕

■ 参考書

〔八訂食品成分表2022〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1, 760円〕、〔調理のためのベーシックデータ第6版〕〔女子栄養大学出版部〕〔2, 200円〕

■ 備考

質問等は授業終了時またはオフィスアワーで受け付ける。

給食管理学

(30138)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益 田 裕 司

■ 授業の概要

給食の目標を達成するために、給食管理に必要な事柄を食事摂取基準、給与栄養目標量の算出、献立作成に必要な食品構成、食事計画および、安全衛生管理について順序だてて解説する。また、特定給食施設においての大量調理を想定した集団給食の献立作成、作業工程、作業の標準化について教員の現場経験を取り入れた視点から解説を行う。更に代表的な特定給食施設である事業所、病院、福祉施設、学校、保育所などの給食施設の特徴や栄養士の果たす役割について概説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・給食の計画を立てるために必要な基礎知識を身につける。					0.35	0.25
・食事摂取基準を用いた給与栄養目標量の算出ができるようになる。					0.25	0.15
・給食計画に基づいた安全かつ衛生的な献立を作成できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 給食管理の概念	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回	安全衛生管理 食中毒の予防	衛生管理についてテキストを復習する
第3回	栄養計算の基礎知識①（食品成分表の扱い方）	栄養計算の方法を理解する
第4回	栄養計算の基礎知識②（廃棄率を用いた考え方について）	食品成分表を更に活用できるようにする
第5回	給食の計画 食事摂取基準	食事摂取基準と特徴を理解する
第6回	栄養・食事管理の計画① 給与栄養目標量・食事計画	給与栄養目標量を算出できるようにする
第7回	栄養・食事管理の計画② 食品構成 献立作成の基礎知識	食品構成の考え方を理解する
第8回	栄養・食事管理の計画③ 献立作成の基礎知識	食品構成と献立作成の関連性を理解する
第9回	施設・設備管理（施設・設備と機器、食環境）	施設環境についてテキストを参照する
第10回	作業管理①（作業工程・作業の標準化）	大量調理の特徴を理解する
第11回	作業管理②（大量調理における調理の工夫と安全性、合理化）	大量調理の特徴を理解する
第12回	危機管理・食物アレルギー・災害時の備蓄について	危機管理の重要性を理解する
第13回	特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割①（保育所・学校・事業所給食）	特定給食施設の特徴を理解する
第14回	特定給食施設の種類と特徴および栄養士の役割②（高齢者福祉施設給食・病院給食）	特定給食施設の特徴を理解する
第15回	まとめ 給食における評価と改善	これまでの講義を振り返りまとめる
第16回	期末試験	これまでの講義を振り返り理解する

■ 履修上の注意

栄養士として給食管理業務は基本かつ重要な役割であるため、各自、目的意識をもって受講すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験50％ 平常点30％（平常点は、受講態度（発言や質問等、積極性）で総合的に判断する。） 提出物20％（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2, 800+税〕

〔五訂「大量調理施設衛生管理のポイント」〕〔中央法規〕〔2, 400+税〕

■ 参考書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 100+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理基礎演習Ⅰ

(30139)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益 田 裕 司

■ 授業の概要

2年次の校外実習に向けた心構えや実務について概説する。また2年生による校外実習報告会に参加する。更に本授業では保育園・給食センター・病院などの給食施設を赴き、施設見学を通して該当する給食施設の特性を直接学びとる。給食展示会の見学では、給食施設で実際に使用されている加工食品の利用法について、栄養まつりの見学では、栄養士として地域社会への貢献やその活動状況等を知ることができる。これらの見学を通して、栄養士の多様性を学び、実際に施設で働く栄養士の給食管理業務について理解を深められるよう教員の現場経験を取り入れた視点で講義を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・各施設で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。					0.25	0.15
・安全で衛生的な食事の提供に必要な環境を理解できるようになる。					0.25	0.15
・地域社会との連携の重要性が理解できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 施設見学の意義・目的	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回	校外実習先の説明・希望調査・実習内容や流れについて	実習先で学べる内容を理解しておく
第3回	挨拶の練習 身だしなみチェック 報告書・お礼状について	実習に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する
第4回	各施設への見学事前準備（施設の特徴や学習に必要な着眼点など）	施設の特徴を理解し、目的をもって見学する
第5回	保育園見学	見学後レポートを提出する
第6回	セントラルキッチン見学	見学後レポートを提出する
第7回	病院見学	見学後レポートを提出する
第8回	栄養まつり見学（日本栄養士会主催）	見学後レポートを提出する
第9回	施設見学後指導 校外実習に向けた対策と準備	見学時に配布された資料等を復習する
第10回	給食施設献立の要点確認	献立作成に必要な情報を確認する
第11回	給食施設献立の作成（基礎）	栄養基準に沿った献立の作成
第12回	給食施設献立の展開方法（応用）	連続した献立の作成練習
第13回	給食施設献立の完成	総合的に基準（条件）を満たした献立を完成させる（試験として評価する）
第14回	校外実習報告会①（2年生前半グループ）への参加	校外実習に向け自分の課題を検討する。
第15回	校外実習報告会②（2年生後半グループ）への参加	校外実習に向け自分の課題を検討する。
第16回	期末試験（提出課題による）	これまでの学習をよく理解しておくこと。

■ 履修上の注意

本科目への取り組み状況（提出物・遅刻・欠席・受講態度（積極性）など）によっては2年次の校外実習が出来ないことがある。また、各施設においては、心構え、身だしなみに十分注意すること。また見学では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（平常点は、受講態度（発言や質問等など積極的な取り組み）で総合的に判断する。）期末試験20%、レポート30%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1, 800+税〕

■ 参考書

〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2, 800+税〕

■ 備考

見学等の時期に関しては施設や行事の都合上、変動があります。

新型コロナウイルスの感染状況により対象施設の見学が行えない場合もあります。

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理基礎演習Ⅱ

(30140)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：食専2年
授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）
生活文化学科 食物栄養学専攻科目
益 田 裕 司

■ 授業の概要

「栄養士」資格取得のために必要な給食管理校外実習について、実習前の心構えや、給食の目的、実習先の業務内容について教員の現場経験を基に解説し、それぞれが自分の学習テーマをもって実習に臨めるようにする。実習期間中に作成する実習ノート（日誌）への記述法、要点のまとめかた等について学習する。更に、年度末に報告会を行い、各自実習で得た成果や反省点、今後の課題を整理して発表する。実習先それぞれの報告内容を共有し、自分の実習先だけでなく幅広い給食管理業務を理解できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・実習で何を学びとるか心構えや目的を明確化できるようになる。					0.25	0.35
・自分の学習テーマ（自主研究）を考える力を身につける。					0.25	0.15
・実習先で体験できる栄養業務からその要点を学びとる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 給食管理校外実習の意義・目的の明確化	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回	実習の心構えについての確認 身だしなみチェック	心構えの確認、実習前の整理
第3回	実習先の情報収集および確認 校外実習オリエンテーションについて	実習先の情報から学ぶべきテーマを検討する
第4回	実習内容について 実習計画立案（小学校）	実習で学ぶべき内容の整理
第5回	実習日誌等記録の書き方について ①様式の説明・注意点	記録方法の演習実施
第6回	実習日誌等記録の書き方について ②報告書の目的とポイント	要点のまとめ方を理解する
第7回	実習日誌等記録の書き方について ③表現法・言葉使い	記録する際に使用する表現を理解する
第8回	施設職員との接し方・コミュニケーションのとり方について	実習先の職員や給食対象者への接し方を理解する
第9回	実習前課題についての準備と対策	施設ごと課題への取り組みについて
第10回	自主研究のテーマについて	自ら関心がもてる研究テーマを検討する
第11回	実習内容について 実習計画案作成（自衛隊駐屯地・保育所）	実習で学ぶべき内容の整理
第12回	実習内容について 実習計画案作成（高齢者施設・その他）	実習で学ぶべき内容の整理
第13回	校外実習終了後のまとめ、反省点について	校外実習ノートに記録を残す
第14回	校外実習報告会①（前半グループ）	校外実習で得た成果と課題を報告する
第15回	校外実習報告会②（後半グループ）	校外実習で得た成果と課題を報告する
第16回	期末試験（課題提出による）	校外実習での学びを表現できるようにする

■ 履修上の注意

本科目への取り組み状況（遅刻、欠席、受講態度（積極性）、提出物）によっては校外実習に参加できないこともあるので注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（平常点は、受講態度（発言や質問等など積極的な取り組み）で総合的に判断する。）期末試験30%（校外実習報告会での個別評価）レポート20%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔萌文書林〕〔1, 800+税〕

■ 参考書

〔臨地・校外実習書〕〔建帛社〕〔2, 000+税〕

■ 備考

校外実習報告会については、実習期間の都合上、後期に実施することがある。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習Ⅰ

(30141)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：必修

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益 田 裕 司

■ 授業の概要

栄養士には給食を運営する技術が必要である。「調理科学論」「調理実習」で学んだ知識や教員が集団給食施設で得た経験と技術をもとに給食管理実務を学習する。対象者に必要な食事摂取基準に基づいた栄養量および嗜好に合った献立の作成、調理者の技術や厨房施設を考慮した調理法の選択、大量調理施設衛生管理マニュアルに則した衛生的かつ安全な食事の提供、適時適温サービスの手法、発注作業、給食関連書類の作成など給食管理業務について習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・給食の計画を立てるために必要な基礎知識と実務を身につける。			0.3	0.4	0.3	
・計画に基づいた集団給食の調理提供が行なえるようになる。						
・大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理ができるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 給食管理実習の目的	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第2回	HACCP 大量調理衛生管理マニュアル	大量調理施設衛生管理マニュアルの内容を覚える
第3回	大量調理器具機材の使い方と特徴について	器具機材の名称を復習して覚える
第4回	既定献立による大量調理の実施①（前半グループ）	大量調理の調理法と献立を復習する
第5回	既定献立による大量調理の実施②（後半グループ）	大量調理の調理法と献立を復習する
第6回	給与栄養目標量 献立組み合わせ検討	栄養計算、献立の作成、作業計画立案
第7回	試作調理の実施	試作調理、適正量の確認
第8回	予定献立提示 発注書作成	試作後の献立見直しと発注書の作成
第9回	アンケート作成 検食簿	実施献立の作成と喫食評価の準備
第10回	予定献立による調理実習①（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ
第11回	予定献立による調理実習②（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ
第12回	予定献立による調理実習③（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ
第13回	予定献立による調理実習④（4グループに分かれ、調理、配膳、作業計画等）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ
第14回	アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃	集計作業、反省報告、レポートのまとめ
第15回	実習後の報告と反省・まとめ	次年度に向けた実習の振り返り
第16回	期末試験（提出課題による）	これまでの学習をまとめておくこと

■ 履修上の注意

実習はグループ間での作業となるため学生間の連携を重視すること。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点70%（平常点は、実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート30%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）

■ 教科書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 100+税〕
 〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2, 500+税〕

■ 参考書

〔食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1, 400+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習Ⅱ

(30142)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益 田 裕 司

■ 授業の概要

給食管理の実務について更に理解を深め給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画（衛生管理を含む）を立てられるよう教員が持つ実務経験を基に実習を通して説明を行う。1年次の「給食管理実習Ⅰ」で学習した内容について、復習を行いながら主体的に実習する。対象者に適した栄養量や献立、価格であることはもちろん、喫食者の楽しみになるような給食の提供をできるようにする。また、実習後には改善策を検討し、より実践的な技術を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・給食の対象者に合わせた献立作成と作業計画が立てられるようになる。				0.3	0.4	0.3
・定められた調理時間内に計画通りの給食調理ができるようになる。						
・大量調理施設衛生管理マニュアルに則した安全かつ衛生的な給食管理を自ら指示し実践できるようにする。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 班編成 献立計画	シラバスの内容を理解し今後の実習に備える
第2回	献立作成・検討 調理室清掃	食材、器具類の殺菌食毒法を確認する
第3回	大量調理機器を使った調理法の確認（前半グループ） 試作計画、食材購入計画	大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討
第4回	大量調理機器を使った調理法の確認（後半グループ） 試作計画、食材購入計画	大量調理の応用法を習得する。実施献立の検討
第5回	試作調理 献立再検討	試作調理および献立見直し
第6回	対象者に向けた栄養媒体作り 書籍の利用 アンケート作成 発注書作成	献立説明、アンケート内容の検討
第7回	実習準備 作業工程表作成 衛生関連の書類確認	作業工程、衛生管理の点検
第8回	調理実習①（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第9回	調理実習②（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第10回	調理実習③（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第11回	調理実習④（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第12回	調理実習⑤（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第13回	調理実習⑥（6グループに分かれ、調理、配膳、献立説明、作業計画等を行う）	調理前：調理計画・検収。調理後：実施後のまとめ。
第14回	アンケート結果集計・報告の準備 調理室清掃	集計作業、反省報告、レポートのまとめ
第15回	実習後の報告と反省・まとめ	実習の成果と課題を情報共有する
第16回	期末試験（提出課題による）	これまでの学習をまとめておくこと

■ 履修上の注意

応用力が必要となるため、担当作業だけでなく給食調理作業全体を注視すること。

■ 成績評価方法・基準

ルーブリック評価で行います。第1回目の授業で説明します。平常点70%（平常点は、実習での積極性、作業計画等の基本的理解と実行力を総合的に判断する）レポート30%（必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する）

■ 教科書

〔給食運営・経営管理実習のてびき第5版〕〔西川貴子〕〔医歯薬出版〕〔2, 100+税〕

〔栄養・食事管理のための改定施設別給食献立集〕〔鈴木久乃〕〔建帛社〕〔2, 500+税〕

■ 参考書

〔食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表〕〔大修館書店〕〔1,400+税〕

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

給食管理実習Ⅲ（給食運営に係る校外学習）

(30143)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：実習 学期：前期 必・選：選択 栄（必）

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

益 田 裕 司

■ 授業の概要

給食管理についてこれまで学んできたことの総まとめとして、一週間、給食管理校外実習として特定給食施設において施設の管理栄養士を中心に給食管理業務の指導を受ける。実習施設は原則として保育所、小中学校、自衛隊、病院、福祉施設のいずれかとなる。一週間の校外実習を通して、給食業務を行うために必要な技術習得し、食事の計画や調理など、社会に通用する栄養士として具備すべき知識及び技能を習得する。実習後は教員が給食施設で得た実務経験を基に事後指導を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・実習の目的を明確にし、実習先で栄養士に必要な視点を身につける。			0.2	0.2	0.2	0.4
・自ら学習テーマ（自主研究）整理し報告できるようになる。						
・社会人、栄養士として通用するコミュニケーション能力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	給食業務に必要な給食費、献立作成、材料発注、検収業務、食数管理、調理作業、配膳など基本的業務に加え、実習施設ごとの対象者に対する栄養食事管理についても学ぶ。	施設ごとの給食の目的を理解し、対象者に則した食事の要点を把握しておく。
第2回	実習前に施設を事前訪問し、実習計画や施設の概要を知る。	実習施設の特徴を理解した上で訪問する。
第3回	実習期間中に必要な課題や自主研究に取り組む。	今までの学習成果を生かし課題に着手する。
第4回	実習期間中は毎日校外実習ノートに記録を残す。	実習先で受けた指導内容を理解し、実習ノートにその記録を残す。
第5回	実習終了後は、反省点等の振り返りを事後指導として行う。	学内で事後指導を受け、実習での学びをまとめ、成果と反省、課題を見出す。

■ 履修上の注意

この科目は学内で定期的に行われる授業ではなく、指定された期間（5日間）、学外で学ぶものです。校外実習期間中、遅刻や欠席により定められた時間数で実習ができない場合、評価の対象からはずれる場合もある。実習に支障がないよう体調管理にも十分注意すること。

■ 成績評価方法・基準

実習前の評価（50％）積極性、準備や課題への取り組み状況（計画性）。実習中の評価（30％）実習態度（挨拶、積極性）、課題達成度。実習後の評価（20％）実習後の報告、事後指導、校外実習ノートの評価。校外実習ノートは評価して返却する。

■ 教科書

〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田上貞一郎〕〔萌文書林〕〔1, 800+税〕

■ 参考書

〔大量調理施設衛生管理のポイント〕〔中央法規〕〔2, 400+税〕

■ 備考

校外実習については、実習先との都合上、夏季休暇中や後期に実施することがあります。質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

栄養士基礎演習

(30144)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）
対象学科：食専1年
授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 栄（必）
生活文化学科 食物栄養学専攻科目
益 田 裕 司

■ 授業の概要

2年次の校外実習の準備として、給食施設の特徴や献立作成、衛生管理などの基本的内容、及び社会の一員として学習するために必要なマナーや心構えについて教員の現場経験を取り入れた視点から解説する。また、校外実習をより効果的に行なえるよう、実際の給食施設で勤務実績のある管理栄養士より施設ごとの栄養給食管理業務の講話をいただき、栄養士に求められる知識と技能、コミュニケーション能力について理解する。更に校外実習対策として事前課題に必要な知識について演習を通して学習する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・社会で活躍する栄養士の責任と役割を理解することができる。					0.25	0.35
・施設ごとに求められる栄養士の技能を理解することができる。					0.25	0.15
・多職種と連携およびコミュニケーションの重要性を知る。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス 栄養士の職場環境について	シラバスの内容を理解し今後の授業に備える
第2回	保育所・学校・事業所・病院・老人介護施設給食について	栄養士の活躍の場を理解する
第3回	聴講でのマナー、服装等の注意点、レポートの書き方について	聴講に必要な身だしなみやマナー、ルールを理解する
第4回	栄養士の職務内容と実習①保育所（講演）	聴講後レポートを提出する。
第5回	栄養士の職務内容と実習②学校（講演）	聴講後レポートを提出する。
第6回	栄養士の職務内容と実習③事業所（講演）	聴講後レポートを提出する。
第7回	栄養士の職務内容と実習④病院（講演）	聴講後レポートを提出する。
第8回	栄養士の職務内容と実習⑤老人介護施設（講演）	聴講後レポートを提出する。
第9回	円滑な業務を行うための職場の仕組み①保育所・学校・事業所	聴講時に配布された資料を復習する
第10回	円滑な業務を行うための職場の仕組み②病院・老人介護施設	聴講時に配布された資料を復習する
第11回	対象者との接し方、コミュニケーションについて	多職種との連携の重要性を理解する
第12回	校外実習に向けたトレーニング①（対象者の把握）	給食の対象者との特性を理解する
第13回	校外実習に向けたトレーニング②（栄養業務の演習）	演習内容を復習し理解する
第14回	校外実習に向けたトレーニング③（安全・衛生・危機管理の実務について）	実務と連携できるよう復習する
第15回	まとめ	校外実習前に理解しておくべき基礎事項の確認
第16回	期末試験（提出課題による）	これまでの学習をまとめておくこと

■ 履修上の注意

各職場で栄養業務を行うために必要な知識となります。各自、目的意識を明確にもつこと。また、聴講においては身だしなみにも注意すること。また聴講授業では、遅刻は認められず欠席扱いとなる場合もあるため十分に注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（平常点は、受講態度（発言や質問など積極的な取り組み）で総合的に判断する。）期末試験20%、レポート30%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。提出したレポートは評価して返却する。）

■ 教科書

〔給食の運営 給食計画・実務論 第5版〕〔富岡和夫〕〔医歯薬出版〕〔2, 800+税〕

■ 参考書

〔各施設における講演時の配布資料〕

■ 備考

各講演の時期に関しては講師の都合により変動します。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食文化論

(30145)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科: 食専2年

授業形態: 講義 学期: 後期 必・選: 選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

青 柳 公 大

■ 授業の概要

2013年に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され、バランスがよく健康的な食事として諸外国から関心が高まっている。本講義では、日本の自然と社会環境で形成されてきた食文化について、現代までにどのように変化してきたかを説明する。また諸外国の異文化がどのように日本の食文化に影響を与えたを説明する。また年中行事や通過儀礼食、各地の郷土料理が日常にどのように関わっているかを説明した上で、今後の食文化伝承のため伝えていく大切さを教授する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食文化の定義、その変遷を理解できる。		0.3	0.5			0.2
・各時代の特徴と諸外国との関わりを理解できる。						
・年中行事や通過儀礼食、郷土食を理解し、他者へ伝えることができる。						

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回 講義の進め方について、「和食」：日本人の伝統的な食文化	教科書P1-P9を読んでおくこと
第2回 食文化の定義、食に関する思想	教科書P11-P19を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第3回 世界の食文化の形成①世界の食文化類型とその特徴	教科書P21-P25を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第4回 世界の食文化の形成②粉食文化と粒食文化	教科書P26-P28を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第5回 日本の食文化形成と展開	教科書P311-P40を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第6回 異文化接触と受容	教科書P41-P50を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第7回 主食の文化:木の実と芋類、米、大麦と小麦、雑穀	教科書P51-P59を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第8回 副食の文化、調味料、油脂、香辛料、菓子、茶、酒	教科書P62-P89を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第9回 日本料理の形成と発展：日本料理の系譜、本膳料理、懐石料理、会席料理、精進料理	教科書P92-P99を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第10回 台所、食器、食卓文化、日常の食	教科書P101-P119を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第11回 非常の食	教科書P122-P129を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第12回 外食文化の成立と変化・行事と地域の食文化	教科書P131-P150を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第13回 家庭・地域・学校・社会における食育、まとめ	教科書P151-P159を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第14回 世界の食文化①	配布プリントで予め内容を確認しておくこと
第15回 世界の食文化②	配布プリントで予め内容を確認しておくこと
第16回 期末試験 (レポート)	

■ 履修上の注意

調理科学論や調理学実習で学んだことと関連しながら講義を行うので、必要に応じて復習をしておくこと。

■ 成績評価方法・基準

レポート試験70%、平常点・受講態度 (30%) (授業への参加状況 (発言、質問等、及びミニットペーパーの提出状況等) で総合的に評価します。ミニットペーパーは次回の授業内でフィードバックします。

■ 教科書

[新版 日本の食文化「和食」の継承と食育] [江原絢子・石川尚子] [アイ・ケイコーポレーション] [2, 750円]

■ 参考書

〔食文化入門〕〔石毛直道〕〔講談社〕〔2, 200円〕、〔近代の食文化〕〔石川寛子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2, 640円〕、〔日本から見た世界の食文化〕〔鈴木志保子〕〔第1出版〕〔3, 850円〕

■ 備考

質問等は授業終了時またはオフィスアワーで受け付ける。

食生活支援論

(30146)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（24＋21）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田 展 敏 木下 ゆり 松尾 広 黒川 優子

■ 授業の概要

食生活を消費者・生活者の視点から概観し、食生活のアドバイスができるようになるために、食生活アドバイザー検定試験の内容について学ぶ授業である。栄養や食生活、ダイエット、健康、食文化、行事食、調理方法、食事におけるマナー、食品の分類や表示、保存・加工食品の目的、食品添加物、食品衛生、食マーケット、流通システム、税金や法律、経済など、「食」を取り巻く消費生活と社会の仕組みなどについて説明し、演習問題を解いていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食生活や健康管理のアドバイスができるようになること。	0.2	0.2	0.6			
・食文化や食品表示、食品衛生に関する知識を身につける。						
・食マーケットの概要について理解すること。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンスと1章前半：栄養に関する知識（池田・木下）	配布プリント、教科書1章を復習。
第2回	1章後半：健康に関する知識（木下）	配布プリント、教科書1章を復習
第3回	2章前半：食文化（木下）	配布プリント、教科書2章を復習
第4回	2章後半：調理・食材・マナー（木下）	配布プリント、教科書2章を復習
第5回	3章前半：食品の分類（池田）	配布プリント、教科書3章を復習
第6回	3章後半：食品表示（池田）	配布プリント、教科書3章を復習
第7回	4章前半：食中毒の予防（黒川）	配布プリント、教科書4章を復習
第8回	4章後半：食品の安全（黒川）	配布プリント、教科書4章を復習
第9回	5章前半：食マーケット（池田）	配布プリント、教科書5章を復習
第10回	5章後半：流通システム（池田）	配布プリント、教科書5章を復習
第11回	6章前半：暮らしと経済（松尾）	配布プリント、教科書6章を復習
第12回	6章後半：食品に関する法律（松尾）	配布プリント、教科書6章を復習
第13回	期末試験（食生活アドバイザーの模擬試験）（池田）	模擬試験の復習（提出課題あり）

■ 履修上の注意

食生活アドバイザー検定試験の日程に合わせ講義日程（時間帯）を調整することがあるので、注意すること。

■ 成績評価方法・基準

各回の提出物等の受講態度（60%）、期末試験（40%）。提出物はコメント等をして返却する。

■ 教科書

食生活アドバイザー2級公式テキスト&問題集 FLAネットワーク協会/編 2100円

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

特別演習

(30147)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（56＋34）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

永 沼 孝 子 鈴 木 裕 行 黒 川 優 子 益 田 裕 司 木 下 ゆ り 青 柳 公 大

■ 授業の概要

本演習では、栄養士実力認定試験の試験範囲について総合的に復習を行い、栄養士の資質向上を目指し授業を行う。栄養士に必要な知識は「授業計画」にあるように大変多岐にわたるが、その内容を集中的に復習することで、ばらばらになっている知識を再統合する。また、栄養士実力認定試験や管理栄養士国家試験の過去問題を解くことにより、知識が不足している個所を再確認させるとともに、卒業までおよび卒業後の復習につなげる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・栄養士実力認定試験のメリット、試験範囲、出題形式が理解できる。	0.3		0.7			
・栄養士に必要な知識を、総合的に身につける。						
・選択式の問題を解くための読解力と思考力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、模擬試験I	模擬試験の自己採点、誤った問題についての再学習。
第2回	食品学総論（永沼）授業の復習と練習問題解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第3回	食品学総論（永沼）授業の復習と練習問題解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第4回	栄養指導論（木下）重要ポイントおよび演習問題	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第5回	公衆栄養学（木下）重要ポイントおよび演習問題I	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第6回	生化学（鈴木）重要ポイントおよび過去問題の解説I	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第7回	生化学（鈴木）重要ポイントおよび過去問題の解説II	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第8回	模擬試験II	自己採点、誤った問題についての再学習。
第9回	食品学各論（永沼）重要ポイントの解説と過去問題の解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第10回	食品学各論（永沼）重要ポイントの解説と過去問題の解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第11回	食品衛生学（黒川）重要ポイントの解説と過去問題の解説I	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第12回	食品衛生学（黒川）重要ポイントの解説と過去問題・演習問題の解説II	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第13回	栄養学総論（永沼）授業の復習と過去問題の解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第14回	栄養学総論（永沼）授業の復習と過去問題問題の解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第15回	栄養学各論（永沼）重要ポイントおよび過去問題の解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第16回	栄養学各論（永沼）重要ポイントおよび過去問題の解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第17回	公衆衛生学（木下）重要ポイントおよび過去問題の解説I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第18回	公衆衛生学（木下）重要ポイントおよび過去問題の解説II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第19回	模擬試験II	自己採点、誤った問題についての再学習
第20回	臨床栄養学概論（木下）問題の傾向と対策I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第21回	臨床栄養学概論（木下）問題の傾向と対策II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第22回	調理学（青柳）要点の復習と演習問題の解説I	配布資料・教科書、練習問題の復習。
第23回	調理学（青柳）要点の復習と演習問題の解説II	配布資料・教科書、練習問題の復習。
第24回	生化学（鈴木）重要ポイントの解説III	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第25回	生化学（鈴木）重要ポイントの解説IV	配布資料の復習と練習問題の解答確認。
第26回	臨床栄養学概論（木下）重要ポイントの解説III	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第27回	給食管理論（益田）問題の傾向と対策I	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第28回	給食管理論（益田）問題の傾向と対策II	配布資料と練習問題の復習。教科書の再読。
第29回	給食管理論（益田）問題の傾向と対策III	給食管理論（益田）問題の傾向と対策
第30回	模擬試験IV	自己採点、誤った問題についての再学習

■ 履修上の注意

授業は、原則各科目の担当教員によるオムニバス形式。毎回配布資料があるので、ファイルに綴じて整理すること。授業で終わらない課題は、各自で時間外に行うこと。疑問点は、各科目の担当教員に、授業終了時もしくはオフィスアワーを使って質問する。

■ 成績評価方法・基準

平常点（自らすすんで聴講しているか、メモやノートは取っているか、質問に積極的に答えようとしているか）30%、提出物及び模擬試験の成績70%。試験答案などの提出物は後日添削して返却する。模擬試験については試験終了後に正答を配布する。必要に応じ返却時に解説を行う。各科目の授業で使用した教科書を持参すること。

■ 教科書

授業毎に担当教員が作成した独自資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいは担当教員オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。集中講義の日程などの連絡に注意すること。授業の順番には変更がある。

テーブルコーディネートⅠ（テーブルマナーを含む。）

(30148)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

小 林 知恵子

■ 授業の概要

基本理論、アイテム・セッティング・カラー・テーブルマナーの基礎知識に加え、和・洋・中、各国の食文化に対応した正しいアイテム選び食卓の表現方法が習得出来るよう指導。食空間コーディネーター・卓育インストラクターとし、作り手、企業、各種協会、子育て支援に関わる担当講師が、時代に即したより深い知識を積極的に授業に展開。社会で自信を持って主体的に行動出来る、教養を身に付けた人材を育成する。また、本校はNPO法人食空間コーディネート協会認定校である為TALK食空間コーディネーター3級資格も基準達成で取得可能。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食空間演出の必要性和効果を理解する事が出来るようになる。	0.2	0.2	0.3	0.1		0.2
・テーブルウェアの基礎知識を習得し和・洋・中の基本的テーブルセッティングが出来るようになる。						
・カラーの特性を生かし、テーブルコーディネートに活用できるようになる。						
・旬な知識・マナーを習得し、社会人となる上での自信を持つ事が出来る。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	導入：講義の目的と授業展開。フードコーディネーターとは？	テキストp.2-3をよく読んでおく
第2回	食空間のあり方～テーブルコーディネートの基礎理論～	テキストp.6-7をよく読んでおく
第3回	テーブルウェアの知識 ①リネンについて	テキストp.68-72をよく読んでおく
第4回	テーブルウェアの知識 ②陶磁器の基礎知識	テキストp.10-17をよく読んでおく
第5回	テーブルウェアの知識 ③洋陶磁器について	テキストp.26-31をよく読んでおく
第6回	テーブルウェアの知識 ④ガラス、カトラリーについて	テキストp.32-39 p.54-58をよく読んでおく
第7回	食空間におけるカラーコーディネート（実習）	テキストp.82-96をよく読んでおく
第8回	テーブルウェアの知識 ⑤センターピースディスプレイ、フラワーアレンジ（実習）	テキストp.60-67p.73-80をよく読んでおく
第9回	食空間構成①洋食の基本セッティング（実習）	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第10回	テーブルウェアの知識 ⑥和陶磁器について	テキストp.18-25をよく読んでおく
第11回	テーブルウェアの知識 ⑦漆器・箸について	テキストp.50-53をよく読んでおく
第12回	食空間構成②和食の基本セッティング（実習）	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第13回	食空間構成③中国料理の基本セッティング（実習）	実習後、生活の中で再現し知識を定着させる事
第14回	プランニングシートの作成について（テーマ自由）・卓育	自由テーマのプランを練っておく
第15回	プレゼンテーション	自由テーマのプランニングシート提出
第16回	期末試験	テキスト、配布資料をよく学習しておく

■ 履修上の注意

グループ作品の製作実習の際、積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（50%）、提出課題（20%）、受講態度（学習と関係のない私語。忘れ物。・グループワークへの積極性・協調性。）（30%）

・提出されたプランニングシートは、後日添削して返却。

■ 教科書

〔フードコーディネーター 教本3級〕〔柴田書店〕〔3,300円〕

■ 参考書

〔食空間コーディネーターテキスト3級〕〔NPO法人食空間コーディネート協会〕〔2,381円＋税〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

テーブルコーディネートⅡ

(30149)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専1年

授業形態：実習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

小林 知恵子

■ 授業の概要

各国のテーブル・サービスマナー、プロトコルの基礎知識、空間デザインについて講義。校外学習でプロの作品を見学。実社会で要求される到達目標を認識。各自プランニングとプレゼンテーションを重ねる事で、相互理解を深め主体的に行動できる能力を養う。講師はコンテスト全国1位。2021年出版の経験を持ち東京ドームTWFではアリーナ出演・講座講師を務めるなど全国区で活躍。実習で生徒の作品を基に時代に即した表現方法・芸術的創造性を披露するなど実社会に繋がる様指導。本校はTALK認定校の為、食空間コーディネーター3級資格も基準達成で取得可能。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ テーブルマナー、サービスマナー、プロトコルの基礎知識を習得。	0.2	0.2	0.3	0.1		0.2
・ 料理の特性、季節や祭事に合わせたコーディネートが出来るようになる。						
・ プランニング・プレゼンテーションで相互理解を深めると共に、実践力を身に付ける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	食空間演出：ハロウィン（実習）外国の行事や祭事	ハロウィンプランニングシートの練習
第2回	食空間演出：七五三（実習）日本の行事や祭事	七五三プランニングシートの提出
第3回	食空間演出：クリスマス（実習）酒類・飲料	クリスマスプランニングシートの提出 テキストp.133-137をよく読んでおく
第4回	食空間演出：母の日（実習）	母の日プランニングシートの提出
第5回	テーブル展搬入（校外学習）	
第6回	テーブル展見学（校外学習）	感想レポートをまとめ次回提出
第7回	テーブルマナーとサービスマナー（日本料理）	テキストp.115-121p.138-139をよく読んでおく 端午の節句プランニングシートの提出
第8回	食空間演出：端午の節句（実習）	お正月プランニングシートの提出
第9回	食空間演出：お正月（実習） テーブルマナーとサービスマナー（西洋料理） アフタヌーンティーについて	テキストp.122-128p.140をよく読んでおく
第10回	テーブルマナーとサービスマナー（中国料理） ホームパーティー	テキストp.130-132p.141-142をよく読んでおく 上巳の節句プランニングシートの提出
第11回	食空間演出：上巳の節句（実習）	バレンタインプランニングシートの提出
第12回	食空間演出：バレンタイン（実習） プロトコル（国際儀礼）の基礎知識	
第13回	フードサービスにおける空間デザイン	ウェディングプランニングシートの提出 テキストフードp.205p.231をよく読んでおく
第14回	食空間演出：ウエディング（実習）、期末試験対策	
第15回	3級資格認定対策	テキスト全体を復習
第16回	期末試験	テキスト、配布資料をよく学習しておく

■ 履修上の注意

行事の慣習の知識を深め、実習の際には創意工夫をもって、積極的に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

学年末の試験（40%）、提出課題（30%）、受講態度（学習と関係のない私語。忘れ物。・グループワークへの積極性・協調性。・外部団体との関わりの上でのマナー）（30%）

・提出されたプランニングシートは、次回授業内でフィードバックし、後日添削して返却。

■ 教科書

〔フードコーディネーター 教本3級〕〔柴田書店〕〔3,300円〕

■ 参考書

〔食空間コーディネーターテキスト3級〕〔NPO法人食空間コーディネート協会〕〔2,381円＋税〕

■ 備考

- ・質問等については、授業終了時に受け付けます。

フードマネジメント

(30150)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

鬼 島 直 子

■ 授業の概要

日本の食を支える食品産業の全体像について理解するために、農産物がどのように生産され、流通し、加工食品となり、消費者の手に届くのか、フードシステム全体について解説する。そして、食のビジネスにおいて必要とされる基礎知識について解説する。さらに、食の専門職として食料の安定供給に貢献するために必要なこととは何かを、現在の食の問題と絡めて解説する。講師は地域の農産物を活かした商品開発支援に携わった経験があり、地域農産物の新商品開発の実例なども紹介しながら、新しい食のビジネスについて考える授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食全体の仕組み（フードシステム）を理解する。			0.5		0.5	
・食のビジネスのマネジメントについて理解する。						
・食のビジネスに必要な知識を習得する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	イントロダクション。この講義で学ぶ内容と進め方について。フードシステムの定義と主要な用語の説明。	
第2回	私たちの食生活の現状について。食生活を見るための統計。食生活の変化の要因。	事前学修：中学・高校時代と現在の食生活の変化について考えてみる。 事後学修：復習
第3回	フードシステムについて。「川上」（農業）から「川下」（食品小売業、外食産業）への流れ。フードシステムの進化について。	事前学修：好きな食品がどのように作られて自分の手元に届いたかを考える。 事後学修：復習
第4回	食品小売業と流通。小売業態の移り変わり。卸売市場の仕組みと機能。加工食品の流通。	事前学修：食品小売業にはどのような種類があるかを調べてみる。 事後学修：復習
第5回	外食産業について。市場規模と動向。外食産業の拡大を支えたもの。近年のコロナ禍の影響。	事前学修：外食の定義について考えてみる。 事後学修：復習
第6回	中食産業とは何か。消費者にとっての中食と食品小売業、食品製造業、外食産業それぞれから見た中食。	事前学修：自分が好きな中食について考えてみる。 事後学修：復習
第7回	食品製造業について。食品製造業の分類と特徴や食品製造企業の研究開発など。	事前学修：前日に食べた加工食品の製造者を調べる。 事後学修：復習
第8回	日本の農業について。「水田稲作」「畜産業」「野菜・果物生産」のそれぞれの農業の特徴と課題。地域の特産品について。	事前学修：第2回から第7回の授業の復習。 事後学修：復習
第9回	食のビジネス経営の基礎知識と計数管理(1)	事前学修：自分が興味のある食のビジネスは何かを考えてみる。 事後学修：復習
第10回	食のビジネス経営の計数管理(2)（損益分岐点）と食ビジネスの企画について。	事前学修：第9回の授業の復習。 事後学修：復習
第11回	農業の6次産業化と小さな食ビジネスの実践について。	事前学修：第8回～第10回の授業の復習。 事後学修：復習
第12回	消費者の食品選択行動と市場に与える影響。食のビジネスに関するマーケティングの基礎知識。	事前学修：食の安全について自分が消費者として気になる点をまとめる。 事後学修：復習
第13回	食品安全問題。生産工程手法（GAPとHACCP）と消費者の信頼確保。	事前学修：自分の食品の購入行動について振り返ってみる。 事後学修：復習
第14回	食品消費と環境問題。食品ロス(廃棄)の現状。食品リサイクルと容器包装リサイクル。フードマイレージと地産地消について。	事前学修：フードロスを減らす実践について考える。 事後学修：第12回～第14回の授業の復習

第15回 全体のまとめ。フードマネジメントに関する最近の話題。

事前学修：これまでの授業の復習

事後学修：試験の準備

第16回 期末試験

■ 履修上の注意

他の学生に迷惑をかけないように私語を慎むこと。携帯電話をマナーモードにすること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（60％）、ミニットペーパー提出（30％）、授業参加状況及び積極性等の受講態度（10％）。ミニットペーパーについては次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

授業の前にプリントを配布する。

■ 参考書

〔新・フードコーディネーター教本2021〕〔日本フードコーディネーター協会〕〔柴田書店〕〔3, 300円〕

〔フードシステム入門 - 基礎からの食料経済学〕〔薬師寺哲郎・中川隆 編著〕〔建帛社〕〔2, 420円〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

フードエントテイメント演習

(30151)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：食専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田展敏 堀江志穂

■ 授業の概要

あらゆる食の分野を複合的にコーディネートするのがフードコーディネーターの仕事です。この授業の前半では、フラワーアレンジメントの演習とホテルレストランにおける研修によって食空間の演出技法や考え方、ホスピタリティーを学びます（堀江講師や担当講師の実務経験を反映した内容）。また、食品工場等の見学を通じ、「生産」「製造」「衛生管理」「流通」「販売」「地域貢献」など、多様な食の世界を理解することで、フードコーディネーターとしての資質向上を目指す授業を行います。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・フラワーアレンジメントの基礎事項を修得し作品を作ることができる。			0.8			0.2
・食空間に大切な要素を理解し、テーブルマナーを身につける。						
・食の広がり（「製造」「衛生管理」「流通」「販売」「地域貢献」）を理解する。						
・以上のことがらを文章や口頭で説明できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：授業の進め方、フードコーディネーターとは（池田）	配布プリントの復習。
第2回	テーブルフラワーアレンジメント①：基本のオールラウンド（堀江）	作品の写真撮影と、まとめプリント作成。
第3回	テーブルフラワーアレンジメント②：和食用アレンジメント（堀江）	作品の写真撮影と、まとめプリント作成。
第4回	テーブルフラワーアレンジメント③：ハロウィンのアレンジメント（堀江）	作品の写真撮影と、まとめプリント作成。
第5回	テーブルフラワーアレンジメント④：クリスマスのアレンジメント（堀江）	作品の写真撮影と、まとめプリント作成。
第6回	産学連携講座①：シティーホテルの構成（会場見学）と厨房見学（以下、池田）	配布プリント。講義メモを復習。
第7回	産学連携講座②：ホテルのレストランにおける各演出	配布プリント。講義メモを復習。
第8回	産学連携講座③：テーブルマナー講座	配布プリント。講義メモを復習しレポート提出。
第9回	ブライダル会場の見学①：パーティー会場の見学と接客について	配布プリント。講義メモを復習。
第10回	ブライダル会場の見学②：結婚式場における食事提供の考え方	配布プリント。講義メモを復習しレポート提出。
第11回	食品工場の見学①：商品開発やブランド戦略	配布プリント。講義メモを復習。
第12回	食品工場の見学②：食品衛生の実際について	配布プリント。講義メモを復習しレポート提出。
第13回	グループ学習：パーティー企画立案に関する調査	必要な調査を行うこと。
第14回	グループ学習：パーティー企画立案に関して発表準備	発表に備えた準備を完了させること。
第15回	学習内容の振り返りシートの作成	授業全体を振り返る。これまでの配布資料を整理しておく。
第16回	期末試験（フードコーディネーターの実力試験）	

■ 履修上の注意

テーブルマナー講座や花代、交通費等の実費を徴収する（16000円程度の予定）。夏休み中に最初の見学を行うので日程発表に注意すること。校外の見学では、身だしなみやあいさつ、礼儀に気をつけること。コロナ禍のため見学は中止の可能性もある。提出物が学修の記録となるため、必ずひとつのファイルに綴じ整理すること。

■ 成績評価方法・基準

フラワーアレンジメントの作品と提出シート（35%）、提出課題の内容（40%）。発表の準備と評価（20%）。期末試験（5%）。提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書

各回に必要な資料を配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

都合により、訪問先の変更があります（ブライダル会場の見学はコロナ禍のため中止する可能性が高いですが、その場合代替の演習を行うことになります。）。日程調整のため、シラバス通りの順番で進行しないので注意すること。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

コンピューターサイエンス概論

(30152)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：食専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

池田 展 敏

■ 授業の概要

情報社会を生きる私たちにとって、コンピュータやネットワークの仕組み・危険性に関する基礎知識は不可欠なものである。本講義では、情報がどのようにデジタル化されコンピュータや記録媒体等で扱われるのか、ハードとソフトの両面から学習したのち、情報社会で生活するための情報倫理やセキュリティについて学べるように授業を行う。授業の方法としては、アクティブラーニングの手法を取り入れ、項目ごとにチーム学習と発表を行っていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・デジタルデータ（ソフトウェア）とコンピュータの仕組み（ハードウェア）を理解する。	0.5				0.3	0.2
・インターネットやLANなどのネットワークの仕組みを理解する。						
・ネットワーク社会で必要となるセキュリティの知識とモラルを習得する。						
・チームで協力して情報収集と発表ができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ネットワーク社会と情報。アクティブラーニングの手法について	配布プリントの復習。
第2回	「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第3回	「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第4回	「デジタル（ビット）がコンピュータのデータの基本」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第5回	「コンピュータの5大機能とハードウェア」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第6回	「コンピュータの5大機能とハードウェア」の調査の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第7回	「コンピュータの5大機能とハードウェア」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第8回	「インターネットの仕組み」に関する調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第9回	「インターネットの仕組み」に関する発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第10回	「インターネットの仕組み」に関する発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第11回	「インターネットを安全に使うために」の調査	教科書該当部分を読む。キーワードの検索調査。
第12回	「インターネットを安全に使うために」の発表準備	教科書該当部分を読む。発表資料の準備。
第13回	「インターネットを安全に使うために」の発表	発表内容とまとめプリントの学習。
第14回	コンピュータのハードとソフトの発展（補足事項）	課題プリントの学習。
第15回	情報モラルに関するビデオを使った学習	それまでの配布プリントを復習。作文の提出
第16回	期末試験	試験対策用プリントの予習と復習

■ 履修上の注意

各テーマに対して、教科書などを読み込むなどの予習をしておかないとチーム学習が成り立たない。よって、十分な予習を心がけること。

■ 成績評価方法・基準

発表の準備と内容（12%×4＝48%）、期末試験（48%）、提出物（4%）。グループ発表の資料後日はプリントして配布する。テストは添削して返却する。

■ 教科書

〔情報社会のデジタルメディアとリテラシ〕〔小島正美編著〕〔ムイスリ出版〕〔1,800円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

グループ学習におけるループリックを初回に配布します。質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

スポーツ栄養学

(30153)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋10）

対象学科：食専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 食物栄養学専攻科目

青 柳 公 大

■ 授業の概要

日常生活において運動・スポーツを取り入れることはQOLの向上の1つである。その中にはオリンピック等といったプロアスリートとして活躍している者もあり、彼らのベストパフォーマンスを支える「食事」への関心が高い。そこで運動と栄養の関わりをライフステージなどを含めて考慮すべき点や科学的知見に基づいて講義を行う。各種栄養素の摂取方法、アセスメント、コンディショニングについて学習を行い、食事面からのサポートが提案、実践できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・運動、スポーツと各種栄養素の関わりについて理解できる。			0.5	0.3		0.2
・各ライフステージ期における栄養を含めて考慮すべき点について理解し、計画・指導できる。						
・適切な栄養補給（食事、水分等）を理解し、実践できるようにする。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	本講義について、スポーツ選手における栄養摂取の考え方	配布プリントの復習
第2回	運動によるエネルギー消費、必要エネルギー量について	配布プリントの復習
第3回	スポーツ選手にとっての各種栄養素の役割（糖質、たんぱく質、脂質）	配布プリントの復習
第4回	スポーツ選手にとっての各種栄養素の役割（ビタミン、ミネラル）	配布プリントの復習
第5回	アスリートの食事・サプリメントについて	配布プリントの復習
第6回	コンディショニングについて（女性アスリート、ジュニア期、シニア期、障害者）	配布プリントの復習
第7回	熱中症と水分補給	配布プリントの復習
第8回	栄養サポートについて、スポーツ選手向けの献立作成	配布プリントの復習
第9回	スポーツ選手（陸上長距離選手）向けの食事の実際①（食事提供の基礎）	配布プリントで予め内容を確認しておくこと
第10回	スポーツ選手（陸上長距離選手）向けの食事の実際②（競技特性に合わせた食事提供）	配布プリントで予め内容を確認しておくこと
第11回	期末試験（レポート）	

■ 履修上の注意

栄養学、ライフステージ栄養学と関連させながら講義を行うので、必要に応じて関連科目の復習を行うこと。

■ 成績評価方法・基準

レポート試験60%、平常点・受講態度（20%）（授業への参加状況（発言、質問等、及び小テストの結果等で総合的に評価する）、課題作成（20%）で総合的に評価します。

■ 教科書

なし

■ 参考書

〔理論と実践スポーツ栄養学〕〔鈴木志保子著〕〔日本文芸社〕〔2, 200円〕

■ 備考

質問等は授業終了時またはオフィスアワーで受け付ける。

子ども生活専攻専攻科目

保育原理

(30201)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 子専1年

授業形態 : 講義 学期 : 前期 必・選 : 必修

生活文化学科 子ども生活専攻科目

岡 崎 善 治

■ 授業の概要

本科目は、保育士養成課程の必修科目「保育の本質・目的に関する科目」として位置づけられている。保育の意義及び目的、保育に関する法令（児童福祉法、学校教育法、認定こども園法等）及び制度（保育所、幼稚園、認定こども園、子ども・子育て支援新制度等）、保育所保育指針における保育の基本（保育の目標、内容、環境、方法、計画と評価等）について概説する。また、諸外国と日本を比較しながら、保育の思想と歴史の変遷、保育の現状と課題について概説し、保育現場での勤務経験をもつ実務家教員により、話し合いや発表等を通して理解を深め考えていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 保育の意義及び目的について理解する。		0.1	0.5		0.4	
・ 保育所保育指針における保育の基本について理解する。						
・ 保育の思想と歴史の変遷について理解する。						
・ 保育の現状と課題について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	（事前）シラバスを通読し、今後の学習内容を見通す。 （事後）授業資料の整理と確認。
第2回 保育の意義及び目的 保育の理念と概念	（事前）辞書で「保育」を調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第3回 保育における子ども理解 発達	（事前）辞書で「発達」を調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第4回 保育の歴史と思想① 近代～戦前	（事前）戦前までの保育の歴史を調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第5回 保育の歴史と思想② 戦後～現代	（事前）戦後～現在までの保育の歴史を調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第6回 保育の内容・保育の方法 保育の果たす役割とは何か	（事前）保育所・幼稚園の経験を振り返る。 （事後）授業資料の整理と確認。
第7回 保育の計画	（事前）保育の計画について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第8回 保育に関する法令及び制度① 幼稚園とは	（事前）幼稚園の制度について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第9回 保育に関する法令及び制度② 保育所とは	（事前）保育所の制度について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第10回 保育に関する法令及び制度③ 認定こども園とは	（事前）認定こども園の制度について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第11回 子育て支援の役割と保育の専門性	（事前）子育て支援について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第12回 諸外国における保育の現状	（事前）諸外国の保育について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第13回 日本における保育の現状と課題① 子どもの貧困	（事前）子どもの貧困について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第14回 日本における保育の現状と課題② 保育者の処遇	（事前）保育者の処遇について調べる。 （事後）授業資料の整理と確認。
第15回 まとめ	（事前）学んだことを振り返り、総まとめをする。 （事後）授業資料の整理と確認。
第16回 期末試験	（事前）期末試験に向けて、講義内容の振り返りをする。 （事後）期末試験結果の確認と復習をする。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出等）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・提出課題等（40%）、期末試験（60%）により総合的に評価します。

※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、随時フィードバックします。

期末試験については、後日フィードバックします。

■ 教科書

教科書は使用しません。各授業で適宜、授業資料・課題を配布します。

■ 参考書

〔保育白書2022年版〕〔全国保育団体連絡会・保育研究所編〕〔ちいさいなかま社〕〔2, 700円〕

〔子ども白書2022〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2, 800円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省編〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

その他必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

教育原理

(30202)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

山 沢 智 樹 山 口 刀 也

■ 授業の概要

本講義では第一に、乳幼児に対する教育の本質を理解するために教育の目的や意味、ヒト、保育、人間形成などのを整理する。第二に、日本と諸外国における教育の起源や歴史、思想について、子ども観や教育観の変遷を手掛かりに検討する。第三に、乳幼児に関するさまざまな思想を取り上げ、代表的な教育思想家や現代の教育思想を幅広く紹介する。講義中、受講状況等に鑑みながらレポート発表やグループ討論の機会を通じて、確かめていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。	0.2		0.5		0.2	0.1
・教育の歴史の変遷や現代社会における教育課題を理解する。						
・日本と諸外国の教育思想について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：教育原理で何を学ぶか	シラバスの確認、学習内容を見通す／配布資料を読む
第2回 教育とは何か	辞書等を参照して、「教育」について自分なりの定義を考えてくる／配布資料を読む
第3回 権利としての学習、教育（1）子どもの権利条約	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第4回 権利としての学習、教育（2）日本国憲法	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第5回 権利としての学習、教育（3）学習権宣言	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第6回 教育の歴史（1）共同体における教育	辞書等を参照して、「学校」について自分なりの定義を考えてくる／配布資料を読む
第7回 教育の歴史（2）子どもの発見	辞書等を参照して、「子ども」について自分なりの定義を考えてくる／配布資料を読む
第8回 教育の歴史（3）近代教育制度の成立	明治維新と戦後改革に関する、高校までの既習事項を復習しておく／配布資料を読む
第9回 教育の思想（1）発達とは何か	辞書等を参照して、「学校」について自分なりの定義を考えてくる／配布資料を読む
第10回 教育の思想（2）教育と子どもの保護	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第11回 教育の思想（3）生涯にわたる教育、学習の機会	身近な生涯学習、社会教育の取り組みを調べる／配布資料を読む
第12回 現代の社会問題と教育（1）子どもの貧困	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第13回 現代の社会問題と教育（2）主権者教育	配布資料を読んでくる／配布資料を読む
第14回 現代の社会問題と教育（3）教育と労働	自身や身近な人の働いている経験について聴く／配布資料を読む
第15回 まとめ：教育とはなにか	これまでの授業内容を講義資料を手がかりに振り返っておく／配布資料を読む
第16回 期末試験	期末試験に備えて復習しておく／試験出題箇所を講義資料で復習する

■ 履修上の注意

- ・配布資料が多いので、ファイリング等して失くさないようにすること。
- ・毎回の課題の提出をもって出席と扱う。期限を過ぎてからの提出は、出席確認として受領するが、平常点としての「加算」はしない。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点（毎回の課題への取り組みと内容）40％、期末試験60％
- ・毎回の課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
- ・期末試験については、解答例、出題意図等の解説を配布することでフィードバックとする。

その他、詳細についてはオリエンテーションで説明する。

■ 教科書

適宜、プリントを配布する。

■ 参考書

〔よくわかる教育原理〕〔汐見稔幸ほか編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2, 800円〕

〔教育学をつかむ【改訂版】〕〔木村元・小玉重夫・船橋一男著〕〔有斐閣〕〔2, 200円〕

〔アクティベート教育学①教育原理〕〔木村元・汐見稔幸編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2, 000円〕

〔子ども白書2022〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2, 800円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子ども家庭福祉論

(30203)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

子ども家庭福祉はすべての子どもが安心し、安全な環境の下で成長していけるように様々な仕組みを整える子ども家庭福祉施策を学ぶ内容となっている為、保育士資格取得の必須科目となっている。地方自治体での実務を活かし、具体的な事例をあげながら、必要となる法律や身近な支援サービスについてグループ・ワークなどを行い学びを深めていく。

さらに、子ども家庭福祉の重要課題でもある「虐待」や「貧困」などについて要保護児童対策地域協議会での経験を基に、現代社会に求められる子ども家庭福祉の在り方や今後の課題について講義する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。		0.2	0.5		0.3	
・子どもの人権擁護について理解する。						
・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。						
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。						
・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション（子ども家庭福祉とは）	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回	現代社会と子ども家庭福祉	子ども家庭福祉を学ぶ意義について考える。
第3回	子ども家庭福祉の概念と理念	子どもの最善の利益について理解する。
第4回	子どもの人権・権利条約と人権擁護	親の所有物・従属物としての子どもをめぐる現状や事件について調べる。
第5回	子ども家庭福祉の制度①（法体系：児童福祉法など）	自治体の機能や役割について調べる。
第6回	子ども家庭福祉の制度②（児童福祉施設：乳児院など）	12種類の児童福祉施設について理解する。
第7回	母子保健と子どもの健全育成	妊婦検診について調べる。
第8回	障害のある子どもへの支援	障害児入所・通所施設の違いについて調べる。
第9回	子ども虐待・DVとその防止	児童虐待に関する事件を調べる。
第10回	社会的養護	4種類の里親区分について調べる。
第11回	少年非行等への対応	非行少年3種の区分について調べる。
第12回	ひとり親家庭への支援	ひとり親家庭の支援サービスについて調べる。
第13回	貧困家庭・外国籍の子どもとその家庭への支援	子ども子育て新制度について理解する。
第14回	子ども家庭福祉の動向①（少子化問題・子ども子育て新制度）	少子化問題について考える。 期末試験に向けた模擬課題を提出。
第15回	子ども家庭福祉の動向②（児童虐待・不登校など）	不登校に関する資料を収集する。 期末試験に向けた模擬課題の内容を理解する。
第16回	期末試験	試験解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。

■ 履修上の注意

授業への取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ等）を重視します。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（発言、質問、グループワークでの取り組み、事前課題など）（60％）、期末試験（筆記試験）（40％）により総合評価します。課題については、授業中にフィードバックします。提出されたレポートについては、後日添削して返却します。試験については、模擬課題の際に具体的に振り返りながら解説することでフィードバックします。

■ 教科書

【子ども家庭福祉の形成と展開】【井村圭壮・今井慶宗 編著者】【勁草書房】【2, 200円】

■ 参考書

適宜、授業中に参考書の紹介と関係資料配布を行います。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

社会福祉論

(30204)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

社会福祉論は、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。社会福祉は、憲法第25条の生存権規定を基盤として、その理念を具体化するべく、体系が築かれている。そして、現在に至っても多くの社会福祉問題を解決を目指して、社会福祉体系は変化を続けている。そこで、変化を続ける社会福祉の歴史的展開や基本的理念・原理について概観する。その中で、最近の社会福祉の動向を知り、保育士に期待される役割について考え、自らの「専門性」についての自負や役割意識を培うことができるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・①社会福祉に関する基礎的知識を身に付けることができる	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
・②社会資源を活用して子どもを守るための具体的な手法を身に付けることができる						
・③保育士に期待される社会的役割を考え、自主的に援助ができるようになる						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第2回 社会福祉の理念	社会福祉の理念について目を通し、分からなかったところを把握する
第3回 人権とは何か	人権について復習し、分からなかったところを把握する
第4回 社会福祉の史的展開	福祉の歴史について目を通し、社会福祉の方向性について把握する。
第5回 欧米における社会福祉の成り立ち	欧米の福祉制度の成り立ちについて目を通し、福祉の成り立ちについて把握する
第6回 社会福祉の制度体系	学習内容にあらかじめ目を通し、分からなかったところを把握する
第7回 社会福祉関係各法（1） - 「児童福祉法」を中心として -	「児童福祉法」に目を通してくる
第8回 社会福祉関係各法（2） - 「社会福祉法」を中心として -	「社会福祉法」に目を通してくる
第9回 社会福祉の制度体系の中の保育の位置づけ	保育が福祉制度の中でどのような役割をになっているか目を通し、分からなかったところを把握する
第10回 子ども家庭福祉の法体系の基盤	子ども家庭福祉について、事前に調べてくる。
第11回 子ども家庭福祉の制度・行政・機関	児童相談所について、事前に調べてくる。
第12回 社会福祉における保育士の役割について	自分の保育観について、考えてみる
第13回 社会福祉制度と福祉サービス供給システムの多元化	事前にテキストに目を通してくる。
第14回 社会福祉制度の現状と課題	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第15回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める
第16回 期末試験（レポートによる）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験（レポート）を通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

社会福祉は、「生活」に密着した学問分野なので、日頃から自分の身の回りで起きている出来事などについて興味・関心を持ち、新聞等を読んで知識を深めることが望ましい

■ 成績評価方法・基準

平常点（50％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業に中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、期末試験（レポート）については模範解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。

■ 教科書

〔生活事例から見る社会福祉〕〔吉田眞理 著〕〔青踏者〕〔1900円〕

■ 参考書

授業の中で指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

地域福祉論

(30205)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

地域福祉論は、高齢、障がい、児童、低所得という分野別の福祉対策・制度を地域において横断的に統合し、まちづくりをつなぐ位置にある。保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目でもあるため、実践にも生かせるよう具体的な身近な社会的資源の制度や利用の仕組み、施設やサービスの種類・内容等について概観する。地方自治体での行政経験を基に、実際の地域における地域福祉活動の現状を紹介する。特に社会的養護にも関連する施設を実際に訪問し現状や課題を知り、子ども食堂などの地域活動に参加しフィールドワークを行い学びを深める。また、授業の中で「地域福祉に関するアンケート」を作成し、調査を行い、結果を考察するという体験を通して地域福祉の必要性について考える機会を持つ。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・地域福祉に関する基礎的な知識を身に付ける。	0.2	0.6	0.2			
・地域福祉の理念とその展開について学ぶ。						
・地域福祉の社会的資源に関する理解を深める。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回	地域福祉とは	地域福祉を学ぶ意義について理解する。
第3回	地域福祉の理念と概念	近年の地域福祉の課題について考える。
第4回	地域福祉実践紹介と事例検討	事例検討に関するミニレポート。
第5回	地域福祉の政策展開	身近な自治体の生活困窮者自立支援を調べる。
第6回	地域福祉の方法①（地域福祉に関するアンケート作成）	アンケート内容の仮説を立てる。
第7回	地域福祉の方法②（地域福祉に関するアンケート作成）	Googlefoamを活用しアンケート作成。
第8回	地域福祉の推進主体①地域福祉を推進する人々	身近なNP0・ボランティア活動を調べる。
第9回	地域福祉の推進主体②地域福祉を推進する団体	アンケート結果をまとめ、考察する。
第10回	子育て支援と地域福祉	身近な子育て支援センターについて調べる。
第11回	社会的養護と子どもたち	児童虐待・子どもの貧困に関する情報を収集。 期末試験に向けてフィールドワーク内容をまとめる。
第12回	子どもの居場所	子ども食堂の取り組みについて調べる。 期末試験に向けてフィールドワーク内容をまとめる。
第13回	地域における子育て相談	事例検討に関するミニレポート。
第14回	災害と地域福祉	災害ボランティアに関する情報を収集する。
第15回	地域福祉に関するアンケート調査のまとめ	地域福祉に関するアンケート結果を発表。
第16回	期末試験	フィールドワークを行った地域事業についてレポートにまとめ、発表する。発表内容について振り返り復習する。

■ 履修上の注意

授業への取り組みでは、提出物の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、発表、フィールドワークでの積極的な参加等）を重視します。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（発言、質問、グループワークでの積極的な参加など）（50％）、期末試験（レポート提出）（30％）と課題レポート（フィールドワークでの事前事後課題）（20％）により総合評価します。課題レポートの結果は機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

適宜、授業前に資料を配布します。

■ 参考書

適宜授業中に紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子ども家庭支援論

(30206)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

八 木 孝 憲

■ 授業の概要

子育て家庭に対する支援の意義と目的、様々な子育て家庭のニーズに応じた支援の実施体制、子育て家庭に対する支援の方法等について学んでいく。加えて、子育て家庭や家族に関する喫緊の社会的課題をフォローし、グループワークを通して具体的かつ効果的な支援をより深く探究していく。さらには、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係諸機関との連携及び多職種協働について議論する。なお、担当教員は福祉施設で7年の実務経験を有している。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 保育実践で出会うさまざまな子どもと家庭の問題について理解を深める。			0.5	0.3		0.2
・ さまざまな事例に対して具体的かつ効果的な支援を考えられるようになる。						
・ 自分の言動の特徴を客観視し言葉で他者に伝える力をつける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	子どもの虐待について（1）	虐待の種類と現況	（予習）子ども虐待件数の推移を調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第2回	子どもの虐待について（2）	被虐待児への支援	（予習）子ども虐待の直近1年間の死亡事例を調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第3回	子どものネグレクトについて		（予習）ネグレクトが子どもの発達に及ぼす影響を調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第4回	配偶者間暴力（DV）及びデートDVについて		（予習）DVの相談件数やその内容を調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第5回	里親制度と里親支援について		（予習）里親の種類及び委託率について調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第6回	グリーフケアについて		（予習）自身の死生観について考えをまとめる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第7回	子どもの障がいについて（1）	さまざまな障害	（予習）障がい種別について調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第8回	子どもの障がいについて（2）	発達障害児者への支援	（予習）発達障がい児をもつ家族への支援機関を調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第9回	子どもの不登校について		（予習）不登校の概要を調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第10回	子どもの自立について		（予習）社会的養護における自立の課題について調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第11回	援助者の自己支援について		（予習）援助者の困難感とその対策について調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第12回	親権制度について		（予習）単独親権・共同親権のメリットデメリットについて考えをまとめる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第13回	家族の多様性について		（予習）現代家族事情について調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第14回	アンティシペーションダイアログ（AD）について		（予習）ADについてその目的と方法を調べる。 （復習）講義の内容を簡潔に説明できる。
第15回	家族カウンセリングについて		（予習）家族に対するカウンセリングの方法について調べる。

■ 履修上の注意

積極的な発言と他者の意見を尊重する態度を重視する。さまざまな社会的課題に対する自分なりの考えを持ち、それを言語化する努力を惜しまないことを求める。

■ 成績評価方法・基準

授業への積極的な参加及び発言とリアクションペーパーの内容 50%

ミニレポート課題2回 30%

最終レポート課題 20% （*各レポート課題については適宜フィードバックをする。）

■ 教科書

なし。毎回授業前に資料を配布する。

■ 参考書

授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終了時及び常時メールで受け付ける。t-yagi@sendai-shirayuri.ac.jp

社会的養護Ⅰ

(30207)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

社会的養護Ⅰは、保育士養成課程において保育の本質・目的の理解のための科目である。近年、社会的養護を必要とする子どもたちの保育の場として、施設養護のほかに「地域における子育て」が見直され始めている。そこでまず、子どもの養護や「幸せ」を考える視点が史的展開の中でどのように変化してきているかを説明する。その上で、子どもの養護に関わる法制や機関などの社会資源を知る。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・社会的養護に関する基礎的な知識を身に付けることができる。	0.1	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1
・社会的養護に必要な社会資源について理解することができる。						
・社会的養護における具体的な援助等の方法を知ることができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第2回 児童養護の意味	児童養護について予習し、分からなかったところを把握する
第3回 児童養護が目指すもの	前回の学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第4回 保育士が児童養護を学ぶ視点	自分の保育観について、改めて考えてみる
第5回 児童養護の史的展開	事前にテキストに目を通してくる
第6回 社会的養護の最近の動向	社会的養護の史的展開について概観してくる。
第7回 児童養護の基本的な考え方	事前にテキストに目を通し、児童養護について自分の考えをまとめてくる
第8回 児童養護の種類と内容（1）：乳児院	乳児院についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第9回 児童養護の種類と内容（2）：母子生活支援施設	母子生活支援施設についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第10回 児童養護の種類と内容（3）：児童養護施設	児童養護施設についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第11回 児童養護の種類と内容（4）：障害児入所施設	障害児入所施設についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第12回 児童養護の種類と内容（5）：児童自立支援施設	児童自立支援施設についてあらかじめ調べ、分からなかったところを把握する
第13回 家庭的養護の種類と内容	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第14回 施設養護における保育士の援助・支援の在り方について	社会的養護にとって、保育士はどのような役割を果たすべきなのか考えてくる。
第15回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める
第16回 期末試験（レポートによる）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験を通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

身近にある児童福祉施設でボランティア活動などをして、実践的に学ぶことが望ましい

■ 成績評価方法・基準

平常点（50％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。また、期末試験（レポートによる）については模範解答を配布し、学習の振り返りができるようにする。

■ 教科書

教科書〔保育と社会的養護Ⅰ〕〔大竹智・山田利子編〕〔みらい〕〔2300円〕

■ 参考書

授業の中で指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

保育者論

(30208)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

岡 崎 善 治

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目：教職の意義及び教員の役割・職務内容）及び保育士養成課程（保育の本質・目的に関する科目）の必修科目である。教職・保育職の意義、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職・保育職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。そのために、保育現場での勤務経験をもつ実務家教員により、保育職の選択、保育者の役割、制度、専門性、協働などについて概説する。また、保育者としてのキャリア形成についても様々な事例を下に考える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・教職（幼稚園教諭）及び保育士の社会的意義や制度的な位置づけを理解する。		0.25	0.5		0.25	
・保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）の専門性や役割、資質能力を理解する。						
・保育者の職務内容について理解する。						
・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。						
・保育現場の内外での連携・協働について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	シラバスを通読し今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第2回	保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる私 プレ保育者アイデンティティ	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第3回	保育者の役割・資質能力と責務・倫理	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第4回	保育者の制度的位置づけ 資格・要件・職務内容（服務・身分保障等）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第5回	幼稚園教育要領にみる幼稚園教諭の役割	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第6回	保育所保育指針にみる保育者の専門性と資質	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第7回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領にみる保育教諭の役割	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第8回	子ども理解・保育の計画・実践・省察	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第9回	保育者の協働①：保護者支援	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第10回	保育者の協働②：幼・保・認定こども園と小学校の接続	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第11回	保育者の協働③：専門職・機関及び地域社会との連携	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第12回	保育者としての成長と研修（法定研修・自己啓発）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第13回	保育者の専門職的成長①：生涯発達とキャリア形成	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第14回	保育者の専門職的成長②：自分たちが目指す保育者像	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第15回	学修のまとめ	これまでの課題を振り返り、事後のまとめをする。
第16回	期末試験（レポートによる）	期末試験（レポート課題）のテーマについて、15回分の授業内容を踏まえ熟考し提出する。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出等）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・課題提出等（30％）、提出課題（40％）、期末試験：レポート課題（30％）により総合的に評価します。

※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、随時フィードバックします。

期末試験（レポート課題）については、後日フィードバックします。

■ 教科書

教科書は使用しません。各授業で適宜、授業資料を配布します。

■ 参考書

〔幼稚園教育要領〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

教育・保育制度論

(30209)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（16＋29）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

山 沢 智 樹 山 口 刀 也

■ 授業の概要

本講義の内容は、まず①日本の教育および保育の制度を法律、理念、歴史、体系などの視点から解説し、その現状と課題を明らかにする。そのうえで②日本の教育・保育を取り巻く社会的状況や、最新の政策動向を講義する。その後、諸外国の子育て支援政策や幼児教育・保育の政策、特徴を取り上げ、日本との制度的・政策的違いを紹介し、学生同士の話し合いや発表の時間を設けながら良い点・悪い点を考察する。最後に③園の安全のために求められることを、法律や実際の事例、政府から出されているガイダンスなどを用いて解説し、安全教育の在り方についても議論する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・1. 教育・保育に関する制度の基礎知識を習得する。	0.14	0.14	0.3	0.14	0.14	0.14
・2. 社会と教育・保育の関連を理解し、日本と諸外国の政策動向を理解する。						
・3. 園の安全を守るために必要な具体的な取り組みを理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：制度の意味と学ぶ意義	（事前）シラバスを確認し、学習内容を見通す。 （事後）配布資料を読む。
第2回 教育制度の基礎と課題：法的枠組みと体系	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第3回 保育制度の基礎と課題：法的枠組みと体系	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第4回 教育・保育を取り巻く社会的状況①子どもの貧困と支援制度	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第5回 教育・保育を取り巻く社会的状況②学童保育の制度	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第6回 教育・保育を取り巻く社会的状況③近年の政策動向	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第7回 日本と諸外国における子育て支援制度の現状と課題	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第8回 園の安全を守るために	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第9回 期末試験（レポートによる）	（事前）レポートに書くテーマを考えてくる。 （事後）レポート内容を振り返る。

■ 履修上の注意

授業中の課題をしっかりと行うこと。配布資料が多いので、ファイリングをして失くさないようにすること。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点50%（リアクションペーパーの内容、課題、参加態度）、期末レポート50%
- ・各回の授業でのリアクションペーパーおよび課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
- ・レポートについては、課題におけるポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

適宜、プリントを配布する。

■ 参考書

- 〔未来を創る教育制度論〔改訂版〕〕〔川口洋誉・中山弘之編著〕〔北樹出版〕〔2, 200円〕
 〔だれのための保育制度改革〕〔中山徹〕〔自治体研究社〕〔1, 300円〕
 〔保育白書2022年版〕〔全国保育団体連絡会・保育研究所編〕〔ちいさいなま社〕〔2, 700円〕
 〔子ども白書2022〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2, 800円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

発達心理学

(30210)

単位 (総授業時間数+自習時間) : 2 (30 + 60)

対象学科 : 子専1年

授業形態 : 講義 学期 : 後期 必・選 : 必修 幼免 (必)

生活文化学科 子ども生活専攻科目

三 浦 主 博

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程 (教育の基礎的理解に関する科目 : 幼児の心身の発達及び学習の過程) 及び保育士養成課程 (「保育の対象の理解に関する科目 (保育の心理学)」) の必修科目である。乳幼児の心身の発達の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた保育の基礎となる考え方を理解する。「発達」とは何か?ということを考えることから始め、乳児期及び幼児期を中心に心身の発達特性、及び発達過程について様々な観点から概説し、話し合いや発表等を通して、子どもの発達と保育について理解を深めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥

- ・ 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。
- ・ 子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。
- ・ 子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。
- ・ 生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験重要性について理解し、保育との関連を考察する。

0.2 0.8

■ 授業計画

自習 (事前・事後学修の内容)

第1回	オリエンテーション	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回	発達とは?①: 発達心理学における発達/発達と成長の違い	配布プリントを読み、予習・復習をする。
第3回	発達とは?②: 発達を規定する要因 (遺伝と環境) / 発達の捉え方 (発達曲線と発達段階)	教科書3章1を読み、予習・復習をする。
第4回	身体・運動機能の発達①: 身体発育	教科書1章5を読み、予習・復習をする。
第5回	身体・運動機能の発達②: 乳幼児期の運動機能の発達	教科書1章6を読み、予習・復習をする。
第6回	社会的能力の発達①: 微笑の発達	教科書1章4を読み、予習・復習をする。
第7回	社会的能力の発達②: 社会的相互交渉/社会的参照	教科書1章10を読み、予習・復習をする。
第8回	社会的能力の発達③: 愛着の成立	教科書1章11を読み、予習・復習をする。
第9回	感情の発達①: 感情の発達	教科書2章1を読み、予習・復習をする。
第10回	感情の発達②: 自己主張と自己抑制/道徳性と思いやり	教科書2章3・4を読み、予習・復習をする。
第11回	認知機能の発達①: ピアジェの発達論	教科書2章10を読み、予習・復習をする。
第12回	認知機能の発達②: ピアジェの発達段階	教科書1章7を読み、予習・復習をする。
第13回	変わる発達観 (ピアジェとヴィゴツキー)	教科書3章1・6を読み、予習・復習をする。
第14回	パーソナリティの発達①: エリクソンの発達論	教科書3章1を読み、予習・復習をする。
第15回	パーソナリティの発達②: エリクソンの発達段階	教科書3章1を読み、予習・復習をする。
第16回	期末試験	これまでの復習をして試験に臨む。

■ 履修上の注意

授業への取り組み (受講態度・課題提出) を重視します。

授業内容をしっかりとノートに取ること。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況 (ミニット・ペーパーの内容、課題等) (20%)、及び期末試験 (80%) により総合的に評価します。

期末試験の結果は後日機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2, 200円〕

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説 (2018年)〕〔文部科学省〕／〔保育所保育指針解説 (2018年)〕〔厚生労働省〕
／〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 (2018年)〕〔内閣府・文科省・厚労省〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

子ども理解の理論と方法

(30211)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（16＋29）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

三 浦 主 博

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程及び保育士養成課程の必修科目である。乳幼児期の著しい発達について学び、その発達の原動力となる子どもと子どもを取り巻く環境との相互作用について理解を深める。そのために必要な観察法についても学び、一人一人の子どもの発達に応じた支援の方法について、さらに、発達の遅れや偏りなどの問題への対処法や、保護者との連携・子育て支援の方法についても学ぶ。また子どもの発達と保育の理解を深めるために、「保育所実習」と関連させて、グループ討議や発表も行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの心身発達と保育実践について理解を深める。		0.2	0.4	0.2	0.2	
・生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習過程を理解する。						
・保育における発達援助について学ぶ。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：子ども理解の意義	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 乳幼児期の発達①（認知、人間関係、情動）	教科書1～2章を読み、予習・復習をする。
第3回 乳幼児期の発達②（言葉とコミュニケーション、遊びの発達と仲間関係）	教科書1～2章を読み、予習・復習をする。
第4回 保育者の援助と役割	教科書3章1～7を読み、予習・復習をする。
第5回 子どもの発達障害、気になる癖	教科書4章1～6を読み、予習・復習をする。
第6回 保育に生かす観察法・発達の診断と発達検査	教科書3章8～10を読み、予習・復習をする。
第7回 保護者理解と家庭との連携	教科書4章7～11、5章を読み、予習・復習をする。
第8回 まとめと期末試験	これまでの復習をして試験に臨む。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。

積極的にグループワーク等に参加すること。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況（ミニット・ペーパーの内容、課題等）（40%）、及び期末試験（60%）により総合的に評価します。

期末試験・提出課題等については、授業中及び機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

〔子どもとかかわる人のための心理学〕〔沼山博・三浦主博〕〔萌文書林〕〔2, 200円〕

（1年次「発達心理学」で使用した教科書です。）

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕（2018年）／〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕（2018年）／〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕（2018年）

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

教育心理学

(30212)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（16＋29）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

植 松 公 威

■ 授業の概要

人間は独力で何かが可能になるためには、その前に他者からの援助によって共同の中で可能になっている必要があり、発達とは他者からの援助によって促進されることについて解説する。また、概念学習とは何か、どのように教材を作るかについて解説する。学習には大きく分けて有意味学習と機械的暗記学習があり、有意味学習の効果について理解できるように事例を交えて講義する。学ぶとは、情報を受け身的に受け取るのではなく、主体的、能動的に新しい知識構造を構成することであることを説明する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・①教育には社会的活動として「発達の最近接領域」を開き、子どもの発達を促す働きがあることを学ぶ。		0.2	0.4	0.2	0.2	
・②学習の転移と記憶を高めるためにはルールと事例をどのように学ぶのがよいかを理解する。						
・③有意味学習を実際に体験し、機械的暗記学習の学習観・知識観を批判できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス（授業内容と教育目標）	あらかじめシラバスを熟読すること。
第2回	ルール（法則）学習の長所について	「ルール学習」とは何か調べること。
第3回	ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」	過去の事例を思い出し、レポートすること。
第4回	ルール学習に関する授業記録－小学3年「金属ならば電気を通す」の授業－	子どもたちがどのようにルール（法則）と事例を学んでいるかを考えること。
第5回	概念学習における教材づくり	「さんかく」と「しかく」とは何か、どのように教えたらいいか考えること。
第6回	機械的暗記学習と有意味学習	オーズベルの定義を理解すること。
第7回	有意味学習の事例－ルールによって意味を理解することの効果－	有意味学習の特徴を理解すること。
第8回	機械的暗記学習の学習観・知識観を有意味学習の観点から批判する	学習や知識に関する今までの見方・考え方を転換できるように深く考えること。
第9回	期末試験	よくノートや資料を見直した上で全体の要点を論述すること。

■ 履修上の注意

毎回、ミニットペーパーに感想やわかったこと、わからなかったことを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題（20％）、期末試験（80％）。レポート課題や期末試験についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

授業の前にプリントを配布する。

■ 参考書

授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考

質問等についてはミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ、説明します。また、授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して、質疑応答をすることも可能です。

子ども家庭支援の心理学

(30213)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

子ども家庭支援の心理学では、発達心理学及び臨床心理学の知見を踏まえて、生涯発達の観点から乳幼児期だけにとどまらず、生涯の発達課題を学ぶ。さらに、乳幼児期から高齢期に至るまでの心身の発達と、それを支える家庭、児童福祉施設等、地域や社会という環境の在り方について学ぶ。

また、保育・要保護対応などの実務経験を基に、保育現場での実体験などの講話を多く取り入れる。具体的な事例をあげ、グループ・ワークを行い、子どもと家庭を包括的に捉える視点の習得を図るようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達課題について理解する。		0.2	0.6		0.2	
・家族・家庭の意義や機能を理解する。						
・発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。						
・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。						
・子どもの精神保健とその課題について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション（子ども家庭支援の心理学とは）	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回	乳児期の発達とその特徴	愛着形成について深く理解する。
第3回	幼児期の発達とその特徴	ピアジェの発達理論について理解する。
第4回	学童期の発達とその特徴	小1プロブレム・中1ギャップについて考える。
第5回	思春期から青年期の発達の特徴	エリクソンの発達課題について理解する。
第6回	成人期から高齢期の発達の特徴	サクセスフル・エイジングについて考える。
第7回	家族システムと家族発達	生態学的システム理論について理解する。
第8回	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達	虐待の世代連鎖について考える。
第9回	子育て環境の社会状況の変化	ワーク・ライフ・バランスについて考える。
第10回	多様な子育て家庭への支援	ワンオペ育児が与える影響について理解する。
第11回	特別な配慮を必要とする家庭への支援	外国籍の子どもの事例検討。
第12回	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康	レジリエンスについて深く理解する。
第13回	子どもの心と健康	まばたきが多い子の事例検討。
第14回	障害のある子どもの理解と対応	発達障害を抱える子どもの事例検討。 期末試験に向けた模擬課題を提出。
第15回	災害と子ども	自分にかけてあげたい言葉ミニレポート。 期末試験に向けた模擬課題の内容を理解する。
第16回	期末試験	試験解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック 内容を確認し、復習する。

■ 履修上の注意

授業での取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ等）を重視します。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（グループワークでの積極的参加、発言、質問など）（40%）、期末試験（筆記試験）（60%）により総合評価します。課題については、授業中にフィードバックします。提出されたレポートについては、後日添削して返却します。試験については、模擬課題の際に具体的に振り返りながら解説することでフィードバックします。

■ 教科書

適宜、授業前に関係資料を配布します。

■ 参考書

適宜、授業中に参考書の紹介を行います。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

教育・保育相談

(30214)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

現代では、子どもや保護者・地域などからの相談に応じることができる資質が求められている。保護者からの相談、子どもの問いかけ、保護者同士の相談に対応できる教育・保育相談の基本的な知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付けることができるようにする。

保育園・放課後児童クラブ・要保護児童・子育て支援等、行政での実務経験を基に、具体的な事例を通してグループ・ワークやロールプレイを多く取り入れ、実際の相談業務について理解できるように配慮する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育現場（幼稚園等）における教育・保育相談の意義と理論を理解する。	0.4			0.2	0.2	0.2
・教育・保育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。						
・教育・保育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。						
・教育・保育相談の具体的な進め方やポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回	教育・保育相談に関わる心理学の理論と方法	相談業務の基礎となる質問力について学ぶ。
第3回	保護者との関係づくり	連絡帳を使用し、保護者に伝える方法を学ぶ。
第4回	保護者支援の背景にある要因	ジェノグラムを用いた相談記録方法を理解する。
第5回	いまの保育が求められる背景	多様化している保護者と子育て環境について理解する。
第6回	保育の環境構成を生かした支援	保育環境を活用した保護者への伝え方を考える。
第7回	地域の資源の活用と関係諸機関との連携	母子保健や子育て支援センターなど関係機関との連携について事例を通して学ぶ。
第8回	地域子育て支援における保育相談支援	子育てひろばにおける保護者の相談支援について学ぶ。
第9回	養育力向上を目指した支援	事例についてアセスメントする作業を行う。
第10回	保育者同士の関係を改善するための支援	子どものけがをめぐる保護者同士のトラブル解決に向けて事例検討を行う。
第11回	苦情対応から始まる支援	保護者からの苦情に対する対応について学ぶ。
第12回	障がいのある子どもをもつ保護者への支援	合理的配慮を意識した支援方法について学ぶ。
第13回	要保護児童の家庭に対する支援	要保護児童を発見した場合の事例検討を行う。
第14回	乳児院・母子生活支援施設等における支援	身近な自治体の社会資源を調べる。 期末試験に向けた模擬課題を提出。
第15回	家族や家庭への効果的な関りやサポート	家族レジリエンスについて学ぶ。 期末試験に向けた模擬課題の内容を理解する。
第16回	期末試験	試験解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。

■ 履修上の注意

授業の取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ、ロールプレイでの積極的参加等）を重視します。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度（発言、質問、グループワーク、ロールプレイでの積極的参加など）（40%）、期末試験（筆記試験）（60%）により総合評価します。課題については、授業中にフィードバックします。提出されたレポートについては、後日添削して返却します。試験については、模擬課題の際に具体的に振り返りながら解説することでフィードバックします。

■ 教科書

授業前に適宜、資料を配布します。

■ 参考書

適宜、授業中に紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子どもの保健

(30215)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

千葉明子

■ 授業の概要

「子どもの保健」では子どもの身体発育や生理機能の特性・発達、健康状態とその把握、疾病とその予防・対応など 保育における保健的対応に必要な 基礎的事項を解説する。

大人のミニチュアではない様々な可能性を持つ子ども、身体的・精神的に未熟な存在 一人ひとりを把握しつつ同時に集団全体とどうかかわればよいか 総合的な理解ができるよう説明する。小児科医としての日々の診療のなかで感じる実践活動に必要な十分な知識を身につけられるようお伝えする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの心身の健康と保健の意義を理解する	0.1		0.5	0.1	0.1	0.2
・子どもの身体的発育・発達と保健について理解する						
・心身の健康状態と把握方法， 疾病と予防， 保護者・関連機関を含む適切な対応について理解する						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	子どもの保健（総論、理想の保育者）	各自の理想とする保育者像を考える
第2回	子どもの心と体の健康と保健の意義	教科書(p.1-14)を熟読し問題意識を持つ
第3回	地域における保健活動と子どもの虐待防止	〃 (p.15-23)、授業・小テストの復習
第4回	子どもの発育・発達と保健	〃 (p.24-39)、授業・小テストの復習
第5回	生理機能・感覚器・精神機能の発達	〃 (p.39-55)、授業・小テストの復習
第6回	発育・発達の把握と健康診断， 保護者との情報共有	〃 (p.56-75)、授業・小テストの復習
第7回	子どもの健康状態の観察と体調のよくない子どもへの対応	〃 (p.76-90)、授業・小テストの復習
第8回	子どものかかりやすい感染症	〃 (p.91-111)、授業・小テストの復習
第9回	感染症の予防と対応， 予防接種	〃 (p.111-121)、授業・小テストの復習
第10回	学校感染症， アレルギー総論	〃 (p.121-128)、授業・小テストの復習
第11回	アレルギー疾患と適切な対応	〃 (p.129-145)、授業・小テストの復習
第12回	その他の病気	〃 (p.146-153)、授業・小テストの復習
第13回	先天異常	〃 (p.153-157)、授業・小テストの復習
第14回	保育における保健	〃 (p.158-164)、授業・小テストの復習
第15回	まとめ、ワークシート	〃 (p.171-182)、授業・小テストの復習
第16回	期末試験（持ち込み不可）	今までの学習内容を振り返り、理解を深めておく。

■ 履修上の注意

体調管理に留意し講義に出席、やむを得ない場合早期に遅刻・欠課届を提出すること。受講態度重視します。

■ 成績評価方法・基準

平常点 60％ 平常点は 出席率、欠課・遅刻届の提出、教科書の音読など授業への参加、私語を慎む 等、毎回行う小テストの成績（カンニング不可）等で総合的に判断

学期末試験 40%

小テストや期末試験については、後日フィードバックします。

■ 教科書

〔これだけはおさえて！保育者のための子どもの保健〕〔創成社〕〔2, 200円〕

■ 参考書

使用しない（授業でプリントを配布）

■ 備考

小テストは採点し翌週返却、解答は当日配布するプリントに記載、誤答が多かった問題は解説する。必要な知識の定着に向け繰り返し学習すること。質問等は 授業終了時 オフィスアワーで受け付ける。

子どもの食と栄養Ⅰ

(30216)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（20＋25）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

菊 地 香保里

■ 授業の概要

子どもの食生活は、健全な発育・発達に影響するばかりか将来の生活習慣病に関連があると近年報告されている。乳幼児期は味覚や食嗜好の基礎が形成され、将来の食習慣に影響を与える。管理栄養士かつ保育現場の経験により、「保育者は、生涯を通じた健康維持増進という長期的視点で食育を行い、適切な食事を好ましい環境のもとで提供しなければならないこと」を伝える。自らの食生活を振り返り、望ましい食生活はどうあるべきか、「食べる」という当たり前の行為から感性を磨き、豊かな生活が送れる実践者、指導者となれる人材を目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・栄養バランスのとれた食事摂取方法が身につく。	0.3		0.5		0.2	
・生涯発達をふまえ、胎児期、乳児期の子どもの食を理解できる。						
・調乳ができる。						
・発達に応じた離乳食を提供できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス：小児の栄養と食生活の意義	教科書を読み、理解しておく。（第1、2章）
第2回 栄養に関する基礎知識①栄養の基本的概念	教科書を読み、理解しておく。（第3章）
第3回 栄養に関する基礎知識②栄養素の種類と機能	教科書を読み、理解しておく。（第3章）
第4回 栄養に関する基礎知識③食事構成に関する基礎知識	教科書を読み、理解しておく。（第3章）
第5回 学齢期・思春期の食生活	教科書を読み、理解しておく。（第6章）
第6回 生涯発達と食生活一妊娠（胎児）期・産婦（授乳）期	教科書を読み、理解しておく。（第7章）
第7回 乳児期の食生活	教科書を読み、理解しておく。（第4章）
第8回 実習①調乳	レポート次回提出
第9回 実習②離乳の意義とその実践 離乳食 主食	教科書を読み、理解しておく。（第4章、第2部実践編）
第10回 実習③離乳の意義とその実践 離乳食 副食	レポート次回提出、期末試験に向けた復習をしておく。
第11回 期末試験	期末試験に向け、配布資料、及び教科書を見直し、復習をしておく。

■ 履修上の注意

私語は慎む。質問は積極的に行う。

■ 成績評価方法・基準

平常点30%（授業態度、課題などの取り組み）、レポート20%、期末試験50%の総合評価 課題・期末試験について授業中にフィードバックする。

■ 教科書

〔子どもの食生活―栄養・食育・保育― 第6版〕〔上田玲子編者〕〔ななみ書房〕〔2,400円（税別）〕 電子書籍も可

■ 参考書

なし

■ 備考

調理実習では基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗いなど衛生面をしっかりと認識して取り組むこと。）

質問等については、授業終了時に受け付ける。

子どもの食と栄養Ⅱ

(30217)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（20＋25）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

菊 地 香保里

■ 授業の概要

子どもの食生活は、健全な発育・発達に影響するばかりか将来の生活習慣病に関連があると近年報告されている。乳幼児期は味覚や食嗜好の基礎が形成され、将来の食習慣に影響を与える。管理栄養士かつ保育現場の経験により、「保育者は、生涯を通じた健康維持増進という長期的視点で食育を行い、適切な食事を好ましい環境のもとで提供しなければならないこと」を伝える。自らの食生活を振り返り、望ましい食生活はどうあるべきか、「食べる」という当たり前の行為から感性を磨き、豊かな生活が送れる実践者、指導者となれる人材を目指す。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・食育の意義を理解できる。	0.3		0.5		0.2	
・家庭、保育所、児童福祉施設の食事と栄養を理解できる。						
・幼児期の栄養バランスのとれた食事、間食を作ることができる。						
・幼児期の行事食を作ることができる。						
・特別な配慮を要する子どもの食事と栄養を理解できる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス：幼児期の食生活①	教科書を読み、理解しておく。（第5章、第2部実践編幼児期）
第2回	幼児期の食生活②及び、栄養に関する基礎知識④食事摂取基準と献立作成・調理の基本	教科書を読み、理解しておく。（第3、5章）
第3回	実習④ 幼児期の日常食 主食	レポート次回提出
第4回	実習⑤ 幼児期の日常食 副食、おやつ	レポート次回提出
第5回	実習⑥ 幼児期の行事食	レポート次回提出
第6回	実習⑦ 幼児期の行事食 副食、おやつ	レポート次回提出
第7回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	教科書を読み、理解しておく。（第8章）
第8回	家庭や児童福祉施設における食生活	教科書を読み、理解しておく。（第9章）
第9回	食育① 食を通して、子育てと子育てを支援する。食育実践実習	教科書を読み、理解しておく。（第10章）、食育課題次回提出。
第10回	食育② 食を通して、子育てと子育てを支援する。さまざまな施策。および科目のまとめ	教科書を読み、理解しておく。（第10章）、科目全体をふりかえり、再確認しておく。
第11回	期末試験	期末試験に向け、配布資料、及び教科書を見直し、復習しておく。

■ 履修上の注意

私語は慎む。

■ 成績評価方法・基準

平常点 30%（授業態度、課題などの取り組み）、レポート20%、期末試験50%の総合評価

課題・期末試験について授業中にフィードバックする。

■ 教科書

〔子どもの食生活―栄養・食育・保育― 第6版〕〔上田玲子編者〕〔ななみ書房〕〔2,400円（税別）〕 電子書籍も可

■ 参考書

なし

■ 備考

調理実習では基本的事項（服装、頭髮、爪、手洗いなど衛生面をしっかりと認識して取り組むこと。）

質問等については、授業終了時に受け付ける。

教育課程論

(30218)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（16＋29）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

山 沢 智 樹

■ 授業の概要

本講義では、教育課程に関する基礎的知識を教授し、幼児教育・保育における指導計画の意義と必要性を解説する。また、幼稚園教育要領の変遷、改訂ポイントを取り上げ、社会との関連を議論する。さらに教育課程の編成方法や、評価を反映させるカリキュラム・マネジメントの視点を教育課程経営の視点から解説する。また小学校との連携方法など、現代の教育課程の抱える課題と展望を踏まえつつ、グループ学習や発表等などの時間を設け学生同士で議論し合う中で、より望ましい教育課程とはどのようなものかを考えていきたい。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・1. 教育課程に関する基礎的な知識や考え方を習得する。	0.15	0.15	0.5		0.2	
・2. 幼稚園教育要領の変遷と内容を理解する。						
・3. 教育課程の編成方法と評価の意義を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	（事前）シラバスを確認し、学習内容を見通す。 （事後）配布資料を読む
第2回 教育課程・全体的な計画の役割と構成要素	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第3回 カリキュラム理論と種類	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第4回 教育課程・全体的な計画を編成するには	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第5回 幼稚園における長期の指導計画作成の実際	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第6回 保育所における長期の指導計画作成の実際	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第7回 行事活動・プロジェクト活動の指導方法・援助	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第8回 カリキュラム・マネジメントの意義と実際	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第9回 期末試験（レポートの作成）	（事前）期末試験に備えて授業での学習内容を復習しておく。 （事後）試験での出題箇所を講義資料で確認する。

■ 履修上の注意

- ・配布資料が多いので、ファイリング等して失くさないようにすること。
- ・毎回の課題の提出をもって出席と扱う。期限を過ぎてからの提出は、出席確認として受領するが、平常点としての「加算」はしない。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点（毎回の課題への取り組みと内容）50％、期末試験50％
 - ・毎回の課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
 - ・期末試験（レポート）については、解答例、出題意図等の解説を配布することでフィードバックとする。
- その他、詳細についてはオリエンテーションで説明する。

■ 教科書

適宜、プリントを配布する。

■ 参考書

〔保育白書2022年版〕〔全国保育団体連絡会・保育研究所編〕〔ちいさいなかま社〕〔2, 700円〕

〔子ども白書2022〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2, 800円〕
〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕
〔幼幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔350円〕
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省編〕〔フレーベル館〕〔320円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育の計画と評価

(30219)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高 橋 恵 美

■ 授業の概要

子ども理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉えると共に、長期及び短期の指導計画を作成する意義を理解することができるよう概説する。また、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして、子どもの姿、年齢ごとのねらいと内容の書き方を説明し、様々な場面（登園、好きな遊び、給食、排泄等）に応じた保育者の援助・配慮の書き方を学べるようにする。さらに、実際に指導計画（部分案、日案）を作成し、実践的な視点から保育計画の理解を深めることができるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育の計画及び評価について理解する。			0.4	0.2	0.2	0.2
・指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。						
・子ども理解に基づく保育の過程について、その全体構造を捉え、理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション・保育用語の小テスト	保育用語を習得する（漢字・内容の理解）
第2回	指導計画（教育課程・全体的な計画）の理解	保育用語を習得する（漢字・内容の理解）
第3回	長期・短期の指導計画の実際とその意義	保育用語を習得する（漢字・内容の理解）
第4回	デイリープログラムについて	デイリープログラムを書き写す（課題）
第5回	指導計画の実際①：子どもの姿・ねらい・内容の書き方	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第6回	指導計画の実際②：環境の構成の書き方	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第7回	指導計画の実際③：予想される子どもの姿を考える（グループワーク）	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第8回	指導計画の実際④：保育者の援助・配慮について	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第9回	指導計画の実際⑤：幼児（3・4・5歳児）の姿（登園・遊び）	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第10回	指導計画の実際⑥：幼児（3・4・5歳児）の姿（集まり・給食）	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第11回	指導計画の実際⑦：乳児（0・1・2歳児）の姿（登園・遊び）	指導案（部分）を作成する（課題）
第12回	指導計画の実際⑧：乳児（0・1・2歳児）の姿（授乳・食事）	指導案ワークシートを毎回見直し、書き方を理解する
第13回	指導計画の実際⑨：指導案（課題）の解説 幼児（3・4・5歳児）の姿の振り返り	指導案についての解説を基に正しい書き方を復習する
第14回	指導計画の実際⑩：乳児（0・1・2歳児）の姿（排泄・睡眠）	指導案（部分）を作成する（課題）
第15回	指導計画の実際⑪：降園／保育の実践と評価・ICTを活用した指導計画の実際	指導案（全日）を作成する（課題）
第16回	期末試験	授業内容を総復習し理解を深める

■ 履修上の注意

保育士資格取得の必修科目。自分で指導計画を立案できる力が身に付くことを目指すため、授業の出席及び提出課題を重視する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点50％（レポート、小テスト、参加態度、グループワークでのリーダーシップ等）、期末試験50％により総合的に評価する。
- ・課題、期末試験については、後日添削し返却する。

■ 教科書

〔教育・保育課程・保育の計画と評価〕 〔岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正〕 〔萌文書林〕 〔1, 900円〕

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容総論

(30220)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高 橋 恵 美

■ 授業の概要

保育の全体構造と保育内容（5領域）について理解すると共に、子どもの主体性を尊重する保育、環境を通して行う保育、生活や遊びによる総合的な保育等、保育の基本を踏まえた保育内容の展開の仕方について、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして概説する。また、0歳児から5歳児までの各発達段階における子どもの姿や特徴（運動、知覚・認知、対人関係・言語、生活習慣等）をまとめ、それぞれの実態に即した具体的な保育の展開について、実際の遊びを通して理解を深められるようにしていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育（幼稚園・保育所・認定こども園）の全体的な構造を理解する。		0.1	0.4	0.2	0.2	0.1
・保育内容の基本的な考え方（5領域）について理解する。						
・子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の解説書にあらかじめ、目を通しておく。
第2回	保育内容とは何か①：幼稚園教育要領と保育内容5領域について	教科書第1章の範囲を予習・復習する
第3回	保育内容とは何か②：保育所保育指針と保育内容	教科書第1章の範囲を予習・復習する
第4回	保育内容とは何か③：認定こども園教育・保育要領と保育内容	教科書第1章の範囲を予習・復習する
第5回	現代社会における保育の課題（少子化、子育て支援、小学校との連携）	現代社会における様々な保育の課題についてノートを見直し、理解する。
第6回	保育内容の歴史の変遷	教科書13章の範囲を予習・復習する
第7回	0歳児の生活と保育内容	教科書6章の範囲を予習・復習する
第8回	1歳児の生活と保育内容	教科書7章の範囲を予習・復習する
第9回	2歳児の生活と保育内容	教科書8章の範囲を予習・復習する
第10回	3歳児の生活と保育内容	教科書9章の範囲を予習・復習する
第11回	4歳児の生活と保育内容	教科書10章の範囲を予習・復習する
第12回	5歳児の生活と保育内容	教科書11章の範囲を予習・復習する
第13回	遊びを通して5領域を考える①：計画・準備	5領域振り返りシートを作成し発表の準備をする
第14回	遊びを通して5領域を考える②：実践（グループワーク）	5領域振り返りシートを作成し発表の準備をする
第15回	遊びを通して5領域を考える②：発表（グループワーク）・まとめ	5領域振り返りシートを作成し発表の準備をする
第16回	期末試験	授業内容を総復習し理解を深める

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点60％（レポート、小テスト、グループワークの参加態度・リーダーシップ等）、期末試験40％により総合的に評価する。
- ・提出課題は添削し、後日返却する。期末試験は、ポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

〔子どもと共に学び合う演習・保育内容総論〕〔井上孝之・奥山優佳・山崎敦子〕〔みらい〕〔2,000円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育内容（健康）

(30221)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

橋 浦 孝 明

■ 授業の概要

保育内容・領域「健康」のねらい・内容について、グループワークなどで考察することで理解を深めてもらい、保育内容・領域「健康」の視点を開くこと、また、保育の映像などを用いたグループワーク（対話）を通して、保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて何を感じ、どうしようと考えているのかなどの体験していることを捉えとともに、保育に当たって保育者が留意、配慮すべき事項を考察し理解することを目指します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「健康」のねらい及び内容を理解する。		0.1	0.4	0.2	0.2	0.1
・保育所保育指針に示された保育所の役割、3つの視点、領域「健康」のねらい及びを理解する。						
・保育内容・領域「健康」を視点にして、指導計画（案）の作成方法の概略を理解し、教材への理解を深める。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション、授業の枠組みの理解	本講義の内容・枠組み等を理解する。
第2回 健康の定義の理解と保育・教育の環境の理解	保育所保育指針等で領域「健康」が書かれている箇所を確認しておき、授業後整理しておく
第3回 乳児期の3つの視点について	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておき、授業後整理しておく
第4回 保育内容・領域「健康」の1歳以上3歳未満児のねらいについて	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておき、授業後整理しておく
第5回 保育内容・領域「健康」の1歳以上3歳未満児の内容について	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておき、授業後整理しておく
第6回 保育内容・領域「健康」の3歳以上児のねらいについて	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておき、授業後整理しておく
第7回 保育内容・領域「健康」の3歳以上児の内容について	事前に該当箇所を読み、わからない言葉などを確認しておき、授業後整理しておく
第8回 子どもの身体機能の発達	事前に身体との出会い、身体的発達について考え、授業後整理しておく
第9回 子どもの心の発達	事前に心の発達について考え、授業後整理しておく
第10回 子どもの基本的な生活習慣について	事前に基本的な生活習慣について考え、授業後整理しておく
第11回 安全管理と安全教育について①（リスクとハザード）	事前に安全管理（リスクとハザード）について考え、授業後整理しておく
第12回 安全管理と安全教育について②（園環境と地域環境）	事前に交通安全や防災について考え、授業後整理しておく
第13回 模擬保育①（計画）	各年齢の発達過程の特徴を整理しておく。どのような遊びがあるのか調べておく。
第14回 模擬保育②（実践）	事前に準備、打合せ、実践をしておく。
第15回 模擬保育③（振り返り）	実践を振り返り、今後の課題を見つける。
第16回 期末試験（レポート試験）	今までの授業内容を復習して試験に臨む

■ 履修上の注意

アクティブ・ラーニング（リアクションペーパー／グループワーク／模擬実践など）による授業展開を行います。積極的な参加・傾聴・受容・共感・非審判的態度でのぞんでください。・快適な学習環境を維持するよう受講生同士でマナーを遵守してください。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（リアクションペーパー／グループワーク／模擬実践など）：40％ 期末試験：60％ 期末試験は終了後にフィードバックします。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。受講者の理解度により、授業内容の進行に変更があります。

保育内容（人間関係）

(30222)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて、具体的な子どもの姿から、年齢ごとの発達の特徴を理解し、周囲の人たちとの関係を深めながら人間関係が広がっていくことを理解できるようにする。また、子どもの心身の発達と人とのかかわりの発達について具体的事例を見つめながら学習を深め、様々な場面を想定して保育を展開できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解できる	0.2	0.1	0.2	0.5		
・幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解できる						
・乳幼児期の人間関係の発達について、園生活における関係発達の視点から理解できる						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション・5領域のなかの「人間関係」の位置づけについて	前期学修の見直しを立てる
第2回	領域「人間関係」とは？：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」から	それぞれの解説書にあらかじめ目を通しておく
第3回	誕生から6歳までの人とのかかわり発達（1）：0歳児の人とのかかわり	0歳児の月齢ごとの発達段階における人とのかかわりについて、ノートやプリントを見直して理解する。
第4回	誕生から6歳までの人とのかかわり発達（2）：1～2歳児の人とのかかわり	1歳から2歳までの各発達段階における人とのかかわりについて、ノートやプリントを見直して理解する。
第5回	誕生から6歳までの人とのかかわり発達（3）：3～6歳児の人とのかかわり	3歳から6歳までの各発達段階における人とのかかわりについて、ノートやプリントを見直して理解する。
第6回	遊びの中で育つ人とのかかわり：保育における遊びの大切さ・遊びと仲間関係・トラブルの場面から	様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第7回	友だちとの関わり（1）：仲間関係の芽生え	子どもの発達段階について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第8回	友だちとの関わり（2）：子ども集団の育ち	子どもの発達段階について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第9回	気になる子どもとのかかわり	主に発達障害について調べ、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第10回	小学校・地域とのかかわり	自分の身の回りの教育に関する社会資源を調べ、理解を深める。
第11回	保護者とのかかわり	様々な具体的な場面における人間関係について、ノートやプリントを整理し、理解を深める。
第12回	領域「人間関係」に関する教材研究と情報機器の活用	あらかじめテキストに目を通してくる。
第13回	領域「人間関係」に関する模擬保育①	事前に模擬保育のアイデアを収集し、計画立案できるようにしておく。
第14回	領域「人間関係」に関する模擬保育②	事前に模擬保育のアイデアを収集し、計画立案できるようにしておく。
第15回	まとめ	ノートやプリントを整理して振り返る
第16回	期末試験（レポートによる）	今まで学んだことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験（レポートによる）を通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講態度）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み：積極的なグループワークへの参加や発言など（60％）、期末試験（レポート）や提出物（40％）により総合的に評価する。期末試験（レポートによる）については、添削して返却し、フィードバックする。

■ 教科書

〔人間関係ワークブック〕〔田村美由紀・室井佑美 著〕〔萌文書林〕〔1,800円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説書〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕／〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

保育内容（環境）

(30223)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高 橋 恵 美

■ 授業の概要

領域「環境」について、乳幼児の環境とのかかわりの実際について概説し、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育者の援助の在り方について概説する。また、五感を使って体感することを重視し、秋の自然物を使って製作したり、バッタやコオロギ等の虫を捕まえて観察したりする経験から保育者に必要な感性を磨く機会を設ける。さらに、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして、具体的な環境構成の仕方について説明し、指導計画における環境構成の書き方や保育実践の展開の仕方について概説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・領域「環境」のねらいと内容を理解する。		0.1	0.4	0.2	0.2	0.1
・乳幼児の環境とのかかわりと保育者の援助の在り方について理解する。						
・環境構成や保育実践の展開の仕方について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：保育内容「環境」とは	指針、要領解説書の領域「環境」の頁に目を通しておく
第2回	保育の基本と保育内容「環境」	指針、要領解説書の領域「環境」の頁に目を通しておく
第3回	領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(1)（秋の虫飼育・観察①）フィールドワーク・グループワーク	秋の虫について調べたことをまとめる
第4回	領域「環境」の内容を体感する：身近な自然物とのかかわり(2)（秋の虫飼育・観察②）グループワーク・情報機器の活用	情報機器を活用し、レポートを作成する
第5回	領域「環境」の内容を体感する：身近な物とのかかわり（お散歩バッグ製作）	配布資料を読み予習・復習をする
第6回	領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(1)（散歩）フィールドワーク・グループワーク	配布資料を読み予習・復習をする
第7回	領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(2)（ドキュメンテーション記録作成）情報機器の活用	配布資料を読み予習・復習をする
第8回	領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(3)（自然物を使った製作・ディスカッション）	自然物を使った作品を準備する
第9回	環境構成について(1)：魅力的な環境構成とは 口頭発表：テーマを決め調べたことを発表する	環境構成について学んだことを整理し、ノートやプリントを見直して復習する 口頭発表の準備をする
第10回	環境構成について(2)：保育室内の環境構成 口頭発表：テーマを決め調べたことを発表する	環境構成について学んだことを整理し、ノートやプリントを見直して復習する 口頭発表の準備をする
第11回	環境構成について(3)：人的環境構成 口頭発表：テーマを決め調べたことを発表する	環境構成について学んだことを整理し、ノートやプリントを見直して復習する 口頭発表の準備をする
第12回	環境構成について(3)：指導計画の環境構成・準備物の書き方・人的環境について	指導案に環境構成を記入し、提出する
第13回	領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(4)（クリスマスツリー製作）	クリスマスツリーを各自仕上げる
第14回	領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(5)（すごろく①）	すごろくを各自仕上げる 冬の遊びについて調べたことをまとめる
第15回	領域「環境」の内容を体感する：季節感を取り入れた保育(7)（豆まき）	環境構成のポイントを整理する
第16回	期末試験	授業内容を総復習し理解を深める

■ 履修上の注意

教職に関する専門教科の一つであり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のための必修科目である。授業への取り組み（受講

態度)を重視する。

■ 成績評価方法・基準

- ・平常点60% (レポート、リアクションペーパー、フィールドワークの参加態度、グループワークでのリーダーシップ等)
- ・期末試験40% により総合的に評価する。
- ・提出課題は添削し、後日返却する。期末試験 (レポート) は、ポイント解説を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書

プリントを授業前に配布する。

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

天候等により、授業計画の順番を変更することがあります。

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー (曜日、時間は掲示で確認) に受け付けます。

保育内容（言葉）

（ 30224 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

佐 藤 深 雪

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程及び、保育士養成課程の必修科目である。幼稚園・保育所・認定こども園での保育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身につける。また、担当者の小学校教諭の経験を活かして、グループワークや発表を通して授業を行っていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育の基本を踏まえ、「言葉」の領域のねらい及び内容を理解する。			0.2	0.4	0.2	0.2
・保育内容「言葉」の領域に関する理論（言葉の意義、発達など）を理解する。						
・領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法（絵本、紙芝居などの保育教材の扱い方）を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション・言葉の意義	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回	幼稚園教育要領・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」	教育要領を読み、授業内容の予習復習を行う。
第3回	保育所保育指針・こども園教育保育教育要領の領域「言葉」	保育指針を読み、授業内容の予習復習を行う。
第4回	乳幼児の言葉の発達①（3歳未満児）	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第5回	乳幼児の言葉の発達②（3歳以上児）	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第6回	乳幼児期の言葉の発達に応じた指導と援助	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第7回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校との接続	要領・指針を読み、授業内容の予習復習を行う。
第8回	言葉に関する遊びや児童文化財と指導計画	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第9回	言葉に関する遊びを取り入れた模擬保育と情報機器の活用	模擬保育の準備をし、振り返りを行う。
第10回	児童文化財に関する教材研究と模擬保育①（紙芝居①） 紙芝居の成り立ちと扱い方	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第11回	児童文化財に関する教材研究と模擬保育②（紙芝居②） 模擬保育「紙芝居」	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第12回	児童文化財に関する教材研究と模擬保育③（絵本①） 絵本読み聞かせの方法と活動案の作成	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第13回	児童文化財に関する教材研究と模擬保育④（絵本②） 絵本読み聞かせの模擬授業	読み聞かせの教材を準備し、記録を記入する。
第14回	保育現場において必要な言葉に関する援助や配慮 （言葉の障がいや異文化理解）	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第15回	まとめと振り返り	配布プリントを読み、授業内容の予習復習を行う。
第16回	期末試験	これまでの配布プリントを読み、試験に向けての復習を行う。

■ 履修上の注意

演習科目のため、実践的な活動に対して積極的に取り組むこと。
授業の内容は、シラバスの授業計画と前後することがあります。

■ 成績評価方法・基準

模擬授業等への取り組みの状況（20％）、期末試験（50％）、及び提出課題（活動案・絵本リスト等）（30％）により総合的に評価します。提出課題等については授業中に、期末試験の結果は、後日紙面でフィードバックします。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文科省〕〔フレーベル館〕〔286円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚労省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

授業前にプリント配布

■ 参考書

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付けます。

保育内容（表現Ⅰ）

（ 30225 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

武 田 早 苗

■ 授業の概要

各要領及び指針の解説を読み、領域「表現（造形）」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児が表現した作品や具体的な表現の様子の映像などから、発達の過程における特徴的な表現の形やその理論を理解する。領域「表現」に関わる具体的な場面を想定した保育を構想し、製作したパネルシアターを使った模擬保育に取り組み、保育者としての実践力を身に付ける。

この授業においては、小学校教諭並びに実務家教員としての経験を活かし、幼児教育と小学校教育との接続をより密接なものにするためのアプローチについても指導していく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・各領域および指針に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。			0.4	0.2	0.2	0.2
・領域「表現」に関する理論を理解する。						
・領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。						
・領域「表現」に関わる具体的な指導方法を想定した保育を実践する力を身に付ける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・オリエンテーション（シラバスに基づいた授業の概要と留意点） ・領域「表現（造形）」のねらいと内容及び他領域との関連	領域「表現（造形）」に関する理論を他領域との関連について理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第2回	・子どもの発達と造形表現 （乳幼児期から学童期に至る表現のプロセス）	造形表現における子どもの発達の過程について理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第3回	・子どもの表現を支える基本的な知識・技能① （「遊び」から生まれる造形表現）	造形活動を通して得た気付きや理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第4回	・子どもの表現を支える基本的な知識・技能② （道具の特性を生かした造形表現）	造形活動を通して得た気付きや理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第5回	・子どもの表現を支える基本的な知識・技能③ （材料の特性を生かした造形表現）	造形活動を通して得た気付きや理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第6回	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に示された「豊かな感性と表現」と小学校教育とのつながり	小学校教育と幼児教育の接続の重要性について理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第7回	・造形表現活動に関する教材研究① （表現の豊かさや深まりを促す環境構成と保育者の関わり・作品試作）	表現を深めるための手立てや保育者の関わり方について理解したことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第8回	・造形表現活動に関する教材研究② （作品の試作と活動計画の作成）	教材研究を通して把握した改善点を活動計画にまとめ、提出する。
第9回	・造形表現活動に関する教材研究③ （模擬保育の実践と改善）	模擬保育を通して把握した工夫点・改善点についてミニットペーパーにまとめ、提出する。
第10回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育① （パネルシアター製作第1次）	パネルシアターでの表現について、方法や手順について製作カードを作成し、提出する。
第11回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育② （パネルシアター製作第2次）	表現活動について改善点を明らかにして製作カードに追記し、提出する。
第12回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育③ （パネルシアター製作第3次）	表現活動について改善点を明らかにして製作カードに追記し、提出する。
第13回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育④ （パネルシアター製作第4次）	表現活動について改善点を明らかにして製作カードに追記し、提出する。
第14回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育⑤	パネルシアターの演じ方について気付きや改善点

	(パネルシアターを使った表現の演習)	などを製作カードに追記し、提出する。
第15回	・総合的な表現に関する教材研究と模擬保育⑥ (グループ内プレ発表：パネルシアター鑑賞とディスカッションを 通した表現の深化)	発表後の気付きや感想、今後に活かしたいことなどをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第16回	・期末試験 (パネルシアター発表)	学習全体の振り返りと今後の展望についてレポートにまとめる。

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目です。授業の取組を重視します。準備物については、その都度事前に連絡します。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度（取り組みに対する意欲、ミニットペーパー、製作カード等の記述内容等）60％、模擬保育の実践やパネルシアター等の製作物、レポート、及び期末試験（パネルシアター発表）40％を総合的に判断し評価します。ルーブリック評価については1回目の授業で説明します。提出課題については授業中に、期末試験（パネルシアター発表）については終了後にフィードバックします。

■ 教科書

授業前に必要なプリントを配付します。

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

都合により授業計画を変更する場合があります。質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。

保育内容（表現Ⅱ）

（ 30226 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：必修 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

阿 部 陽 子

■ 授業の概要

領域「表現」のねらい及び内容について解説し、子どもの音楽的表現の発達を理解できるようにする。これらを学ぶには音楽的な基礎知識を身につけていることが必要となるため、授業の前半は楽典について指導し、正しく読譜ができるようにする。さらにピアノⅠの授業と連携し、和音についても解説する。また、毎時間子どもの歌を取り上げ、歌唱法も身につくように授業を進める。授業の後半では、実際の保育を想定した指導計画の立て方を指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・基礎的な音楽理論を理解し楽譜を正しく読むことができる。			0.4	0.2	0.2	0.2
・子どもの歌を正しい発声で歌うことができる。						
・領域「表現」について理解し、実際の指導場面を想定した計画の仕方を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、保育内容「表現」について／歌唱法（春の歌）	到達目標の確認をする。「表現」について復習をする。
第2回	読譜に必要な基礎知識・音名／子どもと音楽表現／歌唱法（春の歌）	音名、音楽表現について復習する。
第3回	読譜に必要な基礎知識・音符と休符／子どもの音楽的表現の発達／歌唱法（夏の歌）	音符と休符、子どもの音楽的表現の発達について復習する。
第4回	読譜に必要な基礎知識・拍子とリズム／子どもの遊びと音楽表現／歌唱法（夏の歌）	拍子とリズム、子どもの遊びと音楽表現について復習する。
第5回	読譜に必要な基礎知識・調／歌唱法（秋の歌）	調について復習する。
第6回	読譜に必要な基礎知識・和音／歌唱法（秋の歌）	和音について復習する。
第7回	読譜に必要な基礎知識・奏法に関する記号①／歌唱法（冬の歌）	奏法の記号について復習する。
第8回	読譜に必要な基礎知識・奏法に関する記号②／子どもの声と歌唱表現の発達／歌唱法（冬の歌）	奏法の記号、声と歌唱表現の発達について復習する。
第9回	子どもの歌と歴史／歌唱法（わらべうた、遊び歌）	子どもの歌と歴史について復習する。
第10回	音楽遊びの指導計画／歌唱法（わらべうた、遊び歌）	音楽遊びの指導計画について復習する。
第11回	音楽遊びの指導計画／歌唱法（生活の歌）	音楽遊びの指導計画を立てる。
第12回	歌唱活動の指導計画／歌唱法と歌唱指導	歌唱活動の指導計画について復習する。
第13回	歌唱活動の指導計画／歌唱法と歌唱指導の流れ	歌唱活動の指導計画を立てる。歌唱指導の流れを復習する。
第14回	歌唱活動の指導計画	歌唱活動の指導計画を立てる。
第15回	振り返りとまとめ	本授業を振り返り、内容を整理する。
第16回	期末試験	授業全体を復習し理解を深める。

■ 履修上の注意

積極的に授業に臨むこと。授業への取り組み方（受講態度・課題提出）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

期末試験の内容40％と受講態度60％（授業の中で提示した課題や、表現活動に対する取り組み方を総合的に判断する。）期末試験の結果は添削して後日返却する。

■ 教科書

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,760円〕、その他、授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

〔音楽の基礎知識〕（無料で配布する）

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問は授業終了後やオフィスアワーで受け付ける。

子どもと健康

(30227)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

橋 浦 孝 明

■ 授業の概要

幼稚園教育要領に示された保育内容・領域「健康」、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された3つの視点及び保育内容・領域「健康」の「ねらい」及び「内容」について、領域に関する専門的事項に関する知識を背景にしながら、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学び（遊び）が実現する過程を踏まえて具体的な指導場면을想定して教育・保育を構想する方法をグループワークや模擬保育を通して身に付けることを目指します。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領領域「健康」のねらい及び内容を理解する。		0.1	0.1	0.2	0.4	0.2
・乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場면을想定して保育を構想する方法を身に付ける。						
・乳幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション、授業の枠組みの理解	本講義の内容・枠組み等を理解する。
第2回	保育内容・領域「健康」のねらい・内容の理解	保育内容（健康）の授業内容を予習復習しておく。
第3回	乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点①（「多様な動きと遊び」「基本的な生活習慣の形成（食事、排泄、睡眠、着脱、清潔）」）	保育内容（健康）の授業内容を予習復習しておく。
第4回	乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点②（「健康に対する指導」「安全管理・危機管理と各種訓練」）	保育内容（健康）の授業内容を予習復習しておく。
第5回	伝えるということ	実習時などの実際の子どもの姿などをよく思い出し、整理しておく。授業後、授業内容を整理しておく。
第6回	小学校の教科等とのつながり（「幼児の終わりまでに育てたい姿」「教科：体育（運動遊び、レクリエーション）」・模擬保育①（グループ分け）	レクリエーションの言葉の意味を調べておく。授業後、授業内容を整理しておく。
第7回	模擬保育②（指導計画（案）作成）	事前に準備、打合せ、実践をしておくこと。
第8回	模擬保育③（実践）	事前に準備、打合せ、実践をしておくこと。
第9回	模擬保育④（振り返り）	事前に準備、打合せをしておくこと。
第10回	模擬保育⑤（全体振り返り）	指導計画（案）提出
第11回	期末試験（レポート試験）	今までの授業内容を復習して試験に臨む

■ 履修上の注意

アクティブ・ラーニング（リアクションペーパー／グループワーク／模擬実践など）による授業展開を行います。積極的な参加・傾聴・受容・共感・非審判的態度でのぞんでください。・快適な学習環境を維持するよう受講生同士でマナーを遵守してください。

■ 成績評価方法・基準

指導案の提出：25％、模擬保育の実践：25％、期末試験：50％ 期末試験は終了後にフィードバックします。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。受講者の理解度により、授業内容の進行に変更があります。

子どもと人間関係

(30228)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（15＋30）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

子育て支援に関する政策の必要性が社会に広く認識されつつある。そこで、現代の幼児を取り巻く人間関係の特徴について説明し、その上で幼児期の人間関係の発達について、その発達段階から概説し、その上で主にケースワークを使って現代の子どもを取り巻く人間関係の問題について解説をしていく。保育場面で応用できるような事例を多く使い、保育のイメージがわきやすいようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・領域「人間関係」の指導の基盤となる、幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付ける。	0.2		0.1		0.5	0.2
・子どもの発達と人間関係の変化を知ること、最善の援助について考える。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：保育内容「人間関係」とは	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る。
第2回 子どもを取り巻く人間関係について	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第3回 幼稚園や保育所、こども園で保育者に求められるもの	自分の保育観をあらかじめまとめておくこと
第4回 子どもの発達と人間関係：子ども同士で育て合う	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第5回 子どもの発達と人間関係：保護者とともに育てる	人間関係の発達過程について自分で調べる
第6回 子どもの発達と人間関係：親がつながる子育て支援①	保育所の役割について自分で調べる
第7回 子どもの発達と人間関係：親がつながる子育て支援②	子育て支援について自分で調べる
第8回 子どもの発達と人間関係：地域における子育て支援	子育て支援に関する社会資源を自分で調べる
第9回 0～2歳児とのかかわり：集団を作る教材とその取り上げ方	0～2歳児の発達過程を調べておく
第10回 3～5歳児とのかかわり：集団を作る教材とその取り上げ方	3～5歳児の発達過程を調べておく
第11回 保育者に求められる援助の視点：自立に向けて	子どもの自立についてあらかじめテキストに目を通しておく
第12回 保育者に求められる援助の視点：協同に向けて	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第13回 保育場面での気になる子どもへのかかわり：ケース①	主に発達障害について自分で調べる
第14回 保育場面での気になる子どもへのかかわり：ケース②	前回の授業内容を復習すること
第15回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める
第16回 期末試験（レポートによる）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験を通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

ケーススタディが中心となってくるので、関連のあるデータや事例などを事前に調べた上で、授業に臨んでもらいたい。

■ 成績評価方法・基準

平常点（50％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業の中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。期末試験は添削して返却する。

■ 教科書

テキスト

授業前にプリント及び資料を配布する

■ 参考書

参考書・参考資料等

〔幼稚園教育要領開設〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕，〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕，〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔総務省・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

子どもと環境

(30229)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（22＋23）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

岡 崎 善 治

■ 授業の概要

子どもを取り巻く望ましい環境を踏まえ、発達の基礎を養うために必要な環境作りについて理論的に学び、領域「環境」のねらいと内容を様々な体験を通して理解できるようにする。保育現場での実務家教員としての経験を生かし、春と夏の草花調べ、泥だんごづくり、花と夏野菜の栽培等、季節感を意識した活動を取り入れ、その時期ならではの自然に触れる。また、春と夏の壁面製作をすることで保育室内を季節感をもった環境を作り、それを「体感する」ことによって、保育者に必要な豊かな感性を育む。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・領域「環境」のねらいと内容について体験を通して理解する。			0.2	0.2	0.2	0.4
・保育実践における保育内容「環境」の指導のあり方を理解する。						
・自然に触れ、五感を使うことで豊かな感性を養う。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	シラバスを通読し今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第2回	身近な自然物を取り入れた保育① 「春の花調べ」 身近な自然物を取り入れた保育② 「春の雑草調べ」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第3回	身近な自然物を取り入れた保育③ 「夏の花調べ」 身近な自然物を取り入れた保育④ 「夏の雑草調べ」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第4回	身近な自然物を取り入れた保育⑤ 「夏野菜と花の栽培・観察① 土づくり」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第5回	身近な自然物を取り入れた保育⑥ 「夏野菜と花の栽培・観察② 植栽」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第6回	春の製作 「3・4・5月の壁面製作」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第7回	夏の製作 「6・7・8月の壁面製作」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第8回	身近な自然物を取り入れた保育⑦ 「泥だんごづくり① 個人製作」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第9回	身近な自然物を取り入れた保育⑧ 「泥だんごづくり② 共同製作」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第10回	身近な自然物を取り入れた保育⑨ 「夏野菜と花の栽培・観察③ 収穫」	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第11回	学修のまとめ・後始末	学んだことを振り返る。 提出物（課題）を仕上げ提出する。
第12回	期末試験（レポートによる）	期末試験（レポート課題）のテーマについて、11回分の授業内容を踏まえ熟考し提出する。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・課題提出等（40%）、提出課題（40%）、期末試験：レポート課題（20%）により総合的に評価します。

※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、随時フィードバックします。
期末試験（レポート課題）については、後日フィードバックします。

■ 教科書

教科書は使用しません。各授業で適宜、授業資料を配布します。

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕
〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕
〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

天候により、授業計画の順番は入れ替わる場合があります。
栽培観察は可能な限り、毎回一定の時間使って行います。
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子どもと言葉

(30230)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

前 正七生

■ 授業の概要

幼稚園教育要領（幼保連携型認定こども園教育・保育要領）に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる領域に関する専門的知識を参照し理解を深化させつつ、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学び（遊び）が実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定し、教育・保育を構想する方法を身に付ける。また、保育所保育指針に明示されている「3つのかかわりの視点」から「五領域」に連なる保育の内容について、特に「領域「言葉」のねらいと内容から、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについての「方法」を具体的に学ぶ。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。			0.2	0.4	0.2	0.2
・指導計画の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導計画案を作成することができる。						
・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。						
・乳幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	introduction ― 領域「言葉」とは何か ― 幼稚園教育（幼保連携型認定こども園）の基本 領域「言葉」の全体構造を理解する①（領域の構造）	・シラバスおよび教育要領の領域「言葉」の箇所に一通り目を通しておく ・領域「言葉」の全体像構造を復習する
第2回	乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点 （①「きく」「話す」ことの経験や自分の思いの共有とその援助と方法） （②自分の経験を伝える楽しさや「伝え合うこと」の意義とその援助と方法）	・自分の乳幼児期における言葉の発達に関する経験を家族等に聞いておく ・ここまでの内容と教育要領、領域「言葉」の対応を確認しておく
第3回	小学校の教科等とのつながり（「幼児の終わりまでに育てたい姿」 「教科：国語（書くこと、文字による伝え合いにつながる援助の方法）」	・小学校で国語を習い始めた時期の経験を各自思い出ししておく（家族に尋ねるのも良い） ・授業内容を参考に自分が受けてきた教育課程を整理して理解する
第4回	教育課程（全体的な計画）と指導計画（長期・短期）の構造と指導計画	・保育現場における評価について自分の経験とこれまでの学習を統合して自分なりに考えておく ・授業内容を参考に自分が受けてきた評価を整理して理解する
第5回	領域「言葉」における指導の特性（「絵本等、児童文化財に関する指導法」と「きく、話す、読む」ことを通しての思考に繋がる経験とその方法）	・絵本や紙芝居等の児童文化財を用いた保育についての自身の経験を思い出しておく ・授業内容を参考に自分の経験を再解釈して理解を深める
第6回	教材研究に対する評価、指導計画の作成および評価	・自分なりに絵本などの児童文化財を選んで教材研究の構想を練っておく ・授業内容を参考に教材研究・指導計画の作成を進める
第7回	指導計画の作成と模擬保育の実践とリフレクション（振り返り）1	・模擬保育の準備、練習を重ねる。 ・リフレクションも参考にして模擬保育の理解を深める
第8回	指導計画の作成と模擬保育の実践とリフレクション（振り返り）2	・模擬保育の準備、練習を重ねる。 ・リフレクションも参考にして模擬保育の理解を深める。 ・領域言葉の指導計画について作成、具体的、実

第9回 リフレクション（期末試験と評価：レポート）	実践的に構想する。 ・作成し、実践した指導計画を授業内で指摘した観点・視点から見直し、自らの保育について修正をおこなう。 ・領域言葉に関する保育内容や指導計画の必然と意味についてレポートでまとめる。
----------------------------------	---

■ 履修上の注意

試験はなく、各回授業の中で少しずつ成績評価対象の課題が出る。集中講義のため各回の課題や取り組み、リアクションペーパーなど随時配布・回収する。絵本をはじめ児童文化財について事前に「研究」しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

授業内における貢献度、リアクション・ペーパー、小課題をもとに総合的に評価する。

＜評価基準＞ 授業内における貢献度（模擬保育等の取り組みや積極的な発言）（20％）、リアクション・ペーパー（30％）、領域言葉の「指導計画」作成30％ 期末試験（小レポート 20％）

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

■ 備考

質問等は授業終了時および授業の合間で受け付ける。

子どもと音楽表現

(30231)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

阿 部 陽 子

■ 授業の概要

「保育内容（表現Ⅱ）」で学習した内容をもとに、領域「表現」のねらいと内容について理解を深める。さらに、実際の音楽指導場面を想定して指導計画を立て、保育を展開できるようにする。また、音遊び・楽器遊びについて解説し、様々な楽器の種類や演奏法について指導する。学生が自らの感性に気づき、磨くことを目的とし、詞や音からイメージを広げる活動を実施する。保育で行われる様々な音楽表現活動についても解説する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの音楽表現の特徴を理解する。			0.4	0.2	0.2	0.2
・子どもの音楽表現を支援する方法を身につける。						
・様々な音楽表現活動の指導法を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、乳幼児の音楽的発達	乳幼児の発達について復習する。
第2回	指導計画の作成（発達に応じた選曲、教材研究）	指導計画を立てる。
第3回	指導計画の作成（イメージ、導入法、指導法）	指導計画を立て、模擬保育の準備をする。
第4回	模擬保育の実践（歌唱活動）	模擬保育の内容を踏まえ問題点を明らかにする。
第5回	模擬保育の実践（歌唱以外の音楽活動）	模擬保育の内容を踏まえ復習する。
第6回	音遊び・楽器遊びによる音楽表現と歌唱表現	楽器遊びと歌唱表現について復習する。
第7回	様々な楽器の種類と扱いについて	楽器の名称を覚える。
第8回	打楽器の演奏法	打楽器の演奏法を復習し、次回の課題曲の詞の意味を調べる。
第9回	歌詞からイメージを広げる	課題の詞のイメージを広げる。
第10回	音、メロディからイメージを広げる	挙げたイメージを絵に描く。
第11回	様々な音楽活動（オルフの音楽教育）	オルフについて復習する。
第12回	様々な音楽活動（オルフ楽器）	オルフ楽器について復習する。
第13回	様々な音楽活動（ダルクローズの音楽教育）	ダルクローズについて復習する。
第14回	様々な音楽活動（リトミック）	リトミックについて復習する。
第15回	振り返りとまとめ	本授業を振り返り、内容を整理する。
第16回	期末試験	授業全体を復習し理解を深める。

■ 履修上の注意

積極的に授業に臨むこと。授業への取り組み方（受講態度・課題提出）を重視する。

■ 成績評価方法・基準

期末試験の内容40％と受講態度60％（授業の中で提示した課題や、表現活動に対する取り組み方を総合的に判断する。）期末試験の結果は添削して後日返却する。

■ 教科書

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1,760円〕、その他、授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚生省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問は授業終了後やオフィスアワーで受けつける。

子どもと造形表現

(30232)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（22＋23）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

武 田 早 苗

■ 授業の概要

保育における領域「表現」の造形活動について、講義と制作を通して実践的に学ぶ。遊びの中から様々な表現につながっていく幼児の表現の特徴について理解し、実践を想定したグループ活動や模擬保育などを行い造形活動体験を増やしていくとともに、活動の振り返りを重視し、子どもの造形表現に対する理解を深め、具体的な支援や援助の在り方を考察して保育者としての実践力を高める。

この授業においては、小学校教諭並びに実務家教員の経験を活かして幅広い視点から子どもの造形表現について考える。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育における領域「表現」の造形活動の目的・内容を把握し、幼児の表現の特徴について理解を深める。			0.4	0.2	0.2	0.2
・保育現場において必要とされる基礎的な知識・技能を身に付け、子どもの発達や成長に即した造形活動への実践力や応用力を身に付ける。						
・子どもの表現意欲を促す環境構成や安全・安心して活動できるための配慮などについて実践を通して理解する。						
・子どもの表現を豊かにする適切な支援・援助について、実践の省察と改善を通して保育者としての資質向上を目指す。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	・オリエンテーション（シラバスに基づいた授業の概要と留意点） ・未分化な幼児の表現の特徴	幼児の表現の特徴について、授業を通して理解できたことをミニットペーパーにまとめ、提出する。
第2回	・造形表現1（遊びから広がる造形表現の理解）	実践事例から表現活動の可能性について探り、ミニットペーパーにまとめ、提出する。
第3回	・造形表現2（遊びから広がる造形表現の実際と基本的な技能）	実際に表現活動を行い、気付きや感想をミニットペーパーにまとめ、提出する。
第4回	・造形表現3（描画：描画画材による造形表現の実際と基本的な技能）	授業を振り返り、描画画材の可能性についての気付きや感想をミニットペーパーにまとめ、提出する。
第5回	・造形表現4（工作：紙による造形表現の実際と基本的な技能）	授業を振り返り、工作による表現の良さや子どもの発達との関連について、気付いたことや感想をミニットペーパーにまとめ、提出する。
第6回	・造形表現5（立体：粘土による造形表現の実際と基本的な技能）	授業を振り返り、粘土による表現の良さや子どもの発達との関連について、気付いたことや感想をミニットペーパーにまとめ、提出する。
第7回	・造形表現6（鑑賞：対話型鑑賞活動の実際）	授業を振り返り、対話型鑑賞の良さや子どもの表現に及ぼす影響などについて、気付いたことや感想をミニットペーパーにまとめ、提出する。
第8回	・模擬保育1（模擬保育試作）	模擬保育で取り上げる造形活動についての構想を製作カードにまとめ、提出する。
第9回	・模擬保育2（活動計画の作成）	模擬保育で取り上げる造形活動についての計画を製作カードにまとめ、提出する。
第10回	・模擬保育3（活動計画の検討・再構築）	模擬保育で取り上げる造形活動の計画を検討・再計画した内容を製作カードに加筆し、提出する。
第11回	・模擬保育4（グループ発表：活動計画の検討・再構築）	グループ内での発表を通して見えた課題や改善点について製作カードに加筆し、提出する。
第12回	・模擬保育5（期末試験：模擬保育の実践）	学習全体の振り返りと今後の展望についてレポートにまとめ、提出する。

■ 履修上の注意

保育士資格及び幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目です。授業の取組を重視します。保育現場での実践をイメージし

て主体的に取り組むこと。準備物については、その都度事前に連絡します。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度（取り組みに対する意欲，ミニットペーパー，製作カード等の記述内容等）60%，製作物及び期末試験（模擬保育実践とレポート）40%を総合的に判断し評価します。ルーブリック評価については1回目の授業で説明します。提出課題などについては添削後授業中に、期末試験（模擬保育実践発表）については終了後にフィードバックします。

■ 教科書

授業前に必要なプリントを配付します。

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

都合により授業計画を変更する場合があります。質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。

教育・保育方法論

(30233)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

岡崎 善治 松尾 広

■ 授業の概要

前半は幼児教育・保育の方法に関する基礎的な理論や概念、視点を確認し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質能力を育成するために必要な教育の方法を学ぶ。その方法として、保育現場での勤務経験をもつ実務家教員により、幼児教育・保育を行う上での基礎的な技術を具体的事例から解説し、毎回の授業内容における課題やグループディスカッション・発表を通して、教育・保育方法に対して知見を広げられるようにする。後半は教育をコミュニケーションによる学習活動としてとらえ、視聴覚的なコミュニケーションの意義、視聴覚教材・機器の特徴について解説し、視聴覚教材の制作を通して理解を深めるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・教育・保育方法の基礎的な理論と実践を理解する。	0.1		0.5	0.2		0.2
・教育・保育方法のための指導技術を理解し、身に付ける。						
・視聴覚的なコミュニケーションの意義と視聴覚機器の特徴を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	教育・保育方法とは何か [岡崎]	シラバスを通読し、今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第2回	幼児教育・保育方法の歴史（1） 明治期・大正期・昭和期 [岡崎]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第3回	幼児教育・保育方法の歴史（2） 昭和期・平成期 [岡崎]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第4回	幼児教育・保育の方法（3） 原理と基本理念 [岡崎]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第5回	幼児教育・保育の方法（4） 子ども主体の保育実践 [岡崎]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第6回	個と集団への援助の仕方と幼児理解に基づく評価 [岡崎]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。 これまでの課題を振り返り、テスト勉強をする。
第7回	第1回～第6回までのまとめ（小テスト） [岡崎] 小テストの見直し [岡崎]	テスト問題の復習をする。 本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第8回	幼児教育・保育の技術（1） 基本・ことばかけ [岡崎]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第9回	幼児教育・保育の技術（2） 個別対応 [岡崎]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第10回	幼児教育・保育の技術（3） 集団対応 [岡崎]	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第11回	幼児教育・保育の技術（4） グループディスカッション [岡崎]	各々の問題意識を持ち寄ってくる。 グループ発表に向けての準備をする。
第12回	幼児教育・保育の技術（5） グループディスカッション・発表準備・練習 [岡崎]	グループ発表に向けての準備や練習をする。
第13回	幼児教育・保育の技術（6） グループ発表 [岡崎]	グループ毎に発表に向けての準備と事前練習をする。 発表の振り返りをする。
第14回	ICT機器の活用 [松尾]	事例に触れ、資料を読んで確認する。
第15回	視聴覚教材の制作 [松尾]	課題を制作し、提出する。
第16回	期末試験（レポートによる）	期末試験（レポート課題）のテーマについて、15回分の授業内容を踏まえ熟考し提出する。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出等）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・課題提出等（20％）、提出課題（30％）、小テスト（15％）、発表（15％）、期末試験（20％）により総合的に評価します。

※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、随時フィードバックします。

期末試験（レポート課題）については、後日フィードバックします。

■ 教科書

教科書は使用しません。各授業で適宜、授業資料・課題を配布します。

■ 参考書

必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

保育内容の指導法

(30234)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（16＋29）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高 橋 恵 美

■ 授業の概要

幼稚園教諭二種免許状取得のための必修科目である。幼稚園教育要領に基づき、「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」等の方法的特質と、5領域のねらい及び内容の関連について実践的に学び、指導計画を作成する力を身につけられるようにする。また、幼稚園教諭、保育士としての経験に基づいた様々な生活や遊びの場面（エピソード）から、可能な保育方法をグループで話し合い、共有することで、保育を展開していくための知識と技術の引き出しを増やせるようにしていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 幼児期の発達を踏まえ、幼稚園教育の方法的特質を理解する。		0.1	0.4	0.2	0.2	0.2
・ 様々な保育場面（エピソード）から、保育方法を考え、理解する。						
・ 幼稚園教育の指導計画の作成の仕方を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 幼稚園教育の基本・保育内容の指導法について	幼稚園教育要領の内容を復習しておく
第2回 エピソード①：園庭で見つけたダンゴムシ	エピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第3回 エピソード②：トラブルの場面	エピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第4回 エピソード③：片付け エピソード④：給食	エピソード（場面）ごとに、保育方法、保育者の援助・配慮の仕方等について、整理し、復習する
第5回 環境を通して行う教育	既習の授業内容（保育内容等）を確認する
第6回 遊びを通しての指導	既習の授業内容（保育内容等）を確認する
第7回 家庭・地域・小学校との連携のあり方 指導計画の立案	指導計画立案について、ポイントを整理し、復習するノートを見直し、復習する
第8回 総合的な保育活動・食育（グループワーク）	ノートを見直し、復習する
第9回 期末試験	授業内容を総復習し理解を深める

■ 履修上の注意

幼稚園教諭免許取得のための必修科目であるため、積極的に授業に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準

- ・ 平常点60％（レポート、リアクションペーパー、参加態度・グループワークでのリーダーシップ等）、期末試験40％により総合的に評価する。
- ・ 提出課題は添削し、後日返却する。
- ・ 期末試験は、試験終了後に解説をする。

■ 教科書

授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

保育の実技と演習

(30235)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（20＋25）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高 橋 恵 美

■ 授業の概要

授業の概要

①保育実習や保育実践に備えるために、テーマに沿って作成した指導計画をもとに模擬保育(手あそびを含め、エプロンシアター等の手作り教材を用いた保育実践)を行い、幼稚園教諭、保育士としての経験を生かして具体的な実践方法を伝える。②牛乳パックや新聞紙等、身近な素材を使って、実習で活用できる教材の製作方法を学び、実践する機会を設ける。③仲間との協同を学ぶために「ペープサート」を取り入れ、互いに協力しながら「題材選び、台本作り、製作、練習、実演(発表)」の一連の活動を経験できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・指導計画の作成について具体的に理解する。			0.2	0.4	0.2	0.2
・指導計画に沿った模擬保育やグループ活動により、保育者として必要な知識、技能を習得する。保育実践力を身につける。						
・既習の教科の内容やその関連を踏まえ、総合的な保育実践力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション・集団あそび	ジャンケンを用いたゲームを考える 手遊びを一人2つ考える
第2回	手遊びの実践・集団遊びの実践 ：情報機器の活用（手遊び集作成）	エプロンシアター実演の準備をする
第3回	児童文化財(エプロンシアター)を用いての実演①	エプロンシアター実演の準備をする
第4回	児童文化財(エプロンシアター)を用いての実演② 模擬保育に向けて保育指導計画(部分案)の作成・検討	模擬保育のための指導案を作成する
第5回	模擬保育①/指導計画のポイント	模擬保育のための指導案を作成する
第6回	模擬保育②/模擬保育（応答的な保育の実践）	模擬授業の評価・反省をする
第7回	スケッチブックシアター作成・実演	作成した教材を活用できるようにする
第8回	予想される子どもの姿を考える	予想される子どもの姿を各自まとめる
第9回	ペープサートを用いての実演・グループワーク①	ペープサート実演の準備をする
第10回	ペープサートを用いての実演・グループワーク②	学習内容をまとめる
第11回	期末試験	授業内容を総復習し実技の向上に努める

■ 履修上の注意

保育の技術や実践力を身につけるために積極的に授業に臨むこと。

書籍、インターネット等を利用して絶えず教材研究を重ねること。

■ 成績評価方法・基準

・平常点70%（授業への積極的参加・グループワークでのリーダーシップ等、レポートや製作物）、期末試験30%により総合的に評価する。

・指導案等の提出課題は添削して返却する。

■ 教科書

〔遊びが広がる 保育内容のアイディア〕〔西海聡子〕〔萌文書林〕〔1, 800円〕

■ 参考書

〔教育・保育課程論〕〔岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正〕〔萌文書林〕〔1, 900円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

児童文化

(30236)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

安 藤 倫 子

■ 授業の概要

フェルトや布地等、柔らかな素材を使った児童文化財の魅力を知り、自ら作成できるよう裁縫と手芸の技術を学ぶ。幼児の発達を踏まえ、各自が題材を選定、幼児の興味を引き出す仕掛けを取り入れた「手袋シアター」「エプロンシアター」を製作する。また、自分で作った作品を使い発表することで、2年生での実践に備える。担当者は保育士の経験を生かし、題材選定や仕掛け、楽曲の取り入れ方、発表の方法について個別に相談に応じる等きめ細やかな授業を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・布地を用いた製作過程の基礎を習得する。					0.5	0.3
・製作品に合わせた素材を選び、素材や用途に適した手法を理解する。					0.3	0.2
・幼児の発達過程や興味関心に考慮した製作、及び発表をする。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明 手袋シアター：担当者作成の題材の提示、選定 基礎縫い①：型紙、フェルト裁断、刺繍（バックステッチ、アウトラインステッチ等）	・手袋シアターの題材選定、オリジナルの場合はイメージ図を記入し次回提出及び確認 ・基礎縫い(刺繍等)仕上げ
第2回	手袋シアター：題材確認 基礎縫い②：刺繍（フラインステッチ、ブランケットステッチ、たてまつり等）	・基礎縫い(ピンクッション)仕上げ ・手袋シアターの型紙用意（オリジナルの場合）
第3回	手袋シアター①：型紙、フェルト裁断、顔の表情や模様等、刺繍、マジックテープを縫い付ける	・マスコット製作（1/4仕上げ）
第4回	手袋シアター②：マスコットに綿を入れて縫い合わせる エプロンシアター：題材選定、台本作成の説明（全員オリジナル）	・マスコット製作（1/2仕上げ） ・エプロンシアターの題材選定、イメージ図を記入し次回提出と確認
第5回	手袋シアター③：背景を縫い付け、トイクロスをつける エプロンシアター：イメージ図を基に個別確認	・マスコット製作（3/4仕上げ）
第6回	手袋シアター④：仕上げ、発表に備え練習する エプロンシアター：イメージ図を基に個別確認	・手袋シアター完成、次回の発表に備え台本暗記、動かし方の練習 (発表ポイント：対象者は幼児)
第7回	手袋シアター⑤：手袋シアター発表(作品カードに製作や発表の感想・他者の発表を見て気づいた事等記入し提出) エプロンシアター：製作で使用する材料について説明(エプロン以外の材料は各自購入)	・手袋シアターの修正、及び作品カード記入、次回提出 ・エプロンシアターの材料は各自準備。次回、布に型を写す作業から入れるよう実物大で型紙作成（コピーも可）
第8回	エプロンシアター①：フェルトや布地に型を写す、裁断 手袋シアター：作品や発表について個別に評価	・マスコット製作（1/5仕上げ）
第9回	エプロンシアター②：フェルトや布地を裁断、顔の表情や模様等を刺繍する	・マスコット製作（2/5仕上げ）
第10回	エプロンシアター③：模様等を刺繍、縫い合わせる	・マスコット製作（3/5仕上げ）
第11回	エプロンシアター④：綿を入れて縫い合わせる	・マスコット製作（4/5仕上げ）
第12回	エプロンシアター⑤：綿を入れて縫い合わせる、マジックテープを縫い付ける（ミシンも可）	・マスコット完成
第13回	エプロンシアター⑥：背景の型を布地やトイクロスに写し裁断、エプロンに縫い付ける（ミシンも可）	・背景製作（1/2仕上げ）
第14回	エプロンシアター⑦：背景等の仕上げ、台本を覚えて動かし方を練習する	・エプロンシアター完成、発表に備えて台本暗記、動かし方の練習 (発表ポイント：対象者は幼児)
第15回	エプロンシアター⑧：エプロンシアター発表(作品カードに製作や発表の感想・他者の発表を見て気づいた事等記入し提出)	エプロンシアターの修正、及び作品カードを記入、次週まで提出
第16回	期末試験（課題提出による）	手袋シアター、エプロンシアターの作成、授業時

間内で終わらない作業は自習し完成させる。発表及び提出を期末試験とみなし、プリントの試験は行わない。

■ 履修上の注意

毎時間、裁縫道具を持参。製作物と進度は個々に異なるので自ら質問し、製作過程を積極的に確認しながら丁寧に取り組むこと。説明と異なる手法での製作品は評価基準外とする。

材料費（手袋・エプロン代含む）3,500円。

■ 成績評価方法・基準

課題作品・提出物（60％）計画的に取り組む授業姿勢（自習を含む）（40％）

発表・課題作品について、授業の中でフィードバックし個人にコメントを付ける。

授業態度、授業中にできなかった作業の自習、完成作品を使った発表の仕方を期末試験の代替とし評価する。

■ 教科書

授業前にプリントを配布

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受付ける。

乳児保育 I

(30237)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専1年

授業形態：講義 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

嶺 岸 祐 子

■ 授業の概要

乳児保育の意義や理念、乳児保育の社会的な役割、保育施設の社会的な位置など保育者として現場視点から講義する。また3歳未満児の発達をとらえる視点、保育者の関わる姿勢、具体的な援助や支援の仕方、環境を工夫する術など保育の基本を解説する。

乳児保育が、子どもの『生きる力の基礎づくり』に繋がること、人を育てることの意義・保育の理念・目的から保育の実践に結びつけて、学生自身が考える時間を設け、学びを深められるように講義する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・乳児保育の現状と課題を踏まえた、意義・理念・役割について理解する。	0.15	0.15	0.25	0.15	0.15	0.15
・養護と教育の一体性や発達の連続性を理解する。						
・3歳未満児の発達を踏まえた基礎的な知識と保育内容について理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション：乳児保育とは何か	配布プリントを読み、授業内容・計画を理解する
第2回	乳児保育の目的と役割	P10 保育指針における乳児保育の目的を調べる
第3回	養護と教育の一体性について	P14 養護と教育、育みたい資質・能力を調べる
第4回	0, 1, 2歳児の発達（乳児の発達で重要なポイント）	P28 乳児保育で重要な愛着関係について調べる
第5回	乳児（0歳児）の保育内容について（0歳児の発達について）	P36 0歳児の発達の特徴や道筋を調べる
第6回	乳児（0歳児）の保育内容について（3つの視点について）	P40 3つの視点について調べる
第7回	1歳以上3歳未満児の保育内容（1歳・2歳児の発達について）	P52 1歳以上3歳未満児の5領域を調べる
第8回	1歳以上3歳未満児の保育内容（3つの視点から5領域とのつながり）	P62 図表5-1を読み5領域のねらいと内容の予習
第9回	乳児の生活と遊びの基本的事項（デューリープログラム）	P64 乳児保育における保育者の仕事を調べる
第10回	乳児期の健康で安全な生活環境とは	P76 健康・安全に必要な視点を調べる
第11回	乳児の生活の基本（食事・睡眠）	P83 離乳食について調べる
第12回	乳児の生活の基本（排泄・着脱・清潔）	P90 排泄の発達について調べる
第13回	乳児の遊び（身体的発達と遊びの発達）	P102 0・1・2歳児のあそびの発達を調べる
第14回	乳児保育の環境構成	P116 年齢ごとにどんな環境が必要か調べる
第15回	前期のまとめ	講義内容で大事なポイントを確認する
第16回	期末試験	今までの学習内容を振り返り、理解を深める

■ 履修上の注意

①授業への取り組み（授業態度：私語を慎む・積極的な質問・発言・レポート等課題提出）を重視。

②配布資料は、ファイルに綴じる。③教科書は事前に読んで予習しておくこと。

■ 成績評価方法・基準

講義の受講態度 20%（授業中に積極的に発言・発表するなどの参加態度・レポートの課題提出を含める）

期末試験 80%で総合的に評価します。

レポート・期末試験の結果は、後日フィードバックします。

■ 教科書

〔講義で学ぶ 乳児保育〕〔小山 朝子編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 参考書

〔演習で学ぶ 乳児保育〕〔善本 眞弓編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 備考

*授業内容については、都合により授業計画の内容や順番等を変更する場合があります。

*質問等は、毎授業終了後、またはレポートでも受け付けます。

乳児保育Ⅱ

(30238)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

嶺 岸 祐 子

■ 授業の概要

3歳未満児の発育・発達過程における特徴と、保育者の援助や関わり方の基本的な考え方や援助の方法を、個人差や発達の連続性の重要性をふまえ演習を通して講義する。

保育者の関わり方や援助について考え合い、どのような援助や関わりが必要かグループ討議後発表を行う。また子どもが主体的に遊ぶことが子どもの発達する力を伸ばし、その為にどのような環境が必要か演習を通して、学びを深める。

保育の計画を実際に作成し、具体的な遊びや保育環境を考えるなど、保育で活用する手遊びや絵本など取り入れ、実践に結びつくように授業を進める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・3歳未満児の発達を踏まえた保育者の援助や関わりの基本を学ぶ。	0.15	0.15	0.25	0.15	0.15	0.15
・3歳未満児の具体的な保育の方法や環境について理解する。						
・職員の連携及び保護者や関係機関との連携について認識する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	乳児保育の意義 前期試験の振り返り	演P14～主体性を保障するとは何か調べる
第2回	0歳児の発育・発達の特徴（0歳児向けの絵本を読む演習）	演P20 0歳児の絵本について調べ読む練習をする
第3回	1歳児の発育・発達の特徴（1歳児むけの手遊びの演習）	演P26 1歳児向けの手遊びを調べ練習する
第4回	2歳児の発育・発達の特徴（2歳児向けの集団遊びの演習）	演P28 2歳児向けの集団遊びを考える
第5回	3歳児の発育・発達の特徴（3歳児向けの運動遊びの演習）	演P31 3歳児向けの集団で遊ぶ運動遊びを考える
第6回	食事の援助と環境（だっこの仕方と離乳食の食べさせ方の演習）	演P36 食事の援助で大切な事を予習
第7回	排泄の援助と環境（おむつ交換の演習）	演P50 排泄の援助で大切な事を予習
第8回	睡眠・休息の援助と環境（おんぶの仕方の演習）	演P60 睡眠の援助で大切な事を予習
第9回	着脱に関する援助と環境（着脱の演習）	演P68 着脱の援助で大切な事を予習
第10回	清潔に関する援助と環境（子どもの援助に必要な実技の演習）	演P80 清潔の援助で大切な事を予習
第11回	乳児保育における健康と安全	演P90 読んで予習
第12回	乳児保育における保育の計画と評価について	講P124 演P120を読んで予習
第13回	乳児保育における指導計画の作成について（短期指導計画を立てる）	講P128 演P126を読んで予習
第14回	乳児保育を支える連携（子育て支援を含む）	講P134 演P130を読んで予習
第15回	後期のまとめ	講義内容で大事なポイントを確認する
第16回	期末試験	今までの学習内容を振り返り、理解を深める

■ 履修上の注意

- ①授業への取り組み（授業や演習での態度：私語を慎む・積極的に質問、発言をする・レポート等課題提出）を重視。
- ②配布資料やレポートはファイルに綴じておく。
- ③教科書を読んで下調べをしておく。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みの状況（授業や演習時の態度：私語を慎む・積極的に質問、発言をする）20％ レポート等の課題提出20％
期末試験60％により、総合的に評価します。課題、期末試験の結果については、後日フィードバックします。

■ 教科書

〔演習で学ぶ 乳児保育〕〔善本 眞弓編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 参考書

〔講義で学ぶ 乳児保育〕〔小山 朝子編著〕〔わかば社〕〔1600＋税〕

■ 備考

*授業内容については、都合により授業内容の順番等を変更する場合があります。

*質問等は、毎授業終了後、またはレポートでも受け付けます。

子どもの健康と安全

(30239)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

新 沼 映 子

■ 授業の概要

助産師として誕生の現場や乳児健診等において乳幼児と保護者に関わってきました。核家族化が進み、女性の就労も増えた現代において、保育施設での生活は子どもたちに大きな影響を与えると考えます。子どもの健康な育ちを支えるうえで望ましい環境（物的・人的）を理解し、必要な援助ができる技術や応用力を学び、実践できるようにします。また、多様性があることを念頭におき、職員間での連携、家庭・自治体・専門機関などとの地域における連携とその在り方を学びます。「子どもの保健」での学びを生かし、想像力をもって演習ができるようにします。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子どもの健康に関する観察力・判断力を学ぶことができる。		0.2	0.2		0.6	
・日常の養護の具体的な方法について学ぶことができ、計画や実施ができる。						
・事故やケガの予防を学び日常起こりうる症状やケガに対する手当を身に着けることができる。						
・保健活動における職員間の連携・協働、関係機関との連携を学ぶことができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	子どもの健康と安全「授業の進め方」と「評価方法と試験」の説明 子どもの健康と保育環境	教科書を読みこの授業で取り組む内容について知る。教科書p.1～5のポイントを理解する。子どもの観察のポイントをまとめて提出の準備をする。
第2回	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全の管理	教科書p.6～22をよく読み、体温、脈拍、呼吸数を測定してみる。体調不良時の対応をグループワークできるよう準備。
第3回	衛生管理 手洗い・吐物処理シュミレーション実習	教科書p.23～27。厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」をよく読みポイントをおさえる。
第4回	事故防止および安全対策 グループワーク	教科書p.28～49をよく読み理解しておく。参考書2〔東京都福祉保健局〕で事前学習（反転学習）。P.27～30の例を参考にグループワークできるよう準備しておく。
第5回	体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置	教科書p.50～59をよく読み手当ができるようにする。
第6回	救急処置および心肺蘇生法の実践	教科書p.60～72をよく読み実践を通して手当ができるようにする。
第7回	感染症の集団発生の予防 感染症発症時と罹患後の対応	教科書p.73～87をよく読み対応がわかるようにする。
第8回	保育活動における保健的対応（食事・調乳、口腔内の衛生、衣服の着せ方、外出時の注意）	教科書p.88～106の該当する部分をよく読みポイントを理解しておく。また、見学実習に入ったら、保育士はどのように保育しているか観察した結果をまとめる。まとめとして沐浴を一人ずつテストするので、反転学習しておく。
第9回	保育活動における保健的対応（抱っこ・おんぶ・寝かせ方、ベビーカー、自動車、自転車の乗せ方）	教科書p.88～106の該当する部分をよく読みポイントを理解しておく。また、見学実習に入ったら、保育士はどのように保育しているか観察した結果をまとめる。まとめとして沐浴を一人ずつテストするので、反転学習しておく。
第10回	保育活動における保健的対応（保清、沐浴・入浴、排泄のさせ方）	教科書p.88～106の該当する部分をよく読みポイントを理解しておく。また、見学実習に入ったら、保育士はどのように保育しているか観察した結果をまとめる。まとめとして沐浴を一人ずつテストするので、反転学習しておく。

第11回 個別的な配慮を要する子どもへの対応	教科書p. 107～116をよく読み対応ができるようにする。
第12回 障害をもつ子どもへの対応	教科書p. 117～130をよく読み対応ができるようにする。
第13回 保育における保健活動の計画および評価	教科書p. 131～137をよく読む。実習先において保健活動がどのように実践されているか確認する。
第14回 保健活動における職員間の連携・協働と関係機関との連携	教科書p. 138～最終をよく読み理解する。
第15回 まとめ	時間が足りなくなった部分の補習と質問
第16回 期末試験（筆記試験）	子どもの健康と安全からまんべんなく出題

■ 履修上の注意

授業に積極的に臨むこと、授業中の配布プリントをまとめ振りかえること。

■ 成績評価方法・基準

●期末試験 50% 試験終了後に振り返りポイントを提示します。 ●課題（レポート）提出15%（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。課題については授業中にフィードバックします） ●実技試験 20%（欠席した場合はレポート提出。ルーブリック評価については第1回目の授業で説明） ●授業態度 15%（授業への参加状況〔発言・質問・グループワークでのリーダーシップ等〕）で評価します。

■ 教科書

〔子どもの健康と安全演習ノート 改訂第2版〕〔小林美由紀〕〔診断と治療社〕〔2200円＋税〕

■ 参考書

1. 厚生労働省保育所における感染症対策ガイドライン [https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002mcip-att/2r9852000002mdgm.pdf]
2. 東京都福祉保健局 乳幼児の事故防止学習ソフト [https://www.fukushihoken.metro.tokyo.lg.jp/kodomo/shussan/nyuyoji/jikoboushi/jikoboushi_soft/index.html]
3. 厚生労働省保育所におけるアレルギー対応ガイドライン [https://www.mhlw.go.jp/content/000511242.pdf]
4. 授業前に配布プリントがあります。

■ 備考

質問等は授業終了時に受け付けます。

障害児保育

(30240)

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

障害児保育は、保育の内容・方法の理解のための科目である。近年、国民のすべてが障害の有無によって分け隔てられることなく、人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現することの重要性が広く認識されている。それは、保育現場においても同様で、障害の有無に関わらず、すべての子どもが健やかに発達していくことが求められている。そのため、保育者には、障害を持つ子どもの保育について必要な基礎的な知識・技術が必要とされる。そこで、ここでは、主にグループワークを通して、障害児保育の実践における基礎的な知識・技術を学ぶとともに、障害を持つ子どもに対する基本的な配慮事項についても理解できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・障害児保育に関する基礎的な知識・技術を身に付けることができる	0.5	0.1		0.1	0.1	0.2
・障害児保育の実践に関する基礎的な知識・技術を身に付けることができる						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション：「障害」について考えてみよう	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第2回 障害児保育の基本	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第3回 発達と障害	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第4回 障害児保育のあゆみ	障害児教育・保育の歴史について目を通して知る
第5回 肢体不自由の理解と援助	肢体不自由について自分で調べる
第6回 視覚障害の理解と援助	視覚障害について自分で調べる
第7回 聴覚障害の理解と援助	聴覚障害について自分で調べる
第8回 知的障害の理解と援助	知的障害について自分で調べる
第9回 発達障害の理解と援助（1）：自閉スペクトラム症	自閉症スペクトラム症について自分で調べる
第10回 発達障害の理解と援助（2）：ADHD/LD	ADHD/LDについて自分で調べる
第11回 配慮を必要とする子どもの理解と援助	障害を持つ子どもの心理について自分で調べる
第12回 基本的な生活習慣獲得の援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第13回 集団生活と遊びの援助	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第14回 保護者や家族への支援	子育て支援との関係について自分で調べる
第15回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める
第16回 期末試験（レポート）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験（レポート）を作成することを通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

グループワークが中心となってくるので、活発な意見交換を通して、お互いに啓発し合えるような、積極的な態度で授業に臨んで欲しい。

■ 成績評価方法・基準

平常点（50％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。期末試験（レポート）は添削して返却する。

■ 教科書

〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵 編〕〔みらい〕〔2, 300円〕

■ 参考書

授業の中で指示する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

特別支援教育

(30241)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（18＋27）
対象学科：子専2年
授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）
生活文化学科 子ども生活専攻科目
岡崎善治

■ 授業の概要

幼稚園教諭養成課程（教育の基礎的理解に関する科目）の必修科目である。幼稚園・認定こども園に在籍している発達障害や軽度知的障害等の様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児が、保育に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力の基礎を身に付けていくことができるよう、幼児の保育上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について、保育現場での勤務経験をもつ実務家教員が概説する。また、話し合いや発表を通して理解を深める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達を理解する。		0.25	0.5	0.25		
・特別の支援を必要とする幼児に対する教育課程や支援の方法を理解する。						
・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の保育上又は生活上の困難とその対応を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション	シラバスを通読し今後の学習内容を見通す。 配布資料や課題を確認し、本時の課題を提出期限までに提出する。
第2回	特別支援教育（インクルーシブ教育）に関する制度の理念や仕組み	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第3回	障害児の理解と支援①（身体障害）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第4回	障害児の理解と支援②（知的障害）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第5回	障害児の理解と支援③（発達障害）	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第6回	特別支援教育に関する教育課程の理解	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第7回	個別の指導計画及び個別的教育支援計画作成の意義と方法	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第8回	特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭との連携による支援	本時の課題をし、提出期限までに提出する。
第9回	障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の保育上又は生活上の困難とその対応	本時の課題をし、提出期限までに提出する。 期末試験勉強をする。
第10回	学修のまとめ 期末試験	これまでの課題の振り返りと期末試験結果の確認をする。

■ 履修上の注意

授業への取り組み（受講態度・課題提出等）を重視します。課題の提出期限は厳守です。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・課題提出等（40％）、提出課題（30％）、期末試験（30％）により総合的に評価します。

※すべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については随時、期末試験の結果については試験終了後フィードバックします。

■ 教科書

教科書は使用しません。授業資料・課題を適宜配布します。

■ 参考書

必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

社会的養護Ⅱ

(30242)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（20＋25）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子

■ 授業の概要

社会的養護は、子どもの権利擁護を基本とし、子どもの安全・安心な生活を守ることや心的ケアあるいは自立支援を目標において展開されている。この中で保育者に期待される社会的役割や必要とされる基礎的知識を理解する。

また、施設養護や家庭養護の具体的な内容や実践について学ぶことにより、施設保育士の職務内容が多岐にわたることを理解する。要保護児童対策地域協議会での実務経験を活かし、児童虐待の現状を伝え、施設実習における具体的な基礎的専門知識・技術の習得を目指す。さらに、構成的グループエンカウターの体験を通し、対人援助について学びを深める。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・社会的養護の実践に関する基礎知識・技術を身に付ける。				0.5	0.3	0.2
・社会的養護の中で保育士に求められている社会的な役割を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	当該科目の授業内容・計画について理解する。
第2回 現代の児童問題	学習内容を復習し、理解を深める。
第3回 児童養護の理念と施設養護の原則	学習内容を復習し、理解を深める。
第4回 施設養護の内容と実際	施設養護の概要を知り、適切な役割を学ぶ。
第5回 乳児院における養護の実際	施設実習に向けて具体的な職務内容を知る。
第6回 母子生活支援施設における養護の実際	施設実習に向けて具体的な職務内容を知る。
第7回 児童養護施設における養護の実際	施設実習に向けて具体的な支援方法を知る。
第8回 児童自立支援施設における養護の実際	施設実習に向けて具体的な職務内容を知る。
第9回 障害者通所施設における養護の実際	施設実習に向けて具体的な支援方法を知る。 期末試験の内容について解説を聞き、理解を深める。
第10回 今後の社会的養護の課題と展望	学習内容を振り返り、さらに理解を深める。
第11回 期末試験	試験解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。

■ 履修上の注意

授業への取り組みでは、課題提出の期限は厳守します。受講態度では、授業への参加状況（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ、構成的グループエンカウターの積極的な参加等）を重視します。

■ 成績評価方法・基準

構成的グループエンカウターなどの積極的な取り組みや、授業内で出される課題への取り組み状況などの授業への取り組み態度（50%）、期末試験（筆記試験）（50%）で総合的に評価します。課題や試験の結果は機会を設けてフィードバックします。

■ 教科書

適宜、授業中に関係資料を配布します。

■ 参考書

適宜、授業中に参考書の紹介をします。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

子育て支援

(30243)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（20＋25）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

近年、日本の子育ての環境は、児童虐待や子育て不安、子どもの貧困などの問題が顕在化し、子育てがしやすい社会ではないことが広く認識されつつある。このような社会状況での子育ては、親にとって大変難しいものとなっており、親だけでなく、社会全体で子育てを支えることが必要であるとされている。それに伴い、保育者にも子育て支援の中核的な役割を担うことが期待されている。そこで、本授業では、保育者として保育現場で子育て支援を行う基礎的な知識・技術を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・子育て環境の現状や保育者の役割について理解している	0.1	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1
・子育て支援のねらい及び内容を理解している						
・子育て支援の基礎的な知識及び技術を理解している						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション	授業の内容を把握し、今後の授業計画について知る
第2回 保育実践における子育て支援	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第3回 保育者の専門性と倫理	自分の保育観について考えてみる
第4回 保育者の支援ニーズへの気づきと多面的な理解	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第5回 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会・場の提供	自分の身の回りの社会資源について調べてくる
第6回 子ども・保護者の状況・状態の把握と養育力向上	学習内容を復習し、分からなかったところを把握する
第7回 保育所等を利用している保護者への支援	保育所の機能について自分で調べてくる
第8回 地域の保護者への支援	子育て支援にかかわる身近な社会資源について自分で調べてくる
第9回 障害・発達上の課題のある子どもとその保護者への支援	障害児保育を復習してくる
第10回 まとめ	今までの学習内容を振り返り、さらに理解を深める
第11回 期末試験（レポート）	今まで学習したことについて、自分でまとめて振り返り、期末試験（レポート）を通して、課題を発見する。

■ 履修上の注意

ケーススタディが中心となってくるので、関連のあるデータや事例などを事前に調べた上で、授業に臨んでもらいたい。

■ 成績評価方法・基準

平常点（50％）、期末試験（50％）で総合的に評価する。平常点については、授業中に発表したりするなどの積極的な授業への参加態度を高く評価する。期末試験（レポート）は添削して返却する。

■ 教科書

教科書 〔演習・保育と子育て支援〕 〔小原敏郎/橋本好市/三浦主博 編〕 〔みらい〕 〔2200円〕

■ 参考書

授業の中で適宜紹介する

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーに受け付ける。

ピアノⅠ

(30244)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

阿 部 陽 子 阿 部 玲 子 渡 邉 恵 大 友 詠里子

■ 授業の概要

保育者に必要なピアノの基礎演奏技術を習得できるよう実技指導を行う。ピアノ教本を使用し、音楽理論、読譜、運指等も理解できるように授業を進める。子どもの歌の教材を使用し、歌唱法、弾き歌いについても指導する。また、子どもの歌に多いハ長調、ト長調、ヘ長調、ニ長調のスリーコード（主要三和音）を身につけた上で、子どもの歌に簡易伴奏をつけて弾き歌いできるようにする。基本的には個別に指導し、その際は一人一人の技術や進度に合わせて授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ピアノ演奏の基礎的な技術を身に付ける。			0.5	0.25		0.25
・初歩的な弾き歌いができるようになる。						
・音楽の基礎知識をもとに簡易伴奏法を身に付ける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス／ピアノ曲を弾く	到達目標、進度目標の確認をする。 課題を練習する。
第2回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.6～22） スリーコード（主要三和音）を用いた簡易伴奏法について	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 簡易伴奏について復習する。コード名と和音の構成音を覚える。
第3回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.24～34） ハ長調、ト長調のスリーコード	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 ハ長調、ト長調のスリーコードの復習をする。 ヘ長調、ニ長調のスリーコードの予習をする。
第4回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.36～46） ヘ長調、ニ長調のスリーコード	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 ヘ長調、ニ長調のスリーコードの復習をする。
第5回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.48～54） 両手伴奏による簡易伴奏（ハ長調・ト長調）	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 両手伴奏（ハ長調・ト長調）の復習をする。
第6回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.56～62） 両手伴奏による簡易伴奏（ヘ長調・ニ長調）	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 両手伴奏（ヘ長調・ニ長調）の復習をする。
第7回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.65～71） 左手伴奏による簡易伴奏（ハ長調・ト長調）	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 左手伴奏（ハ長調・ト長調）の復習をする。
第8回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.72～78） 左手伴奏による簡易伴奏（ヘ長調・ニ長調）	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 左手伴奏（ヘ長調・ニ長調）の復習をする。 次回の簡易伴奏試験を想定した練習をする。
第9回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.80～84） 簡易伴奏試験	試験の内容を踏まえ、簡易伴奏の復習をする。 ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。
第10回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.86～94）	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 簡易伴奏でハ長調の子どもの歌を練習する。
第11回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.162～168）	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 簡易伴奏でト長調の子どもの歌を練習する。
第12回	ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い（p.170～175）	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 簡易伴奏でヘ長調の子どもの歌を練習する。

第13回 ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い (p. 178～184)	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 簡易伴奏で二長調の子どもの歌を練習する。
第14回 ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い (p. 186～189)	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 。
第15回 ピアノ曲を弾く・子どもの歌の弾き歌い (p. 192～195)	ピアノ曲を1～2曲、子どもの歌を1～2曲練習する。 。
第16回 期末試験（発表試験）	期末試験を想定した練習をする。 期末試験の内容を踏まえ復習する。

■ 履修上の注意

課題を毎日練習した上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

簡易伴奏試験、期末試験の内容40%と平常点・受講態度60%（授業の中で提示した課題への取り組み方，進捗状況等で総合的に判断する。）期末試験の内容については試験後フィードバックする。

■ 教科書

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 760円〕
〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2, 420円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問は授業終了後やオフィスアワーで受けつける。

ピアノⅡ

(30245)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

阿 部 陽 子 阿 部 玲 子 渡 邉 恵 大 友 詠 里 子

■ 授業の概要

ピアノⅠで習得した基礎技術をもとに音楽的な表現を身につけるための指導を行う。保育現場で歌われる歌について理解し弾き歌いできるようにする。その際、主要三和音やルート伴奏による簡易伴奏を活用し、多くの曲を弾くことができるよう指導する。また、連弾演奏の機会を設け、二人以上で演奏する楽しさを感じ、アンサンブル力を身につけられるよう授業する。基本的には個別に指導し、一人一人の技術や進度に合わせて授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ピアノ演奏の技術を身につけ、音楽的に演奏できる。（「ピアノテキスト」P. 70まで）			0.5	0.25		0.25
・弾き歌いの技術を身につけ、多くの曲を演奏できる。						
・連弾曲に取り組みアンサンブル力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	ガイダンス、ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 96～102）	到達目標の確認をする。ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。
第2回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 104～111）	ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。生活の歌（おはようのうた）の練習をする。
第3回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 114～120）	ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。生活の歌（おべんとう）の練習をする。
第4回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 122～124）	ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。生活の歌（おかえりのうた）の練習をする。
第5回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 126～132）	ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。生活の歌3曲の暗譜をする。
第6回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 134～138）	生活の歌の試験を想定した練習をする。
第7回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い、生活の歌試験	試験の内容を踏まえて復習する。ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。
第8回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 140～144）	ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。簡易伴奏法（ハ長調）の復習をする。
第9回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 146～152）	ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。簡易伴奏法（ト長調）の復習をする。
第10回	ピアノ曲を弾く、子どもの歌の弾き歌い（p. 154～160）	ピアノ曲と子どもの歌の練習をする。簡易伴奏法（ヘ長調）の復習をする。
第11回	子どもの歌の弾き歌い（p. 198～202）、連弾	子どもの歌と連弾の練習をする。簡易伴奏法（二長調）を復習する。
第12回	子どもの歌の弾き歌い（p. 206. ～211）、連弾	子どもの歌と連弾の練習をする。連弾の他のパートの理解を深める。
第13回	子どもの歌の弾き歌い（p. 212～216）、連弾	子どもの歌と連弾の練習をする。連弾をペアの相手と練習する。
第14回	子どもの歌の弾き歌い（p. 220～223）、連弾	子どもの歌と連弾の練習をする。期末試験を想定した練習をする。
第15回	子どもの歌の弾き歌い（その他の歌）、連弾、まとめ	子どもの歌と連弾の練習をする。期末試験を想定しリハーサルをする。
第16回	期末試験（連弾発表試験）	期末試験の内容を踏まえて復習する。

■ 履修上の注意

課題を毎日練習した上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

生活の歌試験、期末試験の内容40%、平常点・受講態度60%（授業の中で提示した課題への取り組み方、進捗状況等で総合的に判断する。）期末試験の内容については試験後フィードバックする。

■ 教科書

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 760円〕
〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2, 420円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問は授業終了後やオフィスアワーで受けるつける。

ピアノⅢ

(30246)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：前期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

阿部陽子 阿部玲子 渡邊 恵 大友 詠里子

■ 授業の概要

ピアノⅠ、ピアノⅡで習得した技術をもとに、保育現場での音楽活動、特に歌唱場面を想定した弾き歌いができるように指導する。その歌唱場面が必要となる伴奏法についての知識を身につけて実践できるようにする。歌唱指導法についても詳しく解説する。また、後半では既に習得しているスリーコード（主要三和音）、ルート伴奏法を活用して初見演奏ができるように授業を進めていく。基本的には個別に指導し、一人一人の技術や進度に合わせて授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・保育現場での音楽活動を想定した弾き歌いができる。			0.5	0.25		0.25
・伴奏法や歌唱指導法についての知識と技能を身につける。						
・多くの子どもの歌を演奏することができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 春の歌の弾き歌い、模擬保育課題曲の弾き歌い	到達目標の確認をする。春の歌と、模擬保育課題の弾き歌いを練習する。
第2回 春の歌の弾き歌い、模擬保育課題曲の伴奏法	春の歌の練習をする。模擬保育課題の伴奏法を復習する。
第3回 梅雨時期の歌の弾き歌い、模擬保育課題曲の伴奏法	梅雨時期の歌の練習をする。模擬保育課題の伴奏法を復習する。
第4回 梅雨時期の歌の弾き歌い、模擬保育課題曲の歌唱指導法	梅雨時期の歌の練習をする。模擬保育課題の歌唱指導法を復習する。
第5回 夏の歌の弾き歌い、模擬保育課題曲の歌唱指導法	夏の歌の練習をする。模擬保育課題の歌唱指導法を復習する。発表試験を想定した練習をする。
第6回 弾き歌い試験	試験の内容を踏まえ復習する。
第7回 夏の歌の弾き歌い、初見演奏について	夏の歌の練習をする。初見演奏について復習をする。
第8回 秋の歌の弾き歌い、簡易伴奏を活用した初見演奏（スリーコード）	秋の歌の練習をする。スリーコードを活用して初見の練習をする。
第9回 秋の歌の弾き歌い、簡易伴奏を活用した初見演奏（ルート伴奏）	秋の歌の練習をする。ルート伴奏を活用して初見の練習をする。
第10回 秋の歌の弾き歌い、弾き歌いの初見演奏	秋の歌の練習をする。提示された課題の初見練習をする。
第11回 冬の歌の弾き歌い、弾き歌いの初見演奏	冬の歌の練習をする。任意の曲で初見練習をする。
第12回 冬の歌の弾き歌い	冬の歌の練習をする。生活の歌の予習をする。
第13回 季節の歌以外の弾き歌い（生活のうた）	生活の歌の練習をする。行事の歌の予習をする。
第14回 季節の歌以外の弾き歌い（行事のうた）	いろいろな歌の弾き歌いを練習する。
第15回 季節の歌以外の弾き歌い	期末試験を想定した練習をする。
第16回 期末試験（発表試験）	期末試験の内容を踏まえ復習する。

■ 履修上の注意

課題を毎日練習した上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

発表試験、期末試験の内容40％と平常点・受講態度60％（授業の中で提示した課題への取り組み方、進捗状況等で総合的に判断する。）期末試験の内容については試験後フィードバックする。

■ 教科書

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 760円〕

〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2, 420円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問は授業終了後やオフィスアワーで受けつける。

ピアノⅣ

(30247)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30＋15）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：後期 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

阿部陽子 阿部玲子 渡邊 恵 大友 詠里子

■ 授業の概要

ピアノⅢまでに習得した技術をもとに、保育現場で柔軟に音楽活動を展開できるように指導する。これまで学習してきた子どもの歌のレパートリーはさらに増やすようにし、スリーコードやルート伴奏法による初見演奏の難易度を高める。また独自の伴奏ができるように調性判断、コード付け、即興演奏について解説する。曲想に合った伴奏型の必要性についても解説し、演奏できるよう指導する。基本的には個別に指導し、一人一人の技術や進度に合わせて授業を進めていく。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・多くの子どもの歌を弾き歌いすることができる。			0.5	0.25		0.25
・多くの曲で初見演奏ができる。						
・メロディ譜から独自の伴奏をつけることができる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 ガイダンス、子どもの歌の弾き歌い、ハ長調の初見演奏	到達目標を確認する。子どもの歌の練習をする。ハ長調の初見練習をする。
第2回 子どもの歌の弾き歌い、ト長調の初見演奏	子どもの歌の練習をする。ト長調の初見練習をする。
第3回 子どもの歌の弾き歌い、ヘ長調の初見演奏	子どもの歌の練習をする。ヘ長調の初見練習をする。
第4回 子どもの歌の弾き歌い、二長調の初見演奏	子どもの歌の練習をする。二長調の初見演奏をする。
第5回 子どもの歌の弾き歌い、コード付けについて	子どもの歌の練習をする。コード付けの復習をする。
第6回 子どもの歌の弾き歌い、調性判断について	子どもの歌の練習をする。調性判断について復習する。
第7回 子どもの歌の弾き歌い、ハ長調のメロディにコードをつける	子どもの歌の練習をする。ハ長調の課題曲にコードをつける。
第8回 子どもの歌の弾き歌い、ト長調のメロディにコードをつける	子どもの歌の練習をする。ト長調の課題曲にコードをつける。
第9回 子どもの歌の弾き歌い、ヘ長調のメロディにコードをつける	子どもの歌の練習をする。ヘ長調の課題曲にコードをつける。
第10回 子どもの歌の弾き歌い、二長調のメロディにコードをつける	子どもの歌の練習をする。二長調の課題曲にコードをつける。
第11回 子どもの歌の弾き歌い、曲に合った伴奏型を考える	子どもの歌の練習をする。課題曲に合った伴奏型をつける。
第12回 子どもの歌の弾き歌い、短調のコードについて	子どもの歌の練習をする。短調のコードの復習をする。
第13回 子どもの歌の弾き歌い、その他の調のコードについて	子どもの歌の練習をする。その他の調のコードについて復習する。
第14回 子どもの歌の弾き歌い、初見でコード付けをする	子どもの歌の練習をする。課題曲に初見でコードをつけて練習する。
第15回 子どもの歌の弾き歌い、あらゆる場面でのピアノの活用法	子どもの歌の練習をする。期末試験を想定した練習をする。
第16回 期末試験（発表試験）	期末試験の内容を踏まえ復習する。

■ 履修上の注意

課題を毎日練習した上で授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

期末試験の内容40％と平常点・受講態度60％（授業の中で提示した課題への取り組み方、進捗状況等で総合的に判断する。）
）期末試験の内容については試験後フィードバックする。

■ 教科書

〔こどものうた100〕〔小林美実〕〔チャイルド本社〕〔1, 760円〕
〔ピアノテキスト〕〔吉野幸男〕〔ドレミ楽譜出版〕〔2, 420円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問は授業終了後やオフィスアワーで受けつける。

保育実習指導Ⅰ

(30248)

単位：2

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高 橋 恵 美 橋 浦 孝 明 大瀬戸 美 紀 米 川 純 子 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

保育士養成課程における必修科目であり、「保育実習Ⅰ」の事前・事後指導に関する科目である。2年次に予定されている「保育実習Ⅰ（保育所・施設実習）」及び「保育実習Ⅱ（保育所実習）」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等の学習を行う。また実際に保育所（短大附属ますみ保育園）の見学及び観察・参加実習、児童福祉施設（児童養護施設・障害児入所施設）の見学を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 保育実習の意義・目的を理解する					0.5	0.25 0.25
・ 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする						
・ 実習施設における子供の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する						
・ 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 2年間の予定 実習先希望調査についての説明 【大瀬戸 高橋 橋浦】	2年間の学習の見通しを立てる。実習先を調べ調査票を提出する。『保育実習の手引き』P2～を読み内容をまとめる。
第2回	実習の意義・目的の理解 保育実習の目的と履修方法を理解する。 課題①の提出 【橋浦】	実習指導の予定を確認する。教科書を読み「保育所実習の一日」について知る。
第3回	保育所実習についての理解 「保育所実習の一日」について理解する 課題②の提出 【高橋】	教科書を読み「施設実習の一日」について知る。
第4回	施設実習についての理解 「施設実習の一日」について理解する 課題③の提出 【大瀬戸】	「実習の手引き」P24～を読み内容をまとめる。
第5回	施設見学1（児童養護施設）準備・ガイダンス 【大瀬戸 橋浦】 児童養護施設について理解する。保育士の専門性と職業倫理 課題④の提出	「実習の手引き」P21～を読み内容をまとめる。
第6回	施設見学1（児童養護施設）見学（中止の場合は施設長講話） 【大瀬戸 高橋 橋浦】	説明プリントを読み見学実習の準備をする。
第7回	施設見学1（児童養護施設）事後指導 実習の総括と自己評価 【大瀬戸 橋浦】	実習の記録をまとめる。
第8回	実習生としての心構え 子どもの人権と最善の利益の考慮 【橋浦】	教科書P28～を読み内容をまとめる。
第9回	保育所見学実習、準備・ガイダンス① 短大附属ますみ保育園主任保育士講話 課題⑤の提出 【高橋 橋浦】	説明プリントを読み概要をまとめる。
第10回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方① 保育所の概要 【橋浦】	教科書P80～を読み内容をまとめる。
第11回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方② デイリープログラム 【橋浦】	教科書P88～を読み内容をまとめる。
第12回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方③ 目標と課題 【高橋】	実習日誌を清書する。

第13回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方④ 活動の記録【高橋 橋浦】	実習日誌を清書する。
第14回	実習記録（実習日誌）の書き方 保育所記録の書き方⑤ 活動の記録【高橋 橋浦】	実習日誌を清書する。
第15回	保育所見学実習・準備・ガイダンス② 実習当日の流れの確認 オリエンテーション【高橋 橋浦 大瀬戸】	教科書P34～を読み内容をまとめる。
第16回	基礎実習Ⅰ 保育所見学実習 短大附属ますみ保育園 【高橋 橋浦 大瀬戸】	実習日誌を書く。
第17回	基礎実習Ⅰ 保育所見学実習 短大附属ますみ保育園 自己評価・課題の明確化 【高橋 橋浦】	実習の振り返りを行う。
第18回	実習記録（実習日誌）の書き方 施設記録の書き方① 子どもの最善の利益を考慮した保育の理解 【大瀬戸】	教科書P68～を読み内容をまとめる。
第19回	実習記録（実習日誌）の書き方 施設記録の書き方② 利用者の状態に応じた適切な関わり 【大瀬戸 橋浦】	「実習の手引き」P29～を読み内容をまとめる。
第20回	施設見学Ⅱ（障害児入所施設）準備・ガイダンス 障害児入所施設について理解する 【大瀬戸 橋浦】	「実習の手引き」P26～を読み内容をまとめる。
第21回	施設見学Ⅱ（障害児入所施設）見学実習 【大瀬戸 高橋 橋浦】	目標と課題を清書する
第22回	施設見学Ⅱ（障害児入所施設）事後指導 【大瀬戸】	見学した内容を記録し提出する。
第23回	先輩に聞く 施設実習について、先輩の話聞き理解を深める 【大瀬戸 高橋】	先輩の話から学んだことをまとめる。
第24回	先輩に聞く 保育実習について、先輩の話聞き理解を深める 【橋浦 高橋】	先輩の話から学んだことをまとめる。
第25回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園）準備・ガイダンス 実習日誌の下書き デイリープログラム【橋浦】	実習日誌を清書する。
第26回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園） 実習日誌の下書き 目標と課題 【橋浦 高橋】	実習日誌を清書する。
第27回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園） 実習日誌の下書き 記録の書き方 【高橋 橋浦】	模擬授業の準備をする。
第28回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園） 模擬授業 【高橋 橋浦】	自己紹介の練習をする。
第29回	保育所基礎実習Ⅱ（附属保育園）オリエンテーション 【橋浦 高橋 大瀬戸】	実習日誌を記入する。
第30回	保育・教育実習報告会・実践報告会（2年生）への参加と1年間のまとめ 【大瀬戸 橋浦 高橋】	2年生の「保育・教育実習報告会」に参加して学んだことをまとめて提出する。
第31回	期末試験・レポート	これまでの学習をまとめる。

■ 履修上の注意

欠席・遅刻は厳に慎むこと。本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出など）によっては、2年次の実習ができないことがある。コロナウィルス感染症の状況によっては、実習を中止し附属保育園の園長、施設の施設長などの講話に替えることがある。

■ 成績評価方法・基準

基礎実習や模擬保育への取り組み状況や、グループワークでの参加状況（50％）学習課題や実習日誌等の提出状況（40％）期末レポート（10％）により総合的に評価する。提出物は、期限内に必ず提出すること。提出課題等については、添削後、授業の中でフィードバックする。

■ 教科書

〔これからの時代の保育者養成・実習ガイド〕〔大豆生田啓友ほか〕〔中央法規〕〔1800円〕
〔保育実習の手引き〕〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付けます。

保育実習指導Ⅱ

(30249)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（38＋7）

対象学科：子専2年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択 保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

岡崎 善治 武田 早苗 大瀬戸 美紀 米川 純子 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

保育士養成課程における必修科目であり保育実習に係る事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。「保育士」資格取得のために必修である3回の実習（保育所実習Ⅰ及び保育所実習Ⅱ、施設実習：各10日間）に向けて、実習の意義目的などを理解し、記録の書き方や指導計画の作成等実習の準備を行う。また、模擬保育を通して、実践の場に臨むスキルと心がまえを養う。実習終了後は、実習報告会等を通して実習の振り返りを行い課題を明確にする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・ 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。				0.5	0.25	0.25
・ 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。						
・ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。						
・ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。						
・ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション 実習の意義・目的の明確化 保育所の社会的役割と責任【岡崎・武田】	「実習の手引き」P10～P14 保育所の役割や機能について学びを深める。
第2回	実習オリエンテーション 養護と教育が一体となって行われる保育【岡崎・武田】	「実習の手引き」P7～P8, P34～37 保育実習の経過について知る。
第3回	保育所保育士による講義（附属保育園長） 保育士等の援助や関わりについて【武田・岡崎】	保育士に求められる子どもの観察や関りの視点を明確にする。
第4回	保育所実習Ⅰの準備・実習日誌の記入 子どもの心身の状態や活動の観察【米川】	「実習の手引き」P29～P33 実際に実習日誌に必要な事項を記入し、保育士の業務内容を理解する。
第5回	保育所実習Ⅰ直前ガイダンス 保育所の生活の流れや展開の把握【米川】	「実習の手引き」P13～P14 観察や子どもとの関りを通して子どもへの理解を深める。
第6回	保育所実習Ⅰ振り返り 観察に基づく保育の理解【大瀬戸】	観察実習を通して、子どもの心身の状態や発達段階の違いについて具体的に理解する。
第7回	保育所実習Ⅱ直前ガイダンス 指導計画の作成・実践・保育の過程の理解【高橋】	「実習の手引き」P20 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
第8回	保育所実習Ⅱ振り返り 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価【高橋】	保育所実習における自己の課題を明確化する。
第9回	子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 【大瀬戸・米川】	子ども・利用者の特性を理解し、養護の大切さを学ぶ。
第10回	施設実習の準備・実習日誌の記入 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 【大瀬戸・橋浦】	「実習の手引き」P21～P23 施設における支援の実際について理解する。
第11回	施設実習直前ガイダンス 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 【岡崎・橋浦】	「実習の手引き」P24～P28 多様で広範な施設職員の職務内容や役割・職業倫理を理解する。
第12回	施設実習振り返り 施設における支援の実際【大瀬戸】	施設実習における自己の課題を理解する。
第13回	全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解【高橋】	保育実習での学びを保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について理解を深める。
第14回	実習・実践報告会準備①	保育実習の担当教員より個別事後指導を受け、今

	保育実習の総括と自己評価 【岡崎・武田・大瀬戸・米川・子ども生活専攻教員】	後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
第15回	実習・実践報告会準備② 自己評価に基づく保育の改善 【岡崎・武田・大瀬戸・米川・子ども生活専攻教員】	自己評価などを踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
第16回	実習・実践報告会準備③ 作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 【岡崎・武田・大瀬戸・米川・子ども生活専攻教員】	保育実習の事後指導を通して、保育に対する課題や認識を明確にする。
第17回	実習・実践報告会中間発表 保育の知識・技術を生かした保育実践 【岡崎・武田・大瀬戸・米川・子ども生活専攻教員】	保育実習で実践したことを模擬保育を行い発表する。
第18回	実習・実践報告会リハーサル 【岡崎・武田・大瀬戸・米川・子ども生活専攻教員】	保育実習で実践した内容を資料にまとめる。
第19回	実習・実践報告会 【岡崎・武田・大瀬戸・米川・子ども生活専攻教員】	保育実習で実践した内容を発表する。
第20回	まとめと振り返り（期末試験：レポートによる） 【岡崎・武田・大瀬戸・米川】	実習・実践報告会で発表した内容を自己評価し、今後の課題や目標を明確にする。

■ 履修上の注意

保育士資格取得にかかわる実習指導です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。

本授業への取り組み状況（出席や各種課題の提出、他科目の成績等）によっては実習ができないことがあります。

学外実習の単位についての認定もできないことがあります。

保育士資格取得に向けて、より高い志と一層の努力を求めます。

■ 成績評価方法・基準

実習に向けての準備状況や積極的な受講態度などの授業への取り組み状況（80％）、提出課題状況（20％）により総合的に評価します。

提出物は提出期限内に必ず提出してください。

実習に係るすべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、添削後、授業の中でフィードバックします。

期末試験レポートは、後日フィードバックします。

学外実習未実施者への単位認定はしません。

■ 教科書

〔保育実習の手引き〕〔宮城県保育士養成校連絡協議会〕

■ 参考書

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔352円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

また、実習実践報告会に向けての準備・進具合によっては回数を変更する場合があります。

教育実習（事前事後指導を含む。）

(30250)

単位：

対象学科：子専1年・子専2年

授業形態：講義 学期：通年 必・選：選択 幼免（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

岡崎 善治 高橋 恵美 武田 早苗 阿部 陽子 子ども生活専攻教員

■ 授業の概要

「幼稚園教諭二種免許状」取得のための必修科目であり、教育実習の事前・事後指導に関する科目として位置づけられている。2年次後期の「幼稚園実習」に向けて、実習の意義・目的などを理解し、記録の書き方や指導計画作成等の学習を行う。また、実際に幼稚園で約4週間の学外実習（見学・観察・参加・部分・指導実習等）を行う。実習終了後は、「保育・教職実践演習」の授業と連携して、グループワークや発表等を通して実習の振り返りを行い、課題を明確にする。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・実習の意義、目的を明確にし、実習内容（実習の計画、観察、記録、評価の方法等）について理解を深める。					0.25	0.25
・実習生として遵守すべき義務等を理解し、教育活動に参画する意識を高める。					0.25	0.5
・実習で得た知識と経験を振り返り、さらに習得すべき知識や技能等を理解する。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	オリエンテーション（2年間の予定） 【岡崎・高橋・武田・阿部・米川】	2年間の学修の見通しを立てる。
第2回	実習先の説明・希望調査 【武田・岡崎・高橋・阿部・米川】	実習の希望先を調べ、調査票を提出する。
第3回	基礎実習Ⅰ準備・ガイダンス 【岡崎・高橋・武田・阿部・米川】	説明プリントをよく読み、見学の準備をする。
第4回	基礎実習Ⅰガイダンス（附属ますみ幼稚園主任） 【武田・岡崎・高橋・阿部・米川】	説明プリントをよく読み、ますみ幼稚園での基礎実習に向けて準備をする。
第5回	基礎実習Ⅰ（ますみ幼稚園・観察実習） 【高橋・岡崎・武田・阿部・米川】	観察実習の内容を記録し提出する。
第6回	基礎実習Ⅰ事後指導（グループ討議） 【高橋・岡崎・武田・阿部・米川】	実習記録を基に基礎実習の振り返りをする。
第7回	オリエンテーション（1年間の予定） 実習及び実習指導の予定・概略 【岡崎・高橋・武田・阿部・米川】	2年次後期の実習に向けた準備の見通しを立てる。 実習・実習指導の予定を確認する。
第8回	実習の意義・目的の明確化 実習の心構えについての確認 【岡崎・高橋・武田・阿部・米川】	実習の手引きを熟読し、実習の準備を進める。
第9回	幼稚園についての確認 幼稚園教諭の仕事についての確認 【岡崎・高橋・武田・阿部・米川】	視聴した動画等の内容をまとめ、次回提出する。
第10回	実習関係書類の準備 【武田・岡崎・高橋・阿部・米川】	実習関係書類の記入等の準備をする。
第11回	実習日誌（実習記録等）の書き方 【高橋・岡崎・武田・阿部・米川】	授業の内容を基に記録の書き方を確認する。
第12回	指導計画案の作成 【高橋・岡崎・武田・阿部・米川】	授業の内容を基に指導計画を作成する。
第13回	実習先幼稚園との打ち合わせ 実習直前ガイダンス 【岡崎・高橋・武田・阿部・米川・子ども生活専攻教員】	ガイダンスの内容を確認し、訪問と実習直前の準備をする。
第14回	実習の振り返りと疑問の解消 【岡崎・高橋・武田・阿部・米川・子ども生活専攻教員】	実習を振り返り、今後の課題を明確にする。
第15回	実習評価等の個別事後指導 【岡崎・高橋・武田・阿部・米川・子ども生活専攻教員】	実習評価を基に、各自の課題を明確にする。
第16回	実習・実践報告会準備	報告会資料の作成、発表の準備等をする。

■ 履修上の注意

幼稚園教諭（二種）免許状取得にかかわる実習指導です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。

本科目の取り組み状況（出席・各種提出物の提出、他科目の成績等）によっては実習ができないことがあります。

学外実習（4単位）と事前事後指導（1単位）にて認定されますので、学外実習及び事前事後指導のいずれかでの認定はありません。

教員免許取得に向けてより高い志と一層の努力を求めます。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況：受講態度（積極的参加）・課題提出状況等（70%）、提出課題（20%）、実習・実践発表会：期末試験（10%）により総合的に評価します。

提出物は提出期限内に必ず提出してください。

実習に係るすべての提出物を提出しないと単位認定は致しません。

提出課題等については、添削後、フィードバックします。

期末試験（発表）でのフィードバックは、後日行います。

学外実習未実施者への単位認定は致しません。

■ 教科書

〔教育実習の手引き〕〔宮城県幼稚園教育実習連絡協議会〕

■ 参考書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔264円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文科省・厚労省〕〔フレーベル館〕〔385円〕

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

また、実習実践報告会に向けての準備・進行具合によっては回数を変更する場合があります。

保育・教職実践演習（幼稚園）

（ 30251 ）

単位（総授業時間数＋自習時間）：2（30＋60）

対象学科：子専2年

授業形態：講義 学期：後期 必・選：選択 幼免（必）・保育（必）

生活文化学科 子ども生活専攻科目

高 橋 恵 美 岡 崎 善 治

■ 授業の概要

短大における2年間の学びの総まとめとして、教職課程（幼稚園教諭）および保育士養成課程における学修（授業、教育実習、保育実習等）の振り返りを行い、卒業後に保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）として働くために必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認して、自己の課題を明確にする。その上で、保育者として必要な資質能力や技能を身につけていくため、保育現場での勤務経験のある実務家教員によるグループ討議、ロールプレイ、模擬保育、事例研究、フィールドワーク等を行う。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・学内での学修および教育・保育実習を通しての学び等を振り返り、自己の課題を明確にする。					0.5	0.25
・保育実践に必要な基礎的な知識・技能を修得したことを確認する。						
・保育者としての倫理観と規範意識を持ち、適切に行動できるようになる。						
・子どもの発達や心身の状況に応じて、適切な指導を行うことができるようになる。						
・子どもの状況等に応じて、指導計画や保育環境等を工夫できるようになる。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回	これまでの学修の振り返り（履修カルテの記入）[岡崎・高橋]	履修カルテを基に、これまでの学修の振り返りをする。
第2回	保育・教育実習の学びの振り返り（事例研究）[岡崎] 模擬保育のための指導計画の作成 [高橋]	これまでの実習での学びについて振り返りをする。
第3回	子育て・家庭支援について：事例検討（グループ討議）[高橋・岡崎]	既習の授業内容（子どもの発達等）を確認する。
第4回	子ども理解・クラス運営について：事例検討（グループ討議）[高橋・岡崎]	既習の授業内容（保育内容等）を確認する。
第5回	保育現場の理解（フィールドワーク）[高橋・岡崎]	保育現場訪問の準備を振り返りをする。
第6回	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任 [高橋・岡崎]	保育者としての自覚と責任及び就職後の職務を考える。
第7回	指導計画に基づく模擬保育①製作 [岡崎・高橋]	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第8回	指導計画に基づく模擬保育②運動遊び [高橋・岡崎]	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第9回	指導計画に基づく模擬保育③リズム遊び [岡崎・高橋]	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第10回	指導計画に基づく模擬保育④ゲーム遊び [高橋・岡崎]	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第11回	指導計画に基づく模擬保育⑤劇遊び [岡崎・高橋]	模擬保育のための計画と準備をする。 模擬保育後は振り返り（反省・評価）をし、個人の課題を明確にする。
第12回	指導計画に基づく模擬保育の振り返り [岡崎・高橋]	模擬保育全体の振り返りをし、全体から見えてくる課題を個人に置き換えて、今後の個人の保育への見通しを立てる。
第13回	保育の現状と保育者の役割：現職保育者の講義（ディスカッション）[高橋・岡崎]	保育の現状と保育者の役割を理解し、まとめる。

第14回	危機管理・保育のトラブル対応（ロールプレイ）〔高橋・岡崎〕	授業で実践した内容を復習する。
第15回	保育者としての資質能力の確認・まとめ〔岡崎・高橋〕	保育者として必要な資質・能力について再確認する。
第16回	期末試験〔岡崎・高橋〕	期末試験（レポート課題）のテーマについて、15回分の授業内容を踏まえ熟考し提出する。

■ 履修上の注意

保育者になるための総まとめの授業です。積極的に授業に取り組むようにしてください。

模擬保育ではこれまでの実習（全日・部分指導等）の成果を発揮し、模範的な模擬保育を行えるよう努力してください。

本科目は幼稚園教諭免許状、保育士資格取得にかかわる科目です。欠席・遅刻は厳に慎むようにしてください。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組みの状況（積極的参加）（30％）、提出課題（30％）、模擬保育（30％）、期末試験：レポート課題（10％）により総合的に評価します。

※すべての提出物は提出期限内に必ず提出してください。

※模擬保育未実施者への単位認定は致しません。

提出課題等については、随時フィードバックします。

期末試験（レポート課題）については、後日フィードバックします。

■ 教科書

〔幼稚園教育要領解説〕〔文部科学省〕〔フレーベル館〕〔240円〕

〔保育所保育指針解説〕〔厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔320円〕

〔幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説〕〔内閣府・文部科学省・厚生労働省〕〔フレーベル館〕〔350円〕

■ 参考書

必要に応じて適宜紹介します。

■ 備考

質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受け付けます。

授業計画の順番は入れ替わる場合があります。

ピアヘルパー演習

(30252)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（20＋25）

対象学科：子専1年

授業形態：演習 学期：通年 必・選：選択

生活文化学科 子ども生活専攻科目

米 川 純 子 植 松 公 威 大瀬戸 美 紀

■ 授業の概要

本科目は、ピアヘルパー認定資格に対応する科目となっている。カウンセリングや関連する心理学の理論や方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わるために必要な基本的なコミュニケーションスキルを構成的グループエンカウンターなどの実践を通し深めていく。また、ピアサポートの「相手も自分も尊重し支え合う」理念を基に、身近な人との交流が対人関係問題の発生を予防する意味があることを理解する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

	①	②	③	④	⑤	⑥
・カウンセリングの基本的な理論・技法について理解する。			0.2	0.4	0.2	0.2
・カウンセリングを学ぶことにより、自己理解・他者理解を深め、自己を成長させることができることを知る。						
・人との関りが重要である職業に必要な実践力を身につける。						

■ 授業計画

自習（事前・事後学修の内容）

第1回 オリエンテーション【米川】	ピアカウンセリングエクササイズ SGE①自己紹介・他己紹介
第2回 構成的グループエンカウンターとは【米川】	教科書P10～21 SGE②ふれあい体験・自他理解
第3回 カウンセリングの種類と関係領域【植松】	教科書P22～39 ピアヘルピングのプロセスについて理解する。
第4回 カウンセリングの動向【植松】	教科書P40～50 折衷主義やコーヒーカップ方式について学ぶ。
第5回 小テスト①（第1章 導入）【米川】	教科書P10～50までの内容に沿って、小テストを行う。テスト解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。
第6回 ピアヘルピングの言語的技法【大瀬戸】	教科書P52～64 ロールプレイを通して言語的技法について理解する。
第7回 ピアヘルピングの非言語的技法【大瀬戸】	教科書P65～77 ロールプレイを通して非言語的技法について理解する。
第8回 問題への対処法【米川】	教科書P78～84 SGE③シェアリング
第9回 ピアヘルパーの心構え【米川】	教科書P85～95 SGE④将来の願望
第10回 小テスト②（第2章 カウンセリングスキル）【米川】	教科書P52～95までの内容に沿って、小テストを行う。テスト解答の正誤を確認し、誤りやフィードバック内容を確認し、復習する。
第11回 ピアヘルパーの活動許容範囲と留意点【米川】	教科書P98～103 SGE⑤自己開示
第12回 青年期の課題①（学業・進路領域）【植松】	教科書P104～115 ロールプレイを通して身近なピアサポート体験を通して理解を深める。
第13回 青年期の課題②（友人・グループ領域）【大瀬戸】	教科書P117～128 ロールプレイを通して身近なピアサポート体験を通して理解を深める。
第14回 青年期の課題③（関係修復・心理領域）【植松】	教科書P129～141 ロールプレイを通して身近なピアサポート体験を通して理解を深める。
第15回 ピアヘルパーの心意気【米川】	SGE⑥魔法の言葉かけ 期末試験に向けた模擬課題の内容を理解する。

■ 履修上の注意

授業の取り組みでは、受講態度（発言、質問、グループ・ワークでのリーダーシップ、ロールプレイや構成的グループエンカウンターの積極的な参加など）を重視します。また、構成的グループエンカウンターの一環として、学内行事などのピア活動も行います。

■ 成績評価方法・基準

授業への取り組み態度(発言、質問、構成的グループエンカウンターやロールプレイの積極的参加など)（50%）、小テスト（20%）、期末試験（30%）により総合評価します。課題や小テスト、期末試験については授業中に正誤を確認し、具体的に解説をしフィールドワークします。

■ 教科書

[ピアヘルパハンドブック][日本教育カウンセラー協会 編][図書文化][1, 500円]

■ 参考書

適宜、授業中に紹介します。

■ 備考

ピアヘルパー認定資格を任意で受験する場合、心理学、子どもの保健、発達心理学、障害児保育、教育・保育相談、教育心理学、子ども家庭支援論のうち、2科目4単位以上を取得見込みであることが条件となる。また、ピアヘルパー認定資格を受験する者は、本科目を受講すること。